



滋賀県立大学 2022年度

講義概要(シラバス)

※この冊子は、Web版シラバスをPDFに変換したものです。文字数の関係で全ての情報が記載されない場合があります。最新の情報や全文は、県大ポータル USPo (<https://sgkwe.office.usp.ac.jp/SGKWeb/>) で、ご確認ください。

目 次

1110121	英語	A (活性化コース)	(人文)	木村 紀子	前期	・ ・ ・	1
1110122	英語	B (活性化コース)	(人文)	木村 紀子	後期	・ ・ ・	3
1110131	英語	A (活性化コース)	(人文)	Matthew Thornton	前期	・ ・ ・	5
1110132	英語	B (活性化コース)	(人文)	Matthew Thornton	後期	・ ・ ・	7
1110141	英語	A (活性化コース)	(人文)	佐久間 思帆	前期	・ ・ ・	9
1110142	英語	B (活性化コース)	(人文)	佐久間 思帆	後期	・ ・ ・	11
1110151	英語	A (活性化コース)	(人文)	西澤 裕一	前期	・ ・ ・	13
1110152	英語	B (活性化コース)	(人文)	西澤 裕一	後期	・ ・ ・	15
1110161	英語	A (活性化コース)	(人文)	森田 真	前期	・ ・ ・	17
1110162	英語	B (活性化コース)	(人文)	森田 真	後期	・ ・ ・	19
1110331	英語	A (応用コース)	(人文)	Jean-Baptiste M.B. SANFO	前期	・ ・ ・	21
1110332	英語	B (応用コース)	(人文)	Jean-Baptiste M.B. SANFO	後期	・ ・ ・	23
1110341	英語	A (応用コース)	(人文)	真島 アマンダ	前期	・ ・ ・	25
1110342	英語	B (応用コース)	(人文)	真島 アマンダ	後期	・ ・ ・	27
1110351	英語	A (応用コース)	(人文)	Ashley Stevens	前期	・ ・ ・	29
1110352	英語	B (応用コース)	(人文)	Ashley Stevens	後期	・ ・ ・	31
1110361	英語	A (応用コース)	(人文)	Alexandra Jane Burke	前期	・ ・ ・	33
1110362	英語	B (応用コース)	(人文)	Alexandra Jane Burke	後期	・ ・ ・	35
1110371	英語	A (応用コース)	(人文)	Karl Hedberg	前期	・ ・ ・	37
1110372	英語	B (応用コース)	(人文)	Karl Hedberg	後期	・ ・ ・	39
1110531	英語	A (充実コース)	(人文)	西澤 裕一	前期	・ ・ ・	41
1110532	英語	B (充実コース)	(人文)	西澤 裕一	後期	・ ・ ・	43
1110541	英語	A (充実コース)	(人文)	真田 満	前期	・ ・ ・	45
1110542	英語	B (充実コース)	(人文)	真田 満	後期	・ ・ ・	47
1110551	英語	A (充実コース)	(人文)	Jean-Baptiste M.B. SANFO	前期	・ ・ ・	49
1110552	英語	B (充実コース)	(人文)	Jean-Baptiste M.B. SANFO	後期	・ ・ ・	51
1110561	英語	A (充実コース)	(人文)	Janeth Hori	前期	・ ・ ・	53
1110562	英語	B (充実コース)	(人文)	Janeth Hori	後期	・ ・ ・	55
1110571	英語	A (充実コース)	(人文)	Christopher Garth	前期	・ ・ ・	57
1110572	英語	B (充実コース)	(人文)	Christopher Garth	後期	・ ・ ・	59
1110741	英語	A (展開コース)	(人文)	西堀 彰子	前期	・ ・ ・	61
1110742	英語	B (展開コース)	(人文)	西堀 彰子	後期	・ ・ ・	63
1110751	英語	A (展開コース)	(人文)	Ashley Stevens	前期	・ ・ ・	65
1110752	英語	B (展開コース)	(人文)	Ashley Stevens	後期	・ ・ ・	67
1110761	英語	A (展開コース)	(人文)	近藤 佑樹	前期	・ ・ ・	69
1110762	英語	B (展開コース)	(人文)	近藤 佑樹	後期	・ ・ ・	71
1110771	英語	A (展開コース)	(人文)	真島 アマンダ	前期	・ ・ ・	73
1110772	英語	B (展開コース)	(人文)	真島 アマンダ	後期	・ ・ ・	75
1110781	英語	A (展開コース)	(人文)	坂本 輝世	前期	・ ・ ・	77
1110782	英語	B (展開コース)	(人文)	坂本 輝世	後期	・ ・ ・	79
1130090	情報リテラシー (情報倫理を含む)	(人文a)	山本 洋紀	前期	・ ・ ・	81	
1130100	情報リテラシー (情報倫理を含む)	(人文b)	亀田 彰喜	前期	・ ・ ・	83	
1130110	情報リテラシー (情報倫理を含む)	(人文c)	山本 洋紀	前期	・ ・ ・	85	
1130120	情報リテラシー (情報倫理を含む)	(人文d)	亀田 彰喜	前期	・ ・ ・	87	
1130200	情報科学概論 (人文b)	亀田 彰喜	後期	・ ・ ・	89		
1130210	情報科学概論 (人文a)	山本 洋紀	後期	・ ・ ・	91		
1130220	情報科学概論 (人文c)	山本 洋紀	後期	・ ・ ・	93		
1130230	情報科学概論 (人文d)	亀田 彰喜	後期	・ ・ ・	95		
1150390	人間探求学 (地域文化) 学科教員	前期	・ ・ ・	97			
1150480	世界遺産学特論[比較文明論]	金 宇大	後期	・ ・ ・	99		
1400050	アジア交流論	前期集中	・ ・ ・	101			
1400060	アジア社会論	北村 由美	後期	・ ・ ・	103		
1400065	アジア文献講読A	金 宇大	通年	・ ・ ・	105		
1400066	アジア文献講読B	木村 可奈子	通年	・ ・ ・	107		
1400067	アジア文献講読C	横田 祥子	通年	・ ・ ・	109		
1400105	英語講読 (地域文化)	亀井 若菜	通年	・ ・ ・	111		
1400230	近江商人論	東 幸代	後期	・ ・ ・	113		
1400360	環琵琶湖文化論実習 (地域文化)	学科教員	通年	・ ・ ・	115		
1400370	漢文講読	木村 可奈子	通年	・ ・ ・	117		
1400390	基層文化論	佐藤 亜聖	後期	・ ・ ・	119		
1400560	近世近江論	東 幸代	前期	・ ・ ・	121		
1400565	中世近江論	高木 純一	後期	・ ・ ・	123		
1400600	芸術学	亀井 若菜	後期	・ ・ ・	125		
1400650	現代ジャーナリズム論	後期	・ ・ ・	127			
1400685	国際社会論	前期	・ ・ ・	129			
1400690	現代中国論	横田 祥子	前期	・ ・ ・	131		
1400740	考古学	佐藤 亜聖	前期	・ ・ ・	133		
1400741	考古学実習	佐藤 亜聖	前期	・ ・ ・	135		
1400742	考古学実習	佐藤 亜聖	後期	・ ・ ・	137		
1400751	考古学特論A	佐藤 亜聖	後期	・ ・ ・	139		
1400752	考古学特論B	後期	・ ・ ・	141			
1400890	古文書演習	高木 純一	後期	・ ・ ・	143		
1400900	古文書演習	東 幸代	前期	・ ・ ・	145		
1400970	自然地理学	青木 哲哉	前期集中	・ ・ ・	147		
1400980	質的データ解析論	櫻井 悟史	後期	・ ・ ・	149		

1401050	社会学概論	丸山 真央	前期	151
1401060	社会学史	中村 好孝	前期	153
1401125	地域社会調査実習	塚本 礼仁	通年	155
1401130	社会調査方法論	大野 光明	後期	157
1401140	社会調査論	中井 治郎	前期	159
1401180	社会変動論		後期	161
1401500	人文地理学A	塚本 礼仁	後期	163
1401510	人文地理学B	塚本 礼仁	後期	165
1401750	西洋史概説	北村 知之	前期集中	167
1401832	卒業研究・論文	(地域文化) 学科教員	前期研究	169
1401835	卒業研究・論文	(地域文化) 学科教員	後期研究	171
1401840	对外文化交流論A		前期	173
1401850	对外文化交流論B	金 宇大	後期	175
1401900	地域経済史論		後期	177
1401920	地域研究論	萩原 和	前期	179
1401930	地域考古学A	江浦 洋	前期集中	181
1401940	地域考古学B	小島 孝修	後期集中	183
1401950	地域考古学C		前期集中	185
1401960	地域考古学D		後期集中	187
1401980	地域と空間	市川 秀之	後期	189
1401990	地域文化演習	学科教員	通年	191
1402000	地域文化演習	学科教員	通年	193
1402011	地域文化基礎演習	学科教員	後期	195
1402012	地域文化演習	学科教員	前期	197
1402015	地域文化演習	学科教員	後期	199
1402020	地域文化財論A		前期集中	201
1402030	地域文化財論B	石川 慎治	後期	203
1402050	地誌学	塚本 礼仁	前期	205
1402100	中国地域文化特論	前田 尚美	前期	207
1402110	中国地域文化論	横田 祥子	後期	209
1402170	朝鮮地域文化特論	安田 純也	前期	211
1402171	朝鮮地域文化論	木村 可奈子	前期	213
1402201	地理学実習	塚本 礼仁	前期	215
1402202	地理学実習	塚本 礼仁	後期	217
1402240	哲学概論A	鞍田 崇	前期集中	219
1402250	哲学概論B		前期集中	221
1402360	統計学基礎	高梨 克也	後期	223
1402370	東洋史概説	木村 可奈子	後期	225
1402380	日本・地域交流特論	京樂 真帆子	後期	227
1402390	日本史概説	高木 純一	前期	229
1402400	日本社会論	櫻井 悟史	後期	231
1402420	日本史料講読	市川 秀之	通年	233
1402441	日本文化史論A		前期	235
1402442	日本文化史論B	京樂 真帆子	前期	237
1402450	日本文化論	京樂 真帆子	前期	239
1402540	人間文化論A	中井 直也	前期	241
1402550	人間文化論B	櫻井 悟史	後期	243
1402560	人間文化論C	宮本 雅子	後期	245
1402601	博物館経営論	佐藤 亜聖	前期	247
1402602	博物館展示論	亀井 若菜	後期	249
1402665	地域と行政	萩原 和	後期	251
1402705	地域と経済	秋山 道雄	前期	253
1402710	比較文化論(地域)	横田 祥子	前期	255
1402711	世界遺産学概論[東アジア考古学概論]	金 宇大	前期	257
1402712	東アジア世界論	木村 可奈子	後期	259
1402731	美術史A	亀井 若菜	前期	261
1402732	美術史B		前期	263
1402741	美術史実習	亀井 若菜	前期	265
1402920	文化財・保存修景論A	石川 慎治	前期	267
1402930	文化財・保存修景論B		後期	269
1402940	文化財情報論	石川 慎治	後期	271
1402950	文化社会学	櫻井 悟史	前期	273
1402960	文化人類学概論[文化人類学概論A]	棚瀬 慈郎	後期	275
1402980	文化人類学特論	棚瀬 慈郎	前期	277
1403020	民俗学	市川 秀之	後期	279
1403030	民俗学実習	市川 秀之	後期	281
1403031	民俗学特論	市川 秀之	後期	283
1403100	量のデ一夕解析論	丸山 真央	前期	285
1403110	量のデ一夕解析論	岡本 裕介	後期集中	287
1403210	歴史的地域論	高木 純一	前期	289
1403270	地域計画概論	萩原 和	前期	291
1403280	地域計画実習	萩原 和	後期	293

講義名	英語 A (活性化コース) (人文)						担当教員	木村 紀子
講義コード	1110121	単位数	1	開講期	前期	授業方法	授	
ナンバリング番号	101ENG101							

授業概要

本授業の目的は、英語の話を聴き取る、読み取る、書く、話す技術を伸ばすことである。具体的には、身近な話題についての話を聴いて、ノートを取り、それに関する英文を読み、まとめや意見を書き、発表する技術を伸ばすことである。

到達目標

- (1) 英語の語彙の意味を理解して、使用することができる。
- (2) 英語の話を聴いて理解し、ノートを取ることができる。
- (3) 英文を読んで、主旨を理解することができる。
- (4) まとめや意見を、英語で書くことができる。
- (5) まとめや意見を、英語で発表することができる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	10%	到達目標(1)～(4)について、試験を行う。
レポート課題		
上記以外	90%	到達目標(1)～(4)について、毎回の小テストと宿題を評価する。(60%) 到達目標各項目について、発表、授業中の活動・提出物を評価する。(20%) 到達目標(1)～(4)について、到達確認テストを行う。(10%)

4回以上欠席した場合は、評価の対象としない。
評価に関する重要な事柄が、初回の授業で説明されるので、必ず出席する必要がある。

授業外学習

毎回、宿題と小テストへの備えをする。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Contemporary Topics 1 (Fourth Edition)	Helen Solorzano & Laurie Frazier	Pearson	978-0-13-440064-8
2				
3				

教科書は、新品(オンライン・リソース・アクセス・コードが未使用のもの)を購入しておき、必ず初回授業に持参すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	特になし			
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (活性化コース) (人文)						担当教員	木村 紀子
講義コード	1110122	単位数	1	開講期	後期	授業方法	授	
ナンバリング番号	101ENG102							

授業概要

本授業の目的は、英語の話を聴き取る、読み取る、書く、話す技術を伸ばすことである。具体的には、身近な話題についての話を聴いて、ノートを取り、それに関する英文を読み、まとめや意見を書き、発表する技術を学ぶことである。

到達目標

- (1) 英語の語彙の意味を理解して、使用することができる。
- (2) 英語の話を聴いて理解し、ノートを取ることができる。
- (3) 英文を読んで、主旨を理解することができる。
- (4) まとめや意見を、英語で書くことができる。
- (5) まとめや意見を、英語で発表することができる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	10%	到達目標(1)～(4)について、試験を行う。
レポート課題		
上記以外	90%	到達目標(1)～(4)について、毎回の小テストと宿題を評価する。(60%) 到達目標各項目について、発表、授業中の活動・提出物を評価する。(20%) 到達目標(1)～(4)について、到達確認テストを行う。(10%)

4回以上欠席した場合は、評価の対象としない。
評価に関する重要な事柄が、初回の授業で説明されるので、必ず出席する必要がある。

授業外学習

毎回、宿題と小テストへの備えをする。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Contemporary Topics 1 (Fourth Edition)	Helen Solorzano & Laurie Frazier	Pearson	978-0-13-440064-8
2				
3				

教科書は、前期に新品(オンライン・リソース・アクセス・コードが未使用のもの)を購入して使用していたものを、引き続き初回授業から使用する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	特になし			
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (活性化コース) (人文)						担当教員	Matthew Thornton
講義コード	1110131	単位数	1	開講期	前期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	101ENG101							

授業概要

The purpose of this class is to cultivate various skills in English through activities based about topics of the selected TED talks. We will spend two classes per Unit in our textbook, covering the first half of the book. The students will give one presentation in front of class, turn in various short writing assignments, and take quizzes for each Unit. Please keep in mind that the class will take place entirely in English.

到達目標

1) By the end of the semester, you will be able to further reach the A2/B1 range (CEFR standard) in all four skills of English language. 2) You will have familiarized yourself with various ideas offered by TED talks, to further your learning on your own in the future.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

25% - Class participation
30% - Quizzes
25% - Writing assignments

授業外学習

授業で学んだ単語、文法、会話表現などを復習してください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Keynote 2	David Bohlke	Cengage Learning	9781305965041
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (活性化コース) (人文)						担当教員	Matthew Thornton
講義コード	1110132	単位数	1	開講期	後期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	101ENG102							

授業概要

The purpose of this class is to cultivate various skills in English through activities based about topics of the selected TED talks. We will spend two classes per Unit in our textbook, covering the first half of the book. The students will give one presentation in front of class, turn in various short writing assignments, and take quizzes for each Unit. Please keep in mind that the class will take place entirely in English.

到達目標

1) By the end of the semester, you will be able to further reach the A2/B1 range (CEFR standard) in all four skills of English language. 2) You will have familiarized yourself with various ideas offered by TED talks, to further your learning on your own in the future.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

25% - Class participation
30% - Quizzes
25% - Writing assignments

授業外学習

授業で学んだ単語、文法、会話表現などを復習してください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Keynote 2	David Bohlke	Cengage Learning	9781305965041
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (活性化コース) (人文)						担当教員	Matthew Thornton
講義コード	1110132	単位数	1	開講期	後期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	101ENG102							

授業計画

回数	テーマ	概要		予習 / 復習	
第1回	Course Introduction	Warming up to class by engaging in various activities	90		
第2回	Unit 7	Developing English language skills by exploring ideas with a TED talk	90		
第3回	Unit 7	Developing English language skills by exploring ideas with a TED talk	90		
第4回	Unit 8	Developing English language skills by exploring ideas with a TED talk	90		
第5回	Unit 8	Developing English language skills by exploring ideas with a TED talk	90		
第6回	Unit 9	Developing English language skills by exploring ideas with a TED talk	90		
第7回	Unit 9	Developing English language skills by exploring ideas with a TED talk	90		
第8回	Unit 10	Developing English language skills by exploring ideas with a TED talk	90		
第9回	Unit 10	Developing English language skills by exploring ideas with a TED talk	90		
第10回	Unit 11	Developing English language skills by exploring ideas with a TED talk	90		
第11回	Unit 11	Developing English language skills by exploring ideas with a TED talk	90		
第12回	Unit 12	Developing English language skills by exploring ideas with a TED talk	90		
第13回	Unit 12	Developing English language skills by exploring ideas with a TED talk	90		
第14回	Presentation	Presentation in front of class	90		90
第15回	Presentation	Presentation in front of class	90		90

担当者から

講義名	英語 A (活性化コース) (人文)						担当教員	佐久間 思帆
講義コード	1110141	単位数	1	開講期	前期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	101ENG101							

授業概要

デザインについて英語でコミュニケーションできるように練習します。

英語を読み・聞きだけでは実力はつきません。言語は他の人と情報を伝達するためのものですから、他の学生とペアになったの演習や音読が大事となります。したがって授業への積極的な参加が出席の必要条件です。毎回の授業の初めに復習テスト(筆記式)があります。期末テストの他に英文の暗唱テストを行います。

なお状況によりシラバスは変更になりますのでご了承ください。

到達目標

- (1) 語彙力の向上
- (2) リスニング力の向上
- (3) 読解力の向上
- (4) 英語での思考力の向上
- (5) 英語での発信力の向上

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	(1) 語彙力10% (2) リスニング力10% (3) 読解力10%
レポート課題		
上記以外	50	(1) 語彙力10% (2) リスニング力10% (3) 読解力10%

学期末に英文暗唱テストが行われます(定期テスト50点中10点分になります)5回の欠席で評価対象から除外されます(出席回数はお知らせしません、自分で管理してください)。なお学校が認めた公欠以外は一切認めません。

授業外学習

授業で扱った英文を、日本語から英語に、英語から日本語にクイックレスポンスできるまで復習しておくこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

テキストが絶版のためプリントを使用します。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	This Means This, This Means That Second Edition: A User's Guide to Semiotics	Sean Hall	Laurence King Publishing	9781856697354
2				
3				

テキストとして使用する書籍のKindle版です。

前提学力等

2回生以上の特例処置での再履修を希望する学生は、本シラバスを確認した上で必ず1回目の授業に出席すること。出席しなかった学生の再履修は認めない。

履修資格

講義名	英語 B (活性化コース) (人文)						担当教員	佐久間 思帆
講義コード	1110142	単位数	1	開講期	後期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	101ENG102							

授業概要

デザインについて英語でコミュニケーションできるように練習します。

英語を読み・聞きだけでは実力はつきません。言語は他の人と情報を伝達するためのものですから、他の学生とペアになったの演習や音読が大事となります。したがって授業への積極的な参加が出席の必要条件です。毎回の授業の初めに復習テスト(筆記式)があります。期末テストの他に英文の暗唱テストを行います。

なお状況によりシラバスは変更になりますのでご了承ください。

到達目標

- (1) 語彙力の向上
- (2) リスニング力の向上
- (3) 読解力の向上
- (4) 英語での思考力の向上
- (5) 英語での発信力の向上

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	(1) 語彙力10% (2) リスニング力10% (3) 読解力10%
レポート課題		
上記以外	50	(1) 語彙力10% (2) リスニング力10% (3) 読解力10%

学期末に英文暗唱テストが行われます(定期テスト50点中10点分になります)5回の欠席で評価対象から除外されます(出席回数はお知らせしません、自分で管理してください)。なお学校が認めた公欠以外は一切認めません。

授業外学習

授業で扱った英文を、日本語から英語に、英語から日本語にクイックレスポンスできるまで復習しておくこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

テキストが絶版のためプリントを使用します。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	This Means This, This Means That Second Edition: A User's Guide to Semiotics	Sean Hall	Laurence King Publishing	9781856697354
2				
3				

テキストとして使用する書籍のKindle版です。

前提学力等

2回生以上の特例処置での再履修を希望する学生は、本シラバスを確認した上で必ず1回目の授業に出席すること。出席しなかった学生の再履修は認めない。

履修資格

講義名	英語 A (活性化コース) (人文)						担当教員	西澤 裕一
講義コード	1110151	単位数	1	開講期	前期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	101ENG101							

授業概要

この授業では、TOEIC受験を念頭に置いて、主に語彙力の向上、読解力、あるいはリスニング力の向上、さらに、それらを踏まえた発信力の向上を目標とします。語彙の確認、映画によるリスニングの演習、内容を理解した英文を使った発信力の演習、さらに投げ込み教材を使用した読解の演習という形を反復することで、英文を理解する際の基本的な能力の向上を目標として授業を進めていきます。

到達目標

1. TOEICで高得点を取るのに必要な英語の語彙力を身につけること。
2. 映画を利用してTOEICで高得点が狙えるような英語のリスニング力を身につけること。
3. 映画のシナリオを読むことで英語の会話表現に慣れること。
4. 映画の表現に親しむことで各学生が英語による自己表現力を高めること。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	50%	指示された学習 (予習・復習) をしっかりやってそれぞれの授業の学習内容をしっかり理解しているかどうか。
レポート課題	15%	しっかりと指示された課題に取り組んで学習した内容について適切な形でレポートが書かれているかどうか。
上記以外	35%	毎回の小テスト 20% 授業態度 (授業への参加度) 15%

欠席、遅刻の多いもの、授業態度(授業の準備はしっかりできているか、授業中の演習に集中して取り組んでいるかなど)の悪いものは評価の対象としません。
(定期テストがあまりにも悪い場合も評価をしない)2回の遅刻で1回の欠席とみなす場合があります。

授業外学習

この授業における授業外の学習は、主に教科書の指定された範囲の語彙の学習、ならびに各自が決めた素材を使ったリスニング活動とそれに関するレポートが中心になります。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN / ISSN
1	新TOEICテスト英単語ターゲット1500	松井こずえ	旺文社	9784010941751
2	TOEIC L&R 出る単語特急金のフレーズ		朝日新聞出版	
3	ラクラク覚える英会話ローマの休日		コスミック出版	9784774792521

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN / ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

特になし

履修資格

講義名	英語 A (活性化コース) (人文)						担当教員	西澤 裕一
講義コード	1110151	単位数	1	開講期	前期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	101ENG101							

授業計画							
回数	テーマ	概要				90分	予習/復習
第1回	ガイダンス/映画 Roman Holiday(1)	授業の進め方の説明と映画の視聴など				90分	指定された教科書を手にしておく ガイダンスの内容を理解して次回の
第2回	映画 (2)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第3回	映画 (3)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第4回	映画 (4)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第5回	映画 (5)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第6回	映画 (6)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第7回	映画 (7)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第8回	映画 (8)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第9回	映画 (9)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第10回	映画 (10)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第11回	映画 (11)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第12回	映画 (12)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第13回	映画 (13)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第14回	映画 (14)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第15回	映画 (15)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第16回	映画 (16)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第17回	映画 (17)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第18回	映画 (18)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第19回	映画 (19)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第20回	映画 (20)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第21回	映画 (21)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第22回	映画 (22)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第23回	映画 (23)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第24回	映画 (24)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第25回	映画 (25)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第26回	映画 (26)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第27回	映画 (27)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第28回	映画 (28)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第29回	映画 (29)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第30回	映画 (30)/まとめ	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
担当者から							
TOEIC受験に向けて学習していきますが、夏休みの間に学習した内容を忘れてしまわないように定期的に学習する習慣を身につけてください。とにかく授業中に集中して、課題にも積極的に取り組んでしっかりと英語力を身につけてください。							

講義名	英語 B (活性化コース) (人文)						担当教員	西澤 裕一
講義コード	1110152	単位数	1	開講期	後期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	101ENG102							

授業概要

この授業では、TOEIC受験を念頭に置いて、主に語彙力の向上、読解力、あるいはリスニング力の向上、さらに、それらを踏まえた発信力の向上を目標とします。語彙の確認、映画によるリスニングの演習、内容を理解した英文を使った発信力の演習、さらに投げ込み教材を使用した読解の演習という形を反復することで、英文を理解する際の基本的な能力の向上を目標として授業を進めていきます。

到達目標

1. TOEICで高得点を取るのに必要な英語の語彙力を身につけること。
2. 映画を利用してTOEICで高得点が狙えるような英語のリスニング力を身につけること。
3. 映画のシナリオを読むことで英語の会話表現に慣れること。
4. 映画の表現に親しむことで各学生が英語による自己表現力を高めること。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	50%	指示された学習 (予習・復習) をしっかりやってそれぞれの授業の学習内容をしっかり理解しているかどうか。
レポート課題	15%	しっかりと指示された課題に取り組んで学習した内容について適切な形でレポートが書かれているかどうか。
上記以外	35%	毎回の小テスト 20% 授業態度 (授業への参加度) 15%

欠席、遅刻の多いもの、授業態度(授業の準備はしっかりできているか、授業中の演習に集中して取り組んでいるかなど)の悪いものは評価の対象としません。
(定期テストがあまりにも悪い場合も評価をしない)2回の遅刻で1回の欠席とみなす場合があります。

授業外学習

この授業における授業外の学習は、主に教科書の指定された範囲の語彙の学習、ならびに各自が決めた素材を使ったリスニング活動とそれに関するレポートが中心になります。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	新TOEICテスト英単語ターゲット1500	松井こずえ	旺文社	9784010941751
2	TOEIC L&R 出る単語特急金のフレーズ		朝日新聞出版	
3	ラクラク覚える英会話ローマの休日		コスミック出版	9784774792521

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

特になし

履修資格

講義名	英語 B (活性化コース) (人文)						担当教員	西澤 裕一
講義コード	1110152	単位数	1	開講期	後期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	101ENG102							

授業計画							
回数	テーマ	概要				90分	予習/復習
第1回	ガイダンス/映画 Roman Holiday(1)	授業の進め方の説明と映画の視聴など				90分	指定された教科書を手に入れておく ガイダンスの内容を理解して次回の
第2回	映画 (2)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第3回	映画 (3)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第4回	映画 (4)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第5回	映画 (5)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第6回	映画 (6)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第7回	映画 (7)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第8回	映画 (8)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第9回	映画 (9)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第10回	映画 (10)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第11回	映画 (11)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第12回	映画 (12)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第13回	映画 (13)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第14回	映画 (14)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第15回	映画 (15)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第16回	映画 (16)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第17回	映画 (17)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第18回	映画 (18)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第19回	映画 (19)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第20回	映画 (20)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第21回	映画 (21)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第22回	映画 (22)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第23回	映画 (23)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第24回	映画 (24)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第25回	映画 (25)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第26回	映画 (26)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第27回	映画 (27)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第28回	映画 (28)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第29回	映画 (29)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第30回	映画 (30)/まとめ	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習					指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
担当者から							
TOEIC受験に向けて学習していきますが、夏休みの間に学習した内容を忘れてしまわないように定期的に学習する習慣を身につけてください。とにかく授業中に集中して、課題にも積極的に取り組んでしっかりと英語力を身につけてください。							

講義名	英語 A (活性化コース) (人文)						担当教員	森田 真
講義コード	1110161	単位数	1	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	101ENG101							

授業概要

本授業では、リスニング・リーディング・スピーキング・ライティングの英語の4技能の向上を目指します。コミュニケーションは身近なトピックについてペア、またはグループで会話をし、自分の考えや意見を述べることや相手の話を理解し質問をする練習をします。また、英語的な表現で自分の考え、意見が述べられるように英作文を行い、その作文を基に会話を進めていきます。そして、基礎文法をしっかりと身につけて英語の理解力をのばします。さらにスキミングやスキャンニングなどで英文を読むスピードと要点をつかむ練習や、CDとそのスクリプトを使ったリスニング練習も行います。

到達目標

- (1) 日常生活、社会の出来事、自分自身について英語でスムーズに話すことができる。
- (2) 英文読解の方法を知り、英文が速く正確に読めるようになる。
- (3) 基礎文法をしっかりと身につけて、正しい文法で文章を書くことができるようになる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	50	100点満点中50点以下は評価をしません。
レポート課題	30	英作文のレポート (15%) や小テスト (15%) などの課題。
上記以外	20	授業に参加する積極的な態度 (授業内の発言やペアワーク・グループワークに自発的に取り組む)

授業の3分の1以上 (5回以上) 欠席した場合は、評価の対象としません。

授業外学習

授業で学んだ単語、文法、会話表現などを復習してください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	NEW CONNECTION BOOK 2	Teruhiko Kadoyama etc	SEIBIDO	9784791934126
2				
3				

教科書は必ず購入してください。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

特になし

履修資格

講義名	英語 B (活性化コース) (人文)						担当教員	森田 真
講義コード	1110162	単位数	1	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	101ENG102							

授業概要

本授業では、リスニング・リーディング・スピーキング・ライティングの英語の4技能の向上を目指します。コミュニケーションは身近なトピックについてペア、またはグループで会話をし、自分の考えや意見を述べることや相手の話を理解し質問をする練習をします。また、英語的な表現で自分の考え、意見が述べられるように英作文を行い、その作文を基に会話を進めていきます。そして、基礎文法をしっかりと身につけ英語の理解力をのばします。さらにスキミングやスキミングなどで英文を読むスピードと要点をつかむ練習や、CDとそのスクリプトを使ったリスニング練習も行います。

到達目標

- (1) 日常生活、社会の出来事、自分自身について英語でスムーズに話すことができる。
- (2) 英文読解の方法を知り、英文が速く正確に読めるようになる。
- (3) 基礎文法をしっかりと身につけ、正しい文法で文章を書くことができるようになる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	50	100点満点中50点以下は評価をしません。
レポート課題	30	英作文のレポート (15%) や小テスト (15%) などの課題。
上記以外	20	授業に参加する積極的な態度 (授業内の発言やペアワーク・グループワークに自発的に取り組む)

授業の3分の1以上 (5回以上) 欠席した場合は、評価の対象としません。

授業外学習

授業で学んだ単語、文法、会話表現などを復習してください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	NEW CONNECTION BOOK 2	Teruhiko Kadoyama etc	SEIBIDO	9784791934126
2				
3				

教科書は必ず購入してください。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

特になし

履修資格

講義名	英語 B（活性化コース）（人文）							担当教員	森田 真
講義コード	1110162	単位数	1	開講期	後期	授業方法	講義		
ナンバリング番号	101ENG102								

授業計画

回数	テーマ	概要		予習 / 復習	
第1回	後期ガイダンス	授業の進め方説明、夏休みにやったことの発表	2	シラバスを事前に読んでくる。 もう一度シラバスを読む。クラス	2 2
第2回	Unit 8	新出語彙・リスニング・新出表現・文法	2	テキストのVocabularyとLanguage	2 2
第3回	Unit 8	読解・作文	2	テキストのReadingのページの英文	2 2
第4回	Unit 9	新出語彙・リスニング・新出表現・文法	2	テキストのVocabularyとLanguage	2 2
第5回	Unit 9	読解・作文	2	テキストのReadingのページの英文	2 2
第6回	Unit 10	新出語彙・リスニング・新出表現・文法	2	テキストのVocabularyとLanguage	2 2
第7回	Unit 10	読解・作文	2	テキストのReadingのページの英文	2 2
第8回	Unit 11	新出語彙・リスニング・新出表現・文法	2	テキストのVocabularyとLanguage	2 2
第9回	Unit 11	読解・作文	2	テキストのReadingのページの英文	2 2
第10回	Unit 12	新出語彙・リスニング・新出表現・文法	2	テキストのVocabularyとLanguage	2 2
第11回	Unit 12	読解・作文	2	テキストのReadingのページの英文	2 2
第12回	Unit 13	新出語彙・リスニング・新出表現・文法	2	テキストのVocabularyとLanguage	2 2
第13回	Unit 13	読解・作文	2	テキストのReadingのページの英文	2 2
第14回	Unit 14	新出語彙・リスニング・新出表現・文法	2	テキストのVocabularyとLanguage	2 2
第15回	Unit 14	読解・作文	2	テキストのReadingのページの英文	2 2

担当者から

英語習得には自発的な学習が必要です。授業前には予習をし、授業中には積極的な発言を期待しています。授業には辞書（または電子辞書）を持参してください。また、授業の進行を妨げたり、他の学生の学習機会を損なう行為は禁止します。

講義名	英語 A (応用コース) (人文)						担当教員	Jean-Baptiste M.B. SANFO
講義コード	1110331	単位数	1	開講期	前期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	101ENG103							

授業概要

In this course, students will develop skills to speak confidently about intermediate to advanced topics and write persuasive essays in English. The course is designed to develop students' abilities to produce English output (speaking and writing). They will engage in pair/group speaking tasks, discussions, debates, and presentations on intermediate to advanced topics related to daily and academic life. They will also develop the ability to write logical and persuasive essays in English.

到達目標

By the end of this course, students will be able to:

- 1) Write paragraphs to organize ideas using a variety of sentence forms
- 2) Write a coherent, logical and organized essay with an introduction, body paragraphs, and a conclusion in acceptable English
- 3) Discuss and present their ideas and opinions on daily or academic topics with more confidence in English.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	40	End-of-term presentation(40%)
レポート課題	30	Mid-term essay (30%)
上記以外	30	In-class participation (15%) Homework/assignment (15%)

- 1) Non-attendance of three classes will be considered as a "fail" for the overall course.
- 2) Being 30 minutes late without justification will be considered as non-attendance of the given class.

授業外学習

- 1) Read the content of each unit before the class

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Expanding Horizons <B1-B2>	Charles Browne and Yuji Tanabe	南雲堂/NAN'UN-DO	ISBN 978-4-523-17934-4
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

Japanese-English/English-Japanese dictionary

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (応用コース) (人文)						担当教員	Jean-Baptiste M.B. SANFO
講義コード	1110332	単位数	1	開講期	後期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	101ENG104							

授業概要

In this course, students will develop skills to speak confidently about intermediate to advanced topics and write persuasive essays in English. The course is designed to develop students' abilities to produce English output (speaking and writing). They will engage in pair/group speaking tasks, discussions, debates, and presentations on intermediate to advanced topics related to daily and academic life. They will also develop the ability to write logical and persuasive essays in English.

到達目標

By the end of this course, students will be able to:

- 1) Write paragraphs to organize ideas using a variety of sentence forms
- 2) Write a coherent, logical and organized essay with an introduction, body paragraphs, and a conclusion in acceptable English
- 3) Discuss and present their ideas and opinions on daily or academic topics with more confidence in English.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	40	End-of-term presentation(40%)
レポート課題	30	Mid-term essay (30%)
上記以外	30	In-class participation (15%) Homework/assignment (15%)

- 1) Non-attendance of three classes will be considered as a "fail" for the overall course.
- 2) Being 30 minutes late without justification will be considered as non-attendance of the given class.

授業外学習

- 1) Read the content of each unit before the class

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Expanding Horizons <B1-B2>	Charles Browne and Yuji Tanabe	南雲堂/NAN'UN-DO	ISBN 978-4-523-17934-4
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

Japanese-English/English-Japanese dictionary

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (応用コース) (人文)						担当教員	真島 アマンダ
講義コード	1110341	単位数	1	開講期	前期	授業方法	Inter	
ナンバリング番号	101ENG103							

授業概要

Students will work together with the instructor to make a friendly and communicative class in a welcoming environment. By the end of the course, students will feel more confident using English to share their opinions and ideas.

In particular, the spring semester covers the following topics: Hometown, music, books, and family.

This course aims to specifically target the improvement of students' fluency in speaking and writing, by engaging in weekly fluency speaking and speed writing activities.

到達目標

- (1) Improve speaking fluency and communicative competence in English on topics related to students' lives.
- (2) Improve English writing fluency and accuracy on topics related to students' lives.
- (3) Better express Japanese cultural concepts and personal opinions.
- (4) Maintain motivation and stimulate students' interest in English language studies.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	50	Quizzes (20%); Speaking tests (30%)
レポート課題	25	Written presentation scripts
上記以外	25	Final project (10%); Participation (15%)

授業を5回以上欠席すると評価の対象から外れます。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとなります。3回の遅刻で1回の欠席とみなします。

授業外学習

Please review the week's content and vocabulary and do your homework. It is important to remember to build on what you studied before.

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Scraps (Fourth Edition)	Brian Cullen & Sarah Mulvey	Perceptia Press	978439130229
2				
3				

You will need a A4 clear file and a B5 notebook. It's also a good idea to bring a dictionary.

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (応用コース) (人文)						担当教員	真島 アマンダ
講義コード	1110341	単位数	1	開講期	前期	授業方法	Inter	
ナンバリング番号	101ENG103							

授業計画							
回数	テーマ	概要			予習 / 復習		
第1回	Introduction & Unit 1: Hometown	Self-introductions and introduction to the class. Pair and group work on the topic, "Hometown."			1.5	Prepare the unit's picture page	1
						Study the vocabulary list. Take	0.
第2回	Unit 1: Hometown	Pair and group work on the topic, "Hometown." Writing Workshop #1.			1.5	Complete the writing assignment	1
						Study the phrase list. Take the	0.
第3回	Unit 1: Hometown	Pair and group work on the topic, "Hometown."			1.5	Prepare to take Speaking Test 1	1
						Review the contents of Unit 1.	0.
第4回	Speaking Test 1	Speaking Test 1 in class.			1.5	Prepare the next unit's picture	1
						Study the vocabulary list. Take	0.
第5回	Unit 2: Music	Pair and group work on the topic, "Music."			1.5	Complete the supplementary	1
						Study the phrase list. Take the	0.
第6回	Unit 2: Music	Pair and group work on the topic, "Music." Writing Workshop #2.			1.5	Complete the writing assignment	1
						Review the contents of Unit 2.	0.
第7回	Unit 2: Music & Speaking Test 2	Pair and group work on the topic, "Music." Speaking Test 2 in class.			1.5	Prepare the next unit's picture	1
						Study the vocabulary list. Take	0.
第8回	Unit 3: Books and Movies	Pair and group work on the topic, "Books and Movies."			1.5	Complete the supplementary	1
						Study the phrase list. Take the	0.
第9回	Unit 3: Books and Movies	Pair and group work on the topic, "Books and Movies." Writing Workshop #3.			1.5	Complete the writing assignment	1
						Review the contents of Unit 3.	0.
第10回	Unit 3: Books and Movies	Pair and group work on the topic, "Books and Movies."			1.5	Prepare the next unit's picture	1
						Study the vocabulary list. Take	0.
第11回	Unit 4: Family	Pair and group work on the topic, "Family."			1.5	Complete the supplementary	1
						Study the phrase list. Take the	0.
第12回	Unit 4: Family	Pair and group work on the topic, "Family."			1.5	Complete the writing assignment	1
						Review the contents of Unit 4.	0.
第13回	Unit 4: Family	Pair and group work on the topic, "Family."			1.5	Complete the supplementary	1
						Prepare to submit the final	0.
第14回	Speaking Test 3	Speaking Test 3 in class.			1.5	Complete the final writing	1
						Review the contents of Units 1-	0.
第15回	Review of Unit 1~4	Review activities to prepare for fall semester			1.5	Complete homework exercises	1
						Review the contents of Units 1-	0.

担当者から
In order to learn as much as possible from the course, please make sure to speak English as much as you can!

講義名	英語 B (応用コース) (人文)						担当教員	真島 アマンダ
講義コード	1110342	単位数	1	開講期	後期	授業方法	Inter	
ナンバリング番号	101ENG104							

授業概要

We will continue to develop the skills that were practiced in the spring semester.

Students will work together with the instructor to make a friendly and communicative class in a welcoming environment. By the end of the course, students will feel more confident using English to share their opinions and ideas.

In particular, the fall semester covers the following topics: Travel, school, food, and friends.

This course aims to specifically target the improvement of students' fluency in speaking and writing, by engaging in weekly fluency speaking and speed writing activities.

到達目標

- (1) Improve speaking fluency and communicative competence in English on topics related to students' lives.
- (2) Improve English writing fluency and accuracy on topics related to students' lives.
- (3) Better express Japanese cultural concepts and personal opinions.
- (4) Maintain motivation and stimulate students' interest in English language studies.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	50	Quizzes (20%); Speaking tests (30%)
レポート課題	25	Written presentation scripts
上記以外	25	Final project (10%); Participation (15%)

授業を5回以上欠席すると評価の対象から外れます。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとなります。3回の遅刻で1回の欠席とみなします。

授業外学習

Please review the week's content and vocabulary and do your homework. It is important to remember to build on what you studied before.

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Scraps (Fourth Edition)	Brian Cullen & Sarah Mulvey	Perceptia Press	978439130229
2				
3				

You will need a A4 clear file and a B5 notebook. It's also a good idea to bring a dictionary.

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (応用コース) (人文)						担当教員	Ashley Stevens
講義コード	1110351	単位数	1	開講期	前期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	101ENG103							

授業概要

Outline: This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues and individual, pair, and group speech presentations, while practicing all four language skills. On completion of the course, students will have made significant improvements in their English speaking and listening abilities. Students will have gained confidence in applying English language skills through lessons using a variety of stimulating, enjoyable, and educational communicative tasks and activities with a specific focus on communication. The students will have had the opportunity to talk in pairs and in groups when doing the tasks, and to develop the skills to work on projects in English.

到達目標

Speaking: Students will be able to speak English with (1) good pronunciation (especially th, l and si sounds), (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly) and (3) good delivery (clear voice and good volume, produce the required quantity of speech). Their English will also be (4) grammatically correct. Writing: Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	100	50% Final Interview Test 35% Final Writing Test
レポート課題		
上記以外		

Refer to the Rubric for details on how grades are evaluated.
Students who miss more than 3 classes will lose 3 points for each class missed over 3 classes.

授業外学習

Preparation for Quizzes (6 hours). Topic-related writing (6 hours). Pronunciation practice (3 hours).

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	English for the World	Stevens	3C English	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (応用コース) (人文)						担当教員	Ashley Stevens
講義コード	1110351	単位数	1	開講期	前期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	101ENG103							

授業計画

回数	テーマ	概要		予習 / 復習
第1回	Course Introduction	Explanation of schedule, grading, rubric.	90 Mi	
第2回	Hotels, Airports and Taxis	Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad with a focus on hotels and	90 Mi	
第3回	Hotels, Airports and Taxis	Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad with a focus on hotels and	90 Mi	
第4回	How to get around	Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad. with a focus on map reading	90 Mi	
第5回	How to get around	Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad. with a focus on map reading	90 Mi	
第6回	Restaurants and Eating	Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad with a focus on talking	90 Mi	
第7回	Restaurants and Eating	Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad with a focus on talking	90 Mi	
第8回	Shopping	Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad with a focus on money and	90 Mi	
第9回	Shopping	Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad with a focus on money and	90 Mi	
第10回	At the Doctors	Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad with a focus on ailments and	90 Mi	
第11回	At the Doctors	Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad with a focus on ailments and	90 Mi	
第12回	Going to the Movies	Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad with a focus on talking	90 Mi	
第13回	Going to the Movies	Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad with a focus on talking	90 Mi	
第14回	Test Guidelines and Practice	Guidelines and practice for final interview test.	90 Mi	
第15回	Interview Test	One to one interviews with student and teacher covering the modules taught.	90 Mi	
担当者から				

講義名	英語 B (応用コース) (人文)						担当教員	Ashley Stevens
講義コード	1110352	単位数	1	開講期	後期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	101ENG104							

授業概要

Outline: This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues and individual, pair, and group speech presentations, while practicing all four language skills. On completion of the course, students will have made significant improvements in their English speaking and listening abilities. Students will have gained confidence in applying English language skills through lessons using a variety of stimulating, enjoyable, and educational communicative tasks and activities with a specific focus on communication. The students will have had the opportunity to talk in pairs and in groups when doing the tasks, and to develop the skills to work on projects in English.

到達目標

Speaking: Students will be able to speak English with (1) good pronunciation (especially th, l and si sounds), (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly) and (3) good delivery (clear voice and good volume, produce the required quantity of speech). Their English will also be (4) grammatically correct. Writing: Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	100	50% Final Interview Test 35% Final Writing Test
レポート課題		
上記以外		

Refer to the Rubric for details on how grades are evaluated.
Students who miss more than 3 classes will lose 3 points for each class missed over 3 classes.

授業外学習

Preparation for Quizzes (6 hours). Topic-related writing (6 hours). Pronunciation practice (3 hours).

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	English for the World 2	Stevens	3C English	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (応用コース) (人文)						担当教員	Ashley Stevens	
講義コード	1110352	単位数	1	開講期	後期	授業方法	演習		
ナンバリング番号	101ENG104								

授業計画									
回数	テーマ	概要					90	予習 / 復習	
第1回	Course Introduction	Explanation of schedule, grading, rubric.					Mi		
第2回	Where we live	Focusing on the functional language used in real life situations for discussing where we live with a focus on					90		
第3回	Where we live	Focusing on the functional language used in real life situations for discussing where we live with a focus on					90		
第4回	Friends and family	Focusing on the functional language used in real life situations regarding our lives with a focus on describing					90		
第5回	Friends and family	Focusing on the functional language used in real life situations regarding our lives with a focus on describing					90		
第6回	Sports and activities	Focusing on the functional language used in real life situations when discussing our hobbies with a focus on verbs.					90		
第7回	Sports and activities	Focusing on the functional language used in real life situations when discussing our hobbies with a focus on verbs.					90		
第8回	Life experiences	Focusing on the functional language used in real life situations when the things we have done with a focus on the					90		
第9回	Life experiences	Focusing on the functional language used in real life situations when the things we have done with a focus on the					90		
第10回	Jobs and the wrokplace	Focusing on the functional language used in real life situations regarding the wrokplace with a focus on describing					90		
第11回	Jobs and the workplace	Focusing on the functional language used in real life situations regarding the wrokplace with a focus on describing					90		
第12回	The biggest and the best	Focusing on the functional language used in real life situations discussing opinions and facts with a focus on					90		
第13回	The biggest and the best	Focusing on the functional language used in real life situations discussing opinions and facts with a focus on					90		
第14回	Test Guidelines and Practice	Guidelines and practice for final interview test.					90		
第15回	Interview Test	One to one interviews with student and teacher covering the modules taught.					90		
担当者から									

講義名	英語 A (応用コース) (人文)						担当教員	Alexandra Jane Burke
講義コード	1110361	単位数	1	開講期	前期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	101ENG103							

授業概要

Students will get an all-English listening and speaking experience through studying world cultures via a text, interactive activities and multimedia including quizzes. This goal of this course is to build skills and confidence in students to use English in social, research and work situations. Classes will follow the textbook in the order given below. Tasks will include geography, vocabulary building, grammar in context, dictation, reading comprehension, summarising, retelling, analysis and spoken interviews. Regular homework will be assigned. It is also expected that students will read upcoming units in advance.

到達目標

The instructional emphasis will be on communication on themes drawn from the textbook as well as current events. Students will: (1) develop their critical thinking skills using English on issues in Japan and internationally, (2) be able to use new vocabulary in speaking and writing. (3) be able to work independently outside of class and work together cooperatively inside class. (4) be able to gain confidence in using English pitch intonation, word & sentence stress.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	A solo presentation and a 2-way discussion (videod) (30%) participation in pair-work, small group and small and large group activities (25%) completion of set quizzes (30%) 2 short videos. (15%). Students will be assessed on how well they demonstrate progress on goals 1 - 4.

As a general rule, students absent from more than one-third of the total classes will not be evaluated.

授業外学習

The goal is to talk freely about the difference between other countries and Japan. We will use free study games you can play on a phone/computer by yourself or with classmates. Study a little, daily.

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Around the World in 15 Chapters Beginner Book 2nd Edition	John Spiri	Global Stories Press	978-4-905426-56-1
2				
3				

Bring textbook, device (computer/phone/ tablet) + headphones for research and class activities.

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (応用コース) (人文)						担当教員	Alexandra Jane Burke
講義コード	1110361	単位数	1	開講期	前期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	101ENG103							

授業計画

回数	テーマ	概要		予習 / 復習	
第1回	Introduction	Introduction, syllabus, study hints Get Class User ID. Sign up for Teams, Duolingo Classroom, FlipGrid, Quizlet, Use teams.	90	Pre-read pages 4-8. Do set quiz	60
第2回	Unit 1-Europe-Germany	Text Book Page 79 Map P4 P5 Timeline Tenses Quiz Activities	90	Study page 79. Do set quiz	30
				Submit Flipgrid video 1	30
第3回	Unit 1-Europe-Germany	U1 Germany Page 6-8 Pairwork on P 6 using p79	90	Pre-read pages 9-12	15
				Do set quiz activities. Speaking	45
第4回	Unit 1-Europe-Italy	U1 Italy. P 9-10 Pairwork on P10	90		
				Do set quiz activities. Speaking	60
第5回	Unit 1-Europe-Italy	U1 Italy. P 11-12 Reading & Pronunciation focus. Quizzes	90		
				Do set quiz activities. Speaking	60
第6回	Unit 1-Europe-Denmark	U1 Denmark P 13-14 Pairwork on p 14. Quizzes	90	Pre-read pages 13-16	15
				Do set quiz activities. Speaking	45
第7回	Unit 1-Europe-Denmark	U1 Denmark P 15-16 Preparation for solo presentation video. Quizzes	90		
				Submit Flipgrid video 2	60
第8回	Unit 2-Asia-Korea	U2 Asia Map, Korea P 19, 20. Quizzes		Pre-read pages 19-22	15
				Do set quiz activities. Speaking	45
第9回	Unit 2-Asia-Korea	U2 Korea P 21, 22 Quizzes	90		
				Do set quiz activities. Speaking	60
第10回	Unit 2-Asia-Vietnam	U2 Vietnam P 23, 24 Pairwork on P24 Quizzes	90	Pre-read pages 23-26	15
				Do set quiz activities. Speaking	45
第11回	Unit 2-Asia-Vietnam	U2 Vietnam P 25, 26. Listening and speaking focus. Quizzes.	90		
				Do set quiz activities. Speaking	60
第12回	Unit 2-Asia-Indonesia.	U2 Indonesia. P27, 28 Pairwork on P 28. Quizzes	90	Pre-read pages 27-30	15
				Do set quiz activities. Speaking	45
第13回	Unit 2-Asia-Indonesia.	U2 Indonesia. P29, 30 Preparation for Pair video Quizzes			
				Do set quiz activities. Speaking	60
第14回	Unit 1 and 2 Skill practice pairs	Record Pair video on any 2 countries from Semester 1 Conversation Practice Quizzes	90		
				Submit Flipgrid Video 3	60
第15回	Unit 1 and 2 Skill practice groups	Pair / Trio conversations on any countries from Units 1 & 2, Quiz on Units 1 and 2. Student reflection on learning.	90	Speaking practice.	
				Final Flipgrid Video: Something	30

担当者から

We will use Microsoft Teams to communicate and to give/submit assignments. Please feel free to contact me by email halexandra.j@ec.usp.ac.jp I am at the university on Tuesdays (前後期) and Wednesdays (前期). Please write your class day/time, Name

講義名	英語 B (応用コース) (人文)						担当教員	Alexandra Jane Burke
講義コード	1110362	単位数	1	開講期	後期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	101ENG104							

授業概要

Students will get an all-English listening and speaking experience through studying world cultures via a text, interactive activities and multimedia including quizzes. This goal of this course is to extend the conversational skills used in English IIA. Classes will follow the textbook in the order given below. Tasks will include geography, vocabulary building, grammar in context, dictation, reading comprehension, summarising, retelling, analysis and spoken interviews. Regular homework will be assigned. It is also expected that students will read upcoming units in advance.

到達目標

The instructional emphasis will be on communication on themes drawn from the textbook as well as current events. Students will:

- (1) develop their critical thinking skills using English on issues in Japan and internationally,
- (2) be able to use new vocabulary in speaking and writing.
- (3) be able to work independently outside of class and work together cooperatively inside class.
- (4) be able to gain confidence in using English pitch intonation, word & sentence stress.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	A pair discussion and a 3-way discussion (videod) (30%) participation in pair-work, small group and small and large group activities (25%) completion of set quizzes (30%) 2 short videos. (15%). Students will be assessed on how well they demonstrate progress on goals 1 - 4.

As a general rule, students absent from more than one-third of the total classes will not be evaluated.

授業外学習

The goal is to talk freely about the difference between other countries and Japan. We will use free study games you can play on a phone/computer by yourself or with classmates. Study a little, daily.

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Around the World in 15 Chapters Beginner Book 2nd Edition	John Spiri	Global Stories Press	978-4-905426-56-1
2				
3				

Bring textbook, device (computer/phone/ tablet) + headphones for research and class activities.

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (応用コース) (人文)						担当教員	Alexandra Jane Burke
講義コード	1110362	単位数	1	開講期	後期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	101ENG104							

授業計画

回数	テーマ	概要		予習 / 復習	
第1回	Unit 3-Americas-Mexico	Introduction, syllabus, study hints, Change of conversation style from semester 1	90	Pre-read pages 34, 35. Quizzes	15
				Video 1 preparation	30
第2回	Unit 3-Americas-Mexico	U 3 Mexico P 34, 35 Conversation in groups of 3	90	Submit video 1 (Free choice)	45
				Do set quiz activities. Speaking	15
第3回	Unit 3-Americas-Costa Rica	U 3 Costa Rica P 37, 38 Conversation focus	90	Pre-read pages 37-40.	15
				Do set quiz activities. Speaking	45
第4回	Unit 3-Americas-Costa Rica	U 3 Costa Rica P 39, 40 Listening focus	90	Pre-read pages 37-40.	15
				Pre-read pages 41-44. Quizzes.	45
第5回	Unit 3-Americas-Argentina	U 3 Argentina P 41, 42 Conversation focus	90	Pre-read pages 41-44.	15
				Do set quiz activities. Speaking	45
第6回	Unit 3-Americas-Argentina	U 3 Argentina P 43, 44 listening focus and preparation for video 2	90	Do set quiz activities. Speaking	15
				Submit video 2 (pair)	45
第7回	Unit 4- Africa-Ghana	U 4 Africa Map, Ghana P 47, 48 conversation	90	Pre-read pages 47-50 Quizzes.	15
				Do set quiz activities. Speaking	45
第8回	Unit 4- Africa-Ghana	U 4 Ghana P49, 50 Listening focus	90	Pre-read pages 47-50 Quizzes.	15
				Do set quiz activities. Speaking	45
第9回	Unit 4- Africa-Morocco	U 4 Morocco P 51, 52 Conversation focus	90	Pre-read pages 51-54 Quizzes.	15
				Do set quiz activities. Speaking	45
第10回	Unit 4- Africa-Morocco	U 4 Morocco P 53, 54	90	Pre-read pages 51-54 Quizzes.	15
				Do set quiz activities. Speaking	45
第11回	Unit 5- The Middle East- Iran	U5 Iran P 57, 58	90	Pre-read pages 61-64 Quizzes.	15
				Do set quiz activities. Speaking	45
第12回	Unit 5- The Middle East- Turkey	Turkey P 63, 64	90	Pre-read pages 61-64 Quizzes.	15
				Do set quiz activities. Speaking	45
第13回	Unit 6-Island Countries-Jamaica	Jamaica P 67, 68 Preparation for 3 way video	90	Pre-read pages 66-70 Quizzes.	15
				Do set quiz activities. Speaking	45
第14回	Unit 6-Island Countries-Iceland	Iceland P 71, 72 - Record 3 way video on any 3 countries from Semester 2	90	Pre-read pages 71-74 Quizzes.	15
				Submit video 3 (3 way)	45
第15回	Unit 3-6 Review	Pair / Trio conversations on any country from Units 3-6, Final quiz on Units 3-6.	90		15
				Flipgrid Video 4 something you	30

担当者から

We will use Microsoft Teams to communicate and to give/submit assignments. Please feel free to contact me by email halexandra.j@ec.usp.ac.jp I am at the university on Tuesdays (前後期) and Wednesdays (前期). Please write your class day/time, Name

講義名	英語 A (応用コース) (人文)						担当教員	Karl Hedberg
講義コード	1110371	単位数	1	開講期	前期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	101ENG103							

授業概要

Students will gain confidence and ability in applying English language skills in enjoyable communicative activities such as role-plays and short skits. TV comedy skits. Students are required to write a one-page essay or story. The teacher will meet with each student individually to give advice about content, grammar, and pronunciation. Students will practice reading their essays or stories in front of the teacher before having to do it again for a final evaluation. Students will be graded on both writing and speaking.

到達目標

Students will be able talk about activities encountered in everyday life using familiar grammatical constructions, and write about them fairly cohesively and logically.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

25% Mid-term Speaking test
25% Mid-term Writing test
25% Vocabulary Quizzes

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Living English I	Hedberg & Mauser	Keystone English Press	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (応用コース) (人文)					担当教員	Karl Hedberg	
講義コード	1110371	単位数	1	開講期	前期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	101ENG103							

授業計画									
回数	テーマ	概要			予習 / 復習				
第1回	Explanation of the course,	Course introduction, useful English and self introductions.			2	Please buy the textbook before Review the useful English	1 1		
第2回	Getting to Know You	Making friends and exchanging (or not exchanging) personal information.			2	There will be a quiz on useful Review the useful English	1 1		
第3回	Getting to Know You	Learning to learn 1, going beyond first introductions, Quiz 1.			2	Be prepared to finish unit 1. Study the vocabulary for unit 2.	1 1		
第4回	Family & Friends	Quiz 2, Talking about your family, memory game 1, song 1.			2	There will be a quiz on the unit Review the unit 2 vocabulary and	1 1		
第5回	Family & Friends	Talking about your friends and learning to learn 2.			2	Preview the rest of unit 2. We Study the vocabulary for unit 3.	1 1		
第6回	Around Town	Quiz 3, Describing your hometown and game 2.			2	There will be a quiz on the unit Review the unit 3 vocabulary and	1 1		
第7回	Around Town	Getting to know Shiga, song 2.			2	Preview the rest of unit 3. We Prepare for the speaking test.	1 1		
第8回	Mid-Term Test	Students read aloud their writing to Teacher. Teacher gives a grade for speaking and another grade for writing.			2	Prepare for the mid-term Study the vocabulary for unit 4.	1 1		
第9回	School & Free Time	Quiz 4, School life, part-time jobs and schedules			2	There will be a quiz on the unit Review the unit 4 vocabulary and	1 1		
第10回	School & Free Time	Free time and hobbies. Comparing Japanese / American college life.			2	Preview the rest of unit 4. We Study the vocabulary for unit 5.	1 1		
第11回	What's Going On?	Quiz 5, Talking on the phone, leaving messages.			2	There will be a quiz on the unit Review the unit 5 vocabulary and	1 1		
第12回	What's Going On?	Making invitations and suggestions, song 3.			2	Preview the rest of unit 5. We Study the vocabulary for unit 6.	1 1		
第13回	Numbers & Money	Quiz 6, Numbers and money.			2	There will be a quiz on the unit Review the unit 6 vocabulary and	1 1		
第14回	Numbers & Money	Do the math!			2	Preview the rest of unit 6. We Start studying for the final	1 1		
第15回	Review, Review, Review	Review.			2	Be prepared to talk to your Study for the final exam.	1 2		
第16回	Final Exam				2				

担当者から

講義名	英語 B (応用コース) (人文)						担当教員	Karl Hedberg
講義コード	1110372	単位数	1	開講期	後期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	101ENG104							

授業概要

Students will gain confidence and ability in applying English language skills in enjoyable communicative activities such as role-plays and short skits. TV comedy skits. Students are required to write a one-page essay or story. The teacher will meet with each student individually to give advice about content, grammar, and pronunciation. Students will practice reading their essays or stories in front of the teacher before having to do it again for a final evaluation. Students will be graded on both writing and speaking.

到達目標

Students will be able talk about activities encountered in everyday life using familiar grammatical constructions, and write about them fairly cohesively and logically.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

25% Mid-term Speaking test
25% Mid-term Writing test
25% Vocabulary Quizzes

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Living English I	Hedberg & Mauser	Keystone English Press	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (応用コース) (人文)						担当教員	Karl Hedberg
講義コード	1110372	単位数	1	開講期	後期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	101ENG104							

授業計画								
回数	テーマ	概要	予習 / 復習					
第1回	Explanation of the course,	Course introduction, useful English and self introductions.	2	Please buy the textbook before Review the useful English	1			
第2回	Memory and the Past	Talk about past events.	2	There will be a quiz on useful Review the useful English	1			
第3回	Memory and the Past	Continue talking about past events.	2	Be prepared to finish unit 7. Study the vocabulary for unit 8.	1			
第4回	The Real You	Quiz 8, Talking about your personality.	2	There will be a quiz on the unit Review the unit 8 vocabulary and	1			
第5回	The Real You	Continue talking about your personality.	2	Preview the rest of unit 8. We Study the vocabulary for unit 9.	1			
第6回	My Favorites	Quiz 9, Describing your favorite things..	2	There will be a quiz on the unit Review the unit 9 vocabulary and	1			
第7回	My Favorites	Continue describing your favorite things.	2	Preview the rest of unit 9. We Prepare for the speaking test.	1			
第8回	Mid-Term Test	Students read aloud their writing to Teacher. Teacher gives a grade for speaking and another grade for writing.	2	Prepare for the mid-term Study the vocabulary for unit	1			
第9回	Let's Eat!	Quiz 10. Making dinner plans with friends and talking about food.	2	There will be a quiz on the unit Review the unit 10 vocabulary	1			
第10回	Let's Eat!	Continue talking about food.	2	Preview the rest of unit 10. We Study the vocabulary for unit	1			
第11回	Experiences	Quiz 11. Talking about experiences.	2	There will be a quiz on the unit Review the unit 11 vocabulary	1			
第12回	Experiences	Continue talking about past experiences.	2	Preview the rest of unit 11. We Study the vocabulary for unit	1			
第13回	Future Plans	Quiz 12. Talk about life after college.	2	There will be a quiz on the unit Review the unit 12 vocabulary	1			
第14回	Future Plans	Continue to talk about life after college.	2	Preview the rest of unit 12. We Start studying for the final	1			
第15回	Review, Review, Review	Review.	2	Be prepared to talk to your Study for the final exam.	1			
第16回	Final Exam		2		2			
担当者から								

講義名	英語 A (充実コース) (人文)						担当教員	西澤 裕一
講義コード	1110531	単位数	1	開講期	前期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	201ENG201							

授業概要

この授業では、主に語彙力の向上、リスニング力の向上、さらに、それらを踏まえた発信力の向上を目標とします。教科書を使用した語彙の確認、映画を使用したリスニングの演習、内容を理解した英文を使用した発信の演習という形を反復することで、英文を理解する際の基本的な能力の向上を目標として授業を進めていきます。

到達目標

1. 大学生にふさわしい程度の英語の語彙(ビジネス英単語も含む)を身につけること。
2. 映画のシナリオを読むことで英語の会話表現に慣れること。
3. 映画の音声に親しむことで、Englishes, すなわちイギリス英語、アメリカ英語、イタリアなまりの英語などに慣れること。
4. 映画の表現に親しむことで各学生の英語による自己表現力を高めること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50%	指示された学習(予習・復習)をしっかりとやってそれぞれの授業の学習内容をしっかりと理解しているかどうか。
レポート課題	15%	しっかりと指示された課題に取り組んで学習した内容について適切な形でレポートが書かれているかどうか。
上記以外	35%	毎回の小テスト 20% 授業態度(授業への参加度) 15%

欠席、遅刻の多いもの、授業態度(授業の準備はしっかりできているか、授業中の演習に集中して取り組んでいるかなど)の悪いものは評価の対象としません。
(定期テストがあまりにも悪い場合も評価をしない)2回の遅刻で1回の欠席とみなす場合があります。

授業外学習

この授業における授業外の学習は主に教科書を使った語彙の学習と、リスニング素材を利用したディクテーションによるリスニングの学習が中心となります。通学時間などもうまく利用して毎日定期的に学習すればより学習効果が高まると思います。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ラクラク覚える英会話ローマの休日		コスミック出版	9784774792521
2	TOEIC L&R 公式ボキャブラリーブック	Education Testing Service	LiBC	9784906033560
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

特になし

履修資格

講義名	英語 A (充実コース) (人文)						担当教員	西澤 裕一
講義コード	1110531	単位数	1	開講期	前期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	201ENG201							

授業計画								
回数	テーマ	概要					予習/復習	
第1回	ガイダンス/Roman Holiday (1)	授業の進め方等について解説して映画の視聴など					90分	指定された教科書を手に入れておく ガイダンスの内容をしっかりと理解し
第2回	Roman Holiday (2)/英単(1)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解						指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第3回	Roman Holiday (3)/英単(2)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習						指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第4回	Roman Holiday (4)/英単(3)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解						指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第5回	Roman Holiday (5)/英単(4)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習						指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第6回	Roman Holiday (6)/英単(5)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解						指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第7回	Roman Holiday (7)/英単(6)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習						指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第8回	Roman Holiday (8)/英単(7)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解						指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第9回	Roman Holiday (9)/英単(8)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習						指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第10回	Roman Holiday (10)/英単(9)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解						指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第11回	Roman Holiday (11)/英単(10)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習						指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第12回	Roman Holiday (12)/英単(11)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解						指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第13回	Roman Holiday (13)/英単(12)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習						指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第14回	Roman Holiday (14)/英単(13)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解						指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第15回	Roman Holiday (15)/英単(14)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習						指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第16回	Roman Holiday (16)/英単(15)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解						指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第17回	Roman Holiday (17)/英単(16)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習						指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第18回	Roman Holiday (18)/英単(17)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解						指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第19回	Roman Holiday (19)/英単(18)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習						指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第20回	Roman Holiday (20)/英単(19)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解						指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第21回	Roman Holiday (21)/英単(20)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習						指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第22回	Roman Holiday (22)/英単(21)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解						指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第23回	Roman Holiday (23)/英単(22)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習						指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第24回	Roman Holiday (24)/英単(23)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解						指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第25回	Roman Holiday (25)/英単(24)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習						指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第26回	Roman Holiday (26)/英単(25)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解						指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第27回	Roman Holiday (27)/英単(26)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習						指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第28回	Roman Holiday (28)/英単(27)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解						指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第29回	Roman Holiday (29)/英単(28)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習						指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第30回	Roman Holiday (30)/英単(29)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解/全体のまとめ						指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
担当者から								
初回の授業で、授業の進め方について詳しく説明するので必ず出席すること。 忙しい授業になると思いますが、積極的に授業に参加して、さらに指定された家庭学習にもしっかりと取り組んで大学生にふさわしい程度の英語力								

講義名	英語 B (充実コース) (人文)						担当教員	西澤 裕一
講義コード	1110532	単位数	1	開講期	後期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	201ENG202							

授業概要

この授業では、主に語彙力の向上、リスニング力の向上、さらに、それらを踏まえた発信力の向上を目標とします。教科書を使用した語彙の確認、映画を使用したリスニングの演習、内容を理解した英文を使用した発信の演習という形を反復することで、英文を理解する際の基本的な能力の向上を目標として授業を進めていきます。

到達目標

1. 大学生にふさわしい程度の英語の語彙(ビジネス英単語も含む)を身につけること。
2. 映画のシナリオを読むことで英語の会話表現に慣れること。
3. 映画の音声に親しむことで、Englishes, すなわちイギリス英語、アメリカ英語、イタリアなまりの英語などに慣れること。
4. 映画の表現に親しむことで各学生の英語による自己表現力を高めること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50%	指示された学習(予習・復習)をしっかりとやってそれぞれの授業の学習内容をしっかり理解しているかどうか。
レポート課題	15%	しっかりと指示された課題に取り組んで学習した内容について適切な形でレポートが書かれているかどうか。
上記以外	35%	毎回の小テスト 20% 授業態度(授業への参加度) 15%

欠席、遅刻の多いもの、授業態度(授業の準備はしっかりできているか、授業中の演習に集中して取り組んでいるかなど)の悪いものは評価の対象としません。
(定期テストがあまりにも悪い場合も評価をしない)2回の遅刻で1回の欠席とみなす場合があります。

授業外学習

この授業における授業外の学習は主に教科書を使った語彙の学習と、リスニング素材を利用したディクテーションによるリスニングの学習が中心となります。通学時間などもうまく利用して毎日定期的に学習すればより学習効果が高まると思います。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ラクラク覚える英会話ローマの休日		コスミック出版	9784774792521
2	TOEIC L&R 公式ボキャブラリーブック	Education Testing Service	LiBC	9784906033560
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

特になし

履修資格

講義名	英語 B (充実コース) (人文)						担当教員	西澤 裕一
講義コード	1110532	単位数	1	開講期	後期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	201ENG202							

授業計画								
回数	テーマ	概要					予習/復習	
第1回	ガイダンス/Roman Holiday (1)	授業の進め方等について解説して映画の視聴など					90分	指定された教科書を手に入れておく ガイダンスの内容をしっかりと理解し
第2回	Roman Holiday (2)/英単(1)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解						指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第3回	Roman Holiday (3)/英単(2)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習						指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第4回	Roman Holiday (4)/英単(3)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解						指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第5回	Roman Holiday (5)/英単(4)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習						指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第6回	Roman Holiday (6)/英単(5)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解						指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第7回	Roman Holiday (7)/英単(6)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習						指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第8回	Roman Holiday (8)/英単(7)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解						指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第9回	Roman Holiday (9)/英単(8)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習						指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第10回	Roman Holiday (10)/英単(9)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解						指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第11回	Roman Holiday (11)/英単(10)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習						指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第12回	Roman Holiday (12)/英単(11)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解						指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第13回	Roman Holiday (13)/英単(12)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習						指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第14回	Roman Holiday (14)/英単(13)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解						指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第15回	Roman Holiday (15)/英単(14)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習						指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第16回	Roman Holiday (16)/英単(15)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解						指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第17回	Roman Holiday (17)/英単(16)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習						指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第18回	Roman Holiday (18)/英単(17)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解						指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第19回	Roman Holiday (19)/英単(18)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習						指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第20回	Roman Holiday (20)/英単(19)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解						指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第21回	Roman Holiday (21)/英単(20)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習						指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第22回	Roman Holiday (22)/英単(21)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解						指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第23回	Roman Holiday (23)/英単(22)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習						指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第24回	Roman Holiday (24)/英単(23)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解						指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第25回	Roman Holiday (25)/英単(24)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習						指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第26回	Roman Holiday (26)/英単(25)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解						指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第27回	Roman Holiday (27)/英単(26)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習						指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第28回	Roman Holiday (28)/英単(27)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解						指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第29回	Roman Holiday (29)/英単(28)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習						指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
第30回	Roman Holiday (30)/英単(29)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解/全体のまとめ						指定された小テストの範囲をしっかりと 小テストの内容、及び授業で学習し
担当者から								
初回の授業で、授業の進め方について詳しく説明するので必ず出席すること。 忙しい授業になると思いますが、積極的に授業に参加して、さらに指定された家庭学習にもしっかりと取り組んで大学生にふさわしい程度の英語力								

講義名	英語 A (充実コース) (人文)						担当教員	真田 満
講義コード	1110541	単位数	1	開講期	前期	授業方法	演	
ナンバリング番号	201ENG201							

授業概要

現代社会の諸問題についての英語教材を使い、英語の読解力を伸ばすとともに、批判的にテキストを読む力を養い、知的レベルの高いコミュニケーションに必要な教養を深める。またビデオ教材等を使い、英語を聞き、理解する能力も養う。毎回の授業において英語を音読し、弱強や強弱の英語独自のリズムに慣れ親しむ。教科書の設問や教員の質問にグループやペアで討議し、英語で答えることで、英語による発信力も育成する。

到達目標

一般的な話題を扱うテキストの英文を正確に理解できる。
 テキストの英文に関する問題に、英語で答えることができる。
 テキストを批判的に読み、自分の考えを英語で述べることができる。
 自然なスピードで英語のネイティブスピーカーが話す内容を理解することができる。
 正しい発音を身につける。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	50%	到達目標 について試験を行う。
レポート課題		
上記以外	50%	到達目標 に関し、2回小テストを行う。 到達目標 と に関しては授業での発表をもとに、毎回の宿題と合わせて評価する。

総授業回数の3分の1を超えて欠席した場合、評価の対象としない。
 30分以上の遅刻は認めない。
 遅刻3回で1回の欠席扱いとする。

授業外学習

教科書のテキストを批判的に読み、設問に答えることで予習をしっかり行うこと。
 語彙と文法に関する問題プリントも毎回配付するので、解答してくること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Reading Explorer Third Edition Level 2 Student Book Test Only	David Bohlke他	Cengage	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

特になし。

前提学力等

英語Iおよび英語IIで身につけた英語力

履修資格

講義名	英語 A (充実コース) (人文)						担当教員	真田 満	
講義コード	1110541	単位数	1	開講期	前期	授業方法	演		
ナンバリング番号	201ENG201								

授業計画											
回数	テーマ	概要					予習 / 復習				
第1回	Introduction Unit 1 A	授業の説明 基本的な英語問題の解答と解説					90分	教科書Unit 1 Aのリーディング部分	30分	授業で学んだ英語表現を、授業以外	30分
第2回	Unit 1 A (続き)	宿題の解答と解説 リーディング・パッセージの読解					90分	前回の授業で提示された教科書の範	30分	授業で学んだ英語表現を、授業以外	30分
第3回	Unit 1 B	宿題の解答と解説 リーディング・パッセージの読解					90分	前回の授業で提示された教科書の範	30分	授業で学んだ英語表現を、授業以外	30分
第4回	Unit 2 A	宿題の解答と解説 リーディング・パッセージの読解					90分	前回の授業で提示された教科書の範	30分	授業で学んだ英語表現を、授業以外	30分
第5回	Unit 2 B	宿題の解答と解説 リーディング・パッセージの読解					90分	前回の授業で提示された教科書の範	30分	授業で学んだ英語表現を、授業以外	30分
第6回	1st Quiz Unit 3 A	第1回小テスト 宿題の解答と解説					90分	前回の授業で提示された教科書の範	30分	授業で学んだ英語表現を、授業以外	30分
第7回	Unit 3 A and B	小テストの講評 宿題の解答と解説					90分	前回の授業で提示された教科書の範	30分	授業で学んだ英語表現を、授業以外	30分
第8回	Unit 3 B	宿題の解答と解説 リーディング・パッセージの読解					90分	前回の授業で提示された教科書の範	30分	授業で学んだ英語表現を、授業以外	30分
第9回	Unit 4 A	宿題の解答と解説 リーディング・パッセージの読解					90分	前回の授業で提示された教科書の範	30分	授業で学んだ英語表現を、授業以外	30分
第10回	Unit 4 B	宿題の解答と解説 リーディング・パッセージの読解					90分	前回の授業で提示された教科書の範	30分	授業で学んだ英語表現を、授業以外	30分
第11回	Unit 5 A	宿題の解答と解説 リーディング・パッセージの読解					90分	前回の授業で提示された教科書の範	30分	授業で学んだ英語表現を、授業以外	30分
第12回	2nd Quiz Unit 5 B	第2回小テスト 宿題の解答と解説					90分	前回の授業で提示された教科書の範	30分	授業で学んだ英語表現を、授業以外	30分
第13回	Unit 5 B and 6 A	小テストの講評 宿題の解答と解説					90分	前回の授業で提示された教科書の範	30分	授業で学んだ英語表現を、授業以外	30分
第14回	Unit 6 A	宿題の解答と解説 リーディング・パッセージの読解					90分	前回の授業で提示された教科書の範	30分	授業で学んだ英語表現を、授業以外	30分
第15回	Unit 6 B Recapitulation	宿題の解答と解説 リーディング・パッセージの読解					90分	前回の授業で提示された教科書の範	30分	授業で学んだ英語表現を、授業以外	30分

担当者から

英和辞書だけでなく、英英辞書も持参すること。

講義名	英語 B (充実コース) (人文)						担当教員	真田 満
講義コード	1110542	単位数	1	開講期	後期	授業方法	演	
ナンバリング番号	201ENG202							

授業概要

現代社会の諸問題についての英語教材を使い、英語の読解力を伸ばすとともに、批判的にテキストを読む力を養い、知的レベルの高いコミュニケーションに必要な教養を深める。またビデオ教材等を使い、英語を聞き、理解する能力も養う。毎回の授業において英語を音読し、弱強や強弱の英語独自のリズムに慣れ親しむ。教科書の設問や教員の質問にグループやペアで討議し、英語で答えることで、英語による発信力も育成する。

到達目標

一般的な話題を扱うテキストの英文を正確に理解できる。
 テキストを批判的に読み、自分の考えを英語で書くことができる。
 テキストを批判的に読み、自分の考えを英語で述べるができる。
 自然なスピードで英語のネイティブスピーカーが話す内容を理解することができる。
 正しい発音を身につける。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	50%	到達目標 について試験を行う。
レポート課題		
上記以外	50%	到達目標 に関し、2回小テストを行う。 到達目標 と に関しては授業での発表をもとに、毎回の宿題と合わせて評価する。

総授業回数の3分の1を超えて欠席した場合、評価の対象としない。
 30分以上の遅刻は認めない。
 遅刻3回で1回の欠席扱いとする。

授業外学習

教科書のテキストを批判的に読み、設問に答えてくることで予習をしっかりと行うこと。
 語彙と文法に関する問題プリントも毎回配付するので、解答してこること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Reading Explorer Third Edition Level 2 Student Book Text Only	David Bohlke他	Cengage	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

特になし。

前提学力等

英語Iと英語IIで身につけた英語力

履修資格

講義名	英語 A (充実コース) (人文)						担当教員	Jean-Baptiste M.B. SANFO
講義コード	1110551	単位数	1	開講期	前期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	201ENG201							

授業概要

In this class, students will significantly improve their all four English language skills in an interesting and engaging way through activities on the Sustainable Development Goals (SDGs). Through activities such as pair/group work, discussions, debates, and presentations, they will gain more confidence and ability to share their ideas and knowledge related to SDGs and also acquire a better understanding of global issues. Students are expected to read upcoming units or assigned materials in advance and proactively participate in class activities.

到達目標

By the end of this course, students will be able to:

- 1) Write a coherent, logical and organized essay with an introduction, body paragraphs, and a conclusion in acceptable English.
- 2) Apply appropriate techniques to identify and extract the main ideas and details from a reading or listening material in English.
- 3) Discuss and present their ideas and opinions on global issues with more confidence in English.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	40	End-of-term presentation (40%)
レポート課題	40	Mid-term essay (40%)
上記以外	20	In-class participation (10%) Homework assignments (10%)

- 1) Non-attendance of three classes will be considered as a "fail" for the overall course.
- 2) Being 30 minutes late without justification will be considered as non-attendance of the given class.

授業外学習

- 1) Read the content of each unit before the class

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Living as Global Citizens: An Introduction to the Sustainable Development Goals	Kazuya Oseki Kevin M. McManus	南雲堂/NAN'UN-DO	9784523179313
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

Japanese-English/English-Japanese dictionary

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (充実コース) (人文)						担当教員	Jean-Baptiste M.B. SANFO	
講義コード	1110551	単位数	1	開講期	前期	授業方法	演習		
ナンバリング番号	201ENG201								

授業計画										
回数	テーマ	概要					予習 / 復習			
第1回	Course Introduction	Course orientation and Self-introduction				1時	Read the syllabus beforehand.	1	Will be decided in class.	1
第2回	Chapter 1	Global Perspectives				1時	An announcement will be made in	1	Content students do not	1
第3回	Supplementary activities	Supplementary individual or group activities on previous chapter				1時	An announcement will be made in	1	Content students do not	1
第4回	Chapter 2	Climate Change				1時	An announcement will be made in	1	Content students do not	1
第5回	Supplementary activities	Supplementary individual or group activities on previous chapter				1時	An announcement will be made in	1	Content students do not	1
第6回	Chapter 3	Water				1時	An announcement will be made in	1	Content students do not	1
第7回	Supplementary activities	Supplementary individual or group activities on previous chapter				1時	An announcement will be made in	1	Content students do not	1
第8回	Mid-term test	Essay writing				1時	An announcement will be made in	1	Not applicable	1
第9回	Chapter 4	Clean Energy				1時	An announcement will be made in	1	Content students do not	1
第10回	Supplementary activities	Supplementary individual or group activities on previous chapter				1時	An announcement will be made in	1	Content students do not	1
第11回	Chapter 5	Poverty				1時	An announcement will be made in	1	Content students do not	1
第12回	Supplementary activities	Supplementary individual or group activities on previous chapter				1時	An announcement will be made in	1	Content students do not	1
第13回	Chapter 6	Hunger				1時	An announcement will be made in	1	Content students do not	1
第14回	Supplementary activities	Supplementary individual or group activities on previous chapter				1時	An announcement will be made in	1	Content students do not	1
第15回	Chapter 7	Children				1時	An announcement will be made in	1	Content students do not	1
担当者から										
1) A mistake is not one if you learn from it, so make mistakes and learn from them.										

講義名	英語 B (充実コース) (人文)						担当教員	Jean-Baptiste M.B. SANFO
講義コード	1110552	単位数	1	開講期	後期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	201ENG202							

授業概要

In this class, students will significantly improve their all four English language skills in an interesting and engaging way through activities on the Sustainable Development Goals (SDGs). Through activities such as pair/group work, discussions, debates, and presentations, they will gain more confidence and ability to share their ideas and knowledge related to SDGs and also acquire a better understanding of global issues. Students are expected to read upcoming units or assigned materials in advance and proactively participate in class activities.

到達目標

By the end of this course, students will be able to:

- 1) Write a coherent, logical and organized essay with an introduction, body paragraphs, and a conclusion in acceptable English.
- 2) Apply appropriate techniques to identify and extract the main ideas and details from a reading or listening material in English.
- 3) Discuss and present their ideas and opinions on global issues with more confidence in English.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	40	End-of-term presentation (40%)
レポート課題	40	Mid-term essay (40%)
上記以外	20	In-class participation (10%) Homework assignments (10%)

- 1) Non-attendance of three classes will be considered as a "fail" for the overall course.
- 2) Being 30 minutes late without justification will be considered as non-attendance of the given class.

授業外学習

- 1) Read the content of each unit before the class

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Living as Global Citizens: An Introduction to the Sustainable Development Goals	Kazuya Oseki Kevin M. McManus	南雲堂/NAN'UN-DO	9784523179313
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

Japanese-English/English-Japanese dictionary

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (充実コース) (人文)						担当教員	Janeth Hori
講義コード	1110561	単位数	1	開講期	前期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	201ENG201							

授業概要

In this course, students will work on improving both their listening and speaking skills. These skills are ones that are essential for language acquisition. We will also explore the various culture specific to Japan and do cross-cultural comparisons with that of other countries and peoples. This will be done through bi-weekly themes and materials.

到達目標

- (1) 関心のある内容について、自然な速さで語られる英語の大意を聴解できる。また、そのために英語の発音やイントネーションなどの特徴などを理解して、自分でも使うことができる。
(2) 関心のある内容に関する英文を、文章構成を意識し、辞書を用いて読解できる。
(3) 自分の考えをまとめてパラグラフの形で表現するライティング力を身につける

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	Participation 20% Vocabulary quizzes 15% Speed reading activities 15%

原則として、全体の3分の1以上欠席した場合、評価の対象としません。

授業外学習

このクラスは、授業外での学習（課題提出）の積み重ねが評価されます。毎週、課題に取り組む時間を確保してください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Hot Topics Japan 1	Stephanie Alexander	Compass Publishing	9781613525197
2				
3				

教科書と辞書は、必ず初回授業から持ってくること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (充実コース) (人文)						担当教員	Janeth Hori
講義コード	1110561	単位数	1	開講期	前期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	201ENG201							

授業計画								
回数	テーマ	概要			予習 / 復習			
第1回	Introduction to the course	Description of activities and grading of the lessons in this course; getting-to-know-you activities			90分	No preparation. 1st lesson		0
第2回	Unit 1	Theme: Personal Space			90	Purchase book for class 2, unit 1		1
第3回	Unit 1	Theme: Personal Space			90	Prepare for vocabulary quiz 1		3
第4回	Unit 2	Theme: Japanese Restaurant Culture			90	All unit 1 materials		2
第5回	Unit 2	Theme: Japanese Restaurant Culture			90	Prepare discussion materials		3
第6回	Unit 3	Theme: Collectivism			90	Unit 1 topics		2
第7回	Unit 3	Theme: Collectivism			90	Prepare for vocabulary quiz 2		3
第8回	Unit 4	Theme: Natural vs. Artificial Ingredients in Snacks			90	All unit 2 materials		2
第9回	Unit 4	Theme: Natural vs. Artificial Ingredients in Snacks			90	Prepare discussion materials		3
第10回	Unit 5	Theme: Medical Masks in Japan			90	Unit 3 topics		2
第11回	Unit 5	Theme: Medical Masks in Japan			90	Prepare for vocabulary quiz 3		3
第12回	Unit 6	Theme: Japanese Tea			90	All unit 3 materials		2
第13回	Unit 6	Theme: Japanese Tea			90	Prepare discussion materials		3
第14回	Unit 7	Theme: Youth Subcultures in Japan			90	Unit 6 topics		2
第15回	Unit 7 - Final class	Theme: Youth Subcultures in Japan			90	Prepare for vocabulary quiz 4		3
		Short presentations			90	All unit 4 materials		2
					90	Prepare discussion materials		3
					90	Unit 5 topics		2
					90	Prepare for vocabulary quiz 5		3
					90	All unit 5 materials		2
					90	Prepare discussion materials		3
					90	Unit 6 topics		2
					90	Prepare for vocabulary quiz 6		3
					90	All unit 6 materials		2
					90	Prepare discussion materials		3
					90	Unit 7 topics		2
					90	Prepare last vocabulary quiz		3
					90	All semester materials		3

担当者から
Please speak in English as much as you can!

講義名	英語 B (充実コース) (人文)						担当教員	Janeth Hori
講義コード	1110562	単位数	1	開講期	後期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	201ENG202							

授業概要

In the continuation to this course, students will work on improving both their listening and speaking skills. These skills are ones that are essential for language acquisition. We will also explore the various culture specific to Japan and do cross-cultural comparisons with that of other countries and peoples. This will be done through bi-weekly themes and materials.

到達目標

- (1) 関心のある内容について、自然な速さで語られる英語の大意を聴解できる。また、そのために英語の発音やイントネーションなどの特徴などを理解して、自分でも使うことができる。
- (2) 関心のある内容に関する英文を、文章構成を意識し、辞書を用いて読解できる。
- (3) 自分の考えをまとめてパラグラフの形で表現するライティング力を身につける

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	Participation 20% Vocabulary quizzes 15% Speed reading activities 15%

原則として、全体の3分の1以上欠席した場合、評価の対象としません。

授業外学習

このクラスは、授業外での学習（課題提出）の積み重ねが評価されます。毎週、課題に取り組む時間を確保してください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Hot Topics Japan 1	Stephanie Alexander	Compass Publishing	9781613525197
2				
3				

教科書と辞書は、必ず初回授業から持ってくること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (充実コース) (人文)						担当教員	Janeth Hori
講義コード	1110562	単位数	1	開講期	後期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	201ENG202							

授業計画

回数	テーマ	概要		予習 / 復習	
第1回	Introduction to the course	Description of activities and grading of the lessons in this course; getting-back-into-the-swing-of-things activities	90分	No preparation. 1st lesson	0
第2回	Unit 8	Theme: Juku Culture	90	Look over unit 8	1
第3回	Unit 8	Theme: Juku Culture	90	Prepare for vocabulary quiz 1	3
第4回	Unit 9	Theme: Studying Abroad	90	All unit 8 materials	2
第5回	Unit 9	Theme: Studying Abroad	90	Prepare discussion materials	3
第6回	Unit 10	Theme: Cellphone Etiquette in Public Places	90	Unit 8 topics	2
第7回	Unit 10	Theme: Cellphone Etiquette in Public Places	90	Prepare for vocabulary quiz 2	3
第8回	Unit 11	Theme: Vending Machines	90	All unit 9 materials	2
第9回	Unit 11	Theme: Vending Machines	90	Prepare discussion materials	3
第10回	Unit 12	Theme: Robotics Research	90	Unit 10 topics	2
第11回	Unit 12	Theme: Robotics Research	90	Prepare for vocabulary quiz 3	3
第12回	Unit 13	Theme: Manga	90	All unit 10 materials	2
第13回	Unit 13	Theme: Manga	90	Prepare discussion materials	3
第14回	Unit 14	Theme: Karaoke	90	Unit 12 topics	2
第15回	Unit 14 - Final class	Theme: Karaoke Short presentations	90	Prepare for vocabulary quiz 4	3
				All unit 11 materials	2
				Prepare discussion materials	3
				Unit 12 topics	2
				Prepare for vocabulary quiz 5	3
				All unit 12 materials	2
				Prepare discussion materials	3
				Unit 13 topics	2
				Prepare last vocabulary quiz	3
				All semester materials	3

担当者から

Please speak in English as much as you can!

講義名	英語 A (充実コース) (人文)						担当教員	Christopher Garth
講義コード	1110571	単位数	1	開講期	前期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	201ENG201							

授業概要

In this course, students will work on improving both their listening and speaking skills. These skills are ones that are essential for language acquisition. We will also explore the various culture specific to Japan and do cross-cultural comparisons with that of other countries and peoples. This will be done through bi-weekly themes and materials.

到達目標

- (1) 関心のある内容について、自然な速さで語られる英語の大意を聴解できる。また、そのために英語の発音やイントネーションなどの特徴などを理解して、自分でも使うことができる。
(2) 関心のある内容に関する英文を、文章構成を意識し、辞書を用いて読解できる。
(3) 自分の考えをまとめてパラグラフの形で表現するライティング力を身につける

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	Participation 20% Vocabulary quizzes 15% Speed reading activities 15%

原則として、全体の3分の1以上欠席した場合、評価の対象としません。

授業外学習

このクラスは、授業外での学習（課題提出）の積み重ねが評価されます。毎週、課題に取り組む時間を確保してください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Hot Topics Japan 1	Stephanie Alexander	Compass Publishing	9781613525197
2				
3				

教科書と辞書は、必ず初回授業から持ってくること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (充実コース) (人文)					担当教員	Christopher Garth
講義コード	1110571	単位数	1	開講期	前期	授業方法	演習
ナンバリング番号	201ENG201						

授業計画

回数	テーマ	概要		予習/復習	
第1回	Introduction to the course	Description of activities and grading of the lessons in this course; getting-to-know-you activities	90分	No preparation. 1st lesson	0
第2回	Unit 1	Theme: Personal Space	90	Purchase book for class 2, unit 1	1
第3回	Unit 1	Theme: Personal Space	90	Prepare for vocabulary quiz 1	3
第4回	Unit 2	Theme: Japanese Restaurant Culture	90	All unit 1 materials	2
第5回	Unit 2	Theme: Japanese Restaurant Culture	90	Prepare discussion materials	3
第6回	Unit 3	Theme: Collectivism	90	Unit 1 topics	2
第7回	Unit 3	Theme: Collectivism	90	Prepare for vocabulary quiz 2	3
第8回	Unit 4	Theme: Natural vs. Artificial Ingredients in Snacks	90	All unit 2 materials	2
第9回	Unit 4	Theme: Natural vs. Artificial Ingredients in Snacks	90	Prepare discussion materials	3
第10回	Unit 5	Theme: Medical Masks in Japan	90	Unit 2 topics	2
第11回	Unit 5	Theme: Medical Masks in Japan	90	Prepare for vocabulary quiz 3	3
第12回	Unit 6	Theme: Japanese Tea	90	All unit 3 materials	2
第13回	Unit 6	Theme: Japanese Tea	90	Prepare discussion materials	3
第14回	Unit 7	Theme: Youth Subcultures in Japan	90	Unit 4 topics	2
第15回	Unit 7 - Final class	Theme: Youth Subcultures in Japan	90	Prepare for vocabulary quiz 4	3
				All unit 5 materials	2
				Prepare discussion materials	3
				Unit 6 topics	2
				Prepare for vocabulary quiz 6	3
				All unit 6 materials	2
				Prepare discussion materials	3
				Unit 7 topics	2
				Prepare last vocabulary quiz	3
				All semester materials	3

担当者から

Please speak in English as much as you can!

講義名	英語 B (充実コース) (人文)						担当教員	Christopher Garth
講義コード	1110572	単位数	1	開講期	後期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	201ENG202							

授業概要

In the continuation to this course, students will work on improving both their listening and speaking skills. These skills are ones that are essential for language acquisition. We will also explore the various culture specific to Japan and do cross-cultural comparisons with that of other countries and peoples. This will be done through bi-weekly themes and materials.

到達目標

- (1) 関心のある内容について、自然な速さで語られる英語の大意を聴解できる。また、そのために英語の発音やイントネーションなどの特徴などを理解して、自分でも使うことができる。
- (2) 関心のある内容に関する英文を、文章構成を意識し、辞書を用いて読解できる。
- (3) 自分の考えをまとめてパラグラフの形で表現するライティング力を身につける

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	Participation 20% Vocabulary quizzes 15% Speed reading activities 15%

原則として、全体の3分の1以上欠席した場合、評価の対象としません。

授業外学習

このクラスは、授業外での学習（課題提出）の積み重ねが評価されます。毎週、課題に取り組む時間を確保してください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Hot Topics Japan 1	Stephanie Alexander	Compass Publishing	9781613525197
2				
3				

教科書と辞書は、必ず初回授業から持ってくること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (充実コース) (人文)						担当教員	Christopher Garth
講義コード	1110572	単位数	1	開講期	後期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	201ENG202							

授業計画

回数	テーマ	概要		予習 / 復習	
第1回	Introduction to the course	Description of activities and grading of the lessons in this course; getting-back-into-the-swing-of-things activities	90分	No preparation. 1st lesson	0
第2回	Unit 8	Theme: Juku Culture	90	Look over unit 8	1
第3回	Unit 8	Theme: Juku Culture	90	Prepare for vocabulary quiz 1	3
第4回	Unit 9	Theme: Studying Abroad	90	All unit 8 materials	2
第5回	Unit 9	Theme: Studying Abroad	90	Prepare discussion materials	3
第6回	Unit 10	Theme: Cellphone Etiquette in Public Places	90	Unit 8 topics	2
第7回	Unit 10	Theme: Cellphone Etiquette in Public Places	90	Prepare for vocabulary quiz 2	3
第8回	Unit 11	Theme: Vending Machines	90	All unit 9 materials	2
第9回	Unit 11	Theme: Vending Machines	90	Prepare discussion materials	3
第10回	Unit 12	Theme: Robotics Research	90	Unit 10 topics	2
第11回	Unit 12	Theme: Robotics Research	90	Prepare for vocabulary quiz 3	3
第12回	Unit 13	Theme: Manga	90	All unit 10 materials	2
第13回	Unit 13	Theme: Manga	90	Prepare discussion materials	3
第14回	Unit 14	Theme: Karaoke	90	Unit 12 topics	2
第15回	Unit 14 - Final class	Theme: Karaoke Short presentations	90	Prepare for vocabulary quiz 4	3
				All unit 11 materials	2
				Prepare discussion materials	3
				Unit 12 topics	2
				Prepare for vocabulary quiz 5	3
				All unit 12 materials	2
				Prepare discussion materials	3
				Unit 13 topics	2
				Prepare last vocabulary quiz	3
				All semester materials	3

担当者から

Please speak in English as much as you can!

講義名	英語 A (展開コース) (人文)						担当教員	西堀 彰子
講義コード	1110741	単位数	1	開講期	前期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	201ENG203							

授業概要

問題解決や意思決定の基盤・技術となるcritical thinkingを活用し、ペアワーク、クラスディスカッション、プレゼンテーション等を通じて英語が使えるよう指導する。スピーキング、ライティングでは自分の考え、意見を明確に表現し、相手に伝わる英語力を養い、リーディング、リスニングでは的確な内容把握、情報収集はもちろんのこと、それに対して自分はどう考えるのか能動的な活動として、深く英語で思考を展開していく能力を養う。

到達目標

- (1) 決められたテーマについて自分の考えをまとめ、筋道を立て、適切な発音とイントネーションの英語で話すことができる。
- (2) 決められたテーマについて自分の考えを明確に、論理的に英語で書くことができる。
- (3) まとまった内容の英文を正確に理解し、内容について自分の意見を英語で表現することができる。
- (4) 語句、文の構造を理解し、それらを慣用表現、定型表現と共に表現活動に使うことができる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	0%	
レポート課題	30%	到達目標(2)についてライティング課題で評価する (30%)
上記以外	70%	到達目標(1)についてプレゼンテーションで評価する (30%) 到達目標(3)についてディスカッションで評価する (15%) 到達目標(4)について小テストで評価する (25%)

授業を5回以上欠席した場合は、評価の対象としない。また、遅刻3回で欠席1回、30分以上の遅刻は欠席として扱う。

授業外学習

毎日、英語で考える、話す、読む、聴く、書くのいずれかの活動を必ず行う。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Think Smart	Michael Hood	金星堂	9784764740433
2				
3				

英和・和英辞書を必ず持参する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (展開コース) (人文)						担当教員	西堀 彰子			
講義コード	1110741	単位数	1	開講期	前期	授業方法	演習				
ナンバリング番号	201ENG203										

授業計画										
------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

回数	テーマ	概要	回数	予習/復習	
第1回	オリエンテーション Unit 1 Study Abroad	授業の進め方、評価方法等についての説明。 リスニング、リーディング、コミュニケーション活動。	2	内容を読み未知の語句・表現は辞書 本文の音読・シャドーイングを繰り返す	
第2回	Unit 1 Study Abroad	リスニング、リーディング、ライティング、コミュニケーション活動。 小テスト	2	内容を読み未知の単語・表現は辞書 会話文の音読・シャドーイングを繰り返す	
第3回	Unit 2 Nuclear Power	リスニング、リーディング、コミュニケーション活動。小テスト	2	内容を読み未知の単語・表現は辞書 本文の音読・シャドーイングを繰り返す	
第4回	Unit 2 Nuclear Power	リスニング、リーディング、ライティング、コミュニケーション活動。 小テスト	2	内容を読み未知の単語・表現は辞書 会話文の音読・シャドーイングを繰り返す	
第5回	Unit 3 Immigration	リスニング、リーディング、コミュニケーション活動。小テスト	2	内容を読み未知の単語・表現は辞書 本文の音読・シャドーイングを繰り返す	
第6回	Unit 3 Immigration	リスニング、リーディング、ライティング、コミュニケーション活動。 小テスト	2	内容を読み未知の単語・表現は辞書 会話文の音読・シャドーイングを繰り返す	
第7回	Unit 4 The Social Safety Net	リスニング、リーディング、コミュニケーション活動。小テスト	2	内容を読み未知の単語・表現は辞書 本文の音読・シャドーイングを繰り返す	
第8回	Unit 4 The Social Safety Net	リスニング、リーディング、ライティング、コミュニケーション活動。 小テスト	2	内容を読み未知の単語・表現は辞書 会話文の音読・シャドーイングを繰り返す	
第9回	Unit 5 Global Warming	リスニング、リーディング、コミュニケーション活動。小テスト	2	内容を読み未知の単語・表現は辞書 本文の音読・シャドーイングを繰り返す	
第10回	Unit 5 Global Warming	リスニング、リーディング、ライティング、コミュニケーション活動。 小テスト	2	内容を読み未知の単語・表現は辞書 会話文の音読・シャドーイングを繰り返す	
第11回	Unit 6 Women in the Workplace	リスニング、リーディング、コミュニケーション活動。小テスト	2	内容を読み未知の単語・表現は辞書 本文の音読・シャドーイングを繰り返す	
第12回	Unit 6 Women in the Workplace	リスニング、リーディング、ライティング、コミュニケーション活動。 小テスト	2	内容を読み未知の単語・表現は辞書 会話文の音読・シャドーイングを繰り返す	
第13回	Unit 7 School on Saturdays	リスニング、リーディング、コミュニケーション活動。小テスト	2	内容を読み未知の単語・表現は辞書 本文の音読・シャドーイングを繰り返す	
第14回	Unit 7 School on Saturdays / プレゼン	リスニング、リーディング、ライティング、コミュニケーション活動。 プレゼンテーション。小テスト	2	内容を読み未知の単語・表現は辞書 会話文の音読・シャドーイングを繰り返す	
第15回	プレゼンテーション / 総括	スピーキング、リスニング活動。小テスト	2	プレゼンテーションの最終準備、練習 他の学生のプレゼンテーションから	

担当者から

Teamsを授業で使用します。必要に応じて授業内で使い方の説明をします。

講義名	英語 B (展開コース) (人文)						担当教員	西堀 彰子
講義コード	1110742	単位数	1	開講期	後期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	201ENG204							

授業概要

問題解決や意思決定の基盤・技術となるcritical thinkingを活用し、ペアワーク、クラスディスカッション、プレゼンテーション等を通じて英語が使えるよう指導する。スピーキング、ライティングでは自分の考え、意見を明確に表現し、相手に伝わる英語力を養い、リーディング、リスニングでは的確な内容把握、情報収集はもちろんのこと、それに対して自分はどう考えるのか能動的な活動として、深く英語で思考を展開していく能力を養う。

到達目標

- (1) 決められたテーマについて自分の考えをまとめ、筋道を立て、適切な発音とイントネーションの英語で話すことができる。
- (2) 決められたテーマについて自分の考えを明確に、論理的に英語で書くことができる。
- (3) まとまった内容の英文を正確に理解し、内容について自分の意見を英語で表現することができる。
- (4) 語句、文の構造を理解し、それらを慣用表現、定型表現と共に表現活動に使うことができる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	0%	
レポート課題	30%	到達目標(2)についてライティング課題で評価する (30%)
上記以外	70%	到達目標(1)についてプレゼンテーションで評価する (30%) 到達目標(3)についてディスカッションで評価する (15%) 到達目標(4)について小テストで評価する (25%)

授業を5回以上欠席した場合は、評価の対象としない。また、遅刻3回で欠席1回、30分以上の遅刻は欠席として扱う。

授業外学習

毎日、英語で考える、話す、読む、聴く、書くのいずれかの活動を必ず行う。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Think Smart	Michael Hood	金星堂	9784764740433
2				
3				

英和・和英辞書を必ず持参する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (展開コース) (人文)							担当教員	西堀 彰子
講義コード	1110742	単位数	1	開講期	後期	授業方法	演習		
ナンバリング番号	201ENG204								

授業計画

回数	テーマ	概要	予習 / 復習
第1回	オリエンテーション Unit 8 Food Labeling	授業の進め方、評価方法等についての説明。 リスニング、リーディング、コミュニケーション活動。	2 内容を読み未知の語句・表現は辞書0. 本文の音読・シャドーイングを繰り返す0.
第2回	Unit 8 Food Labeling	リスニング、リーディング、ライティング、コミュニケーション活動。 小テスト	2 内容を読み未知の単語・表現は辞書0. 会話文の音読・シャドーイングを繰り返す0.
第3回	Unit 9 Etiquette in the Digital Age	リスニング、リーディング、コミュニケーション活動。小テスト	2 内容を読み未知の単語・表現は辞書0. 本文の音読・シャドーイングを繰り返す0.
第4回	Unit 9 Etiquette ... / Unit 10 Merit-based	リスニング、リーディング、ライティング、コミュニケーション活動。 小テスト	2 内容を読み未知の単語・表現は辞書0. 会話文・本文の音読・シャドーイングを繰り返す0.
第5回	Unit 10 Merit-based Pay	リスニング、リーディング、ライティング、コミュニケーション活動。 小テスト	2 内容を読み未知の単語・表現は辞書0. 会話文の音読・シャドーイングを繰り返す0.
第6回	Unit 11 American Military Bases in	リスニング、リーディング、コミュニケーション活動。小テスト	2 内容を読み未知の単語・表現は辞書0. 本文の音読・シャドーイングを繰り返す0.
第7回	Unit 11 American Military Bases in	リスニング、リーディング、ライティング、コミュニケーション活動。 小テスト	2 内容を読み未知の単語・表現は辞書0. 会話文の音読・シャドーイングを繰り返す0.
第8回	Unit 12 Taxes	リスニング、リーディング、コミュニケーション活動。小テスト	2 内容を読み未知の単語・表現は辞書0. 本文の音読・シャドーイングを繰り返す0.
第9回	Unit 12 Taxes	リスニング、リーディング、ライティング、コミュニケーション活動。 小テスト	2 内容を読み未知の単語・表現は辞書0. 会話文の音読・シャドーイングを繰り返す0.
第10回	Unit 13 Living Together Before	リスニング、リーディング、コミュニケーション活動。小テスト	2 内容を読み未知の単語・表現は辞書0. 本文の音読・シャドーイングを繰り返す0.
第11回	Unit 13 Living Together Before	リスニング、リーディング、ライティング、コミュニケーション活動。 小テスト	2 内容を読み未知の単語・表現は辞書0. 会話文の音読・シャドーイングを繰り返す0.
第12回	Unit 14 Animal Rights	リスニング、リーディング、コミュニケーション活動。小テスト	2 内容を読み未知の単語・表現は辞書0. 本文の音読・シャドーイングを繰り返す0.
第13回	Unit 14 Animal ... / Unit 15 Hosting the	リスニング、リーディング、ライティング、コミュニケーション活動。 小テスト	2 内容を読み未知の単語・表現は辞書0. 会話文・本文の音読・シャドーイングを繰り返す0.
第14回	Unit 15 Hosting the Olympics / プレゼン	リスニング、リーディング、ライティング、コミュニケーション活動。 小テスト	2 内容を読み未知の単語・表現は辞書0. 会話文の音読・シャドーイングを繰り返す0.
第15回	プレゼンテーション / 総括	スピーキング、リスニング活動。小テスト	2 プレゼンテーションの最終準備、練習0. 他の学生のプレゼンテーションから学ぶ0.

担当者から

Teamsを授業で使用します。必要に応じて授業内で使い方の説明をします。

講義名	英語 A (展開コース) (人文)						担当教員	Ashley Stevens
講義コード	1110751	単位数	1	開講期	前期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	201ENG203							

授業概要

Outline: This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues and individual, pair, and group speech presentations, while practicing all four language skills. On completion of the course, students will have made significant improvements in their English speaking and listening abilities. Students will have gained confidence in applying English language skills through lessons using a variety of stimulating, enjoyable, and educational communicative tasks and activities with a specific focus on communication. The students will have had the opportunity to talk in pairs and in groups when doing the tasks, and to develop the skills to work on projects in English.

到達目標

Speaking: Students will be able to speak English with (1) good pronunciation (especially th, l and si sounds), (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly) and (3) good delivery (clear voice and good volume, produce the required quantity of speech). Their English will also be (4) grammatically correct. Writing: Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	100	60% Group Presentations 25% Final Writing Test
レポート課題		
上記以外		

Refer to the Rubric for details on how grades are evaluated.
Students who miss more than 3 classes will lose 3 points for each class missed over 3 classes.

授業外学習

Preparation for Quizzes (6 hours). Topic-related writing (6 hours). Pronunciation practice (3 hours).

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Teacher Supplied Material			
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (展開コース) (人文)						担当教員	Ashley Stevens
講義コード	1110751	単位数	1	開講期	前期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	201ENG203							

授業計画

回数	テーマ	概要		予習 / 復習
第1回	Course Introduction	Explanation of schedule, grading, rubric.	90 Mi	
第2回	Current News Topics	Focusing on current news items students will use all four language skills to complete pair and group tasks.	90 Mi	
第3回	Current News Topics	Focusing on current news items students will use all four language skills to complete pair and group tasks.	90 Mi	
第4回	Current News Topics	Focusing on current news items students will use all four language skills to complete pair and group tasks.	90 Mi	
第5回	Current News Topics	Focusing on current news items students will use all four language skills to complete pair and group tasks.	90 Mi	
第6回	Group Presentations	Students will complete group presentations related to one of the topics studied in the previous weeks.	90 Mi	
第7回	Current News Topics	Focusing on current news items students will use all four language skills to complete pair and group tasks.	90 Mi	
第8回	Current News Topics	Focusing on current news items students will use all four language skills to complete pair and group tasks.	90 Mi	
第9回	Current News Topics	Focusing on current news items students will use all four language skills to complete pair and group tasks.	90 Mi	
第10回	Current News Topics	Focusing on current news items students will use all four language skills to complete pair and group tasks.	90 Mi	
第11回	Group Presentations	Students will complete group presentations related to one of the topics studied in the previous weeks.	90 Mi	
第12回	Current News Topics	Focusing on current news items students will use all four language skills to complete pair and group tasks.	90 Mi	
第13回	Current News Topics	Focusing on current news items students will use all four language skills to complete pair and group tasks.	90 Mi	
第14回	Current News Topics	Focusing on current news items students will use all four language skills to complete pair and group tasks.	90 Mi	
第15回	Group Presentations	Students will complete group presentations related to one of the topics studied in the previous weeks.	90 Mi	

担当者から

講義名	英語 B (展開コース) (人文)						担当教員	Ashley Stevens
講義コード	1110752	単位数	1	開講期	後期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	201ENG204							

授業概要

Outline: This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues and individual, pair, and group speech presentations, while practicing all four language skills. On completion of the course, students will have made significant improvements in their English speaking and listening abilities. Students will have gained confidence in applying English language skills through lessons using a variety of stimulating, enjoyable, and educational communicative tasks and activities with a specific focus on communication. The students will have had the opportunity to talk in pairs and in groups when doing the tasks, and to develop the skills to work on projects in English.

到達目標

Speaking: Students will be able to speak English with (1) good pronunciation (especially th, l and si sounds), (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly) and (3) good delivery (clear voice and good volume, produce the required quantity of speech). Their English will also be (4) grammatically correct. Writing: Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	100	60% Group Presentations 25% Final Writing Test
レポート課題		
上記以外		

Refer to the Rubric for details on how grades are evaluated.
Students who miss more than 3 classes will lose 3 points for each class missed over 3 classes.

授業外学習

Preparation for Quizzes (6 hours). Topic-related writing (6 hours). Pronunciation practice (3 hours).

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Teacher Supplied Material			
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (展開コース) (人文)						担当教員	Ashley Stevens
講義コード	1110752	単位数	1	開講期	後期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	201ENG204							

授業計画

回数	テーマ	概要		予習/復習
第1回	Course Introduction	Explanation of schedule, grading, rubric.	90 Mi	
第2回	Current News Topics	Focusing on current news items students will use all four language skills to complete pair and group tasks.	90 Mi	
第3回	Current News Topics	Focusing on current news items students will use all four language skills to complete pair and group tasks.	90 Mi	
第4回	Current News Topics	Focusing on current news items students will use all four language skills to complete pair and group tasks.	90 Mi	
第5回	Current News Topics	Focusing on current news items students will use all four language skills to complete pair and group tasks.	90 Mi	
第6回	Group Presentations	Students will complete group presentations related to one of the topics studied in the previous weeks.	90 Mi	
第7回	Current News Topics	Focusing on current news items students will use all four language skills to complete pair and group tasks.	90 Mi	
第8回	Current News Topics	Focusing on current news items students will use all four language skills to complete pair and group tasks.	90 Mi	
第9回	Current News Topics	Focusing on current news items students will use all four language skills to complete pair and group tasks.	90 Mi	
第10回	Current News Topics	Focusing on current news items students will use all four language skills to complete pair and group tasks.	90 Mi	
第11回	Group Presentations	Students will complete group presentations related to one of the topics studied in the previous weeks.	90 Mi	
第12回	Current News Topics	Focusing on current news items students will use all four language skills to complete pair and group tasks. .	90 Mi	
第13回	Current News Topics	Focusing on current news items students will use all four language skills to complete pair and group tasks.	90 Mi	
第14回	Current News Topics	Focusing on current news items students will use all four language skills to complete pair and group tasks.	90 Mi	
第15回	Group Presentations	Students will complete group presentations related to one of the topics studied in the previous weeks.	90 Mi	
担当者から				

講義名	英語 A (展開コース) (人文)						担当教員	近藤 佑樹
講義コード	1110761	単位数	1	開講期	前期	授業方法	演	
ナンバリング番号	201ENG203							

授業概要

英語で書かれた短編作品を、続きが読みたくなるような興味深い形で紹介する教科書を用いて、英語をしっかりとインプット（聞く、読む）した上で、レポートや発話練習などのアウトプット（話す、書く）する能力を培えるような授業にしたいと考えております。適宜、短編の本文を読んでもらうこと、あるいは単語テストを受験してもらってもあります。

到達目標

- 1) 文脈を踏まえた上で、英文をインプットする能力の向上
2) 自分の意見を英語でアウトプットする能力の向上
- 3) 日常生活における英語に触れ、より鋭くキャッチする機会が増えるようになる

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	授業参加+課題(40%)、単語テスト(30%)、期末レポート(30%)

授業を3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。

授業外学習

各回の内容を参照。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Top 30 Essential Short Stories in English: 1843 to 2000.	Jim Knudsen, Hiromi Tsuda, Ria Taketomi	南雲堂	978-4-523-17875
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (展開コース) (人文)						担当教員	近藤 佑樹
講義コード	1110762	単位数	1	開講期	後期	授業方法	演	
ナンバリング番号	201ENG204							

授業概要

英語で書かれた短編作品を、続きが読みたくなるような興味深い形で紹介する教科書を用いて、英語をしっかりとインプット（聞く、読む）した上で、レポートや発話練習などのアウトプット（話す、書く）する能力を培えるような授業にしたいと考えております。適宜、短編の本文を読んでもらうこと、あるいは単語テストを受験してもらったこともあります。後期はLesson 20からLesson 30を扱います。

到達目標

- 1) 文脈を踏まえた上で、英文をインプットする能力の向上
の向上
- 2) 自分の意見を英語でアウトプットする能力
- 3) 日常生活における英語に触れ、より鋭くキャッチする機会が増えるようになる

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	授業参加+課題(40%)、単語テスト(30%)、期末レポート(30%)

授業を3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。

授業外学習

各回の内容を参照。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Top 30 Essential Short Stories in English: 1843 to 2000.	Jim Knudsen, Hiromi Tsuda, Ria Taketomi	南雲堂	978-4-523-17875
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (展開コース) (人文)							担当教員	近藤 佑樹	
講義コード	1110762	単位数	1	開講期	後期	授業方法	演			
ナンバリング番号	201ENG204									

授業計画

回数	テーマ	概要		予習 / 復習	
第1回	Introduction/授業概要	授業の進め方等の説明	2	教科書に目を通しておく シラバスを再読しておく	0. 0.
第2回	Lesson 20	四技能のアクティビティ及び短編紹介	2	教科書に目を通しておく 学んだ表現・単語を復習しておく	0. 0.
第3回	Lesson 21	四技能のアクティビティ及び短編紹介	2	Readingの分からない表現・単語を 学んだ表現・単語を復習しておく	0. 0.
第4回	Lesson 22	四技能のアクティビティ及び短編紹介	2	Readingの分からない表現・単語を 学んだ表現・単語を復習しておく	0. 0.
第5回	Lesson 23	四技能のアクティビティ及び短編紹介	2	Readingの分からない表現・単語を 学んだ表現・単語を復習しておく	0. 0.
第6回	Lesson 24	四技能のアクティビティ及び短編紹介	2	Readingの分からない表現・単語を 学んだ表現・単語を復習しておく	0. 0.
第7回	単語テスト、Lesson 25	四技能のアクティビティ及び短編紹介	2	Readingの分からない表現・単語を 学んだ表現・単語を復習しておく	0. 0.
第8回	Lesson 26	四技能のアクティビティ及び短編紹介	2	Readingの分からない表現・単語を 学んだ表現・単語を復習しておく	0. 0.
第9回	Lesson 27	四技能のアクティビティ及び短編紹介	2	Readingの分からない表現・単語を 学んだ表現・単語を復習しておく	0. 0.
第10回	Lesson 28	四技能のアクティビティ及び短編紹介	2	Readingの分からない表現・単語を 学んだ表現・単語を復習しておく	0. 0.
第11回	Lesson 29	四技能のアクティビティ及び短編紹介	2	Readingの分からない表現・単語を 学んだ表現・単語を復習しておく	0. 0.
第12回	単語テスト、Lesson 30	四技能のアクティビティ及び短編紹介	2	Readingの分からない表現・単語を 学んだ表現・単語を復習しておく、	0. 0.
第13回	レポート作成フィードバック	前期のレポートについての総評を行う	2	選んだ作品の原文を読んでおく レポート作成を進める	0. 0.
第14回	期末レポートQ&A	作成中のレポートを持参し、作業を進める。あれば適宜質問する。	2	レポート作成を進める レポート作成を進める	0. 0.
第15回	レポート提出	レポートを提出した後で、ピア・レビューを行う	2	レポートを完成させておく フィードバックを振り返って、次回	0. 0.
担当者から					

講義名	英語 A (展開コース) (人文)						担当教員	真島 アマンダ
講義コード	1110771	単位数	1	開講期	前期	授業方法	Inter	
ナンバリング番号	201ENG203							

授業概要

Building on the English skills the students practiced in their first year, this course aims to develop students' reading, writing, speaking, and listening skills in topics beyond their own life and interests. Students should expect to consider their own culture and views while practicing expressing their ideas and opinions as a cultural ambassador would.

The course covers a range of topics, supported by nonfiction readings in areas such as technology, ecology, fashion, and psychology.

This course aims to specifically target the improvement of students' fluency in speaking and writing, by engaging in weekly fluency speaking and speed writing activities, as well as improving students' abilities to engage in group discussions in English.

到達目標

- (1) Improve speaking fluency and communicative competence in English, especially in group discussions.
- (2) Improve reading and writing fluency on topics further from students' own lives.
- (3) Better express complex concepts and personal opinions in English.
- (4) Maintain motivation and stimulate students' interest in English language studies.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	50	Vocabulary quizzes (25%); Content quizzes (25%)
レポート課題	20	Speed writings (10%); Written homework assignments (10%)
上記以外	30	Final project (10%); Speed reading log (5%); Participation (15%)

授業を5回以上欠席すると評価の対象から外れます。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとなります。3回の遅刻で1回の欠席とみなします。

授業外学習

Please review the week's content and vocabulary and do your homework. It is important to remember to build on what you studied before.

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Core Nonfiction Reading 2	Stephanie Alexander & Liana Robinson	Compass Publishing	9781613527412
2				
3				

You will need a B5 notebook. It's also a good idea to bring a dictionary (paper or electronic).

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (展開コース) (人文)						担当教員	真島 アマンダ
講義コード	1110771	単位数	1	開講期	前期	授業方法	Inter	
ナンバリング番号	201ENG203							

授業計画

回数	テーマ	概要	予習 / 復習	
第1回	Introduction Unit 1: Our Earth and	Self-introductions and intro to the class. Pair and group work on the current unit's topic:	1. Complete the supplementary 5. Study the vocabulary list. Take	1 0.
第2回	Unit 1: Our Earth and Our Buildings	Pair and group work on the current unit's topic: Speed reading; Speed writing; Group conversations.	1. Prepare for the next unit's 5. Review Unit 1. Take the unit's	1 0.
第3回	Unit 2: The Ring of Fire	Pair and group work on the current unit's topic: Speed reading; Speed writing; Group conversations.	1. Complete the supplementary 5. Study the vocabulary list. Take	1 0.
第4回	Unit 2: The Ring of Fire	Pair and group work on the current unit's topic: Speed reading; Speed writing; Group conversations.	1. Prepare for the next unit's 5. Review Unit 2. Take the unit's	1 0.
第5回	Unit 3: Technology in the Classroom	Pair and group work on the current unit's topic: Speed reading; Speed writing; Group conversations.	1. Complete the supplementary 5. Study the vocabulary list. Take	1 0.
第6回	Unit 3: Technology in the Classroom	Pair and group work on the current unit's topic: Speed reading; Speed writing; Group conversations.	1. Prepare for the next unit's 5. Review Unit 3. Take the unit's	1 0.
第7回	Unit 4: Phobias	Pair and group work on the current unit's topic: Speed reading; Speed writing; Group conversations.	1. Complete the supplementary 5. Study the vocabulary list. Take	1 0.
第8回	Unit 4: Phobias	Pair and group work on the current unit's topic: Speed reading; Speed writing; Group conversations.	1. Prepare for the next unit's 5. Review Unit 4. Take the unit's	1 0.
第9回	Unit 5: Work, Work, and More Work	Pair and group work on the current unit's topic: Speed reading; Speed writing; Group conversations.	1. Complete the supplementary 5. Study the vocabulary list. Take	1 0.
第10回	Unit 5: Work, Work, and More Work	Pair and group work on the current unit's topic: Speed reading; Speed writing; Group conversations.	1. Prepare for the next unit's 5. Review Unit 5. Take the unit's	1 0.
第11回	Unit 6: Earth People and Outer Space	Pair and group work on the current unit's topic: Speed reading; Speed writing; Group conversations.	1. Complete the supplementary 5. Study the vocabulary list. Take	1 0.
第12回	Unit 6: Earth People and Outer Space	Pair and group work on the current unit's topic: Speed reading; Speed writing; Group conversations.	1. Prepare for the next unit's 5. Review Unit 6. Take the unit's	1 0.
第13回	Unit 7: Women's Fashion in the 1800s	Pair and group work on the current unit's topic: Speed reading; Speed writing; Group conversations.	1. Complete the supplementary 5. Study the vocabulary list. Take	1 0.
第14回	Unit 7: Women's Fashion in the 1800s	Pair and group work on the current unit's topic: Speed reading; Speed writing; Group conversations.	1. Complete the final writing 5. Review Unit 7. Take the unit's	1 0.
第15回	Review of Unit 1~7	Review activities to prepare for fall semester	1. Complete homework exercises 5. Review the contents of Units 1-	1 0.

担当者から

In order to learn as much as possible from the course, please make sure to speak English as much as you can!

講義名	英語 B (展開コース) (人文)						担当教員	真島 アマンダ
講義コード	1110772	単位数	1	開講期	後期	授業方法	Inter	
ナンバリング番号	201ENG204							

授業概要

This course is intended to continue to develop the skills practiced in the spring semester.

Building on the English skills the students practiced in their first year, this course aims to develop students' reading, writing, speaking, and listening skills in topics beyond their own life and interests. Students should expect to consider their own culture and views while practicing expressing their ideas and opinions as a cultural ambassador would.

The course covers a range of topics, supported by nonfiction readings in areas such as art, ecology, extreme sports, and culture.

This course aims to specifically target the improvement of students' fluency in speaking and writing, by engaging in weekly fluency speaking and speed writing activities, as well as improving students' abilities to engage in group discussions in English.

到達目標

- (1) Improve speaking fluency and communicative competence in English, especially in group discussions.
- (2) Improve reading and writing fluency on topics further from students' own lives.
- (3) Better express complex concepts and personal opinions in English.
- (4) Maintain motivation and stimulate students' interest in English language studies.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	50	Vocabulary quizzes (25%); Content quizzes (25%)
レポート課題	20	Speed writings (10%); Written homework assignments (10%)
上記以外	30	Final project (10%); Speed reading log (5%); Participation (15%)

授業を5回以上欠席すると評価の対象から外れます。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとなります。3回の遅刻で1回の欠席とみなします。

授業外学習

Please review the week's content and vocabulary and do your homework. It is important to remember to build on what you studied before.

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Core Nonfiction Reading 2	Stephanie Alexander & Liana Robinson	Compass Publishing	9781613527412
2				
3				

You will need a B5 notebook. It's also a good idea to bring a dictionary (paper or electronic).

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (展開コース) (人文)						担当教員	坂本 輝世
講義コード	1110781	単位数	1	開講期	前期	授業方法	演	
ナンバリング番号	201ENG203							

授業概要

Mainly through textbook-based exercises, students will engage in activities such as writing and speaking to improve their ability to communicate in English. They will also review the listening and reading skills they have learned so far. Since the topics in the textbook are potentially controversial, each student will do a brief research on the topic of each unit and practice constructing his or her own opinion in English. A group of students will be asked to give a short presentation on the theme of the unit as well. For weekly homework assignments, students will read a variety of books in very easy English to develop a sense of understanding English as it is.

到達目標

- (1) Students will learn to speak in English using proper pronunciation, intonation, and emphasis.
- (2) Students will learn to write a script for a presentation in English based on their own research and thinking.
- (3) Students will be able to understand English as it is by reading a variety of easy English books appropriate to one's level.
- (4) By practicing reading, listening, speaking, and writing in English, students will be able to put the skills they learn into practice.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	Goal (1): Evaluated by individual English presentation. (15%) Goal (2): Evaluated by individual English presentation. (15%) Goal (3): Evaluated by the activities of extensive reading. (15%)

As a general rule, students who are absent from more than one-third of the total classes will not be evaluated.

授業外学習

Work steadily on your weekly assignments.

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Burning Issues: Intermediate Level	Cheryl Pavlik, Shizuka Tetsuhito	Shohakusha / Cengage Learning	978-4-88198-694-3
2				
3				

Be sure to bring your English dictionary and textbook with you from the first class.

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (展開コース) (人文)						担当教員	坂本 輝世	
講義コード	1110781	単位数	1	開講期	前期	授業方法	演		
ナンバリング番号	201ENG203								

授業計画											
回数	テーマ	概要					予習 / 復習				
第1回	Orientation	Introduction to the class English activities based on the textbook					2	Extensive reading; Unit 1 pre-			1
第2回	Unit 1 Infidelity: Our cheating hearts	English activities based on the textbook					2	Extensive reading; Unit 1 post-			1
第3回	Unit 1 Infidelity: Our cheating hearts	English activities based on the textbook Vocabulary quiz					2	Extensive reading; Unit 4 pre-			1
第4回	Unit 4 Work: Is it interfering with your	Presentations on Unit 1 English activities based on the textbook					2	Extensive reading; Post-reading			1
第5回	Unit 4 Work: Is it interfering with your	English activities based on the textbook					2	Extensive reading; Post-reading			1
第6回	Unit 4 Work: Is it interfering with your	English activities based on the textbook Vocabulary quiz					2	Extensive reading; Unit 8 pre-			1
第7回	Unit 8 Violent in Sports	English activities based on the textbook					2	Extensive reading; Post-reading			1
第8回	Unit 8 Violent in Sports	English activities based on the textbook Vocabulary quiz					2	Extensive reading; Unit 9 pre-			1
第9回	Unit 9 Fashion: You mean you're wearing	Presentations on Unit 8 English activities based on the textbook					2	Extensive reading; Post-reading			1
第10回	Unit 9 Fashion: You mean you're wearing	English activities based on the textbook Vocabulary quiz					2	Extensive reading; Post-reading			1
第11回	Unit 9 Fashion: You mean you're wearing	English activities based on the textbook Presentations on Unit 9					2	Extensive reading; Unit 10 pre-			1
第12回	Unit 10 Graffiti: You call this ART?	English activities based on the textbook					2	Extensive reading; Post-reading			1
第13回	Unit 10 Graffiti: You call this ART?	English activities based on the textbook Vocabulary quiz					2	Extensive reading; Post-reading			1
第14回	Unit 10 Graffiti: You call this ART?	Presentations on Unit 10 Summary activities					2	Preparation for the summary			2
第15回	Summary of the semester						2				
担当者から											
We mainly use Teams to communicate and give/submit assignments. If you have any questions about how to use it, please feel free to ask me. My office is A1-111 and email address is sakamoto.ki@office.usp.ac.jp											

講義名	英語 B (展開コース) (人文)						担当教員	坂本 輝世
講義コード	1110782	単位数	1	開講期	後期	授業方法	演	
ナンバリング番号	201ENG204							

授業概要

Mainly through textbook-based exercises, students will engage in activities such as writing and speaking to improve their ability to communicate in English. They will also review the listening and reading skills they have learned so far. Since the topics in the textbook are potentially controversial, each student will do a brief research on the topic of each unit and practice constructing his or her own opinion in English. A group of students will be asked to give a short presentation on the theme of the unit as well. For weekly homework assignments, students will read a variety of books in very easy English to develop a sense of understanding English as it is.

到達目標

- (1) Students will learn to speak in English using proper pronunciation, intonation, and emphasis.
- (2) Students will learn to write a script for a presentation in English based on their own research and thinking.
- (3) Students will be able to understand English as it is by reading a variety of easy English books appropriate to one's level.
- (4) By practicing reading, listening, speaking, and writing in English, students will be able to put the skills they learn into practice.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	Goal (1): Evaluated by individual English presentation. (15%) Goal (2): Evaluated by individual English presentation. (15%) Goal (3): Evaluated by the activities of extensive reading. (15%)

As a general rule, students who are absent from more than one-third of the total classes will not be evaluated.

授業外学習

Work steadily on your weekly assignments.

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Burning Issues: Intermediate Level	Cheryl Pavlik, Shizuka Tetsuhito	Shohakusha / Cengage Learning	978-4-88198-694-3
2				
3				

Be sure to bring your English dictionary and textbook with you from the first class.

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (展開コース) (人文)						担当教員	坂本 輝世
講義コード	1110782	単位数	1	開講期	後期	授業方法	演	
ナンバリング番号	201ENG204							

授業計画

回数	テーマ	概要		予習 / 復習
第1回	Orientation	Introduction to the class English activities based on the textbook	2	Extensive reading; Unit 3 pre- 1
第2回	Unit 3 Internet dating: Is this	English activities based on the textbook	2	Extensive reading; Unit 3 post- 1
第3回	Unit 3 Internet dating: Is this	English activities based on the textbook Vocabulary quiz	2	Extensive reading; Unit 6 pre- 1
第4回	Unit 6 Advertising: We know what you	Presentations on Unit 3 English activities based on the textbook	2	Extensive reading; Post-reading 1
第5回	Unit 6 Advertising: We know what you	English activities based on the textbook	2	Extensive reading; Post-reading 1
第6回	Unit 6 Advertising: We know what you	English activities based on the textbook Vocabulary quiz	2	Extensive reading; Unit 11 pre- 1
第7回	Unit 11 Beauty: Mirror, mirror, on	English activities based on the textbook	2	Extensive reading; Post-reading 1
第8回	Unit 11 Beauty: Mirror, mirror, on	English activities based on the textbook Vocabulary quiz	2	Extensive reading; Unit 12 pre- 1
第9回	Unit 12 Anger: I'm not angry!	Presentations on Unit 11 English activities based on the textbook	2	Extensive reading; Post-reading 1
第10回	Unit 12 Anger: I'm not angry!	English activities based on the textbook Vocabulary quiz	2	Extensive reading; Post-reading 1
第11回	Unit 12 Anger: I'm not angry!	English activities based on the textbook Presentations on Unit 12	2	Extensive reading; Unit 13 pre- 1
第12回	Unit 13 Child Labor: Who made your	English activities based on the textbook	2	Extensive reading; Post-reading 1
第13回	Unit 13 Child Labor: Who made your	English activities based on the textbook Vocabulary quiz	2	Extensive reading; Post-reading 1
第14回	Unit 13 Child Labor: Who made your	Presentations on Unit 13 Summary activities	2	Preparation for the summary 2
第15回	Summary of the semester		2	

担当者から

We mainly use Teams to communicate and give/submit assignments. If you have any questions about how to use it, please feel free to ask me. My office is A1-111 and email address is sakamoto.ki@office.usp.ac.jp

講義名	情報リテラシー（情報倫理を含む）(人文a)						担当教員	山本 洋紀
講義コード	1130090	単位数	2	開講期	前期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	1011NF102							

授業概要

情報機器はありふれた存在になり、これらを活用し、効率的に仕事をこなしていくことが今後とも求められている。本演習では今後学習や研究を行っていく上で必要とされるレポート作成や論文作成に役立つワープロおよび表計算を中心とした情報処理技術の習得を目指す。使用するOSはWindowsとし、学習用のアプリケーションとしてはWord、Excelなどを用いる。また技術的な面だけでなく、情報化社会において必要な倫理観を養うことも目指す。

到達目標

- (1) 本学演習室が利用できるように環境を整えること。
- (2) 情報化社会における倫理について自分の考えが持てるようになること。
- (3) 情報を発信する際必要となるルールやマナーを身につけること。
- (4) ワープロの機能を活用し文書作成ができるようになること。
- (5) 表計算ソフトの仕組みを理解し、簡単なデータ集計ができるようになること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	各回の出席および演習課題の提出(80%)と最終課題の達成度(20%)。

授業外学習

各回の演習課題が授業時間内に提出できなかった場合は、必ず、次回までに提出すること。また、進度に応じて宿題を課す。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

初回講義時に指示する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

--

履修資格

--

講義名	情報リテラシー（情報倫理を含む）(人文b)						担当教員	亀田 彰喜
講義コード	1130100	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	101INF102							

授業概要

情報技術の習得は、我々の生活においても必要不可欠なファクターである。まして、大学で学問をしていく上で、情報処理のリテラシーを習得しておくことは今や必須である。そこで、本講では高年次で開講される講義や演習及び実習に必要な情報技術、すなわち、Webブラウザの操作と活用、電子メール、文書処理などをMS Windows環境で習得するとともに情報倫理についても学ぶ。さらに、レポートや学术论文の作成の基本を習得し、プレゼンテーションソフトなどにより、学术论文発表の手法を習得する。

到達目標

(1) 情報ネットワークの活用によって学術情報の検索ができ、文献検索により学術図書や学術情報の検索ができることともに、情報倫理についても取得すること。
(2) 学术论文作成のため情報を検索で得た情報を加工し、統計処理し、プレゼンテーションソフト等によって発表でき、さらに、検索で得られた情報によりレポート作成や学术论文を作成する基本を習得すること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		定期試験はせず、出席と課題等によって評価します。
レポート課題	50%	学术论文作成のため情報を検索で得た情報を加工し、統計処理し、プレゼンテーションソフト等によって発表でき、さらに、検索で得られた情報によりレポート作成や学术论文を作成する基本を習得すること。
上記以外	50%	情報ネットワークの活用によって学術情報の検索ができ、文献検索により学術図書や学術情報の検索ができることともに、情報倫理についても取得すること。

出席状況と提出課題によって評価します。

授業外学習

図書館の書籍によって、事前に予習復習してください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	情報学	勝木・亀田	多賀出版	
2	現代の情報処理	亀田彰喜	朝倉書店	
3				

教科書は毎回、持参してください。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中にプリントを配布します。

前提学力等

初歩的な統計処理、Webによる情報検索、パソコンによる文書処理が前提

履修資格

講義名	情報リテラシー（情報倫理を含む）(人文b)						担当教員	亀田 彰喜
講義コード	1130100	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	1011NF102							

授業計画							
回数	テーマ	概要			予習/復習		
第1回	基本構成と操作	コンピュータの基本構成と操作			2	テキストの該当するページを読んで 授業後、テキストで確認しておく。	2
第2回	アカウントの設定	情報ネットワークの理論とアカウントの設定			2	テキストの該当するページを読んで 授業後、テキストで確認しておく。	2
第3回	システムの操作	情報システムとOSおよびファイル操作			2	テキストの該当するページを読んで 授業後、テキストで確認しておく。	2
第4回	情報検索	Webブラウザの操作と情報検索とネットワーク上でのセキュリティ			2	テキストの該当するページを読んで 授業後、テキストで確認しておく。	2
第5回	情報収集	インターネットによる情報収集とウィルスおよびスパイウェア			2	テキストの該当するページを読んで 授業後、テキストで確認しておく。	2
第6回	文献情報検索	図書情報検索と論文および著作等の情報検索			2	テキストの該当するページを読んで 授業後、テキストで確認しておく。	2
第7回	情報倫理	電子メールの利用と情報倫理としてのメールでのマナー			2	テキストの該当するページを読んで 授業後、テキストで確認しておく。	2
第8回	文書作成	文書作成ソフトによるレポート作成の基本の習得			2	テキストの該当するページを読んで 授業後、テキストで確認しておく。	2
第9回	レポートの基本	レポートと学术论文の概念と論文作成の基本			2	テキストの該当するページを読んで 授業後、テキストで確認しておく。	2
第10回	情報収集と加工	レポートと学术论文の書式と情報収集と加工の基本			2	テキストの該当するページを読んで 授業後、テキストで確認しておく。	2
第11回	画像等の処理	レポートと学术论文の書式と画像等の処理の基本			2	テキストの該当するページを読んで 授業後、テキストで確認しておく。	2
第12回	統計データ処理	レポートと学术论文の書式と統計データ処理の基本			2	テキストの該当するページを読んで 授業後、テキストで確認しておく。	2
第13回	論文の作成のまとめ	レポートと学术论文の作成のまとめ			2	テキストの該当するページを読んで 授業後、テキストで確認しておく。	2
第14回	課題の作成	レポート課題の作成			2	テキストの該当するページを読んで 授業後、テキストで確認しておく。	2
第15回	課題のまとめ	レポート課題と学术论文発表のまとめ			2	テキストの該当するページを読んで 授業後、テキストで確認しておく。	2
担当者から							
休まず、課題の提出をしてください。							

講義名	情報リテラシー（情報倫理を含む）(人文c)						担当教員	山本 洋紀
講義コード	1130110	単位数	2	開講期	前期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	1011NF102							

授業概要

情報機器はありふれた存在になり、これらを活用し、効率的に仕事をこなしていくことが今後とも求められている。本演習では今後学習や研究を行っていく上で必要とされるレポート作成や論文作成に役立つワープロおよび表計算を中心とした情報処理技術の習得を目指す。使用するOSはWindowsとし、学習用のアプリケーションとしてはWord、Excelなどを用いる。また技術的な面だけでなく、情報化社会において必要な倫理観を養うことも目指す。

到達目標

- (1) 本学演習室が利用できるように環境を整えること。
- (2) 情報化社会における倫理について自分の考えが持てるようになること。
- (3) 情報を発信する際必要となるルールやマナーを身につけること。
- (4) ワープロの機能を活用し文書作成ができるようになること。
- (5) 表計算ソフトの仕組みを理解し、簡単なデータ集計ができるようになること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	各回の出席および演習課題の提出(80%)と最終課題の達成度(20%)。

授業外学習

各回の演習課題が授業時間内に提出できなかった場合は、必ず、次回までに提出すること。また、進度に応じて宿題を課す。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

初回講義時に指示する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

--

履修資格

--

講義名	情報リテラシー（情報倫理を含む）（人文c）							担当教員	山本 洋紀	
講義コード	1130110	単位数	2	開講期	前期	授業方法	演習			
ナンバリング番号	101INF102									

授業計画										
回数	テーマ	概要						予習／復習		
第1回	講義概要	演習室利用上の注意、環境設定						2	1) タッチタイピングの練習	2
									1) 指示された課題を完成し、MS-	2
第2回	図書検索	文献検索の方法						2	1) タッチタイピングの練習	2
									1) 指示された課題を完成し、MS-	2
第3回	Windowsの基本	基本操作、タッチタイピング、日本語入力						2	1) タッチタイピングの練習	2
									1) 指示された課題を完成し、MS-	2
第4回	電子メール	電子メールのしくみ、マナー						2	1) タッチタイピングの練習	2
									1) 指示された課題を完成し、MS-	2
第5回	情報倫理（1）	インターネットの利用と安全性						2	1) タッチタイピングの練習	2
									1) 指示された課題を完成し、MS-	2
第6回	情報倫理（2）	著作権、研究倫理						2	1) タッチタイピングの練習	2
									1) 指示された課題を完成し、MS-	2
第7回	WORDによる文書作成（1）	基本操作						2	1) 前回の授業で指示された事前学	2
									1) 指示された課題を完成し、MS-	2
第8回	WORDによる文書作成（2）	書式						2	1) 前回の授業で指示された事前学	2
									1) 指示された課題を完成し、MS-	2
第9回	WORDによる文書作成（3）	表						2	1) 前回の授業で指示された事前学	2
									1) 指示された課題を完成し、MS-	2
第10回	WORDによる文書作成（4）	図						2	1) 前回の授業で指示された事前学	2
									1) 指示された課題を完成し、MS-	2
第11回	Excelによる表計算（1）	基本操作						2	1) 前回の授業で指示された事前学	2
									1) 指示された課題を完成し、MS-	2
第12回	Excelによる表計算（2）	書式						2	1) 前回の授業で指示された事前学	2
									1) 指示された課題を完成し、MS-	2
第13回	Excelによる表計算（3）	関数						2	1) 前回の授業で指示された事前学	2
									1) 指示された課題を完成し、MS-	2
第14回	Excelによる表計算（4）	グラフ						2	1) 前回の授業で指示された事前学	2
									1) 指示された課題を完成し、MS-	2
第15回	総合演習	WordとExcelの連携による文書作成						2	1) 前回の授業で指示された事前学	2
									1) 指示された課題を完成し、MS-	2
担当者から										

講義名	情報リテラシー（情報倫理を含む）(人文d)						担当教員	亀田 彰喜
講義コード	1130120	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	101INF102							

授業概要

情報機器はありふれた存在になり、これらを活用し、効率的に仕事をこなしていくことが今後とも求められている。本講では今後高年次において開講される講義や演習で必要とされるレポート作成や論文作成に役立つ情報処理技術、すなわちワープロおよび表計算を中心とした情報処理技術の習得を目指す。また技術的な面だけでなく、情報化社会において必要な倫理観を養うことも目指す。
キーワード：電子メール、情報倫理、知的財産権、著作権、図書検索、Word、Excel

到達目標

- (1) 本学演習室が利用できるように環境を整えること。
- (2) 情報化社会における倫理について自分の考えが持てるようになること。
- (3) 情報を発信する際必要となるルールやマナーを身につけること。
- (4) ワープロの機能を活用し文書作成ができるようになること。
- (5) 表計算ソフトの仕組みを理解し、簡単なデータ集計ができるようになること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	各到達目標に関連する課題を課す。(1)は10%、(2)、(3)はそれぞれ20%、(4)、(5)はそれぞれ25%で評価する。

授業外学習

進度に応じ宿題を課す。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	30時間アカデミック 情報リテラシー Office2019	杉本くみ子、大澤栄子	実教出版	978-4-407-34833-0
2				
3				

初回講義には入学時に配布された「アカウント情報通知書」を必ず持参すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	インターネット社会を生きるための情報倫理	情報教育学研究会・情報倫理教育研究グループ	実教出版	978-4-407-33031-1
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	情報科学概論(人文b)						担当教員	亀田 彰喜
講義コード	1130200	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	1011NF101							

授業概要

インターネットや電子メールなどの情報技術の基本的な技術の習得の下に、さらに高年次での講義や演習及び実習で必要となるデータ処理の手法について学ぶ。特にレポート作成や研究活動に必要なデータ処理について、表計算ソフトを利用して関数による計算処理や統計的な技法等について学ぶ。さらに、学術論文作成のためのデータ処理と論文発表の手法などについても学ぶ。

到達目標

- (1) Webデザインと表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得する。
- (2) データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50%	Webデザインと表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得し、レポート課題を提出する。
上記以外	50%	データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	現代の情報処理	亀田彰喜	朝倉書店	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

初歩的な表計算処理、レポートと学術論文の基本概念と書式、コンピュータによる統計処理が前提

履修資格

講義名	情報科学概論(人文a)						担当教員	山本 洋紀
講義コード	1130210	単位数	2	開講期	後期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	1011NF101							

授業概要

コンピュータによる文章作成やインターネット操作などの基礎的な情報技術の習得の下に、さらに高年次での演習及び学術論文作成で必要となるデータ処理の基本的な手法について学ぶ。特に、インターネットなどから得られる各種統計データを表計算ソフトを利用して加工し、関数による計算処理や基礎的な統計手法などを用いて解析する技法について学ぶ。さらに、これらデータを活用した学術論文作成のための基本的な手法などについても学ぶ。

到達目標

- (1) 表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得する。
- (2) データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	各回の出席及び演習課題の提出(80%)と最終課題の達成度(20%)

授業外学習

毎回行う演習課題が授業時間内に終了しない場合、必ず、次回までに提出すること。また、適宜、宿題を課す。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Excelで学ぶ統計・データ解析入門	中村永友・山田智哉・金明哲	丸善出版	978-4-621-08297-3
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

Excelを用いた初歩的な表計算とグラフ作成能力。

履修資格

講義名	情報科学概論(人文c)						担当教員	山本 洋紀
講義コード	1130220	単位数	2	開講期	後期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	1011NF101							

授業概要

コンピュータによる文章作成やインターネット操作などの基礎的な情報技術の習得の下に、さらに高年次での演習及び学術論文作成で必要となるデータ処理の基本的な手法について学ぶ。特に、インターネットなどから得られる各種統計データを表計算ソフトを利用して加工し、関数による計算処理や基礎的な統計手法などを用いて解析する技法について学ぶ。さらに、これらデータを活用した学術論文作成のための基本的な手法などについても学ぶ。

到達目標

- (1) 表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得する。
- (2) データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	各回の出席及び演習課題の提出(80%)と最終課題の達成度(20%)

授業外学習

毎回行う演習課題が授業時間内に終了しない場合、必ず、次回までに提出すること。また、適宜、宿題を課す。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Excelで学ぶ統計・データ解析入門	中村永友・山田智哉・金明哲	丸善出版	978-4-621-08297-3
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

Excelを用いた初歩的な表計算とグラフ作成能力。

履修資格

講義名	情報科学概論(人文d)						担当教員	亀田 彰喜
講義コード	1130230	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	1011NF101							

授業概要

インターネットや電子メールなどの情報技術の基本的な技術の習得の下に、さらに高年次での講義や演習及び実習で必要となるデータ処理の手法について学ぶ。特にレポート作成や研究活動に必要なデータ処理について、表計算ソフトを利用して関数による計算処理や統計的な技法等について学ぶ。さらに、学術論文作成のためのデータ処理と論文発表の手法などについても学ぶ。

到達目標

- (1) Webデザインと表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得する。
- (2) データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50%	Webデザインと表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得し、レポート課題を提出する。
上記以外	50%	データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	現代の情報処理	亀田彰喜	朝倉書店	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

初歩的な表計算処理、レポートと学術論文の基本概念と書式、コンピュータによる統計処理が前提

履修資格

講義名	人間探求学(地域文化)						担当教員	学科教員/京樂 真帆子/東 幸代/ 塚本 礼仁/石川 慎治/市川 秀之/ 亀井 若菜/横田 祥子/萩原 和/
講義コード	1150390	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	101HUM101							

授業概要

この講義は、学生自らが「人間」を探求し、新しい視点を発想・発見することを支援する。特に、大学での学習方法や学生生活に必要な知識を身につけることを目標としている。さらに、地域文化学科の学習内容に応じた、資料収集の方法やレポートの書き方を学ぶ。地域文化学科1年生を少人数グループ(約10名)に分け、担当教員が割り当てられる。

到達目標

- (1) 大学生生活の基礎知識を学ぶ。
- (2) 文献資料の収集方法を学ぶ。
- (3) レポートの書き方を学ぶ。
- (4) 人権感覚を磨き、防犯意識を向上させる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	90	レポートを2回提出してもらう。
上記以外	10	小課題

到達目標の(2)(3)については、各小人数グループを担当する教員が設定したテーマに基づくレポートの提出、指導・ディスカッションにより評価を行う(90%)。
到達目標(1)(4)については、グループワークなどで課題に取り組み、その提出により評価を行う(10%)。

授業外学習

高校での学習と異なり、大学では自発的に学ぶ姿勢が求められます。この授業では、自分自身の知的好奇心を育み、追求して行くために必要かつ基本的な学習方法を学びます。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	大学生学びのハンドブック 5訂版	世界思想社編集部	世界思想社	4790717496
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

担当教員が指示する。

前提学力等

履修資格

講義名	世界遺産学特論[比較文明論]						担当教員	金 宇大
講義コード	1150480	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号								

授業概要

本授業では、特に世界「文化」遺産とそれに関連する文化財を具体的に引き上げつつ、主に考古学的な研究に引き付けて解説を加えていく。世界遺産が有する「普遍的価値」が、いかなる学術的根拠に裏付けられているのかをより深く認識することで、さまざまな文化財全般に対する研究の意義を明確に理解することを目的とする。

到達目標

- (1) . 世界遺産の価値が学術的な研究を基盤に形成されていることを理解する。
(2) . 文化財を対象とした実際の研究に広く触れる中で、個々の受講生の潜在的な関心の在り処を探る。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	到達目標(1)・(2)について、期末レポートを実施する(各25%)。
上記以外	50	到達目標の各項目について、毎回の授業後に、授業内容に関する簡単な小テストを実施し、その結果を平常点とする。

原則として、3分の1以上欠席した場合は評価の対象としない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業開始時にレジメを配布し、パワーポイントを用いて授業を進める。適宜、動画を使用する。

前提学力等

履修資格

講義名	世界遺産学特論[比較文明論]						担当教員	金 宇大
講義コード	1150480	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号								

授業計画								
回数	テーマ	概要			予習 / 復習			
第1回	オリエンテーション 世界遺産と文化財研	授業の注意と進め方、文化財の研究のための糸口として世界遺産を捉える本授業の視点を説明する。	2		世界遺産に関する基本的知識を確認 授業の全体的計画を踏まえ、自らの			
第2回	考古学の前史と文化遺産	考古学という学問の成り立ちを学びつつ、文化遺産保護の精神がいかにして芽生えてきたのかを講ずる。	2		考古学がどういった学問分野なのか 考古学の前史の説明の中で印象に			
第3回	化石人骨が出土した世界遺産	化石人骨の発見地がもつ遺産的価値を、最古の人類に関する考古学的研究の現状とともに解説する。	2		ホモ・サピエンス以前の人類の概要 サハラントロピクスからホモ・サピエ			
第4回	初期人類の研究と「捏造」	初期人類の研究をめぐる、国内外で起きた捏造や紛失の事例を通じて、文化遺産の研究倫理の問題を考える。	2		北京原人骨、ピルトダウン人、旧石 考古学における研究倫理について、			
第5回	ポンベイの考古遺跡がもつ価値	イタリア・ポンベイ遺跡がもつ学術的重要性の解説を通じて、考古学的遺跡の世界遺産としての価値の本質について考察する。	2		ポンベイという遺跡の概要について 講義で扱った日本国内の調査事例に			
第6回	チベットの「カル」がもつ遺産的価値	中国・チベットのカルという石塔遺跡の調査・研究の実例を紹介し、中国における世界遺産登録の是非について述べる。	2		チベットのカルという建造物につい 講義で説明したフィールドワークの			
第7回	韓国の世界遺産の在り方と遺産の活用	隣国である韓国における世界遺産の概要を紹介しつつ、特に三国時代関連遺産の活用の在り方を通じて、よりよい遺産活用とは何かを考え	2		韓国の世界遺産にどのようなものが 遺跡の復元展示の方針とその是非に			
第8回	中国・北朝鮮の高句麗古墳群	中国と北朝鮮がそれぞれ別個に有する高句麗関連の世界遺産を紹介し、国家の政治的スタンスが遺産管理にもたらす弊害について解説す	2		中国と北朝鮮の高句麗関連世界遺産 高句麗をめぐる中国と韓国・北朝鮮			
第9回	飛鳥時代遺産の意義と高松塚・キトラ古墳	世界遺産登録を目指す『飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群』の遺産的価値、特に、高松塚古墳・キトラ古墳の装飾壁画の世界的な価値に	2		『飛鳥・藤原の宮都とその関連資産 高松塚古墳とキトラ古墳の遺産的価			
第10回	古代エジプトの遺跡群とその調査	エジプトの世界遺産の紹介と、古代エジプトの歴史を概観、それらの最新の調査事例の解説をおこなう。	2		「古代エジプト文明」というのが具 古代エジプト文明についての基礎的			
第11回	「神宿る島」の特異性	宗像・沖ノ島の関連資産群の考古学的価値を解説し、世界遺産の公開をめぐる問題について考える。	2		世界遺産「神宿る島」宗像・沖ノ 多様な宗教的観念にもとづいて形成			
第12回	陵墓と世界遺産登録	「百舌鳥・古市古墳群」の世界遺産登録のプロセスとその過程で生じた諸問題、特に「陵墓」の取り扱いをめぐる問題について説明する。	2		世界遺産「百舌鳥・古市古墳群 古 授業での説明を踏まえ、陵墓の評価			
第13回	水中文化遺産の世界	海や湖、川など、水中に存在する遺跡・遺物、いわゆる「水中文化遺産」の取り扱いと、その調査・研究をおこなう水中考古学という分野	2		水中考古学と水中文化遺産の定義に いわゆる水中文化遺産保護条約への			
第14回	文化財の返還をめぐる問題	植民地支配や戦争などで国外へ持ち出された流出文化財の返還をめぐる様々な問題の困難さについて考える。	2		いわゆる「流出文化財」には、具体 特に日韓関係における文化財流出問			
第15回	W.ゴースランドが伝えた日本の「遺産」	明治のお雇い外国人、ウィリアム・ゴースランドが日本で調査し、大英博物館へと持ち帰ったさまざまな「遺産」と、それらの調査に関する	2		ウィリアム・ゴースランドがどういっ 国外に流出した文化財の評価につい			

担当者から

基本的に上記のプランに沿って授業を進めるが、授業の進み具合や受講者の関心内容などに応じて、各テーマの内容や順序、時間配分を変更することがある。

講義名	アジア交流論						担当教員	
講義コード	1400050	単位数	2	開講期	前期集中	授業方法	講義	
ナンバリング番号								

授業概要

『アジア交流論』を開講したのは25年前。本学設立時の教授高谷好一先生からの依頼だった。なぜ「アジア」なのだろう、「交流論」という学問はあるのか……。いまでこそ「国際交流論」や『文化交流論』といった名称の講義はたくさんあるが、当時は、参考にしようにもどこの大学にも類似の講義はなかった。悩みながら、手探りで始めたが授業だが、『アジア交流論』に関わってよかったと思っている。

他国とどのように交流するか。その重要性はグローバル化の今日ますます高くなっている。人とモノと情報が、国境を越えて大量に行き交うのが現代の世界である。世界は次第に「小さく」なり、地域と地域の相互依存はますます強くなってきた。しかし一方で、この相互依存関係が、短絡的で歪んできている。

例を挙げよう。我々の日常生活は海外からのモノであふれている。そのモノが、どこの、だれによって、どのように生産されているのか、ほとんど知らないことが多いのではないが。モノだけ一人歩きし、そのモノにまつわる「モノガタリ」が欠落しているのである。またさまざまなメディアを通じて、他の地域の情報・知識を得る機会は増えている。しかしその情報は、いまだ事件や奇妙な出来事などに偏っており、ごく普通の人々のごく日常的な生活を伝えるものは少ない。アジアの普通の人の顔がまだ見えないのである。

「物語」を共有する。あるいは「物語」を共創する。それこそが『交流』ではないか。

物語を共有・共創するため、まずアジアの普通の人の生活のリアリティを伝えておこう物語を共有するための素地である。彼らと我々とは価値観が違っている。恩師である高谷の言葉を借りれば、大切にしているものが違っているのである。そのことを理解することが第一歩である。

到達目標

- (1) アジアをより身近に感じることができるようになる。
 - (2) アジアの人々とわれわれの間の共通する点と異なる点について知ることができる。
 - (3) アジアの人との相違について考えることで、日本社会の特徴についても理解を深めることができる。
- * アジアからの留学生は、日本社会のことを考えることによって自国についてより深く理解することができる。
- (4) 文化・価値観の異なる人々との交流のために必要なことは何なのか知ることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

授業回数の三分之一を欠席したものについては評価の対象外とする。やむを得ない理由で欠席する場合は、その旨を事前に担当教員に連絡すること。

授業外学習

特になし。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

特になし。

履修資格

--

講義名	アジア社会論						担当教員	北村 由美
講義コード	1400060	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号								

授業概要

ひとくちにアジアといっても、西アジア・中央アジア・南アジア・東南アジア・東アジアと、その範囲は広範にわたっています。その中で、本授業では、東南アジアの社会について学ぶことを目的としています。日本と東南アジアの国々は、歴史的にとっても深い関係を持っていますし、今後もより多くの局面において協力関係を築く機会が増えるでしょう。本授業を通して、受講生の皆さんが東南アジアに関する基礎知識を身に着けると同時に、日本社会の今後について考えるきっかけを提供したいと考えています。

授業は、受講生の皆さんに発表を担当していただきながら進めます。学期の前半は、東南アジアの歴史と現代社会の状況について、概要を学び、後半は、受講生の理解度や興味を考慮して、特定のトピックについてより深く学習する予定です。

到達目標

- (1) 東南アジア社会に関する基礎的な知識を身につけるとともに、東南アジアにおける社会変化と人びとの生活を、近代化ならびにグローバル化との関わりにおいて動的に把握できる。
- (2) 身のまわりの出来事の中から、アジアとのつながりを探り、その差異と共通性について考察し、自らの考えを説明できる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	40	授業の内容を踏まえ、論述式の期末試験または、期末レポートを作成する。試験かレポートのどちらの形式にするかは、学期中に指示する。
レポート課題		
上記以外	60	発表：30% ・授業内容をふまえた上で、興味のある内容について一方踏み込んだ、調査を行い、魅力的な発表にできている。

レポートや発表資料では、必ず適切な引用を行う。コピーが発見された場合は、単位を出さない。

授業外学習

- ・教科書の指定の章と、補助教材を事前に読んでくる。
- ・受講者の人数が多い場合は、学期末の発表をグループ発表にする予定である。グループ発表の場合は、授業外でのグループワークが必要になる。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	東南アジア史10講	古田元夫	岩波新書	9784004318835
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	教養の東南アジア現代史	川中豪・川村晃一	ミネルヴァ書房	9784623086672
2				
3				

授業の進行具合に応じて適宜紹介する。

前提学力等

履修資格

講義名	アジア文献講読 A						担当教員	金 宇大
講義コード	1400065	単位数	2	開講期	通年	授業方法	講読	
ナンバリング番号								

授業概要

古代日本列島の考古学研究に取り組むにあたり、当時の中国・朝鮮半島との交流というファクターは極めて重要である。特に朝鮮半島、すなわち韓国の考古学調査研究の成果を参照することは、日本の文化的発展を考える上でもはや必須といっても過言ではない。本授業では、韓国語で刊行された考古学関係の書籍や論文、調査報告書の中から、重要と思われる文献を選んで講読し、日本語訳文を作成していく。そうした作業を通じて、自ら韓国語文献にアクセスするための基礎を身につけることを目的とする。

到達目標

- (1) . 辞書を使用して韓国語で書かれた考古学の文献を訳すことができるようになる。
- (2) . 考古学の文献の日本語訳文を作成して、翻訳した韓国考古学文献の内容を理解する。
- (3) . 日本考古学と韓国考古学との比較検討ができるようになる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	到達目標(1)～(3)について、担当部分の発表内容をもとに評価する。

授業外学習

受講者は、毎週の担当箇所の日本語訳を事前に済ませておくこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

講読であつかう文献は授業中に指示する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考文献についても授業中に指示する。

前提学力等

朝鮮語(初級コース)を履修済みであること。

履修資格

講義名	アジア文献講読 A						担当教員	金 宇大
講義コード	1400065	単位数	2	開講期	通年	授業方法	講読	
ナンバリング番号								

授業計画							
回数	テーマ	概要			予習 / 復習		
第1回	オリエンテーション	授業の注意と進め方の説明し、講読する文献を決める。講読文献の担当部分を決定する。			2		
第2回	文法学習	韓国語の「文語調」の文章表現、いわゆる「ハンダ体」の文章を読む上で必要な最低限の文法事項について確認する。			2	「ハンダ体」に関する文法事項を授業での学習内容を確認する。	
第3回	文献講読	講読文献の担当部分の講読と翻訳および注釈。			2	担当部分の文章を訳出する。 扱った範囲の翻訳を改めて確認し、	
第4回	文献講読	講読文献の担当部分の講読と翻訳および注釈。			2	担当部分の文章を訳出する。 扱った範囲の翻訳を改めて確認し、	
第5回	文献講読	講読文献の担当部分の講読と翻訳および注釈。			2	担当部分の文章を訳出する。 扱った範囲の翻訳を改めて確認し、	
第6回	文献講読	講読文献の担当部分の講読と翻訳および注釈。			2	担当部分の文章を訳出する。 扱った範囲の翻訳を改めて確認し、	
第7回	文献講読	講読文献の担当部分の講読と翻訳および注釈。			2	担当部分の文章を訳出する。 扱った範囲の翻訳を改めて確認し、	
第8回	文献講読	講読文献の担当部分の講読と翻訳および注釈。			2	担当部分の文章を訳出する。 扱った範囲の翻訳を改めて確認し、	
第9回	文献講読	講読文献の担当部分の講読と翻訳および注釈。			2	担当部分の文章を訳出する。 扱った範囲の翻訳を改めて確認し、	
第10回	文献講読	講読文献の担当部分の講読と翻訳および注釈。			2	担当部分の文章を訳出する。 扱った範囲の翻訳を改めて確認し、	
第11回	文献講読	講読文献の担当部分の講読と翻訳および注釈。			2	担当部分の文章を訳出する。 扱った範囲の翻訳を改めて確認し、	
第12回	文献講読	講読文献の担当部分の講読と翻訳および注釈。			2	担当部分の文章を訳出する。 扱った範囲の翻訳を改めて確認し、	
第13回	文献講読	講読文献の担当部分の講読と翻訳および注釈。			2	担当部分の文章を訳出する。 扱った範囲の翻訳を改めて確認し、	
第14回	文献講読	講読文献の担当部分の講読と翻訳および注釈。			2	担当部分の文章を訳出する。 扱った範囲の翻訳を改めて確認し、	
第15回	文献講読	講読文献の担当部分の講読と翻訳および注釈。			2	担当部分の文章を訳出する。 扱った範囲の翻訳を改めて確認し、	
第16回	文献講読	講読文献の担当部分の講読と翻訳および注釈。			2	担当部分の文章を訳出する。 扱った範囲の翻訳を改めて確認し、	
第17回	文献講読	講読文献の担当部分の講読と翻訳および注釈。			2	担当部分の文章を訳出する。 扱った範囲の翻訳を改めて確認し、	
第18回	文献講読	講読文献の担当部分の講読と翻訳および注釈。			2	担当部分の文章を訳出する。 扱った範囲の翻訳を改めて確認し、	
第19回	文献講読	講読文献の担当部分の講読と翻訳および注釈。			2	担当部分の文章を訳出する。 扱った範囲の翻訳を改めて確認し、	
第20回	文献講読	講読文献の担当部分の講読と翻訳および注釈。			2	担当部分の文章を訳出する。 扱った範囲の翻訳を改めて確認し、	
第21回	文献講読	講読文献の担当部分の講読と翻訳および注釈。			2	担当部分の文章を訳出する。 扱った範囲の翻訳を改めて確認し、	
第22回	文献講読	講読文献の担当部分の講読と翻訳および注釈。			2	担当部分の文章を訳出する。 扱った範囲の翻訳を改めて確認し、	
第23回	文献講読	講読文献の担当部分の講読と翻訳および注釈。			2	担当部分の文章を訳出する。 扱った範囲の翻訳を改めて確認し、	
第24回	文献講読	講読文献の担当部分の講読と翻訳および注釈。			2	担当部分の文章を訳出する。 扱った範囲の翻訳を改めて確認し、	
第25回	文献講読	講読文献の担当部分の講読と翻訳および注釈。			2	担当部分の文章を訳出する。 扱った範囲の翻訳を改めて確認し、	
第26回	文献講読	講読文献の担当部分の講読と翻訳および注釈。			2	担当部分の文章を訳出する。 扱った範囲の翻訳を改めて確認し、	
第27回	文献講読	講読文献の担当部分の講読と翻訳および注釈。			2	担当部分の文章を訳出する。 扱った範囲の翻訳を改めて確認し、	
第28回	文献講読	講読文献の担当部分の講読と翻訳および注釈。			2	担当部分の文章を訳出する。 扱った範囲の翻訳を改めて確認し、	
第29回	文献講読	講読文献の担当部分の講読と翻訳および注釈。			2	担当部分の文章を訳出する。 扱った範囲の翻訳を改めて確認し、	
第30回	文献講読	講読文献の担当部分の講読と翻訳および注釈。			2	担当部分の文章を訳出する。 扱った範囲の翻訳を改めて確認し、	
担当者から							
購読する文献や授業の進め方は、受講生の韓国語能力を勘案しつつ決定する。							

講義名	アジア文献講読 B						担当教員	木村 可奈子
講義コード	1400066	単位数	2	開講期	通年	授業方法	演	
ナンバリング番号								

授業概要

漢文講読を履修済みの学生を対象に、漢文を「史料」として読むために必要なスキルを身につけるのがこの授業の目的である。本授業では『明史』本紀を講読し、訓読、現代語訳、訳注作成を通して史料の読解に必要な知識と能力を習得する。講読を希望するテキストが他にあれば、適宜相談に応じる。

到達目標

- (1) 句読点のない漢文史料を読むことが出来るようになる。
- (2) 史料として読解するために必要な知識を身につける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40	前期終了時と後期終了時の2回課す。テキストの意味を適切に理解しているかを評価する。
上記以外	60	講読の予習、授業内での回答、質問、読解の精度など。

毎週必ず予習して授業に臨むこと。3分の1以上欠席した場合、評価の対象にしない。

授業外学習

授業のために訓読・現代語訳・注の作成を行う。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	全訳漢辞海		三省堂	
2				
3				

テキストはこちらで用意する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	明の太祖朱元璋	檀上寛	筑摩書房	
2				
3				

必要に応じて授業時に指示する。

前提学力等

「漢文講読」履修済みであること。

履修資格

講義名	アジア文献講読B						担当教員	木村 可奈子	
講義コード	1400066	単位数	2	開講期	通年	授業方法	演		
ナンバリング番号									

授業計画										
回数	テーマ	概要				予習 / 復習				
第1回	はじめに	講読史料について解説する。				2	履修済みの漢文講読の内容を復習する。		2	2
第2回	講読	指定した範囲を講読する。				2	指定された範囲の訳註レジュメを作る。		2	2
第3回	講読	指定した範囲を講読する。				2	指定された範囲の訳註レジュメを作る。		2	2
第4回	講読	指定した範囲を講読する。				2	指定された範囲の訳註レジュメを作る。		2	2
第5回	講読	指定した範囲を講読する。				2	指定された範囲の訳註レジュメを作る。		2	2
第6回	講読	指定した範囲を講読する。				2	指定された範囲の訳註レジュメを作る。		2	2
第7回	講読	指定した範囲を講読する。				2	指定された範囲の訳註レジュメを作る。		2	2
第8回	講読	指定した範囲を講読する。				2	指定された範囲の訳註レジュメを作る。		2	2
第9回	講読	指定した範囲を講読する。				2	指定された範囲の訳註レジュメを作る。		2	2
第10回	講読	指定した範囲を講読する。				2	指定された範囲の訳註レジュメを作る。		2	2
第11回	講読	指定した範囲を講読する。				2	指定された範囲の訳註レジュメを作る。		2	2
第12回	講読	指定した範囲を講読する。				2	指定された範囲の訳註レジュメを作る。		2	2
第13回	講読	指定した範囲を講読する。				2	指定された範囲の訳註レジュメを作る。		2	2
第14回	講読	指定した範囲を講読する。				2	指定された範囲の訳註レジュメを作る。		2	2
第15回	講読	指定した範囲を講読する。				2	指定された範囲の訳註レジュメを作る。		2	2
第16回	講読	指定した範囲を講読する。				2	指定された範囲の訳註レジュメを作る。		2	2
第17回	講読	指定した範囲を講読する。				2	指定された範囲の訳註レジュメを作る。		2	2
第18回	講読	指定した範囲を講読する。				2	指定された範囲の訳註レジュメを作る。		2	2
第19回	講読	指定した範囲を講読する。				2	指定された範囲の訳註レジュメを作る。		2	2
第20回	講読	指定した範囲を講読する。				2	指定された範囲の訳註レジュメを作る。		2	2
第21回	講読	指定した範囲を講読する。				2	指定された範囲の訳註レジュメを作る。		2	2
第22回	講読	指定した範囲を講読する。				2	指定された範囲の訳註レジュメを作る。		2	2
第23回	講読	指定した範囲を講読する。				2	指定された範囲の訳註レジュメを作る。		2	2
第24回	講読	指定した範囲を講読する。				2	指定された範囲の訳註レジュメを作る。		2	2
第25回	講読	指定した範囲を講読する。				2	指定された範囲の訳註レジュメを作る。		2	2
第26回	講読	指定した範囲を講読する。				2	指定された範囲の訳註レジュメを作る。		2	2
第27回	講読	指定した範囲を講読する。				2	指定された範囲の訳註レジュメを作る。		2	2
第28回	講読	指定した範囲を講読する。				2	指定された範囲の訳註レジュメを作る。		2	2
第29回	講読	指定した範囲を講読する。				2	指定された範囲の訳註レジュメを作る。		2	2
第30回	講読	指定した範囲を講読する。				2	指定された範囲の訳註レジュメを作る。		2	2

担当者から
漢文をただ文章として読むだけでは、史料として使うことができません。どうしたら史料として読めるかをこの授業で身に付けていきましょう。漢文講読で漢文を読むことに興味を持った方、ぜひ受講してください。

講義名	アジア文献講読C						担当教員	横田 祥子
講義コード	1400067	単位数	2	開講期	通年	授業方法	講義	
ナンバリング番号	230EXC206							

授業概要

中国語の新聞・雑誌・論文などの読解を通じて、中国語の高度な表現を学ぶとともに、現代中国事情を理解する。前期は、テキストを用いながら、ピンイン・発音など基礎能力の確認と、基礎表現の定着をはかる。後期は、新聞記事や書籍、民族誌を用いながら、生の中国語表現に触れ理解することを目標とする。
年間を通じて中国語のシャドーイング練習を行い、会話の基礎力を養う。

到達目標

中国語メディアを日常的に利用できる語学力を身につける。また、中国語文献を読み、中国事情を理解できるようになることを目標とする。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	30	(1) 中国語のピンインを正しく表記し、正確に発音できる。(10%) (2) 中国語の文章を的確に読解できる。(10%) (3) 日本語の文章を中国語に翻訳できる。(10%)
レポート課題	30	中国語の新聞・雑誌・論文を読んで理解し、適切な日本語に翻訳できる。
上記以外	40	毎回授業開始時に実施するテストで、単語・ピンイン・文章を正確に書ける。

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としません。

授業外学習

毎回、予習をしてきてください。中日辞典を購入してください。電子辞書があると便利です。授業には辞書を持参してください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	通訳メソッドを応用した中国語短文会話800	長谷川正時	スリーエーネットワーク	9784883192960
2	中国語の文法スーパーマニュアル 中国語の奥底を流れる超重要ルールがわかる	古川裕	アルク	9784757413764
3	聴く中国語		日中通信社	

毎回読む文献は授業中に配付します。

前提学力等

原則として中国語 A、 B、 A、 Bを履修していること。

履修資格

講義名	アジア文献講読C						担当教員	横田 祥子
講義コード	1400067	単位数	2	開講期	通年	授業方法	講義	
ナンバリング番号	230EXC206							

授業計画							
回数	テーマ	概要		予習 / 復習			
第1回	イントロダクション	中国語基礎力の確認	2	特になし。 特になし。	0		
第2回	中国語テキストの読解 1-日常生活について	中国語テキストを用いて、ピンイン・声調と文法を確認しながら、読解していく。	2	配布資料の翻訳 シャドーイング練習	0		
第3回	中国語テキストの読解 2-日常生活について	中国語テキストを用いて、ピンイン・声調と文法を確認しながら、読解していく。	2	配布資料の翻訳 シャドーイング練習	0		
第4回	中国語テキストの読解 3-食文化-	中国語テキストを用いて、ピンイン・声調と文法を確認しながら、読解していく。	2	配布資料の翻訳 シャドーイング練習	0		
第5回	中国語テキストの読解 4-食文化-	中国語テキストを用いて、ピンイン・声調と文法を確認しながら、読解していく。	2	配布資料の翻訳 シャドーイング練習	0		
第6回	中国語テキストの読解 5-社会問題-	中国語テキストを用いて、ピンイン・声調と文法を確認しながら、読解していく。	2	配布資料の翻訳 シャドーイング練習	0		
第7回	中国語テキストの読解 6-社会問題-	中国語テキストを用いて、ピンイン・声調と文法を確認しながら、読解していく。	2	配布資料の翻訳 シャドーイング練習	0		
第8回	中国語テキストの読解 7-若者事情-	中国語テキストを用いて、ピンイン・声調と文法を確認しながら、読解していく。	2	配布資料の翻訳 シャドーイング練習	0		
第9回	中国語テキストの読解 8-若者事情-	中国語テキストを用いて、ピンイン・声調と文法を確認しながら、読解していく。	2	配布資料の翻訳 シャドーイング練習	0		
第10回	中国映画から表現を学ぶ 1	中国映画の名作を鑑賞しながら、中国文化を色濃く表す表現の仕方を学ぶ。また、映画を通じて中国事情について学ぶ。	2	配布資料の翻訳 シャドーイング練習	0		
第11回	中国映画から表現を学ぶ 2	中国映画の名作を鑑賞しながら、中国文化を色濃く表す表現の仕方を学ぶ。また、映画を通じて中国事情について学ぶ。	2	配布資料の翻訳 シャドーイング練習	0		
第12回	中国映画から表現を学ぶ 3	中国映画の名作を鑑賞しながら、中国文化を色濃く表す表現の仕方を学ぶ。また、映画を通じて中国事情について学ぶ。	2	配布資料の翻訳 シャドーイング練習	0		
第13回	中国映画から表現を学ぶ 4	中国映画の名作を鑑賞しながら、中国文化を色濃く表す表現の仕方を学ぶ。また、映画を通じて中国事情について学ぶ。	2	配布資料の翻訳 シャドーイング練習	0		
第14回	中国映画から表現を学ぶ 5	中国映画の名作を鑑賞しながら、中国文化を色濃く表す表現の仕方を学ぶ。また、映画を通じて中国事情について学ぶ。	2	配布資料の翻訳 シャドーイング練習	0		
第15回	中国映画から表現を学ぶ 6	中国映画の名作を鑑賞しながら、中国文化を色濃く表す表現の仕方を学ぶ。また、映画を通じて中国事情について学ぶ。	2	配布資料の翻訳 シャドーイング練習	0		
第16回	中国語新聞記事の読解 1	中国語の新聞記事を読み、新聞表現と中国事情を学ぶ。	2	配布資料の翻訳 シャドーイング練習	0		
第17回	中国語新聞記事の読解 2	中国語の新聞記事を読み、新聞表現と中国事情を学ぶ。	2	配布資料の翻訳 シャドーイング練習	0		
第18回	中国語新聞記事の読解 3-日本に関する報	日本についての中国語新聞記事を読む。	2	配布資料の翻訳 シャドーイング練習	0		
第19回	中国語新聞記事の読解 4-日本に関する報	日本についての中国語新聞記事を読む。	2	配布資料の翻訳 シャドーイング練習	0		
第20回	中国語論文の読解 1	中国語で書かれた文化人類学の民族誌を読む。	2	配布資料の翻訳 シャドーイング練習	0		
第21回	中国語論文の読解 2	中国語で書かれた文化人類学の民族誌を読む。	2	配布資料の翻訳 シャドーイング練習	0		
第22回	中国語論文の読解 3	中国語で書かれた文化人類学の民族誌を読む。	2	配布資料の翻訳 シャドーイング練習	0		
第23回	中国語論文の読解 4	中国語で書かれた文化人類学の民族誌を読む。	2	配布資料の翻訳 シャドーイング練習	0		
第24回	中国映画から表現を学ぶ 1	中国映画を鑑賞しながら、表現を学ぶとともに、民族事情について学ぶ。	2	配布資料の翻訳 シャドーイング練習	0		
第25回	中国映画から表現を学ぶ 2	中国映画を鑑賞しながら、表現を学ぶとともに、民族事情について学ぶ。	2	配布資料の翻訳 シャドーイング練習	0		
第26回	中国映画から表現を学ぶ 3	中国映画を鑑賞しながら、表現を学ぶとともに、民族事情について学ぶ。	2	配布資料の翻訳 シャドーイング練習	0		
第27回	中国映画から表現を学ぶ 4	中国映画を鑑賞しながら、表現を学ぶとともに、民族事情について学ぶ。	2	配布資料の翻訳 シャドーイング練習	0		
第28回	中国映画から表現を学ぶ 5	中国映画を鑑賞しながら、表現を学ぶとともに、民族事情について学ぶ。	2	配布資料の翻訳 シャドーイング練習	0		
第29回	中国映画から表現を学ぶ 6	中国映画を鑑賞しながら、表現を学ぶとともに、民族事情について学ぶ。	2	配布資料の翻訳 シャドーイング練習	0		
第30回	中国映画から表現を学ぶ 7	中国映画を鑑賞しながら、表現を学ぶとともに、民族事情について学ぶ。	2	配布資料の翻訳 シャドーイング練習	0		
担当者から							
日本人にとって中国語の読解は、基本的文法をおさえていれば、それほど難しくありません。一年後には、たいいていの文章が読めるようになります。ぜひ本授業を活用して下さい。							

講義名	英書講読（地域文化）						担当教員	亀井 若菜 / 北村 由美 / 萩原 和 / 櫻井 悟史
講義コード	1400105	単位数	2	開講期	通年	授業方法	講義	
ナンバリング番号	130REG102							

授業概要

この授業は、地域文化学科で学ぶ諸分野に関わる英語の文献を読んで、幅広い視野からその分野の事象について考えることができるようになることを目的とする。1年間の授業を4人の教員で担当し、都市計画・地域計画、社会学、美術史、アジア地域研究についての文献を講読する。毎回、受講生を指名しテキストの内容について発表してもらうため、必ず予習をしていくこと。

到達目標

(1)地域文化学科の専門分野について、平易な英語文献を読解できる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	25	後期は試験を行う（1回）。 25%
レポート課題	35	前期はレポートを提出する（3回）。35%
上記以外	40	・授業中の発表 30% ・後期最終回に行う単語テスト 10%

3分の1以上欠席した場合は評価の対象としない。

授業外学習

毎回の講義内で発表してもらうため、事前の予習を宿題として課す。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

テキストは各教員より配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英書講読（地域文化）						担当教員	亀井 若菜 / 北村 由美 / 萩原 和 / 櫻井 悟史
講義コード	1400105	単位数	2	開講期	通年	授業方法	講義	
ナンバリング番号	130REG102							

授業計画								
回数	テーマ	概要					予習 / 復習	
第1回	地域計画に関する英書講読 1	都市計画、地域計画に関する英書を講読する。					2	授業の内容を自分で整理する。
第2回	地域計画に関する英書講読 2	都市計画、地域計画に関する英書を講読する。					2	テキストの翻訳、読解。 授業の内容を自分で整理する。
第3回	地域計画に関する英書講読 3	都市計画、地域計画に関する英書を講読する。					2	テキストの翻訳、読解。 授業の内容を自分で整理する。
第4回	地域計画に関する英書講読 4	都市計画、地域計画に関する英書を講読する。					2	テキストの翻訳、読解。 授業の内容を自分で整理する。
第5回	地域計画に関する英書講読 5	都市計画、地域計画に関する英書を講読する。					2	テキストの翻訳、読解。 授業の内容を自分で整理する。
第6回	社会学に関する英書講読 1	社会学に関する英書を講読する。					2	テキストの翻訳、読解。 授業の内容を自分で整理する。
第7回	社会学に関する英書講読 2	社会学に関する英書を講読する。					2	テキストの翻訳、読解。 授業の内容を自分で整理する。
第8回	社会学に関する英書講読 3	社会学に関する英書を講読する。					2	テキストの翻訳、読解。 授業の内容を自分で整理する。
第9回	社会学に関する英書講読 4	社会学に関する英書を講読する。					2	テキストの翻訳、読解。 授業の内容を自分で整理する。
第10回	社会学に関する英書講読 5	社会学に関する英書を講読する。					2	テキストの翻訳、読解。 授業の内容を自分で整理する。
第11回	美術史に関する英書講読 1	美術史に関する英書を講読する。					2	テキストの翻訳、読解。 授業の内容を自分で整理する。
第12回	美術史に関する英書講読 2	美術史に関する英書を講読する。					2	テキストの翻訳、読解。 授業の内容を自分で整理する。
第13回	美術史に関する英書講読 3	美術史に関する英書を講読する。					2	テキストの翻訳、読解。 授業の内容を自分で整理する。
第14回	美術史に関する英書講読 4	美術史に関する英書を講読する。					2	テキストの翻訳、読解。 授業の内容を自分で整理する。
第15回	美術史に関する英書講読 5	美術史に関する英書を講読する。					2	テキストの翻訳、読解。 授業の内容を自分で整理する。
第16回	アジア地域研究・アジア事情に関する英書講読	英語力を測定する読解テストと後期の授業の進め方についての説明					2	
第17回	アジア地域研究・アジア事情に関する英書講読	アジア地域研究・アジア事情に関する英書講読と、関連して調べた事項の発表など					2	・アジア地域研究に関する論文の翻訳 ・授業時に指定した単語の暗記
第18回	アジア地域研究・アジア事情に関する英書講読	アジア地域研究・アジア事情に関する英書講読と、関連して調べた事項の発表など					2	・アジア地域研究に関する論文の翻訳 ・授業時に指定した単語の暗記
第19回	アジア地域研究・アジア事情に関する英書講読	アジア地域研究・アジア事情に関する英書講読と、関連して調べた事項の発表など					2	・アジア地域研究に関する論文の翻訳 ・授業時に指定した単語の暗記
第20回	アジア地域研究・アジア事情に関する英書講読	アジア地域研究・アジア事情に関する英書講読と、関連して調べた事項の発表など					2	・アジア地域研究に関する論文の翻訳 ・授業時に指定した単語の暗記
第21回	アジア地域研究・アジア事情に関する英書講読	アジア地域研究・アジア事情に関する英書講読と、関連して調べた事項の発表など					2	・アジア地域研究に関する論文の翻訳 ・授業時に指定した単語の暗記
第22回	アジア地域研究・アジア事情に関する英書講読	アジア地域研究・アジア事情に関する英書講読と、関連して調べた事項の発表など					2	・アジア地域研究に関する論文の翻訳 ・授業時に指定した単語の暗記
第23回	アジア地域研究・アジア事情に関する英書講読	アジア地域研究・アジア事情に関する英書講読と、関連して調べた事項の発表など					2	・アジア地域研究に関する論文の翻訳 ・授業時に指定した単語の暗記
第24回	アジア地域研究・アジア事情に関する英書講読	アジア地域研究・アジア事情に関する英書講読と、関連して調べた事項の発表など					2	・アジア地域研究に関する論文の翻訳 ・授業時に指定した単語の暗記
第25回	アジア地域研究・アジア事情に関する英書講読	アジア地域研究・アジア事情に関する英書講読と、関連して調べた事項の発表など					2	・アジア地域研究に関する論文の翻訳 ・授業時に指定した単語の暗記
第26回	アジア地域研究・アジア事情に関する英書講読	アジア地域研究・アジア事情に関する英書講読と、関連して調べた事項の発表など					2	・アジア地域研究に関する論文の翻訳 ・授業時に指定した単語の暗記
第27回	アジア地域研究・アジア事情に関する英書講読	アジア地域研究・アジア事情に関する英書講読と、関連して調べた事項の発表など					2	・アジア地域研究に関する論文の翻訳 ・授業時に指定した単語の暗記
第28回	アジア地域研究・アジア事情に関する英書講読	アジア地域研究・アジア事情に関する英書講読と、関連して調べた事項の発表など					2	・アジア地域研究に関する論文の翻訳 ・授業時に指定した単語の暗記
第29回	アジア地域研究・アジア事情に関する英書講読	アジア地域研究・アジア事情に関する英書講読と、関連して調べた事項の発表など					2	・アジア地域研究に関する論文の翻訳 ・授業時に指定した単語の暗記
第30回	アジア地域研究・アジア事情に関する英書講読	・アジア地域研究・アジア事情に関する英書講読と、関連して調べた事項の発表など					3	・アジア地域研究に関する論文の翻訳
担当者から								
後期の授業は、アジアの現代事情に関する新聞記事の読解と、アジア研究に関する論文の精読の二本立てを通して、英文読解力を総合的に身に付けることを目的として行います。Google翻訳やDeepLなどをはじめとする翻訳ソフトの使用は認めず、辞書による読解を行います。授業に際して								

講義名	近江商人論						担当教員	東 幸代
講義コード	1400230	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号								

授業概要

本講義では、近世（江戸時代）の近江商人について論じる。また、近世社会の一般的な仕組みや流通経済の様相など、近世商人を理解する際に前提となることがらについても適宜言及していく。

到達目標

近江商人に関して詳しく説明できるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	80	近江商人の特徴について理解ができているか。 読み手に理解可能な説明ができているか。
レポート課題	20	講義の概要が理解できているか。 正しい日本語を使用しているか。
上記以外		

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

講義中にプリントを配布する。

前提学力等

履修資格

講義名	環琵琶湖文化論実習（地域文化）						担当教員	学科教員 / 京樂 真帆子 / 東 幸代 / 塚本 礼仁 / 石川 慎治 / 市川 秀之 / 亀井 若菜 / 横田 祥子 / 萩原 和 /
講義コード	1400360	単位数	2	開講期	通年	授業方法	実習	
ナンバリング番号	130REG101-C							

授業概要

この授業では、滋賀県の歴史、文化、生活を対象とする実習を行う。地域、テーマ別に班を編成し、事前学習、宿泊をともなう現地での実習、さらに報告書の作成を行う。地域文化学科1年生を3つのグループ（約20名ずつ）に分け、担当教員が割り当てられる。

到達目標

フィールドワークを行うことによって、以下の目標を達成する。

- (1) 地域の歴史、文化、生活への関心を深めることができる。
- (2) 地域を調査するための手法を身につけることができる。
- (3) 報告書のまとめ方を身につけることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	環琵琶湖文化論実習の報告書の原稿（100%）

その評価は以下の項目による。

- (1) 地域の歴史、文化、生活への関心を深めることができる(35%)
- (2) 地域を調査するための手法を身につけることができる(35%)

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	歴史家の案内する滋賀	滋賀県立大学人間文化学部地域文化学科編	文理閣	4892598879
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

各班担当者の指示による。

前提学力等

履修資格

講義名	環琵琶湖文化論実習（地域文化）						担当教員	学科教員 / 京樂 真帆子 / 東 幸代 / 塚本 礼仁 / 石川 慎治 / 市川 秀之 / 亀井 若菜 / 横田 祥子 / 萩原 和 /
講義コード	1400360	単位数	2	開講期	通年	授業方法	実習	
ナンバリング番号	130REG101-C							

授業計画

回数	テーマ	概要	予習 / 復習
第1回	オリエンテーション	各班の実習内容を紹介し、班分けを行う。	2
第2回	班別学習 その1	各班に分かれて、学習を行う。内容・スケジュールは、各班の担当教員より説明する。	2
第3回	班別学習 その2		2
第4回	班別学習 その3		2
第5回	班別学習 その4		2
第6回	班別学習 その5		2
第7回	班別学習 その6		2
第8回	班別学習 その7		2
第9回	班別学習 その8		2
第10回	班別学習 その9		2
第11回	班別学習 その10		2
第12回	班別学習 その11		2
第13回	班別学習 その12		2
第14回	班別学習 その13		2
第15回	班別学習 その14		2
第16回	班別学習 その15		2
第17回	班別学習 その16		2
第18回	班別学習 その17		2
第19回	班別学習 その18		2
第20回	班別学習 その19		2
第21回	班別学習 その20		2
第22回	班別学習 その21		2
第23回	班別学習 その22		2
第24回	班別学習 その23		2
第25回	班別学習 その24		2
第26回	班別学習 その25		2
第27回	班別学習 その26		2
第28回	班別学習 その27		2
第29回	班別学習 その28		2
第30回	報告書の完成	班別学習の成果を報告書にまとめて完成させる。	2

担当者から

講義名	漢文講読						担当教員	木村 可奈子
講義コード	1400370	単位数	2	開講期	通年	授業方法	演	
ナンバリング番号	130REG103							

授業概要

漢文は中国、朝鮮半島、日本、ベトナム、琉球などの知識人が用いた東アジア世界の共通言語であり、東アジアの歴史を研究する上で漢文読解能力は必須である。
本授業ではテキストの訓読、現代語訳、注の作成を通して、単なる言葉の意味だけではなく、それが書かれた時代背景や当時の人々の考え方を理解することも目標にする。

本年度は中国の正史・二十四史の一つである『明史』の外国伝を講読する。『明史』の外国伝には、明と外交関係のあった国々の歴史が記されている。中国の目には外国がどのように見えるか、どのような情報が中国には伝わっているのかなど、様々な観点から発見を得られるだろう。

到達目標

(1) 東アジアの歴史を研究する上で欠かせない漢文の基礎的な読解能力を身に着ける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40	前期終了時と後期終了時の2回課す。テキストの意味を適切に理解しているかを評価する。
上記以外	60	講読の予習、授業内での回答、質問、読解の精度など。

毎週必ず予習して授業に臨むこと。3分の1以上欠席した場合、評価の対象にしない。

授業外学習

授業のために訓読・現代語訳・注の作成を行う。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	全訳 漢辞海	戸川芳郎 監修 / 佐藤進、濱口富士雄 編	三省堂	
2				
3				

テキストはこちらで用意する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

必要に応じて授業時に指示する。

前提学力等

高校までの漢文の基礎知識があること。

履修資格

講義名	漢文講読						担当教員	木村 可奈子
講義コード	1400370	単位数	2	開講期	通年	授業方法	演	
ナンバリング番号	130REG103							

授業計画							
回数	テーマ	概要		予習 / 復習			
第1回	テキストの解説・講読の進め方	使用するテキストについて解説を行う。図書館に赴き、必要な参考書について紹介する。	2	高校漢文の知識を復習する。講義内容を復習する。	2		
第2回	講読1	指定されたテキストについて講読を行う。	2	指定された範囲の予習を行う。担当 今回の授業内容を復習する。	2		
第3回	講読2	指定されたテキストについて講読を行う。	2	指定された範囲の予習を行う。担当 今回の授業内容を復習する。	2		
第4回	講読3	指定されたテキストについて講読を行う。	2	指定された範囲の予習を行う。担当 今回の授業内容を復習する。	2		
第5回	講読4	指定されたテキストについて講読を行う。	2	指定された範囲の予習を行う。担当 今回の授業内容を復習する。	2		
第6回	講読5	同上	2	指定された範囲の予習を行う。担当 今回の授業内容を復習する。	2		
第7回	講読6	指定されたテキストについて講読を行う。	2	指定された範囲の予習を行う。担当 今回の授業内容を復習する。	2		
第8回	講読7	指定されたテキストについて講読を行う。	2	指定された範囲の予習を行う。担当 今回の授業内容を復習する。	2		
第9回	講読8	指定されたテキストについて講読を行う。	2	指定された範囲の予習を行う。担当 今回の授業内容を復習する。	2		
第10回	講読9	指定されたテキストについて講読を行う。	2	指定された範囲の予習を行う。担当 今回の授業内容を復習する。	2		
第11回	講読10	指定されたテキストについて講読を行う。	2	指定された範囲の予習を行う。担当 今回の授業内容を復習する。	2		
第12回	講読11	指定されたテキストについて講読を行う。	2	指定された範囲の予習を行う。担当 今回の授業内容を復習する。	2		
第13回	講読12	指定されたテキストについて講読を行う。	2	指定された範囲の予習を行う。担当 今回の授業内容を復習する。	2		
第14回	講読13	指定されたテキストについて講読を行う。	2	指定された範囲の予習を行う。担当 今回の授業内容を復習する。	2		
第15回	講読14	指定されたテキストについて講読を行う。	2	指定された範囲の予習を行う。担当 今回の授業内容を復習する。	2		
第16回	講読15	指定されたテキストについて講読を行う。	2	指定された範囲の予習を行う。担当 今回の授業内容を復習する。	2		
第17回	講読16	指定されたテキストについて講読を行う。	2	指定された範囲の予習を行う。担当 今回の授業内容を復習する。	2		
第18回	講読17	指定されたテキストについて講読を行う。	2	指定された範囲の予習を行う。担当 今回の授業内容を復習する。	2		
第19回	講読18	指定されたテキストについて講読を行う。	2	指定された範囲の予習を行う。担当 今回の授業内容を復習する。	2		
第20回	講読19	指定されたテキストについて講読を行う。	2	指定された範囲の予習を行う。担当 今回の授業内容を復習する。	2		
第21回	講読20	指定されたテキストについて講読を行う。	2	指定された範囲の予習を行う。担当 今回の授業内容を復習する。	2		
第22回	講読21	指定されたテキストについて講読を行う。	2	指定された範囲の予習を行う。担当 今回の授業内容を復習する。	2		
第23回	講読22	指定されたテキストについて講読を行う。	2	指定された範囲の予習を行う。担当 今回の授業内容を復習する。	2		
第24回	講読23	指定されたテキストについて講読を行う。	2	指定された範囲の予習を行う。担当 今回の授業内容を復習する。	2		
第25回	講読24	指定されたテキストについて講読を行う。	2	指定された範囲の予習を行う。担当 今回の授業内容を復習する。	2		
第26回	講読25	指定されたテキストについて講読を行う。	2	指定された範囲の予習を行う。担当 今回の授業内容を復習する。	2		
第27回	講読26	指定されたテキストについて講読を行う。	2	指定された範囲の予習を行う。担当 今回の授業内容を復習する。	2		
第28回	講読27	指定されたテキストについて講読を行う。	2	指定された範囲の予習を行う。担当 今回の授業内容を復習する。	2		
第29回	講読28	指定されたテキストについて講読を行う。	2	指定された範囲の予習を行う。担当 今回の授業内容を復習する。	2		
第30回	講読29	指定されたテキストについて講読を行う。	2	指定された範囲の予習を行う。担当 今回の授業内容を復習する。	2		
担当者から							

講義名	基層文化論						担当教員	佐藤 亜聖
講義コード	1400390	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	130HER106							

授業概要

「基層文化」という用語はドイツ民俗学で誕生したが、本場ドイツではすでに死語となっている。日本では一部の民俗学者・考古学者が使用しているが、その解釈は本義的な意味から乖離しているとされている。本講義ではこの用語の理解を手がかりとして、日本文化に「基層文化」は存在するのか、「文化」を構成する諸要素はどのように形成されてきたのか、を主に考古学の手法で解説する。

到達目標

- (1) 基層文化という用語を理解する
- (2) 文化の形成過程を理解する
- (3) 宗教考古学の骨格を理解する

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	授業に係る課題設定を行い、理解度を確認する。
レポート課題		
上記以外	50	レスポンスカードを兼ねた出席票を確認する。

授業外学習

毎時、次回の授業に係る課題図書を提示するのであらかじめ読んでおくこと。授業後は授業で提示された関連文献を熟読しておくこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

特になし

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業では毎時プリントを配布する。

前提学力等

履修資格

講義名	基層文化論							担当教員	佐藤 亜聖	
講義コード	1400390	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義			
ナンバリング番号	130HER106									

授業計画											
回数	テーマ	概要					予習 / 復習				
第1回	基層文化とは	授業の概要を説明し、ハンス・ナウマンの提唱した「基層文化」とはなにかを講義する。またこの用語がその後どのように展開したのかに					2	「基層文化」の用語の利用例について		2	2
								授業で提示した参考文献を熟読す			2
第2回	旧石器・縄文時代の文化	旧石器、縄文時代の文化について概説し、その形成過程と特徴を説明する。					2	教員が提示する課題図書・論文を読む		2	2
								授業で提示した参考文献を熟読す			2
第3回	縄文時代の精神世界	縄文文化における精神世界について、いわゆる第2の道具をてがかりに考える。					2	教員が提示する課題図書・論文を読む		2	2
								授業で提示した参考文献を熟読す			2
第4回	縄文時代の墓制	縄文文化における精神社会の地域相について、墓制を手がかりに検討する。					2	教員が提示する課題図書・論文を読む		2	2
								授業で提示した参考文献を熟読す			2
第5回	弥生時代の開始と新しい文化要素の生成	弥生文化の成立と渡来文化を整理し、縄文文化との関係性を考える。					2	教員が提示する課題図書・論文を読む		2	2
								授業で提示した参考文献を熟読す			2
第6回	弥生時代の墓制	弥生時代の墓制について、その地域性を整理したうえで変遷を解説し、古墳発生に向けた変化を講じる。					2	教員が提示する課題図書・論文を読む		2	2
								授業で提示した参考文献を熟読す			2
第7回	古墳時代の墓制と国家形成	古墳時代の墓制の変化と国家形成についての概略を説明し、古墳時代に新たに加わる文化要素について解説する。					2	教員が提示する課題図書・論文を読む		2	2
								授業で提示した参考文献を熟読す			2
第8回	古墳時代の葬送墓制 殯と水の祭祀	古墳時代の代表的な葬制である殯について、考古資料にみるその痕跡を紹介し、近年注目が集まる水の祭祀と殯の関係性を述べる。					2	教員が提示する課題図書・論文を読む		2	2
								授業で提示した参考文献を熟読す			2
第9回	仏教文化の導入	導入期の仏教文化について、飛鳥寺と道昭を手がかりに講義する。					2	教員が提示する課題図書・論文を読む		2	2
								授業で提示した参考文献を熟読す			2
第10回	仏教文化の受容とその展開 石塔の成立	日本における仏教文化の受容形態とその後の展開について、主に古代石塔を中心に講義する。					2	教員が提示する課題図書・論文を読む		2	2
								授業で提示した参考文献を熟読す			2
第11回	中世石塔の展開	仏教の中世的展開と、それに伴う中世石塔の出現、展開を講義する。					2	教員が提示する課題図書・論文を読む		2	2
								授業で提示した参考文献を熟読す			2
第12回	採石加工技術と中世仏教	中世石造物の大量消費化を支えた採石加工技術の革新について、中世仏教との関連を念頭に置いて講義する。					2	教員が提示する課題図書・論文を読む		2	2
								授業で提示した参考文献を熟読す			2
第13回	火葬と納骨	現在普遍的にみられる火葬、納骨文化について、その歴史的変遷を講義する。					2	教員が提示する課題図書・論文を読む		2	2
								授業で提示した参考文献を熟読す			2
第14回	考古学と民俗学、文献 史学	発掘調査と墓標調査、民俗調査から現行の葬送儀礼の形成過程を復元する事例について講義を行う。					2	教員が提示する課題図書・論文を読む		2	2
								授業で提示した参考文献を熟読す			2
第15回	まとめ	講義のまとめ					2	これまでの授業内容について整理		2	2
								定期試験に向けて課題図書・文献の			2

担当者から

考古学を軸に据えて講義を行うが、内容はできるだけ考古学に偏らない多岐にわたるものとする。

講義名	近世近江論						担当教員	東 幸代
講義コード	1400560	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	230HIS201-C							

授業概要

本講義では、近世（江戸時代）の近江国（現滋賀県）の歴史的展開と、それがどのような歴史的特徴を有していたかを、土地や琵琶湖の支配や利用のあり方を素材に論じる。また、近世社会の一般的な仕組みや他地域の様相など、近世近江とその社会を理解する際に前提となることがらについても適宜言及していく。

到達目標

日本の近世社会および近世近江の特徴を説明できるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	80	日本近世社会や近江国の特徴について理解ができているか。 読み手に理解可能な説明ができているか。
レポート課題	20	講義の概要が理解できているか。 正しい日本語を使用しているか。
上記以外		

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

講義中にプリントを配布する。

前提学力等

履修資格

講義名	近世近江論						担当教員	東 幸代
講義コード	1400560	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	230HIS201-C							

授業計画								
回数	テーマ	概要				予習 / 復習		
第1回	ガイダンス	講義の概要説明。				2	日本史の教科書、もしくは日本近世講義のまとめ	1
第2回	近江の領主と石高制	近世社会を理解するキー・ワードの説明。				2	前回配布資料の読了 講義のまとめ	1
第3回	近江の領主と石高制	幕藩領主の再生産についての説明。				2	前回配布資料の読了 講義のまとめ	1
第4回	近江の領主と石高制	領知宛行についての説明。				2	前回配布資料の読了 講義のまとめ	1
第5回	近江の領主と石高制	近江国の政治的位置づけについての説明。				2	前回配布資料の読了 第2回～第5回講義のまとめ	5
第6回	近江の村と石高制	村の負担についての説明。				2	前回配布資料の読了 講義のまとめ	1
第7回	近江の村と石高制	庄屋の機能についての説明。				2	前回配布資料の読了 講義のまとめ	1
第8回	近江の村と石高制	相給村落の運営についての説明。				2	前回配布資料の読了 講義のまとめ	1
第9回	近江の村と石高制	相給村落の運営についての説明。				2	前回配布資料の読了 第6回～第9回講義のまとめ	5
第10回	琵琶湖と石高制	近世の新田開発についての説明。				2	前回配布資料の読了 講義のまとめ	1
第11回	琵琶湖と石高制	琵琶湖の価値についての説明。				2	前回配布資料の読了 講義のまとめ	1
第12回	琵琶湖と石高制	瀬田川浚えについての説明。				2	前回配布資料の読了 講義のまとめ	1
第13回	琵琶湖と石高制	琵琶湖の新田開発についての説明。				2	前回配布資料の読了 講義のまとめ	1
第14回	琵琶湖と石高制	近江国天保一揆についての説明。				2	前回配布資料の読了 第10回～第14回講義のまとめ	5
第15回	まとめ	講義全体の内容確認。				2	これまでの配布資料の読了、疑問点 定期試験に向けての学習	15
担当者から								
高校日本史の教科書を事前に読んでおくと、理解がさらに深まる。								

講義名	中世近江論						担当教員	高木 純一
講義コード	1400565	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号								

授業概要

本講義では、近江国（滋賀県）の地域の特徴を、とくに「中世」という時代に即して概観する。中世における歴史的経験が、当該地域にいったいどのような刻印を与えたのかを解明することで、本学が立地するこの地域の歴史に対する理解の深化を目指す。

さらに本講義では、近江地域を通して、日本の「中世」という時代の特徴を理解することも目指したい。日本の「中世」という時代は、現代の私たちと異質な、言わば「他者」により構成される社会であり、彼らの振る舞いやその社会を理解することは、グローバル化著しい現代社会における異文化理解に通じる。

他方、中世は「伝統的」と言える日本社会の特徴を生み出した時代でもあり、現代日本社会のルーツとも言える。現代の私たちが日本中世史を学ぶ意義は非常に大きい。

講義のなかで明らかにしていく通り、この近江地域は、日本中世社会の特徴を典型的に見ることのできる格好のフィールドである。地域の歴史を深く知るとともに、よりひろく日本の中世をも考えていく講義を目指したい。

到達目標

近江地域の特徴を中世段階からの歴史的経緯から説明することができる。
日本中世社会の構造を、近江の具体的な事例から説明することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	70	授業の内容を踏まえたうえで、日本中世社会に関する書評レポートを課す。対象文献や講義の内容を正確に理解できているかどうか、それをもとに適切な意見や疑問・批判をすることができているかどうかを基準に採点する。
上記以外	30	毎回レスポンスカードを提出。

授業外学習

とくになし

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

とくになし。毎回レジメを配付する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

講義の中で適宜提示する。

前提学力等

とくになし

履修資格

講義名	中世近江論						担当教員	高木 純一	
講義コード	1400565	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義		
ナンバリング番号									

授業計画

回数	テーマ	概要		予習 / 復習
第1回	オリエンテーション： 日本中世社会と近江	併せて、「飢饉と戦乱の時代」としての日本中世社会のあり方を概観する。	2	事前に配布する参考文献を熟読して2 講義内容をプリントにまとめ、感想2
第2回	「惣村」の形成：菅浦	近江においてももっとも顕著に発達した中世「惣村」について、菅浦を具体例として概観する。	2	事前に配布する参考文献を熟読して2 講義内容をプリントにまとめ、感想2
第3回	近江の商業・流通：今堀	列島のほぼ中央に位置したことによる近江の商業・流通の発達を、今堀をはじめとする具体例によって概観する。	2	事前に配布する参考文献を熟読して2 講義内容をプリントにまとめ、感想2
第4回	荘園制・仏教と近江： 延暦寺	日本中世の基軸的支配体制・社会体制である荘園制・権門体制について、日本最大の宗教権門である比叡山を例として概観する。	2	事前に配布する参考文献を熟読して2 講義内容をプリントにまとめ、感想2
第5回	琵琶湖をめぐる生業： 安治村・筑摩御厨	近江地域を決定的に特徴づける琵琶湖と中世の人々の関わりについて、安治村・筑摩御厨・堅田などの湖村を例にとって概観する。	2	事前に配布する参考文献を熟読して2 講義内容をプリントにまとめ、感想2
第6回	琵琶湖をめぐる生業： 堅田	近江地域を決定的に特徴づける琵琶湖と中世の人々の関わりについて、安治村・筑摩御厨・堅田などの湖村を例にとって概観する。	2	事前に配布する参考文献を熟読して2 講義内容をプリントにまとめ、感想2
第7回	山林をめぐる生業：葛川明王院・伊香立荘	琵琶湖での生業と対になる山地における生業について、史料に恵まれる琵琶湖西岸の比良山地、葛川明王院・伊香立荘を素材として概観する。	2	事前に配布する参考文献を熟読して2 講義内容をプリントにまとめ、感想2
第8回	「戦国大名」の登場： 六角氏	近江地域が生み出した「戦国大名」の特徴を、六角氏・浅井氏の事例をもとに概観する。	2	事前に配布する参考文献を熟読して2 講義内容をプリントにまとめ、感想2
第9回	「戦国大名」の登場： 浅井氏	近江地域が生み出した「戦国大名」の特徴を、六角氏・浅井氏の事例をもとに概観する。	2	事前に配布する参考文献を熟読して2 講義内容をプリントにまとめ、感想2
第10回	もう一つの「近江」地域社会： 甲賀郡中惣	近江のなかでもやや趣の異なる様相を見せる地域として、甲賀郡における領主連合の様相を概観する。	2	事前に配布する参考文献を熟読して2 講義内容をプリントにまとめ、感想2
第11回	「近世」濫觴の地： 織田政権	近江地域は、織田政権・豊臣政権を生み出す重要な基盤となった。両政権の画期性を確認したうえで、その淵源を当該地域に探る。	2	事前に配布する参考文献を熟読して2 講義内容をプリントにまとめ、感想2
第12回	「近世」濫觴の地： 織田政権	近江地域は、織田政権・豊臣政権を生み出す重要な基盤となった。両政権の画期性を確認したうえで、その淵源を当該地域に探る。	2	事前に配布する参考文献を熟読して2 講義内容をプリントにまとめ、感想2
第13回	「近世」濫觴の地： 豊臣政権	近江地域は、織田政権・豊臣政権を生み出す重要な基盤となった。両政権の画期性を確認したうえで、その淵源を当該地域に探る。	2	事前に配布する参考文献を熟読して2 講義内容をプリントにまとめ、感想2
第14回	「近世」濫觴の地： 続・豊臣政権	近江地域は、織田政権・豊臣政権を生み出す重要な基盤となった。両政権の画期性を確認したうえで、その淵源を当該地域に探る。	2	事前に配布する参考文献を熟読して2 講義内容をプリントにまとめ、感想2
第15回	講義のまとめ	授業内容を総括する。	2	事前に配布する参考文献を熟読して2 講義内容をプリントにまとめ、感想2

担当者から

主体的・自律的に学習する意欲を持つ学生の受講を期待します。

講義名	芸術学						担当教員	亀井 若菜
講義コード	1400600	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	130HIS103							

授業概要

この授業では、造形芸術である「美術」や、造形芸術の歴史の体系である「美術史」について考える。「日本美術史」という体系は、明治時代に日本のナショナルアイデンティティを見せるものとして作られた。その中では、その目的に沿う形で様々な作品が評価され、語られてきた。本講義ではそれを見直すべく、具体的な例として、正倉院宝物と二つの絵巻作品を取り上げ、その言説のあり方を考え、作品の新たな分析・解釈の仕方を提示する。さらに、従来の「日本美術史」とは異なる文脈で発信されているアートのいくつかを紹介する。

授業で取り上げる二つの絵巻は、滋賀県の桑実寺に所蔵される「桑実寺縁起絵巻」と、その比較作品となる「酒伝童子絵巻」である。「桑実寺縁起絵巻」は、近江の桑実寺に逃げてきていた将軍足利義晴によって1532年に作られた。その中には近江の安土山付近の景色がリアルに描かれている。中世美術の中でも特筆すべき表現が展開するこの絵巻の絵を丁寧に見ながら、実景の写真と絵を比較し、その意味を読み解いていく。これらの作品を題材として「日本美術史」における研究や言説のあり方を考えるとともに、滋賀県的美術品を知るといっても意味のある授業としたい。

授業では、プロジェクターで作品の全体および細部を毎回映し、作品の表現を詳しく見ながら、その意味を考えていく。

到達目標

- (1) 美術作品に関心を持ち、美術の表現やその問題について自分の言葉で語るができるようになる。
- (2) 授業で提示する美術作品や美術に関する諸問題に対し、その内容を理解し、自分の視点で考えられるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	60	到達目標(2)については、レポート課題を出す。
上記以外	40	到達目標(1)については、レスポンスカードに書いてもらい、自分の意見を述べてもらう。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	表象としての美術、言説としての美術史	亀井若菜	ブリュッケ	4-434-03644-0
2	交差する視線 美術とジェンダー 2	鈴木杜鸞子, 馬淵明子, 池田忍, 金恵信 編	ブリュッケ	4-434-07049-5
3				

前提学力等

履修資格

講義名	芸術学						担当教員	亀井 若菜
講義コード	1400600	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	130HIS103							

授業計画							
回数	テーマ	概要		予習 / 復習			
第1回	イントロダクション	この授業の概要・目的、履修について説明する。	2	授業で学んだことを確認し、さらに			
第2回	正倉院宝物について	「日本美術史」の中で「至宝」とされる正倉院宝物。教科書や美術史の概説書ではいかに語られてきたか。またどのように捉えなおすこと	2	指示に従って予習する。 授業で学んだことを確認し、さらに			
第3回	正倉院宝物について		2	指示に従って予習する。 授業で学んだことを確認し、さらに			
第4回	「桑実寺縁起絵巻」について	「桑実寺縁起絵巻」について、詳細に見ていく。	2	指示に従って予習する。 授業で学んだことを確認し、さらに			
第5回	「桑実寺縁起絵巻」について		2	指示に従って予習する。 授業で学んだことを確認し、さらに			
第6回	「桑実寺縁起絵巻」について		2	指示に従って予習する。 授業で学んだことを確認し、さらに			
第7回	「桑実寺縁起絵巻」についての近代の語り	「桑実寺縁起絵巻」は、これまでの「日本美術史」の中で、いかに語られてきたのか。大正・昭和以降の概説書や展覧会図録から、その語	2	指示に従って予習する。 授業で学んだことを確認し、さらに			
第8回	「桑実寺縁起絵巻」についての近代の語り		2	指示に従って予習する。 授業で学んだことを確認し、さらに			
第9回	「酒伝童子絵巻」について	「桑実寺縁起絵巻」と制作事情が一部似ている「酒伝童子絵巻」を取り上げ、表現の違いを導く要因は何であるのかを考え、新たな絵の解	2	指示に従って予習する。 授業で学んだことを確認し、さらに			
第10回	「酒伝童子絵巻」について		2	指示に従って予習する。 授業で学んだことを確認し、さらに			
第11回	明治の美術行政 「日本美術史」という言説	明治時代の美術行政において、何が目指されて「日本美術史」という体系が構築されたのかを考える。	2	指示に従って予習する。 授業で学んだことを確認し、さらに			
第12回	明治の美術行政 「日本美術史」という言説		2	指示に従って予習する。 授業で学んだことを確認し、さらに			
第13回	美術の諸相	従来の「日本美術史」とは異なる文脈で発信されているアートのいくつかを紹介する。	2	指示に従って予習する。 授業で学んだことを確認し、さらに			
第14回	美術の諸相		2	指示に従って予習する。 授業で学んだことを確認し、さらに			
第15回	美術の諸相		2	指示に従って予習する。 授業で学んだことを確認し、さらに			
担当者から							

講義名	現代ジャーナリズム論						担当教員	
講義コード	1400650	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	335S0C303							

授業概要

ネットの進化はメディア社会を大きく変え、現代ジャーナリズムに構造的な変革を迫っている。近代市民社会の形成とともに生まれ、育ってきたジャーナリズム。いま「百年に一度」ともいわれる変化の時代。誰もが簡単にいろいろな情報にアクセスできるだけでなく、発信者にもなることができる。そして、この個人の発信情報は瞬間に世界中を駆けめぐる。新聞であれ、テレビであれ、既存の伝統メディアにとっては、伝えるべき情報を発掘し、取材し、編集するという、まさにその存在意義があらためて社会的にも歴史的にも問われている。

そんな新たな「ネット時代」の中で、ジャーナリズムとは何か。なんのために存在するのか。そこには、どんな問題が生じているのか。ジャーナリストはどのような職業で、その本分とはいかなるものか。その役割・機能と責任は変わるのか、変わらないのか。

本講義では、主として既存メディアの軸である新聞とテレビ放送を中心に、日本におけるジャーナリズム、ジャーナリストの現状と課題について、現実、倫理、歴史、理論の領域から考察する。その際、一般にあまりよく知られていない報道・編集の仕組みや情報収集の最前線である取材現場の実像を紹介し、国内外で日々生起するニュースと関連させ、自らの記者体験なども織り交ぜながら進める。

現代は反知性主義の時代ともいわれる。ネットという新たな言論空間において、ジャーナリズム、ジャーナリストのあり方、生き方はどうあるべきか。「ジャーナリズムを生きる」をテーマに倫理面からも追究する。言論・表現の自由、国民の「知る権利」が、なにゆえに重要は意味を持っているのかも合わせて考えたい。

到達目標

- (1) 時々刻々推移する国内外の「できごと」への関心、感性を高める。
- (2) 新聞を読む習慣とメディア・リテラシー（読み解く力）を身につける。
- (3) 情報の収集、発信、分析、評価における「倫理」の重みを知る。
- (4) ジャーナリズムの思想と行動をきちんとつかむ。
- (5) 「民主主義と言論の自由」という普遍的価値への理解を深める。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

期末レポートとレスポンスペーパーで総合的に判断する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ジャーナリズムの思想	原 寿雄	岩波書店	ISBN4-00-430494-6
2	ジャーナリズムの可能性	原 寿雄	岩波書店	ISBN978-4-00-431170-6
3	現代メディア史	佐藤 卓己	岩波書店	ISBN4-00-026015-4

前提学力等

履修資格

講義名	国際社会論						担当教員	
講義コード	1400685	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	3371LA309							

授業概要

20世紀後半以降、これまでの国民国家を基本単位とする世界のありようが大きく変わってきました。この変動はグローバル化と呼ばれるものですが、グローバル化はテレビやスマホのなかの話ではなく、私たちの日常生活にも深く影響を及ぼしているものです。たとえば、BTSに夢中になる人たち、リヴァプールやバルセロナのサッカーに魅了されるサポーター、排外主義者のデモ、着ているジーンズやジャケット、温暖化の深刻化や異常気象、バイト先の外国人の同僚、今朝飲んだコーヒー、SNSでのコミュニケーション、そしていま私たちにとって深刻な脅威となっているCOVID-19。これらすべてがグローバル化の現象といえるものです。

この講義では、グローバル化する世界の変化を歴史的に学び考えていきます。具体的には、グローバル化が進行するなかで、どのような現象や問題が起こっているのかを理解し、グローバル化する世界と日本社会を的確に認識するための社会(科)学の理論や概念を身につけることを目標とします。みなさんの暮らしのなかにある出来事を素材に、考えていくことで、日常をとらえかす作業をしていきましょう。

到達目標

- (1) グローバル化の歴史的な展開を理解する。
- (2) グローバル化に関する社会(科)学の諸理論、概念、問題設定を理解する。
- (3) 現代世界で起きている諸現象や問題、実践について、自らの暮らしや経験にひきつけて、国際社会論の視点から分析し、論理的に考察できるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

授業外学習

講義中に学んだことを、キャンパス内での知識にとどめず、現在進行形のさまざまな社会問題や自らの暮らしや生き方にひきつけて、日々考えてほしいと思います。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用せず、レジュメと資料を配布します。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	国境の越え方	西川長夫	平凡社	978-4582763805
2	魂の労働 ネオリベラリズムの権力論	渋谷望	青土社	978-4791760688
3	グローバリゼーションと植民地主義	西川長夫・高橋秀寿	人文書院	978-4409240816

参考書や参考となる映像資料等については、随時紹介します。

前提学力等

履修資格

講義名	現代中国論						担当教員	横田 祥子
講義コード	1400690	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	130EXC102							

授業概要

本授業では現代東アジア世界の中国、台湾、香港を中心に、その政治と社会の歴史的特徴と相互依存関係を解明し、さらに国際環境の東アジアにおける特徴を分析して、政治体制からみた新たな東アジア世界像を検討する。中国、香港、台湾の全体像を把握するために、政治体制や経済政策の変化に関するトピックを取り上げる。

到達目標

- (1) 政治体制の転換の背景と要因を理解する。
- (2) 中国・台湾・香港の政治体制の相違を理解し、三者の政治的・歴史的関係を理解する。
- (3) 中国で起きている社会問題について理解する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40	(1) 政治体制の転換の背景と要因を理解し、説明できる。(20%) (2) 中国・台湾・香港の政治体制の相違を理解し、三者の政治的・歴史的関係を把握できる。(10%) (3) 今後の日中関係について、自分の展望を述べるができる。(10%)
レポート課題	40	中国現代史・中国の現代の社会情勢に関し、自らが関心あるトピックについて情報を収集し、まとめることができる。
上記以外	20	授業の内容を理解し、発展的な質問ができる。

授業外学習

大学図書館には、中国の歴史や地理、各地の文化描いた映像資料や、歴史の激動を背景にした映画が多数ありますので、ぜひ鑑賞してください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ハンドブック 現代中国第四版	愛知大学現代中国学部	あるむ	9784863330634
2	現代中国を知るための60章	高井潔司, 遊川和郎	明石書店	4750317721
3	台湾：人間・歴史・心性	戴國輝	岩波書店	400430041X

前提学力等

履修資格

講義名	現代中国論							担当教員	横田 祥子
講義コード	1400690	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義		
ナンバリング番号	130EXC102								

授業計画

回数	テーマ	概要		予習 / 復習
第1回	イントロダクション 授業概要	授業概要の説明を行う。	2	中国関連の新聞記事を読んでおく。2 授業で学んだことについて、関連書2
第2回	中国(1) 地理、 言語	中国の地理と言語の多様性について学ぶ。	2	中国関連の新聞記事を読んでおく。2 配布資料を読み、地理についてさら2
第3回	中国(2) 政治体 制	現在の政治体制とその成り立ちを知る。	2	中国関連の新聞記事を読んでおく。2 配布資料を読み、地理についてさら2
第4回	中国(3) ー20世紀 前半 清朝から中華民	日本に縁のある中国の革命家の功績を学ぶ。	2	中国関連の新聞記事を読んでおく。2 日本に縁のある中国の革命家につい2
第5回	中国(4) 新中国 の成立	中華人民共和国の成り立ちと建国理念を学ぶ。	2	中国関連の新聞記事を読んでおく。2 配布資料を読み、日本と中国の政治2
第6回	中国(5) 文化大 革命	政治的動乱とその後の影響について学ぶ。	2	中国関連の新聞記事を読んでおく。2 文化大革命について資料を探して読2
第7回	中国(6) ー改革開 放とグローバリゼー	社会主義市場経済の導入と繁栄について学ぶ。	2	中国関連の新聞記事を読んでおく。2 改革開放についての映像資料を見 2
第8回	中国(7) 21世紀 中国の新たな課題	経済成長の影でどのような社会問題が生じているかを学ぶ。	2	中国関連の新聞記事を読んでおく。2 経済成長の影で起こった社会問題に2
第9回	台湾(1) 日本の 植民地統治	下関条約締結後に台湾は日本に割譲された。その植民地統治はどのよ うなものであったのか。また今日までの影響を学ぶ。	2	台湾関連の新聞記事を読んでおく。2 日本の植民地統治に関わる資料を探2
第10回	台湾(2) 中華民 国と国民党	もう一つの中国・中華民国が台湾にてどのような政治を展開したのか を学ぶ。	2	台湾関連の新聞記事を読んでおく。2 台湾の映像資料を鑑賞する。 2
第11回	台湾(3) 民主化 ・台湾ナショナリズム	台湾独立問題についてその思想と、若者世代の意識について学ぶ。	2	台湾関連の新聞記事を読んでおく。2 中台関係に関する映像資料を鑑賞す2
第12回	香港(1) 英国植 民地としての香港の成	英国の植民地として香港はどのような役割を果たしてきたかを学ぶ。	2	香港関連の新聞記事を読んでおく。2 香港映画を鑑賞しておく。 2
第13回	香港(2) 中国へ の返還と一国二制度	中国に返還されてから堅持するといわれてきた一国二制度に何が起き ているかを学ぶ。	2	香港関連の新聞記事を読んでおく。2 一国二制度の実情と香港の現状に関2
第14回	ソフトパワー戦略	中国のソフトパワー戦略としての孔子学院について学ぶ。	2	中国を取り巻く国際外交に関する新2 中国および日本・韓国のソフトパ 2
第15回	総括 アジアと中国	東アジア、東南アジアにおける中国の影響力について学ぶ。	2	中国を取り巻く国際外交に関する新2 一帯一路構想以降の国際関係につい2

担当者から

日本にとって極めて重要な国・中国について、私たちはどれくらい知っているのでしょうか。その基本知識を学んでいきます。

講義名	考古学						担当教員	佐藤 亜聖
講義コード	1400740	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	130HER101							

授業概要

考古学とは、物質資料を通じて過去を知る学問である。この「物質資料」とは必ずしも発掘調査で見つかる「埋蔵文化財」だけではなく、その対象はあらゆる分野におよび、そしてその楽しさもまた無限に広がる。ただし、「学問」である以上は体系的な手続きを必要とする。この授業では考古学がどのような学問であるか、その全体像とその楽しさについて学ぶ。

到達目標

- (1) 考古学の楽しさを感じる
- (2) 考古学に必要な基本的な方法論を理解する
- (3) 考古学がさまざまな学問や社会とつながって成り立っていることを理解する

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60	試験は記述式とする。評価基準は用語・概念を正確に理解して記述できているかで判断する。
レポート課題	40	レポートは授業内容をふまえているか、自分の言葉で記述しているかどうかを判定基準とする。
上記以外		

授業外学習

授業で講義できる内容は限られているので、特に方法論についてはしっかり参考文献を読み込んでほしい。レポート作成については単なる遺跡見学記ではなく、授業内容を理解して考古学的な記述を心掛けていただきたい。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	考古学研究法	勅使河原 彰	新泉社	9784787713100
2	岩波講座 日本考古学 1		岩波書店	9784000102612
3	日本考古学史	斎藤忠	吉川弘文館	9784642066225

授業中にプリントを配布します

前提学力等

履修資格

講義名	考古学						担当教員	佐藤 亜聖
講義コード	1400740	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	130HER101							

授業計画								
回数	テーマ	概要					予習/復習	
第1回	考古学の魅力	考古学とはなにか、について概説し、考古学のイメージを実物資料や様々な事例を通じて考える。	90分	下記に挙げる参考図書に目を通して	90分	授業内に提示する参考文献を熟読し	90分	90分
第2回	考古学のはじまり	ヨーロッパ・アジアにおける近代考古学研究のはじまりについて、研究史を概説する。	90分	前回授業で提示した参考文献を熟読し	90分	授業内に提示する参考文献を熟読し	90分	90分
第3回	日本における考古学の展開	日本考古学がどのように発展していったのかについて、研究史を概説する。	90分	前回授業で提示した参考文献を熟読し	90分	授業内に提示する参考文献を熟読し	90分	90分
第4回	人類の発生	人類の発生と世界への拡散について、人類学の成果と考古学の成果から解説する。	90分	前回授業で提示した参考文献を熟読し	90分	授業内に提示する参考文献を熟読し	90分	90分
第5回	日本における旧石器文化の展開	日本列島における人類の出現と、日本旧石器文化の展開について講義する	90分	前回授業で提示した参考文献を熟読し	90分	授業内に提示する参考文献を熟読し	90分	90分
第6回	縄文時代の社会	縄文文化の成立時期についての近年の自然科学分析の成果と、それが提起する問題を解説し、日本における縄文文化の展開を講義する。	90分	前回授業で提示した参考文献を熟読し	90分	授業内に提示する参考文献を熟読し	90分	90分
第7回	縄文から弥生へ	縄文時代から弥生時代への変化について、近年の年代観訂正を念頭に置いて解説する。	90分	前回授業で提示した参考文献を熟読し	90分	授業内に提示する参考文献を熟読し	90分	90分
第8回	古墳文化の展開と国家の形成	国家形成の七五三問題について解説し、古墳時代の特質を講義する。	90分	前回授業で提示した参考文献を熟読し	90分	授業内に提示する参考文献を熟読し	90分	90分
第9回	律令国家の成立	古墳時代後期以降の社会変化と律令国家の成立について、その連続性と断絶性に注目して解説する。	90分	前回授業で提示した参考文献を熟読し	90分	授業内に提示する参考文献を熟読し	90分	90分
第10回	考古学の方法 型式学	考古学研究に必要な方法について、主に型式学を中心に、ワークショップを交えながら講義を行う。	90分	前回授業で提示した参考文献を熟読し	90分	授業内に提示する参考文献を熟読し	90分	90分
第11回	考古学の方法 分布論	考古学研究に必要な方法について、主に分布論を中心に講義を行う。	90分	前回授業で提示した参考文献を熟読し	90分	授業内に提示する参考文献を熟読し	90分	90分
第12回	考古学の方法 遺跡の発掘と報告書の作成	考古学の基礎を形成する遺跡の発掘と報告書作成について、その概略を講義する。	90分	前回授業で提示した参考文献を熟読し	90分	授業内に提示する参考文献を熟読し	90分	90分
第13回	考古学と自然科学分析	考古学研究における自然科学分析の実用事例を紹介し、あわせて自然科学分析とのかかわり方について講義する。	90分	前回授業で提示した参考文献を熟読し	90分	授業内に提示する参考文献を熟読し	90分	90分
第14回	現代社会と考古学	考古学が現在の社会においてどのような位置づけにあるかについて、文化財保護行政、地域資源としての文化財、パブリックアーケオロ	90分	前回授業で提示した参考文献を熟読し	90分	授業内に提示する参考文献を熟読し	90分	90分
第15回	まとめとレポート講評	これまでの授業のまとめを述べるとともに、レポートの内容について講評をおこなう。	90分	前回授業で提示した参考文献を熟読し	90分	授業の要点について再整理を行い、	90分	90分

担当者から

考古学は事実に基づいて推理を行う学問である。資料を知り分析することが次の疑問を生み、そしてそれを解決すると新たな疑問が生まれる。これを積み重ねた先に、想像もしない新しい歴史像がみえてくる楽しさを知ってもらいたい。

講義名	考古学実習						担当教員	佐藤 亜聖 / 金 宇大
講義コード	1400741	単位数	1	開講期	前期	授業方法	実習	
ナンバリング番号	230HER203							

授業概要

考古学における実践的技術習得のための実習である。考古学の研究や学習には、基礎的技術の習得が欠かせない。地下から出土する遺構や遺物はその発掘記録を確実に作成するのが第一段階である。第二段階としては洗浄・修復で、その後、図化等（拓本・実測・写真・製図を含む）の第三段階を経て、初めて客観的資料となる。これら資料を用いて歴史を研究するのが考古学である。将来、考古学的方法を用いて研究・学習を進めるための実践的な技術力を習得する。したがって、小人数で実習を行うため、受講に当たっては、将来これらの技術を必要とするものが受講されたい。

到達目標

- (1) 遺物実測の方法
- (2) 遺構実測の方法
- (3) 拓本の方法
- (4) 石造物実測の方法
- (5) 図版の組み方

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	70	実習成果物としての実測図や拓本等提出資料
上記以外	30	実習態度等

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	『発掘調査のてびき』	文化庁文化財部記念物課監修・奈良文化財研究所	同成社	
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	考古学実習							担当教員	佐藤 亜聖 / 金 宇大	
講義コード	1400741	単位数	1	開講期	前期	授業方法	実習			
ナンバリング番号	230HER203									

授業計画										
回数	テーマ	概要					予習 / 復習			
第1回	考古学実習の目的・必要性	整理作業の全体像を説明し、実測図の作成、拓本採取の意義について解説する					2	課題作成		2
第2回	屋外調査の方法 遺構実測	遺構実測の方法を学ぶ。グリッドの意味と使い方、水系の結び方、遺構実測図の表記方法を学ぶ。					2	課題作成		2
第3回	屋外調査の方法 遺構実測	遺構実測の方法を学ぶ。グリッドの意味と使い方、水系の結び方、遺構実測図の表記方法を学ぶ。					2	課題作成		2
第4回	石造物の実測 層塔と一石五輪塔・石仏	石造層塔を用いて大型塔の実測方法を学ぶ。一石五輪塔など小型石造物の実測方法を学ぶ					2	課題作成		2
第5回	石造物の実測 層塔と一石五輪塔・石仏	石造層塔を用いて大型塔の実測方法を学ぶ。一石五輪塔など小型石造物の実測方法を学ぶ					2	課題作成		2
第6回	石造物の実測 層塔と一石五輪塔・石仏	石造層塔を用いて大型塔の実測方法を学ぶ。一石五輪塔など小型石造物の実測方法を学ぶ					2	課題作成		2
第7回	土器実測	完形須恵器2点、破片資料1点、割り付け資料1点を実測する					2	課題作成		2
第8回	土器実測	完形須恵器2点、破片資料1点、割り付け資料1点を実測する					2	課題作成		2
第9回	土器実測	完形須恵器2点、破片資料1点、割り付け資料1点を実測する					2	課題作成		2
第10回	土器実測	完形須恵器2点、破片資料1点、割り付け資料1点を実測する					2	課題作成		2
第11回	瓦実測	丸瓦、軒平瓦をそれぞれ1点実測する					2	課題作成		2
第12回	瓦実測	丸瓦、軒平瓦をそれぞれ1点実測する					2	課題作成		2
第13回	拓本	小型品と石造物の拓本をそれぞれ数点採取する					2	課題作成		2
第14回	レイアウト	実測図・拓本を版下にレイアウトする					2	課題作成		2
第15回	レイアウト	実測図・拓本を版下にレイアウトする					2	課題作成		2
担当者から										

講義名	考古学実習						担当教員	佐藤 亜聖 / 金 宇大
講義コード	1400742	単位数	1	開講期	後期	授業方法	実習	
ナンバリング番号	230HER204							

授業概要

考古学における実践的技術習得のための実習である。考古学の研究や学習には、基礎的技術の習得が欠かせない。地下から出土する遺構や遺物はその発掘記録を確実に作成するのが第一段階である。第二段階としては洗浄・修復で、その後、図化等（拓本・実測・写真・製図を含む）の第三段階を経て、初めて客観的資料となる。これら資料を用いて歴史を研究するのが考古学である。将来、考古学的方法を用いて研究・学習を進めるための実践的な技術力を習得する。したがって、小人数で実習を行うため、受講に当たっては、将来これらの技術を必要とするものが受講されたい。

到達目標

- (1) レベル測量の方法
- (2) 平板測量の方法
- (3) 土層図作成の方法
- (4) 遺構立面図作成の方法
- (5) フォトショップ・イラストレーターを用いた画像加工、レイアウト、デジタルトレースの方法

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	70	実習成果物としての実測図や拓本等提出資料
上記以外	30	実習態度等

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	『発掘調査のてびき』	文化庁文化財部記念物課監修・奈良文化財研究所	同成社	
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	考古学実習							担当教員	佐藤 亜聖 / 金 宇大	
講義コード	1400742	単位数	1	開講期	後期	授業方法	実習			
ナンバリング番号	230HER204									

授業計画

回数	テーマ	概要	予習 / 復習	
第1回	水準点測量1	レベルを使用して標高を移動する方法を体得する。	2	課題作成
第2回	水準点測量2	レベルを使用して標高を移動する方法を体得する。	2	課題作成
第3回	水準点測量3	レベルを使用して標高を移動する方法を体得する。	2	課題作成
第4回	地形・遺構の測量(平板測量)1	キャンパス内の地形を平板を用いて測量・作図する。	2	課題作成
第5回	地形・遺構の測量(平板測量)2	キャンパス内の地形を平板を用いて測量・作図する。	2	課題作成
第6回	地形・遺構の測量(平板測量)3	キャンパス内の地形を平板を用いて測量・作図する。	2	課題作成
第7回	地形・遺構の測量(平板測量)4	キャンパス内の地形を平板を用いて測量・作図する。	2	課題作成
第8回	地形・遺構の測量(土層図作成)1	キャンパス内に設置した模擬遺構(土壙)の土層断面図を作成する。	2	課題作成
第9回	地形・遺構の測量(土層図作成)2	キャンパス内に設置した模擬遺構(土壙)の土層断面図を作成する。	2	課題作成
第10回	地形・遺構の測量(立面図作成)1	キャンパス内の石垣の立面図を作成する。	2	課題作成
第11回	地形・遺構の測量(立面図作成)2	キャンパス内の石垣の立面図を作成する。	2	課題作成
第12回	平置き遺物の実測	金属遺物など平置きで遺物を実測する技術を習得する。	2	課題作成
第13回	グラフィックソフトを用いた画像処理と図面	Adobe社の「Photoshop」と「Illustrator」を用いた画像の処理と図面のデジタルトレースの方法を会得する。	2	課題作成
第14回	グラフィックソフトを用いた画像処理と図面	Adobe社の「Photoshop」と「Illustrator」を用いた画像の処理と図面のデジタルトレースの方法を会得する。	2	課題作成
第15回	写真撮影の方法	考古学における写真撮影の基礎を学ぶ。	2	課題作成

担当者から

講義名	考古学特論 A						担当教員	佐藤 亜聖
講義コード	1400751	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号								

授業概要

考古学は、過去人類が残した物質的資料としての「遺跡」と「遺物」というモノから歴史を分析する学問である。ただし、モノからモノを研究するのではなく、あくまで歴史叙述へのまなざしを失ってはならない。本講義では中世とはなにか、を念頭に置いて、考古資料を用いた中世社会の復元を講じる。

到達目標

- (1) 中世考古学とはどのような学問かを理解できる。
- (2) 中世の社会構造を考古学から知ることができる。
- (3) 遺構・遺物から社会を復元する手法を学ぶことができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70	試験は記述式とする。評価基準は授業で学んだ歴史用語や語句を用いて、問いに対して的確に答えられているかで判断する
レポート課題		
上記以外	30	出席票を兼ねたレスポンスカードを配布する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	中世民衆の生業と技術	網野善彦	東京大学出版会	9784130201301
2	中世的世界の形成	石母田正	岩波書店	9784003343616
3	歴史学が挑んだ課題	歴史科学協議会	大月出版	9784272510115

授業中にプリントを配布する

前提学力等

「考古学」「基層文化論」を履修後に履修することが望ましい

履修資格

講義名	考古学特論A							担当教員	佐藤 亜聖	
講義コード	1400751	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義			
ナンバリング番号										

授業計画											
回数	テーマ	概要					予習 / 復習				
第1回	中世考古学の構想	中世とはどのような時代かについての文献史学の枠組みを整理し、考古学はこれにどのような取り組んできたかをのべる。					2	授業内で紹介する参考文献を熟読す			4
第2回	中世の始まり1 律令規定の世界とその変質	古墳時代に形成された地域社会を大きく変革したのが律令社会であり、これがどのように変質していったかが中世社会の成立を考える指					2	前回授業で提示した課題図書・文献	2		
第3回	中世の始まり2 土器生産と流通・交易	中世の始まりを王朝的土器様式、中世的土器様式をキーワードとして読み解き、あわせて海域アジア世界における交易体制への関与を検討					2	前回授業で提示した課題図書・文献	2		
第4回	中世の始まり3 土地開発と荘園制	中世社会の根底を支えた荘園制について、9世紀からの変化を追うことで検討を行う。特に領域型開発と領域型荘園の成立に注目する。					2	前回授業で提示した課題図書・文献	2		
第5回	中世の始まり4 都市と寺院	土地開発、中世荘園の成立と複雑にリンクするのが都市であり、また寺社権門である。全国的に11世紀中葉から後半から中世都市が成立し					2	前回授業で提示した課題図書・文献	2		
第6回	平氏政権と対外交通・国内流通	12世紀後半は宋銭・白磁の大量流入と、地方までの浸透という大きな画期であるが、同時に瀬戸内海をはじめ国内流通路の整備という意味					2	前回授業で提示した課題図書・文献	2		
第7回	鎌倉時代の変革	鎌倉時代開始期は特に仏教を中心として南宋文化流入の最大画期にあたる。これに伴い新しい技術や思想が流入し、やがて新しい「日本文					2	前回授業で提示した課題図書・文献	2		
第8回	南北朝期の諸問題1 土地開発と居館、武士団	14世紀は13世紀を通じて形成された「在地社会」が再編を迫られる時期である。その背景に武士団における惣領制の解体と、集村化を伴う					2	前回授業で提示した課題図書・文献	2		
第9回	南北朝期の諸問題2 手工業生産	14世紀は中世後期の開始期に相当する。これは単に中世が前後に分けられるというのではなく、近世への胎動を導く画期と評価できる。そ					2	前回授業で提示した課題図書・文献	2		
第10回	応仁の乱の再評価	14世紀の変革を受け、15世紀は量産化を主とする生産様式の変革期である。応仁の乱はこうした社会状況を背景として励起されたものであ					2	前回授業で提示した課題図書・文献	2		
第11回	戦国時代の到来	戦国時代を室町幕府による社会調停機能を失った社会が、織豊政権によって秩序を取り戻す過程と捉えた場合、その主体としての在地社会					2	前回授業で提示した課題図書・文献	2		
第12回	中世から近世へ1 都市	中世から近世への移行について、奈良に注目して解説し、都市権力・共同体の関係を講義する。					2	前回授業で提示した課題図書・文献	2		
第13回	中世から近世へ2 産業と新技術	中世から近世への移行について、土器生産、採石加工技術を中心とした産業に注目して講義する。					2	前回授業で提示した課題図書・文献	2		
第14回	中世から近世へ3 墓制	中世から近世への移行について、中世墓塔から近世墓標への変化、近世的墓地の成立から論じる。					2	前回授業で提示した課題図書・文献	2		
第15回	まとめ	一連の授業を通して「中世とは何か」を考える。					2	前回授業で提示した課題図書・文献	2		

担当者から

特論なのでかなり専門性の強い内容となる。そのため、毎回の予習復習が重要となる。考古学で歴史をどう見るか、というダイナミックな視点の面白さを伝えたい。

講義名	考古学特論B						担当教員	
講義コード	1400752	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号								

授業概要

出土した物質資料を取り扱う考古学の様々なアプローチの中でも、特に「遺物」すなわち「モノ」を取り扱った研究をいかにして進めていくか、その具体的な方法論について、特に古墳時代の研究事例を中心に、実例に即して詳説していく。特定の考古遺物をテーマとした分析が、どのように提示・解釈され、ひとつの論文へと結実していくか、その研究プロセスを示すことで、漠然とした考古学の「研究」に対するイメージを固める。

到達目標

- (1) 考古学の基本的なアプローチ方法の中でも、特にモノを通じた研究の具体的な方法を理解する。
(2) 考古学の研究に自らが取り組むとなった場合の、実際に取り組むべき作業の大きなイメージをつかむ。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	到達目標(1)・(2)について、方法論的な理解度を確認するための論述式試験を実施する。
レポート課題		
上記以外	50	毎回の授業後に、授業内容に関する簡単な小テストを実施し、その結果を平常点とする。

原則として、3分の1以上欠席した場合は評価の対象としない。

授業外学習

授業中に紹介する書籍・論文に随時目を通すのが望ましい。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業開始時にレジメを配布し、パワーポイントを用いて授業を進める。適宜、動画を使用する。

前提学力等

履修資格

講義名	古文書演習						担当教員	高木 純一
講義コード	1400890	単位数	1	開講期	後期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	230HIS203							

授業概要

歴史学における史料は多様であるが、とくに日本史の場合、その中心を占めるのは文書史料である。本講義では主に中世の古文書を取り上げ、研究の基礎となる史料読解能力を身につけることを目標とする。
 文書の様式・機能を理解するとともに、そうした史料のあり方から見てくる日本中世社会の特徴についても理解を深めることを目指したい。
 具体的な進行としては、講師の指定する史料を受講生に割り振り、毎週一人がその解読の発表をする。それを受けて、他の受講生との討論および講師による修正・補足を行う。

到達目標

日本中世の古文書を読解することができる。
 日本中世社会の特徴を古文書の形態や機能から説明することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70	到達目標 について論述試験を行う。
レポート課題		
上記以外	30	演習内での書き下し文・現代語訳の発表を評価する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	使用しない。			
2				
3				

毎週プリントを配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	『新版 古文書学入門』	佐藤進一	法政大学出版局、1997年	
2	『日本史を学ぶための古文書・古記録訓読法』	菊米一志	吉川弘文館、2015年	
3	『読めなくても大丈夫！ 中世の古文書入門』	小島道裕	河出書房新社、2016年	

前提学力等

履修資格

講義名	古文書演習							担当教員	高木 純一	
講義コード	1400890	単位数	1	開講期	後期	授業方法	演習			
ナンバリング番号	230HIS203									

授業計画										
回数	テーマ	概要		予習/復習						
第1回	オリエンテーション	演習の方針・進行の確認を行う。日本中世史研究における古文書史料のバリエーションを紹介する。	2	事前に配布する参考文献を熟読して2 講義内容をプリントにまとめ、感想2						
第2回	担当者による史料解読の発表	朝廷・天皇の文書を読む。	2	事前に配布する古文書の書き下し文3 演習での書き下し文・現代語訳の修1						
第3回	担当者による史料解読の発表	朝廷・天皇の文書を読む。	2	事前に配布する古文書の書き下し文3 演習での書き下し文・現代語訳の修1						
第4回	担当者による史料解読の発表	朝廷・天皇の文書を読む。	2	事前に配布する古文書の書き下し文3 演習での書き下し文・現代語訳の修1						
第5回	担当者による史料解読の発表	武家文書を読む。	2	事前に配布する古文書の書き下し文3 演習での書き下し文・現代語訳の修1						
第6回	担当者による史料解読の発表	武家文書を読む。	2	事前に配布する古文書の書き下し文3 演習での書き下し文・現代語訳の修1						
第7回	担当者による史料解読の発表	武家文書を読む。	2	事前に配布する古文書の書き下し文3 演習での書き下し文・現代語訳の修1						
第8回	担当者による史料解読の発表	戦国大名の文書を読む。	2	事前に配布する古文書の書き下し文3 演習での書き下し文・現代語訳の修1						
第9回	担当者による史料解読の発表	戦国大名の文書を読む。	2	事前に配布する古文書の書き下し文3 演習での書き下し文・現代語訳の修1						
第10回	担当者による史料解読の発表	戦国大名の文書を読む。	2	事前に配布する古文書の書き下し文3 演習での書き下し文・現代語訳の修1						
第11回	担当者による史料解読の発表	庶民の文書を読む。	2	事前に配布する古文書の書き下し文3 演習での書き下し文・現代語訳の修1						
第12回	担当者による史料解読の発表	庶民の文書を読む。	2	事前に配布する古文書の書き下し文3 演習での書き下し文・現代語訳の修1						
第13回	担当者による史料解読の発表	庶民の文書を読む。	2	事前に配布する古文書の書き下し文3 演習での書き下し文・現代語訳の修1						
第14回	担当者による史料解読の発表	庶民の文書を読む。	2	事前に配布する古文書の書き下し文3 演習での書き下し文・現代語訳の修1						
第15回	演習のまとめ	演習で取り上げてきた古文書を振り返り、全体を総括する。	2	事前に配布する参考文献を熟読して3 講義内容をプリントにまとめ、感想2						
担当者から										

講義名	古文書演習						担当教員	東 幸代
講義コード	1400900	単位数	1	開講期	前期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	230HIS204							

授業概要

本演習のねらいは、近世・近代の古文書の解読を通して、くずし字解読の基礎能力を身に付けることにある。あわせて、文献史料読解能力の向上と、近世・近代社会に対する理解の深化を目指す。

到達目標

漢字の部首のくずし方をマスターする。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	80	漢字のくずし字が解読できているか。
レポート課題		
上記以外	20	毎回の予習課題を完了しているか。 小テストの結果。

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。

授業外学習

予習を必須とする。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	くずし字用例辞典	児玉幸多	東京堂出版	
2				
3				

前提学力等

日本史料講読を履修済みであること。

履修資格

講義名	古文書演習						担当教員	東 幸代
講義コード	1400900	単位数	1	開講期	前期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	230HIS204							

授業計画									
回数	テーマ	概要				予習 / 復習			
第1回	ガイダンス	講義の概要説明。 実力確認のための小テストをおこなう。				2	「日本史料講読」などでみられた近		1
							次回授業用の古文書の解読		
第2回	古文書コピーの輪読	領知宛行状を読む。				2	授業用の古文書の解読		
							次回授業用の古文書の解読		1
第3回	古文書コピーの輪読	領知宛行状を読む。				2	授業用の古文書の解読		
							次回授業用の古文書の解読		1
第4回	古文書コピーの輪読	年貢免定を読む。				2	授業用の古文書の解読		
							次回授業用の古文書の解読		1
第5回	古文書コピーの輪読	年貢免定を読む。				2	授業用の古文書の解読		
							次回授業用の古文書の解読		1
第6回	古文書コピーの輪読	本学所蔵古文書を読む。				2	授業用の古文書の解読		
							次回授業用の古文書の解読		1
第7回	古文書コピーの輪読	本学所蔵古文書を読む。				2	授業用の古文書の解読		
							次回授業用の古文書の解読		1
第8回	古文書コピーの輪読	本学所蔵古文書を読む。				2	授業用の古文書の解読		
							次回授業用の古文書の解読		1
第9回	古文書コピーの輪読	本学所蔵古文書を読む。				2	授業用の古文書の解読		
							次回授業用の古文書の解読		1
第10回	古文書コピーの輪読	本学所蔵古文書を読む。				2	授業用の古文書の解読		
							次回授業用の古文書の解読		1
第11回	古文書コピーの輪読	年賀状を読む。				2	授業用の古文書の解読		
							次回授業用の古文書の解読		1
第12回	古文書コピーの輪読	年賀状を読む。				2	授業用の古文書の解読		
							次回授業用の古文書の解読		1
第13回	古文書コピーの輪読	木版印刷物を読む。				2	授業用の古文書の解読		
							次回授業用の古文書の解読		1
第14回	古文書コピーの輪読	木版印刷物を読む。				2	授業用の古文書の解読		
							小テスト用の学習 (= これまでの復		1
第15回	まとめ	学習した部首のくずし方の確認。 実力確認のための小テストをおこなう。				2	小テスト用の学習 (= これまでの復		
							返却された小テストの復習		1
担当者から									

講義名	自然地理学						担当教員	青木 哲哉
講義コード	1400970	単位数	2	開講期	前期集中	授業方法	講義	
ナンバリング番号	330SOC306							

授業概要

この授業では、第四紀（おおむね人類の時代で約200万年前から現在まで）の自然環境をテーマに、自然地理学に係わる研究内容を扱う。自然地理学は、多岐にわたる自然環境を研究対象とする地理学の主要な分野である。授業では、自然環境の中でも代表的な気候と地形を中心にして、第四紀で最も大きい環境変化であった氷河期、その後における気候変化、人間の主要な生活舞台となってきた平野（沖積平野）、ならびにそこで頻発した洪水VS人間の闘い（水害）を取り上げる。これらの各項目は多様な自然環境と係わって研究されており、授業は地質や水文（河川・海洋）などにも言及する一般的・包括的な内容となる。

このような自然環境は、人間活動と密接に関係し、人間社会や地域文化を深く理解する上での重要な知識に数えられる。また、それは教職の自然地理分野に必須の内容にあたり、教育現場で主体的に活用することができる。本授業では、受講生がこうした自然環境の専門知識を習得し、その基本的な内容について記述・説明できるようになることを目的とする。

授業は、講義形式で行い、平易な問題を口頭で出題しながら進める。

到達目標

- (1) 自然地理学の用語について、意味を理解した上で適切に記述できるようになる。
- (2) 自然環境の基本的かつ専門的な内容を説明できるようになる。
- (3) 自然地理学の調査方法や分析方法の要点を説明できるようになる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	授業内テスト（90%）と授業内レポート（10%）で評価する。 授業内テストは、到達目標(1)(2)(3)の達成状況を確認するためのものである。到達目標に係わる授業内容の理解と把握の程度を基準に評価する。

詳細は第1回授業で説明する。

授業外学習

予習では、授業計画の授業内容に記されているキーワードの意味を調べること（調べる方法は自由）。これを行うと、授業内容が理解しやすくなる。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用しない。授業でプリントを適宜配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書は特になし。

前提学力等

中学社会の自然地理分野について理解していることが望ましい。

履修資格

講義名	質的データ解析論						担当教員	櫻井 悟史
講義コード	1400980	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	230S0C205, 235S0C205							

授業概要

社会調査法のうち、「量的調査法」に対して「質的調査法」として総称されるデータの収集方法と分析方法について、それぞれの方法に基づく優れた既存研究や、担当者個人の研究を例に挙げて、どのような方法がどのように研究に生かされているかを明らかにする。と共に、実際にそれぞれの調査・分析方法に関してレポート課題を与え、成果を提出してもらう。データの収集・分析方法の単なるマニュアルでなく、調査に至るまでの準備や、調査を通じて適切な問いを立ち上げるプロセスに踏み込み、グループワークなども通して、質的調査の方法を習得することを目的とする。

到達目標

- (1) 先行研究や必要な統計データを収集する手段を使用できる。
- (2) 特定のテーマのインタビューにあたり、適切な調査依頼と質問項目の策定ができる。
- (3) 質問項目に基づきつつ、適切に質問項目を追加・削除してインタビューを実施できる。
- (4) 参与観察の基本的な考え方を習得できる。
- (5) 行なったインタビュー内容を、論文・報告書の作成に使えるように整理することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	以下の5回のレポートを課す。 1) 先行研究や関連資料、統計データを収集することができる(15%)。 2) インタビュー調査を適切に依頼し、また事前に適切な質問項目を設定することができる(15%)
上記以外		毎回提出してもらったレスポンスカードの内容が優れていた場合、加点を行うことがある。1回につき2点、ただし15回の授業を通して、5回以内(10点以内)とする。

レポートの提出回数が3回以下の場合、評価の対象としない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	実践 自分で調べる技術	宮内泰介・上田昌文	岩波書店	400431853X
2	最強の社会調査入門：これから質的調査をはじめよう人のために	前田拓也・秋谷直矩・朴沙羅・木下衆	ナカニシヤ出版	4779510791
3	よくわかる質的調査 プロセス編	谷富夫・山本努	ミネルヴァ書房	4623058441

授業中にレジュメやレポート執筆に必要な資料を配付する。

前提学力等

社会調査士資格認定科目(F科目。資格取得にはE科目の量的データ解析論 と本科目のいずれか1つを履修すること)であり、1回生配当の社会調査論を履修済みであることが望ましい。

履修資格

講義名	質的データ解析論					担当教員	櫻井 悟史
講義コード	1400980	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義
ナンバリング番号	230S0C205, 235S0C205						

授業計画							
回数	テーマ	概要		予習 / 復習			
第1回	オリエンテーション	質的調査法の概要と講義全体のスケジュール、レポート評価課題について説明する。	2	・参考書を読んで、質的データとは	2	・講義内容を自分の言葉でまとめな	2
第2回	社会調査における「質的調査法」の位置づけ	量的調査と質的調査を対比させることで、質的調査とはいかなるものか説明する。	2	・参考書を読んで「質的調査法」と	2	・講義内容を自分の言葉でまとめな	2
第3回	調査における「問題意識」の重要性	調査を行なう上で、どのような問題意識を持つかによって、同じ事例を見ていても全く見え方が変わってくる。調査を進めていく中での問	2	・参考書を読んで研究における「問	2	・講義内容を自分の言葉でまとめな	2
第4回	質的調査におけるドキュメントの発見・収	調査を行なうに当たって、まずしなければならないのはテーマに関する先行研究や関連資料の収集である。それらの収集方法について具体	2	・参考書を読んで、ドキュメント	2	・講義内容を自分の言葉でまとめな	2
第5回	ドキュメント分析の具体例と実践	収集した文書資料をどのように分析するか、その具体的な実践例と方法を説明する。	2	・新聞データベース「聞蔵」や	2	・講義内容を自分の言葉でまとめな	2
第6回	社会調査という行為の社会性：「調査地被害」	社会調査を行う上で注意しなければならない調査倫理、そして調査そのものが持つ社会性という問題について論じる。	2	・参考書を読んで「調査地被害」に	2	・講義内容を自分の言葉でまとめな	2
第7回	聞き取り調査による素材の収集とデータ化の	インタビュー調査をどのように行なうか、その依頼のプロセスに始まって、実際にインタビューを行なう上での注意点、またインタ	2	・参考書を読んで「調査依頼書」を	2	・講義内容を自分の言葉でまとめな	2
第8回	聞き取り調査の具体例と実践	聞き取り調査に基づく研究事例を紹介することを通して、その具体的な方法論を説明する。	2	・インタビュー調査を用いた論文を	2	・講義内容を自分の言葉でまとめな	2
第9回	参与観察法による素材の収集とデータ化のプ	参与観察による調査をどのように行なうか。その注意点やデータの整理・収集、その分析方法について説明する。	2	・参考書を読んで「参与観察」の方	2	・講義内容を自分の言葉でまとめな	2
第10回	参与観察調査の具体例	参与観察調査に基づく研究事例を紹介することを通して、その具体的な方法論を説明する。	2	・参与観察を行なう課題に取り組む	2	・講義内容を自分の言葉でまとめな	2
第11回	データの整理と編集：メモ・ノート・カード	史資料・インタビュー・参与観察等を通じて様々な形で集まったデータについて、いかにメモやフィールドノーツを作成し、また整理する	2	・インタビュー調査を行なう課題に	2	・講義内容を自分の言葉でまとめな	2
第12回	歴史社会学的研究：内容分析と言説分析	内容分析・言説分析に基づく研究事例を紹介することを通して、その具体的な方法論を説明する。	2	・参考書を読んで内容分析、言説分	2	・講義内容を自分の言葉でまとめな	2
第13回	言説生成研究と社会問題の社会学	構築主義的アプローチに基づく研究事例を紹介することを通して、「社会問題」の具体的な分析方法を説明する。	2	・授業内で取り上げた書籍や論文を	2	・講義内容を自分の言葉でまとめな	2
第14回	ライフストーリー研究：フィールドとして	ある1人の個人の人生にも、そこには「社会」が反映している。そうした個人もまた一つのフィールドであり、そうした個人を通じて社会	2	・参考書を読んでライフストーリー	2	・講義内容を自分の言葉でまとめな	2
第15回	概念の構築と脱文脈化・再文脈化：調査を	実際に調査したデータを、報告書や卒論にまとめるまでにどのようなプロセスを経るのかについて説明し、講義全体のまとめを行う。	2	・まとめの課題に取り組むこと	2	・講義内容を自分の言葉でまとめな	2
担当者から							
グループワークを多く行なう授業となっている。レポートは出席を前提として課するため、欠席しないこと。							

講義名	社会学概論						担当教員	丸山 真央 / 中村 好孝 / 大野 光明 / 櫻井 悟史
講義コード	1401050	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講	
ナンバリング番号	130SOC102, 135SOC201							

授業概要

本講義では、社会学の基本的な思考方法、基礎概念、研究方法を学ぶ。あわせて社会学の主要分野の入門的な講義を行い、各分野の基本的な視点と論点を理解する。

到達目標

- (1)社会学の基本的な思考方法、基礎概念、研究方法を理解することで、社会現象を社会的に理解することができるようになる。
(2)社会学の主要分野の基本的な視点と論点を知ること、様々な社会現象への関心を深める一歩を獲得することができるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	授業の各回または担当教員ごとにレポート課題等を課し、それに基づいて成績評価をする。到達目標の(1)(社会学の基本的な思考方法を理解し、基礎概念を修得することで、社会現象を社会的に理解することができるようになる)、(2)(社会学の主要分野の成り立ちと今日的争点を知ること、様々な社会現象への関心を深める一歩を獲得すること
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN / ISSN
1				
2				
3				

本講義全体で共通の教科書は使用しない。(各教員がレジユメを配布するなど、詳しくは授業内でアナウンスする)

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN / ISSN
1	社会学 第5版	アンソニー・ギデンズ	而立書房	4880593508
2	Do! ソシオロジー 改訂版 -- 現代日本を社会学で診る	友枝敏雄他編	有斐閣	4641124965
3	社会学入門	塩原良和・竹ノ下弘久編	弘文堂	4335551401

各回担当の教員から授業やレジユメ等で紹介する。

前提学力等

高校の倫理・政治経済、現代社会、世界史、日本史で修得している程度の知識は必要だが、とくに問わない。

履修資格

講義名	社会学概論						担当教員	丸山 真央 / 中村 好孝 / 大野 光明 / 櫻井 悟史
講義コード	1401050	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講	
ナンバリング番号	130SOC102, 135SOC201							

授業計画

回数	テーマ	概要		予習 / 復習	
第1回	ガイダンス&イントロダクション	授業の進め方、成績評価の方法等を理解する。また、社会学を学ぶ意義について洞察を深める。	2	最近の新聞やテレビのニュース番組を再読し、授業で配布された資料を再読し、	2
第2回	村落・地域社会	村落・地域社会の社会学的研究の基礎を学ぶ。	2	最近の新聞やテレビのニュース番組を再読し、授業で配布された資料を再読し、	2
第3回	階層・階級	階層・階級の社会学的研究の基礎を学ぶ。	2	最近の新聞やテレビのニュース番組を再読し、授業で配布された資料を再読し、	2
第4回	都市・公共圏	都市社会学の基本的な理論と概念を学び、現代の都市における差別や格差の問題から公共圏とは何かを考える。	2	最近の新聞やテレビのニュース番組を再読し、授業で配布された資料を再読し、	2
第5回	逸脱・社会問題	社会問題に関する基本理論を学ぶ。	2	報道や身の回りにおける「社会問題」を再読し、授業で配付した資料を使って内容を	2
第6回	医療	医療社会学の基礎を学ぶ。	2	医療について報道や身の回りで見た内容を再読し、授業で配付した資料を使って内容を	2
第7回	福祉	福祉についての社会学的な議論を学ぶ。	2	福祉について報道や身の回りで見た内容を再読し、授業で配付した資料を使って内容を	2
第8回	ネットワーク	社会ネットワーク論に関わる基礎的な理論を学ぶ。	2	参考図書などを読み、社会ネットワークに関する資料の復習と関連	
第9回	軍事・安全保障	軍隊や安全保障がどのように社会を形作るのかを学ぶ。	2	最近の新聞やテレビのニュース番組を再読し、	2
第10回	マイノリティ・差別	差別が社会のなかでどのようにつくられるのかを学ぶ。	2	最近の新聞やテレビのニュース番組を再読し、	2
第11回	社会運動	社会運動という視点から社会をとらえかえす。	2	最近の新聞やテレビのニュース番組を再読し、	2
第12回	エスノメソドロジー・会話分析	ミクロ社会学、エスノメソドロジー・会話分析の基本を学ぶ。	2	日常会話について、各自が最近感じている内容を再読し、	2
第13回	歴史	社会学における歴史の位置付けについて学ぶ。	2	新聞（新聞データベース）やインタビューを再読し、	2
第14回	現代文化	身近にある文化について社会学的に考えるための基本を学ぶ。	2	第13回の講義の終わりに現代文化について再読し、	2
第15回	まとめ	本講義の内容をまとめ、社会学の視点は何をもたらすかを学ぶ。	2	第14回の講義の終わりに「社会」について再読し、	2

担当者から

講義名	社会学史						担当教員	中村 好孝
講義コード	1401060	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	335S0C308							

授業概要

これまでの社会学の歴史について、社会学誕生以前の社会思想、近代に生まれた社会学、現代展開中の社会学の三期に分けて、主要な理論の概要とそれらの展開について学ぶ。社会学の歴史を学ぶことがなぜ大切なのかといえは、本講義でとりあげる社会学的な構え・方法態度は、今でも通用するからである。「社会学」の歴「史」の講義であるが、歴史について学ぶことと、一通りの社会学的な発想について身につけることを、同じくらいに重要な目標として設定する。

到達目標

(1)社会学の歴史について一通りの知識を得る。(2)個々の社会学の議論・理論について理解する。(3)自分が今生きている社会について、社会学的に考えるための思考方法を身につける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70	到達目標(1)について、穴埋め式あるいは選択式問題を行なう(20%)。到達目標(2)について、穴埋め式あるいは選択式問題を行なう(20%)。到達目標(3)について、論述式試験を行なう(30%)。
レポート課題		
上記以外	30	到達目標(1)について、毎回小テストを行なう(15%)。到達目標(2)について、毎回小テストを行なう(15%)。

小テストを3分の1以上提出しなかった者は評価対象にしない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

通常はレジユメを配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	社会学的想像力	ライト・ミルズ	ちくま学芸文庫	978-4480097811
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	社会学史							担当教員	中村 好孝	
講義コード	1401060	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義			
ナンバリング番号	335S0C308									

授業計画

回数	テーマ	概要	2	予習/復習	2
第1回	イントロダクション	社会学の歴史、社会思想の歴史について学ぶ意義について考える。	2	シラバスを読んで授業内容について	2
第2回	ホブズ	ホブズの議論から、社会の成立について考える。	2	今後の授業内容について整理してお	2
第3回	社会契約説	ロックとルソーの議論を中心に、社会契約説について考える。	2	社会があるとはどういうことなの	2
第4回	功利主義	ベンサム議論から、功利主義について考える。	2	授業内容について整理理解した上	2
第5回	自由主義1	ミルの議論から、旧来の自由主義について考える。	2	「社会契約（説）」という言葉につ	2
第6回	自由主義2	現代の自由主義について考える。	2	授業内容について整理理解した上	2
第7回	分業論	アダム・スミスの議論から、分業という観点から社会の成立について考える。同感という概念を理解する。	2	「功利主義」という言葉について、	2
第8回	史的唯物論	マルクスの議論から、社会を歴史的に捉えるということについて学ぶ。	2	授業内容について整理理解した上	2
第9回	ヴェーバー	ヴェーバーの議論から、近代社会の近代人について考える。	2	自由主義について、高校までに習っ	2
第10回	デュルケーム	デュルケームの議論から、社会学の方法について考える。	2	授業内容について整理理解した上	2
第11回	構造機能主義	パーソンズの社会学から、一般理論の試みについて学ぶ。	2	ドラえもん秘密道具「どくさいス	2
第12回	消費社会論	現代の社会学の一つの展開として、消費社会論について学ぶ。	2	授業内容について整理理解した上	2
第13回	ミクロ社会学	現代の社会学の一つの展開として、ミクロ社会学について学ぶ。	2	分業について、高校までに習ったこ	2
第14回	個人化論	現代の社会学の一つの展開として、個人化という議論について学ぶ。	2	授業内容について整理理解した上	2
第15回	全体のまとめ	社会の成立についての考察という観点から、全体の議論を整理する。	2	「経済を回す」という最近流行の言	2
				授業内容について整理理解した上	2
				「タマネギを食べると血液がサラサ	2
				授業内容について整理理解した上	2
				社会学の方法とはどんなものなの	2
				授業内容について整理理解した上	2
				人間の集団がまとまるためには何が	2
				授業内容について整理理解した上	2
				デパートのフロア構成について調べ	2
				授業内容について整理理解した上	2
				対面場面で観察できる社会について	2
				授業内容について整理理解した上	2
				個人で人生を切り開くことができる	2
				授業内容について整理理解した上	2
				これまで学んだ様々な社会イメージ	2
				授業内容について整理理解した上	2
担当者から					

講義名	地域社会調査実習						担当教員	塚本 礼仁 / 櫻井 悟史
講義コード	1401125	単位数	1	開講期	通年	授業方法	実習	
ナンバリング番号	312ETR301-C, 330SOC303, 335SOC320							

授業概要

社会調査・地域調査に必要とされる実践的能力の習得をめざして、受講生全員が個人であるいはグループで、質的調査の企画から報告書の作成まで、全過程をひととおり実習する。具体的には、調査方法のガイダンス、問題の設定、先行研究の精査、調査計画の策定、調査の実施、発表と討論、報告書の作成をおこなう。

到達目標

- (1) 先行研究、統計データ等を収集し精査することができる。
- (2) 調査計画を立案することができる。
- (3) 適切な調査方法を習得し、調査を実際におこなうことができる。
- (4) 調査成果を発表し、討論することができる。
- (5) 報告書を作成することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	90	最終報告書の原稿で評価する。 (1) 先行研究、統計データ等を収集し精査することができる 10% (2) 調査計画を立案することができる 10%
上記以外	10	毎回の授業内でのディスカッションへの参加で評価する。 (4) 調査成果を発表し、討論することができる 10%

授業外学習

夏季休暇中を中心に、授業時間外での自発的な調査活動にもとづいて調査をおこない、その進行状況および概要について何度も報告してもらうことになる。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	地域分析ハンドブック Excelによる図表づくりの工具箱	半澤誠司ほか	ナカニシヤ出版	978-4-7795-0917-9
2				
3				

年度のテーマに関する文献を講義の中で紹介する。

前提学力等

社会調査論、社会調査方法論、社会統計学、統計学基礎、量的データ解析論 もしくは質的データ解析論、人文地理学B、地理学実習 のいずれかの単位を修得していることが望ましい。

履修資格

講義名	地域社会調査実習						担当教員	塚本 礼仁 / 櫻井 悟史	
講義コード	1401125	単位数	1	開講期	通年	授業方法	実習		
ナンバリング番号	312ETR301-C, 330SOC303, 335SOC320								

授業計画									
回数	テーマ	概要						予習 / 復習	
第1回	ガイダンス	実習全体のガイダンスと班編成をおこなう。						2	
第2回	調査方法の解説(1)	地域・社会調査の方法、特に調査倫理、危機管理、依頼文書の作成法などについて解説する。						2	
第3回	調査方法の解説(2)	地域・社会調査の方法、特に社会的な基本事項(インタビュー調査や質的調査における質問紙・調査票の作成、データの整理方法など)						2	
第4回	調査方法の解説(3)	地域・社会調査の方法、特に地理学的な基本事項(統計データの入手・使用方法、地形図の使用法、土地利用調査・景観調査の手法など)						2	
第5回	先行研究の収集と読解(1)	年度のテーマに関する先行研究を班ごとに収集し、読解して報告する。							
第6回	先行研究の収集と読解(2)	年度のテーマに関する先行研究を班ごとに収集し、読解して報告する。							
第7回	先行研究の収集と読解(3)	年度のテーマに関する先行研究を班ごとに収集し、読解して報告する。							
第8回	調査計画の策定と発表(1)	調査の対象地域、対象者、項目、方法、スケジュールなどからなる「調査計画」を策定し、班ごとに報告する。また、コメントをふまえる。							
第9回	調査計画の策定と発表(2)	調査の対象地域、対象者、項目、方法、スケジュールなどからなる「調査計画」を策定し、班ごとに報告する。また、コメントをふまえる。							
第10回	調査計画の策定と発表(3)	調査の対象地域、対象者、項目、方法、スケジュールなどからなる「調査計画」を策定し、班ごとに報告する。また、コメントをふまえる。							
第11回	調査計画の策定と発表(4)	調査の対象地域、対象者、項目、方法、スケジュールなどからなる「調査計画」を策定し、班ごとに報告する。また、コメントをふまえる。							
第12回	調査計画の策定と発表(5)	調査の対象地域、対象者、項目、方法、スケジュールなどからなる「調査計画」を策定し、班ごとに報告する。また、コメントをふまえる。							
第13回	現地調査(1)	計画にもとづいて現地調査をおこない、班ごとに内容を報告する。また、ここでのコメント等をふまえて、夏季休暇中に補強調査を実施する。							
第14回	現地調査(2)	計画にもとづいて現地調査をおこない、班ごとに内容を報告する。また、ここでのコメント等をふまえて、夏季休暇中に補強調査を実施する。							
第15回	現地調査(3)	計画にもとづいて現地調査をおこない、班ごとに内容を報告する。また、ここでのコメント等をふまえて、夏季休暇中に補強調査を実施する。							
第16回	調査成果の発表と討論(1)	班ごとにインタビュー内容の整理や図表・主題図の作成といった作業をまとめ、現地調査の結果について報告し、ディスカッションをおこなう。							
第17回	調査成果の発表と討論(2)	班ごとにインタビュー内容の整理や図表・主題図の作成といった作業をまとめ、現地調査の結果について報告し、ディスカッションをおこなう。							
第18回	調査成果の発表と討論(3)	班ごとにインタビュー内容の整理や図表・主題図の作成といった作業をまとめ、現地調査の結果について報告し、ディスカッションをおこなう。							
第19回	調査成果の発表と討論(4)	班ごとにインタビュー内容の整理や図表・主題図の作成といった作業をまとめ、現地調査の結果について報告し、ディスカッションをおこなう。							
第20回	調査成果の発表と討論(5)	班ごとにインタビュー内容の整理や図表・主題図の作成といった作業をまとめ、現地調査の結果について報告し、ディスカッションをおこなう。							
第21回	追加調査(1)	第16回～第20回までのディスカッションをふまえ、内容を検討したうえで追加調査をおこない、その結果を報告する。							
第22回	追加調査(2)	第16回～第20回までのディスカッションをふまえ、内容を検討したうえで追加調査をおこない、その結果を報告する。							
第23回	追加調査(3)	第16回～第20回までのディスカッションをふまえ、内容を検討したうえで追加調査をおこない、その結果を報告する。							
第24回	追加調査(4)	第16回～第20回までのディスカッションをふまえ、内容を検討したうえで追加調査をおこない、その結果を報告する。							
第25回	追加調査(5)	第16回～第20回までのディスカッションをふまえ、内容を検討したうえで追加調査をおこない、その結果を報告する。							
第26回	報告書原稿の作成と討論(1)	班ごとに報告書の原稿を作成し、報告とディスカッションをおこなう。							
第27回	報告書原稿の作成と討論(2)	班ごとに報告書の原稿を作成し、報告とディスカッションをおこなう。							
第28回	報告書原稿の作成と討論(3)	班ごとに報告書の原稿を作成し、報告とディスカッションをおこなう。							
第29回	報告書原稿の作成と討論(4)	班ごとに報告書の原稿を作成し、報告とディスカッションをおこなう。							
第30回	報告書原稿の作成と討論(5)	班ごとに報告書の原稿を作成し、報告とディスカッションをおこなう。							
担当者から									

講義名	社会調査方法論						担当教員	大野 光明
講義コード	1401130	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	230SOC204, 233MKD281, 235SOC203							

授業概要

本講義では、社会調査の企画・設計から資料・データの収集と整理までの具体的な過程と方法を学び、自分で調査できるだけの具体的な調査技術を身につけることを目的とする。
 社会調査は大きく分ければ、量的調査と質的調査に分けることができる。本講義では、(1)量的調査については、調査票を用いた調査の方法を修得することに重点を置く。具体的には、調査の企画・設計、仮説構成、調査方法の選定(全数調査と標本調査)、標本抽出(無作為抽出、標本数・標本誤差の理解)、調査票と質問文の作成、調査の実施(調査票の配布・回収の方法)、収集されたデータの整理(エディティング、コーディング、データクリーニング)について学ぶ。また、(2)質的調査については、インタビュー調査およびフィールドワークの方法の具体を学び、フィールドワークの作成方法なども修得する。
 講義では、グループワークやグループディスカッションを積極的に取り入れる。

到達目標

- (1) 調査目的・方法・手順および調査問題の選択と仮説の設定について理解することができる。
- (2) 社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形まで整理していく具体的な方法が理解できる。
- (3) 質問紙の作成についての技術と能力を身につけることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50%	到達目標(1)、(2)、(3)について、最終試験を実施して評価する。ただし、新型コロナウイルス感染症の状況をふまえ、課題に替える可能性がある。
レポート課題		
上記以外	50%	到達目標(1)と(2)について、授業中に2回の小課題を設定し、評価する。

小課題(2回)と最終試験を実施する。ただし、新型コロナウイルス感染症の感染状況をふまえて、最終試験を課題に切り替えることがある。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用しない。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	社会調査の基礎	篠原清夫ほか	弘文堂	978-4335551338
2	入門・社会調査法	轟亮・杉野勇	法律文化社	978-4589038173
3	質的社会調査の方法―他者の合理性の理解社会学	岸政彦ほか	有斐閣	978-4641150379

参考書はその都度紹介する。授業中にレジュメや資料を配布する。

前提学力等

グループワークやグループディスカッションに積極的に参加できる人、苦手であってもチャレンジしてみようという人の参加をお待ちしています。

履修資格

講義名	社会調査論						担当教員	中井 治郎
講義コード	1401140	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	130SOC103, 133LVD107, 135SOC202							

授業概要

社会調査とは、社会事象を人間の社会的・生活連関における意味に即して調査することをいう。本講義では、現代社会において社会的現実を知る有力な手段である社会調査の概要、歴史、種類、問題点など、基本的事項を概説するとともに、その意義について考える。

到達目標

- (1) 社会調査の分類や倫理に関する基本的事項が理解できる。
- (2) 社会調査の歴史や手法に関する知識と理解力を身につけることができる。
- (3) 国勢調査の特徴と課題について自らの考えを述べるができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70%	学期末に論述式試験を行う。
レポート課題		
上記以外	30%	受講生の理解度を測るために、1～2回程度授業中に小レポートを実施する。

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。ただし、正当な事由があると認められる場合は考慮するので、事前または事後にその旨申し出ること。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用しない。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書はその都度紹介する。必要に応じて授業中にプリント等の資料を配布する。

前提学力等

履修資格

講義名	社会調査論						担当教員	中井 治郎
講義コード	1401140	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	130SOC103, 133LVD107, 135SOC202							

授業計画

回数	テーマ	概要		予習 / 復習
第1回	社会調査とは何か	社会調査士資格、主要な要素と性格、目的、意義などについて述べる。	2	2 2
第2回	社会調査の分類	実践的調査と科学的調査について述べる。	2	2 2
第3回	社会調査の種類	統計調査（センサス）、学術調査、世論調査、市場調査について述べる。	2	2 2
第4回	社会調査の歴史（1）	ヨーロッパの社会調査の歴史について概観する。	2	2 2
第5回	社会調査の歴史（2）	アメリカの社会調査の歴史について概観する。	2	2 2
第6回	社会調査の歴史（3）	日本の社会調査の歴史について概観する。	2	2 2
第7回	国勢調査	日本の国勢調査の歴史、時期、地域、対象、事項、方法、問題点などについて述べる。	2	2 2
第8回	国際比較調査	国際比較調査の実際と課題について概説する。	2	2 2
第9回	調査研究の方法(1)	量的調査と質的調査について概説する。	2	2 2
第10回	調査研究の方法(2)	統計的方法と事例研究法について概説する。	2	2 2
第11回	調査票調査	調査の種類、手順、過程などについて述べる。	2	2 2
第12回	フィールドワーク	調査の種類、手順、過程などについて述べる。	2	2 2
第13回	様々なデータの活用	ドキュメント分析や映像分析などについて、その手法と課題を述べる。	2	2 2
第14回	社会調査と倫理	調査の規範、倫理、調査とプライバシーなどについて述べる。	2	2 2
第15回	まとめ	この授業全体について、総括を行う。	2	2 2

担当者から

この科目は社会調査士資格科目でもあるので、社会調査士の資格を取得しようと思っている人は必ず受講してください。

講義名	社会変動論						担当教員	
講義コード	1401180	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講	
ナンバリング番号	335S0C306							

授業概要

社会変動論は、数十年、時に百年単位で社会の変化を捉える、社会学の基本的な発想の根幹をなす研究領域である。本講義では、家族、村落・都市、産業・労働、メディア、グローバル化などを対象に、社会変動が具体的にどのように現象し展開したのか・しているのか、その背後にはどのようなメカニズムがあるのかを学ぶ。授業を通じて、社会変動の具体的な現象形態とその説明原理を知り、社会の諸現象を変動的に読み解けるようになることをめざす。

授業では、新聞記事や映像資料を積極的に使用し、理論と現実とを架橋できるように努める。また可能な限り、ディスカッションやディベートをとり入れて、個々のテーマに関して理解を深めるとともに、各自の意見形成を促す機会を設ける。ただし、対面授業が不可能な場合は、授業の内容を変更することがある。

到達目標

- (1) 社会変動の基本的な考え方や概念を理解する。
- (2) 社会の具体的な諸事象を社会変動論の観点から捉えることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	30	最終レポート課題を通じて、到達目標の(1)と(2)についての理解度を評価する((1) 15%、(2) 15%)。
上記以外	70	授業中・授業外の小課題を通じて、到達目標の(1)と(2)についての理解度を評価する((1) 35%、(2) 35%)。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用せず、講義資料を配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書は授業中に適宜紹介する。

前提学力等

履修資格

講義名	社会変動論						担当教員	
講義コード	1401180	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講	
ナンバリング番号	335S0C306							

授業計画

回数	テーマ	概要		予習 / 復習
第1回	ガイダンス&イントロダクション	授業の進め方、成績評価等について説明する。	2	既習の社会学関係の科目があれば、 授業中に指示した小課題に取り組
第2回	家と村の近代化(1)	近代化以前の家と村の組織と制度、およびそれらが近代化の中でどのように変質したかを、映像資料等を通じて理解する。	2	前回の授業中に指示した資料等を読 授業中に指示した小課題に取り組
第3回	家と村の近代化(2)	近代化以前の家の組織と制度、およびそれらが近代化の中でどのように変質したかを、家・村理論等とともに理解する。	2	前回の授業中に指示した資料等を読 授業中に指示した小課題に取り組
第4回	家と村の近代化(3)	戦後日本の家と村の解体局面とその背景を理解する。	2	前回の授業中に指示した資料等を読 授業中に指示した小課題に取り組
第5回	現代家族とジェンダー(1)	現代家族の特徴とその課題に関する家族社会学的な理解とジェンダー論的な視点を身につける。	2	前回の授業中に指示した資料等を読 授業中に指示した小課題に取り組
第6回	現代家族とジェンダー(2)	ジェンダーをめぐる現代日本社会の課題を、メディア表象等を通じて理解する。	2	前回の授業中に指示した資料等を読 授業中に指示した小課題に取り組
第7回	都市化(1)	近代化の中での都市という社会の特徴を、シカゴ学派都市社会学の視点から理解する。	2	前回の授業中に指示した資料等を読 授業中に指示した小課題に取り組
第8回	都市化(2)	都市化の中でのコミュニティのありようを理解する。	2	前回の授業中に指示した資料等を読 授業中に指示した小課題に取り組
第9回	社会変動の中の産業・労働(1)	戦後日本の企業と労働の特徴を「日本的経営」の観点から理解する。	2	前回の授業中に指示した資料等を読 授業中に指示した小課題に取り組
第10回	社会変動の中の産業・労働(2)	1990年代以降の「日本的経営」の構造変化とそこでの社会問題を理解する。	2	前回の授業中に指示した資料等を読 授業中に指示した小課題に取り組
第11回	グローバル化(1)	グローバル化の中の国際移民と日本社会の対応と課題を理解する。	2	前回の授業中に指示した資料等を読 授業中に指示した小課題に取り組
第12回	グローバル化(2)	グローバル化の中の「民族」やエスニシティの現状と課題を理解する。	2	前回の授業中に指示した資料等を読 授業中に指示した小課題に取り組
第13回	グローバル化(3)	グローバル化の中の日本人の意識とナショナリズムの諸相、およびその課題を理解する。	2	前回の授業中に指示した資料等を読 授業中に指示した小課題に取り組
第14回	情報化とメディア(1)	情報化社会の現局面とそこでの諸課題を、メディア環境の変化のなかに位置づけて理解する。	2	前回の授業中に指示した資料等を読 授業中に指示した小課題に取り組
第15回	情報化とメディア(2)	情報化社会の現局面とそこでの諸課題を、メディア環境の変化のなかに位置づけて理解する。	2	前回の授業中に指示した資料等を読 授業中に指示した小課題に取り組
担当者から				

講義名	人文地理学 A						担当教員	塚本 礼仁
講義コード	1401500	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	130SOC105							

授業概要

地理学は、地表面で見られる現象が起こる空間的・地域的なメカニズムの解明を目指してきた。人文地理学とは、地域の人口、民族、社会・文化、経済・産業、集落（農村・都市）など、人間活動に由来するテーマを分析し、上記の目標にアプローチしようとする分野である。本講義では、人文地理学の基礎理論を紹介し、できるだけ多くの具大抵で検証を加えながら、地理的現象の発生および変容の仕組みについて考えていく。

到達目標

- (1) 日本・世界の地域問題について、地理学の理論を用いて考察することができる。
- (2) 日本・世界の地域問題について、統計データから特徴を読み取ることができる。
- (3) 日本・世界の地域問題について、地図から特徴を読み取ることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60	到達目標(1)(2)(3)それぞれ20%ずつ。出題方針、採点基準は授業にて通知する。
レポート課題		
上記以外	40	到達目標(1)(2)(3)のいずれか、または複数が関係する宿題を課す。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

特定の教科書は用いず、毎回の配付資料に参考書などを示す。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	みわたす・つなげる 人文地理学	上杉和央ほか	古今書院	978-4-7722-8121-8
2	地理学基礎シリーズ 地誌学概論	矢ヶ崎典隆ほか	朝倉書店	974-4-254-16818-1
3				

適宜プリントを配布する。

前提学力等

人文地理学A、人文地理学Bを履修済みであること。

履修資格

講義名	人文地理学B						担当教員	塚本 礼仁
講義コード	1401510	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	230SOC211							

授業概要

コンピュータの普及にともない、GIS（地理情報システム）によって可視化された地理空間情報は、社会に広く浸透しつつある。例えば、自治体によるハザードマップの発行、警察の犯罪発生地点データの一般公開、ビジネス界におけるエリア・マーケティングなどのように、各方面で「場所」と「情報」を結びつけるGISが活用されてきた。本講義では、ソフトウェアを用いた実習も取り入れつつ、GISの理論と実践について解説する。

到達目標

- (1) GISのしくみを理解し、地理データを探索・収集することができる。
- (2) GISソフトウェアを操作し、地理的データを地図化することができる。
- (3) 自作の主題図をもとに地域問題を説明することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60	到達目標(1)(2)(3)それぞれ20%。出題方針と採点基準は授業にて通知する。
レポート課題		
上記以外	40	毎回の作業成果物(授業内課題)による。

授業外学習

第3回以降は、教科書が予習済みであることを前提とする。つまり、実際の講義・実習内容は、教科書と全く同じではないということである。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	フリーGISソフト MANDARA10入門 増補版	谷 謙二	古今書院	978-4-7722-8123-2
2				
3				

初回授業に持参すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	フリーGISソフト MANDARA10 パーフェクトマスター	谷 謙二	古今書院	978-4-7722-8119-5
2				
3				

適宜プリントなどを配布する。

前提学力等

人文地理学Aを履修済みであること。

履修資格

講義名	人文地理学 B						担当教員	塚本 礼仁	
講義コード	1401510	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義		
ナンバリング番号	230SOC211								

授業計画

回数	テーマ	概要		予習 / 復習
第1回	オリエンテーション	授業スタイル(レクチャー+実習)、成績評価、期末試験の出題方針の説明。	2	
第2回	GIS概論	地理空間情報と社会。	2	人文地理学A(塚本担当)のGISの回 授業内課題に取り組む。
第3回	教科書第1章	ソフトウェア(MANDARA10)の仕組みと基本操作。	2	教科書第1章の自習。 授業内課題に取り組む。
第4回	教科書第2章	ソフトウェア付属の地図ファイルの種類と活用例。	2	教科書第2章の自習。 授業内課題に取り組む。
第5回	教科書第3章	都道府県別の統計地図と表現法。	2	教科書第3章の自習。 授業内課題に取り組む。
第6回	教科書第4章	市区町村別の統計地図とソフトウェアの拡張機能(データの追加と時系列集計)。	2	教科書第4章の自習。 授業内課題に取り組む。
第7回	教科書第5章	国別の統計地図とソフトウェアの拡張機能(連続表示)。	2	教科書第5章の自習。 授業内課題に取り組む。
第8回	教科書第6章	ソフトウェア付属地図ファイルと既存統計のマッチング。	2	教科書第6章の自習。 授業内課題に取り組む。
第9回	教科書第7章	国土数値情報シェープファイルの地図化。	2	教科書第7章の自習。 授業内課題に取り組む。
第10回	教科書第8章	点データの読み込みとジオコーディング。	2	教科書第8章の自習。 授業内課題に取り組む。
第11回	教科書第9章	メッシュデータの地図化。	2	教科書第9章の自習。 授業内課題に取り組む。
第12回	教科書第10章	国勢調査小地域データの地図化。	2	教科書第10章の自習。 授業内課題に取り組む。
第13回	教科書第11章	ソフトウェアの拡張機能(マップエディタ)によるオリジナル地図データの作成。	2	教科書第11章の自習。 授業内課題に取り組む。
第14回	GISによる地域分析1	企画、データの探索と収集。	2	地域分析「計画書」の作成。 本時の作業を継続し、第15回を「地
第15回	GISによる地域分析2	地図化、分析レポートの作成。	2	第14回の作業を継続し、本時を「地
				分析レポートを完成させ、提出す

担当者から

講義名	西洋史概説						担当教員	北村 知之
講義コード	1401750	単位数	2	開講期	前期集中	授業方法	講義	
ナンバリング番号	2300TH201							

授業概要

高校の世界史で学んだヨーロッパ史を踏まえながら、今日のヨーロッパの形成史をたどる。特に民族移動や民族間の対立・融合に注目する。今日のヨーロッパの主要国は、多民族国家的な色合いを見せているが、それが近年初めて起こったことではなく、過去においても繰り返されていることを知ることで、歴史における反復と新しさについて考えたい。

到達目標

西欧世界の成立過程をしっかりと意識しながら、現在のヨーロッパを見ることができるようになること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	
上記以外		

2/3以上の出席がない場合は評価の対象としない。

授業外学習

毎日レポートの宿題を課すので、復習をしっかりとってもらいたい。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	大学で学ぶ西洋史〔古代・中世〕		ミネルヴァ書房	
2	物語の歴史シリーズ		中央公論社（中公新書）	
3	図説の歴史シリーズ		河出書房新社	

前提学力等

高校で世界史を専攻しなかった人、センター試験で世界史を選択していない人たちにも解りやすい授業にします。

履修資格

講義名	卒業研究・論文（地域文化）						担当教員	学科教員 / 京樂 真帆子 / 東 幸代 / 塚本 礼仁 / 石川 慎治 / 市川 秀之 / 亀井 若菜 / 横田 祥子 / 萩原 和 /
講義コード	1401832	単位数	4	開講期	前期研究	授業方法	演習	
ナンバリング番号								

授業概要

規定に従って、研究の成果を論文として提出する。

到達目標

(1) 研究内容を、適切な構成と文章表現などにより、卒業論文として作成できるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	研究内容を、適切な構成と文章表現などにより、卒業論文として作成できるようになるか、途中の段階で評価する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	卒業研究・論文（地域文化）						担当教員	学科教員 / 京樂 真帆子 / 東 幸代 / 塚本 礼仁 / 石川 慎治 / 市川 秀之 / 亀井 若菜 / 横田 祥子 / 萩原 和 /
講義コード	1401835	単位数	4	開講期	後期研究	授業方法	演習	
ナンバリング番号								

授業概要

規定に従って、研究の成果を論文として提出する。

到達目標

(1) 研究内容を、適切な構成と文章表現などにより、卒業論文として作成できるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	研究内容を、適切な構成と文章表現などにより、卒業論文として作成できているかについては、論文および口頭試問の内容により評価する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	卒業研究・論文（地域文化）						担当教員	学科教員/京楽 真帆子/東 幸代/ 塚本 礼仁/石川 慎治/市川 秀之/ 亀井 若菜/横田 祥子/萩原 和/	
講義コード	1401835	単位数	4	開講期		後期研究		授業方法	
ナンバリング番号									

授業計画

回数	テーマ	概要	予習/復習	
第1回	ガイダンス	各担当教員より、各回の内容、スケジュールについて説明する。	2	各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第2回	卒業研究 その1		2	各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第3回	卒業研究 その2		2	各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第4回	卒業研究 その3		2	各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第5回	卒業研究 その4		2	各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第6回	卒業研究 その5		2	各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第7回	卒業研究 その6		2	各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第8回	卒業研究 その7		2	各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第9回	卒業研究 その8		2	各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第10回	卒業研究 その9		2	各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第11回	卒業研究 その10		2	各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第12回	卒業研究 その11		2	各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第13回	卒業研究 その12		2	各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第14回	卒業研究 その13		2	各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第15回	卒業論文（作品）の完成	卒業論文（作品）を完成させ、期限内に提出する。	2	

担当者から

1. 中間報告会で、卒業研究の進捗状況等を発表すること。
2. 定められた期限までに、規定の内容の論文を提出すること。なお、具体的内容については、別途通知する。

講義名	対外文化交流論 A						担当教員	
講義コード	1401840	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	230EXC210							

授業概要

テーマ：14～19世紀の日本の対外関係について概観する

ねらい： 対外関係を考える上での重要なキー概念を学ぶ。 日本国内の動きと対外関係がどのように連関しているかを学ぶ。以上を通じて世界史の中の日本史、ないし日本から見た世界史の理解を深める。

キーワード：キリスト教、琉球、外交使節、東アジア

到達目標

- (1) 日本の対外関係について、基本的な事柄を理解する。
- (2) それぞれの史料の特性を踏まえながら、史料に基づいて思考する癖をつける。
- (3) レポート課題を通じて、先行学説を吸収するとともに、自らの学術的見解を示すことができるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

3分の1以上欠席した場合、評価の対象としないことがある。

授業外学習

参考書に目を通すこと。「レポート課題」の項目で説明しているように、参考書は授業中に紹介するが、下記の1冊は特に重要である。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用しない。毎回、教員が作成した資料を配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	「鎖国」を見直す(岩波新書)	荒野泰典	岩波書店	9784006004125
2				
3				

上記のほか、講義時に適宜紹介する。

前提学力等

高等学校程度の日本史の知識を持っていることが望ましい。

履修資格

講義名	対外文化交流論A						担当教員	
講義コード	1401840	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	230EXC210							

授業計画								
回数	テーマ	概要					予習 / 復習	
第1回	ガイダンス	授業の構成について説明するとともに、重要な先行研究について説明する。						
第2回	五山僧の外交	対外関係史に五山僧が果たした役割について考える						
第3回	日本の銀	世界史の中の日本銀について考察する。						
第4回	キリスト教と日本	宣教師側の資料を用い、その布教活動について見る。						
第5回	島原・天草一揆	近年の発掘調査の成果なども踏まえながら、概観する。						
第6回	対馬宗氏の立場	朝鮮との関係を宗氏の立場に即して解説する。						
第7回	特論 : 古琉球	特論として5回分を、琉球・沖縄史に充て、琉球の固有性や、日本との関わりについて学ぶ。						
第8回	特論 : もう一つの慶長の役	上に同じ						
第9回	特論 : 「附庸」と「異国」	上に同じ						
第10回	特論 : 伊勢貞昌	上に同じ						
第11回	特論 : 砂糖の流通	上に同じ						
第12回	新井白石の立場	正徳の治を主導し、外交政策を転換させた新井白石の立場を学ぶ。						
第13回	近世日本の中国ブーム	書籍や文物といった渡来物が珍重されたことを紹介する。						
第14回	鎖国祖法觀の成立	江戸時代の後期に入って、鎖国という枠組みが認識されていく過程を追う。						
第15回	まとめ	近代への展望を示す。						

担当者から
 コロナ禍で、なかなか外国や遠方に行きませんが、その分、史料を通して、対外関係をじっくりと学びたいものです。
 【重要】本講義は、担当者の家庭の事情により、全15回の授業のうち、前半の8回程度(4月~5月末/6月上旬)を、音声・資料をワンド

講義名	対外文化交流論 B						担当教員	金 宇大
講義コード	1401850	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号								

授業概要

古代における日本列島の社会や文化の発展は、中国大陸や朝鮮半島との不断の交流の中で培われてきた。本授業では、飛鳥時代以前の日本列島社会が展開した対外交流を考古学的な視点から多角的に捉えつつ、日本の歴史や文化がいかに海を越えた諸地域との関わりの中で形成されてきたかを考える。

到達目標

- (1) 古代日本における対外交流の具体的な在り方について知識を得る。
- (2) 汎アジア的な視点から東アジアの関係史を客観的に捉えられる感覚を身につける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	到達目標(1)・(2)について、期末レポートを実施する(各25%)。
上記以外	50	到達目標の各項目について、毎回の授業後に、授業内容に関する簡単な小テストを実施し、その結果を平常点とする。

原則として、3分の1以上欠席した場合は評価の対象としない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業開始時にレジユメを配布し、パワーポイントを用いて授業を進める。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	地域経済史論						担当教員	
講義コード	1401900	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	330HIS302							

授業概要

日本中世における地域経済の史的展開をテーマとする講義である。近江には、中世最大の荘園領主である延暦寺が存在し、京都との位置関係もあいまって、全国的な流通において重要な地位を占めていた。大津神人・坂本の馬借・「山門気風の土倉」・保内商人といった、質・量ともに充実した史料がのこる近江の商人たちを題材に、中世における近江国の地域経済のあり方を考える。

到達目標

日本中世の流通構造とその変遷を理解するとともに、その背景にある社会構造を理解する。あわせて、中世における延暦寺を中心とした流通や商人のありようを理解することを目指す。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。

授業外学習

近所でよいので、寺社旧跡や、博物館などを積極的に訪問してほしい。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

講義中にプリントを配布する。

前提学力等

高校日本史の教科書を事前に読んでおくと、理解がさらに深まる。

履修資格

講義名	地域経済史論							担当教員	
講義コード	1401900	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義		
ナンバリング番号	330HIS302								

授業計画

回数	テーマ	概要	予習 / 復習
第1回	ガイダンス	講義の概要説明。	
第2回	中世日本の流通構造	中世日本の流通構造についての説明。	
第3回	中世近江の交通路	中世近江の街道と流通路についての説明。	
第4回	大津神人	中世大津神人と日吉祭との関係についての説明。	
第5回	大津神人	中世大津神人と山門衆徒との関係についての説明。	
第6回	坂本の馬借	坂本の馬借についての説明。	
第7回	坂本の馬借	坂本の馬借を中心に徳政一揆についての説明。	
第8回	山門衆徒の京都支配	荘園領主・寺社権門としての「山門」(中世の比叡山延暦寺)についての説明。	
第9回	山門衆徒の京都支配	山門衆徒の金融活動についての説明。	
第10回	山門衆徒の京都支配	山門末寺としての祇園社と町衆についての説明。	
第11回	山門衆徒の京都支配	曼殊院門跡と北野社についての説明。	
第12回	保内商人	山門領得珍保の商人「保内商人」と今堀日吉神社についての説明。	
第13回	保内商人	保内商人の八風街道を中心とした活動についての説明。	
第14回	保内商人	保内商人の北近江への進出と戦国大名六角氏との関係についての説明。	
第15回	まとめ	講義全体の内容確認。	

担当者から

--

講義名	地域研究論						担当教員	萩原 和
講義コード	1401920	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	130SOC104-C							

授業概要

当科目は、地域文化学の基礎的学問分野の知見を踏まえて、諸分野の研究課題に対する調査研究の基本、特にフィールドワークの方法論について概説する。特に、地域文化学科では、2年次においてプレゼミが始まることから、配属前に地域研究の基礎を固めること、さらには、環琵琶湖文化論実習で得た実地での知見を方法論として再構成し、自身の興味関心に根差した地域文化学研究の所作を身につけることを目的とする。

到達目標

地域研究におけるフィールドワークの意義を概説し、配慮すべきポイントを3つ以上挙げ、その理由を説明することができる。
過去に発刊された「環琵琶湖文化論実習報告書」を題材として、当該研究で採用されたフィールドワーク手法や研究アプローチを簡潔に説明することができる。
地域研究の成果取りまとめの意義を概説し、社会還元のための具体的な方法を3つ以上例示することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	60	到達目標における内容に関して、レポートにより評価する。
上記以外	40	レスポンスペーパーをもとに評価する。

5回以上の欠席で採点対象としない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	歴史家の案内する滋賀	滋賀県立大学人間文化学部地域文化学科編	文理閣	4892598879
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	地域考古学 A						担当教員	江浦 洋
講義コード	1401930	単位数	2	開講期	前期集中	授業方法	講	
ナンバリング番号								

授業概要

本講は、さまざまな発掘調査と事例研究を具体的にわかりやすく提示し、考古学という学問の考え方とその可能性を解説する。考古学という学問が、単に過去の出来事を知るだけでなく、現代社会との対比、関連学問との学際的研究によって、時として、今を生きるための有意な道しるべともなりうることを伝える。

到達目標

- (1) 考古学という学問のおもしろさと可能性を学ぶことができる。
- (2) 具体的な調査事例を通して、考古学研究の醍醐味を知ることができる。
- (3) 食文化などの身近な習慣や風習のルーツを歴史に学ぶことができる。
- (4) 災害痕跡の考古学的研究から、災害への対応を学ぶことができる。
- (5) 近現代の考古学的研究を通して、過去の戦争についても学ぶことができる。
- (6) 過去と現在を行き来して、物事を論理的にとらえる視点や方法などを学ぶことができる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100%	講義で興味を持った内容あるいは受講者が興味を持っている内容について、自らの考えを含めてまとめること。授業内容を反映しているか、自らの意見が的確にまとまっているかを評価の基準とする。
上記以外		

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	日本人は第災害をどう乗り越えたのか - 遺跡に刻まれた復興の歴史	江浦 洋ほか	朝日新聞出版	9784022630599
2	考古学という可能性 - 足場としての近現代	江浦 洋ほか	雄山閣	9784639020097
3	陸軍墓地がかたる日本の戦争	江浦 洋ほか	ミネルヴァ書房	9784623046188

前提学力等

履修資格

講義名	地域考古学 B						担当教員	小島 孝修
講義コード	1401940	単位数	2	開講期	後期集中	授業方法	講義	
ナンバリング番号								

授業概要

考古学とは、地上や地下に残された人々の活動の痕跡（遺跡、遺構・遺物）をもとに、社会や生活などを含め、その文化のあり方を考える歴史学の一手段である。文字の無い時代の研究には特に有効であり、近年は文献史料には表されない史実が考古学により明らかになることも少なくない。発掘調査の成果がマスコミに取り上げられることも多く、比較的身近な学問分野といえる。

本講義ではまず、日本考古学の歴史や調査・研究方法を解説し、考古学の基礎を学んでもらう。続いて、講師の主な研究対象である縄文時代を通じて、考古学に対する認識を深めてもらう。そして、これまでに講師が担当した様々な発掘調査を紹介して、それらをどのように解釈して歴史に結び付けていくのかを考えてもらう。最後に、日本考古学と埋蔵文化財行政の今後のあり方について解説する。

到達目標

- (1) 受講生が考古学についての基本的な知識を持ち、博物館見学や報道などで考古・歴史資料に接した際に、自らが考えて正しく理解できるようにすることを目的とする。
- (2) 考古学・歴史学を学ぶことは、過去の人類の行動・思考を学び、それを未来にどのように生かしていくか、という視点につながる。受講生がそのような視点を身につけ、これからの生活・人生を送るにあたって責任ある判断をするための一助とする。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	講義内容に関連したレポートを課す。講義内容を要約しただけのレポートは評価が低くなるので、到達目標を念頭に自らの考えを述べること。
上記以外		

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。

授業外学習

下記の参考書や関連サイトなどで予習をしておく、講義内容が理解しやすい。また、授業計画の概要に名称が挙がっている遺跡や資料・用語などの概略を予習しておくことを勧める。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN / ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用せず、講義中に資料を配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN / ISSN
1	よくわかる考古学	松藤和人ほか編	ミネルヴァ書房	9784623055630
2	内湖とその暮らしの湖・小中の湖 - 入江内湖、松原内湖、大中	小島孝修ほか	公益財団法人滋賀県文化財保護協会	2185-3533
3				

前提学力等

履修資格

講義名	地域考古学C						担当教員	
講義コード	1401950	単位数	2	開講期	前期集中	授業方法	講義	
ナンバリング番号								

授業概要

考古学は、過去の人類の残した物質的資料を使って歴史を解き明かす学問であり、これを地域の視点から研究するのが地域考古学である。考古学の対象は、文字の無い時代をイメージすることが多いが、文字資料のある時代にも及び、講師がこれまで主として携わってきた歴史時代の考古学では、考古資料だけではなく、文献（古文書・古記録）・絵画などの資料も用いることによって研究をより多角的に進めることができるが、そのためには、それぞれの資料の特性に応じた活かし方を学ぶ必要がある。

また、考古学の調査・研究においては、対象とする時代を問わず、理化学分析をはじめとする自然科学との共同作業が行われてきたが、近年では歴史学研究においても自然科学の成果を視野に入れた研究が進んでいる。

本講義では、講師がこれまで取り組んできた研究対象を例として、地域考古学を学ぶために必要な考古学・歴史学・自然科学の手法・考え方を中心に述べ、必要に応じて受講生の意見も求めたい。また、本講義は博物館での勤務経験をもつ教員が指導する科目であることから、研究成果を博物館でどのように活用するのかについても触れることとする。

歴史を学ぶ目的は、過去に起こった出来事を明らかにすることだけではない。歴史を学ぶことは、未来に対して責任を持つことでもある。教科書に書かれた「正しい歴史」なるものがあって、それを暗記するだけことが歴史の勉強であれば、これほどつまらないものはない。教科書に書かれているのは通説ではあるが、いつまでも通説であり続けるとは限らない。また、ほとんどは中央から見た歴史で、地域から見れば異なった歴史像が描けるはずだ。「通説」に真摯に向き合い、疑問を感じるものがあればそれを追究し、覆す。これが歴史研究の醍醐味であるが、新設が通説

到達目標

- (1) 通説を批判的に学び、自ら問いを見つけ、考える姿勢を身につける。
- (2) 資料の特性に応じた資料の活用方法を理解する。
- (3) 過去の人類が自然環境・社会的環境にどのように対応して生きてきたのかを学び、未来に対しての責任ある判断をするための一助とする。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。

授業外学習

下記の参考書や関連サイトなどで予習をしておく、講義内容が理解しやすいと思います。授業計画の概要に名称が挙がっている遺跡・城郭や資料、用語などについても概略を予習しておくことを勧めます。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	人類と気候の10万年史 過去に何が起きたのか、これから何が起ころのか (ブルーバック)	中川 毅	講談社	ISBN9784065020043
2	全集 日本の歴史 1 列島創世記	松木 武彦	小学館	ISBN9784096221013
3	読めなくても大丈夫！ 中世の古文書入門	小島 道裕	河出書房新社	ISBN9784309226859

前提学力等

履修資格

講義名	地域考古学D						担当教員	
講義コード	1401960	単位数	2	開講期	後期集中	授業方法	講義	
ナンバリング番号								

授業概要

本講は「伊吹山をめぐる考古学」と題して、伊吹山の特性、縄文時代から江戸時代までの伊吹山と人とのかかわり、伊吹山からみた近江の歴史、考古学や遺跡が現在に果たす役割や実例を学ぶことを目的とする。

伊吹山は、滋賀県の最高峰であり、日本百名山・花の百名山・歴史の山百選などに選ばれ、多くの人を惹きつける山として知られている。また、東西日本の境目にそびえることから、山麓には日本の主要幹線道路や鉄道が集中する交通の要衝である。これは縄文時代から始まっていたことが、考古学的調査から判明している。

冬季には大量の雪が降り、「伊吹おろし」を濃尾平野に吹き降ろす厳しい気候、石灰岩地特有の岩場、低山でありながら高山植物が咲き誇り、薬草の宝庫として知られる特異な植物相などの自然は、記紀のヤマトタケル神話を生みだした。奈良時代以降は山岳修験の霊山として知られ、山中には山寺（山岳寺院）が展開した。さらに中世には、北近江を拠点とした京極氏や浅井氏がこの霊山に城郭を構えることによって民衆の支持を求めた。太平寺城や上平寺城は、近江にみられる「山寺から山城」への変革を雄弁に物語る。

また、山麓に住む人々は、水や衣食住の材料を産んでくれる神の山として伊吹山を畏れ敬いながら、山の恵みを利用した石材加工などの産業が発展した。

本講では、伊吹山と山を取り巻く環境・歴史・文化に着目し、考古学・文化財の活用について学習する。

到達目標

- (1) 考古学を中心に、隣接分野の手法や効果についても学び、地域を解釈する調査視点を学ぶことができる。
- (2) 伊吹山を中心に山の考古学が理解でき、各地域における山・里山・野・河などの調査に応用することができる。
- (3) 遺跡と地域、住民との関わりの実例を挙げるので、活用の手法に適用することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

特に、必携ではありませんが、何かの機会に目を通しておけば、参考になると思う。必要なものは講義中にプリントを配布する。

前提学力等

履修資格

講義名	地域考古学D						担当教員	
講義コード	1401960	単位数	2	開講期	後期集中	授業方法	講義	
ナンバリング番号								

授業計画								
回数	テーマ	概要					予習 / 復習	
第1回	伊吹山概説	いつの時代も人々が眺めたランドスケープ。伊吹山の成り立ちから自然、通史を確認しつつ、その魅力にも迫り、講義全体のガイダンスと						
第2回	縄文時代の伊吹山麓〔縄文〕	伊吹山麓は縄文遺跡が集中する地域として知られている。滋賀県内の様相を交えて、伊吹山麓に縄文文化が展開したようすを概観する。						
第3回	縄文人の暮らしと信仰〔縄文〕	伊吹山麓から出土した豊富な土器や石器などの遺物、遺構から、他地域との交流により支えられた縄文人の暮らしを紹介するとともに、伊						
第4回	ヤマトタケル神話と伊吹山の荒ぶる神〔古〕	神話の英雄ヤマトタケルは、伊吹山の神を侮ったことから返り討ちに会い、死を迎える。タケル神話を題材に、古代人の伊吹山観を考古学						
第5回	伊吹山周辺の製鉄遺跡〔古代〕	「伊吹」の名前の由来は、一説に「息を吹く」であるという。冬に濃尾平野に吹きすさぶ伊吹おろしは有名で、この風が製鉄に利用された						
第6回	「日本七高山」伊吹山〔古代〕	荒ぶる伊吹山の神は、律令国家の成立とともに鎮護国家の神にかわる。平安時代に「日本七高山」のひとつとなり、祈祷の場であった伊						
第7回	伊吹山寺と近江の山寺〔中世〕	伊吹山に集う修験者を受け入れた山寺（山岳寺院）の展開を、琵琶湖を取り巻く近江の山寺の様相と合わせて概観し、近江の山岳信仰を考						
第8回	伊吹山の神を祀る神社と水利〔中世〕	伊吹山の神を祀る里宮である伊夫岐神社（米原市伊吹）を題材に、姉川の水利について、古代・中世の開拓の歴史を紹介し、人々は伊吹山						
第9回	山寺から山城へ〔中世〕	近江を代表する典型的な山寺・弥高寺の調査を題材に山寺の様相を概観するとともに、京極氏や浅井氏、六角氏が山寺を山城に利用した意						
第10回	伊吹山麓の巨大城館・上平等寺城〔中世〕	16世紀初頭に京極氏が整備した庭園を伴う居館、城下、詰の城の調査成果から、典型的な戦国大名の城郭の在り方と京極氏政権を概観す						
第11回	姉川上流の石切り場と石工の村〔中近世〕	米原市曲谷は、鎌倉時代末から明治まで花崗岩を利用した石材加工をおこなっていた貴重な石工の集落である。石切り場や石工道具、集落						
第12回	伊吹山周辺の石の文化財〔中近世〕	山岳信仰が盛んだった伊吹山周辺には、信仰に伴う石造文化財が多く残されている。これらを個別、体系的に解説し、近江の豊かな石の文						
第13回	農民の文化財・シシ垣〔近世〕	伊吹山麓には石灰岩を利用したシシ垣が延々と築かれている。農作物を荒らすシカやイノシシによる獣害は、今日の大きな課題であるが、						
第14回	伊吹山を学び、紹介する〔活用〕	米原市伊吹山文化資料館は、「伊吹山と山麓の自然と文化」をメインテーマに展示や体験活動を展開する住民手作りの資料館である。ここ						
第15回	遺跡にくらす、遺跡を活かす〔活用〕	米原市杉沢では、山からの湧き水をよりどころに縄文中期から現在まで継続して集落が営まれてきた。地域とともに行った発掘調査から遺						

担当者から

あらかじめ伊吹山に関する予備知識を持っていただくと内容が理解しやすい。みなさんがフィールドとする地域を愛し、地域に目を向けるきっかけになればと考えています。

講義名	地域と空間						担当教員	市川 秀之
講義コード	1401980	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	130HER102-C							

授業概要

地域社会を理解するうえで、空間的視点からのアプローチは非常に有効である。この授業では村落および年を対象として、地域社会と空間の関連について説明を進めたい。具体的にはムラとマチの見方・歩き方が授業の中心となる。民俗学的視点からの村落・都市空間論や生業空間の利用を中心に講義するが、条里制・街道・城下町など歴史地理学的なテーマについても取り上げることとする。
授業では多くの地図を配布し、それを利用して講義をすすめる。課題レポートではその地図を生かしたフィールドワークの成果の提出を求める。授業を通じて地図の利用に精通することも目的の一つである。

到達目標

- (1) 地域社会の空間的特質に関する基本的な概念および用語を理解する。
(2) 地形図や小字図を読みとく技法を習得する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40	・地域社会の空間的特質に関する基本的な概念および用語を理解できているか否かを評価(語句説明)。 ・地形図や小字図を読みとく技法を習得できているか否かを評価(地図読解)。
レポート課題	20	任意の場所について新旧の地図を利用して、その土地の空間的な特性が説明できるかいなかを評価。
上記以外	40	毎回提出するレスポンスカードの内容を通じて、その授業の内容を理解できているかいなかを評価。

レポートを提出していないものは評価対象とはしない。

授業外学習

宿題は特に課さないが、毎回授業のあとで提出するレスポンスカードの内容については評価対象とする。また次回に配布するレスポンスへの回答および次回分のレジユメについては熟読しておくこと。その理解をもとに次回の授業を進める。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	日本の民俗 5	市川秀之ほか	吉川弘文館	978-4-642-07873-3
2				
3				

授業ではレジユメを配布する

前提学力等

履修資格

講義名	地域文化演習						担当教員	学科教員 / 京樂 真帆子 / 東 幸代 / 塚本 礼仁 / 石川 慎治 / 市川 秀之 / 亀井 若菜 / 横田 祥子 / 萩原 和 /
講義コード	1401990	単位数	2	開講期	通年	授業方法	演習	
ナンバリング番号	230REG201							

授業概要

3回生以後の卒業論文に関する指導を主な内容とする地域文化演習・地域文化演習への導入の授業である。このなかで、卒業論文のテーマをどうするのかなどの自覚を促し、3回生の時点でスムーズにゼミを選択し、個別的な指導を受けられるように方向づける。領域を日本文化史、日本地域史、地理学、保存修景、考古学・世界遺産学、東アジアとの文化交流、民俗学、社会学、日本美術史、地域計画学のゾーンに区分し、学生は前期と後期にそれぞれ一つずつ選択する。

到達目標

(1) 研究課題を見出し探求するために必要な専門知識・周辺知識を自ら進んで学習できるようになる(100%)。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	(1)については、毎回のゼミでのディスカッションへの参加(50%)と、報告内容(50%)で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

各担当教員の指示による。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

各担当教員の指示による。

前提学力等

履修資格

講義名	地域文化演習						担当教員	学科教員 / 京樂 真帆子 / 東 幸代 / 塚本 礼仁 / 石川 慎治 / 市川 秀之 / 亀井 若菜 / 横田 祥子 / 萩原 和 /
講義コード	1401990	単位数	2	開講期	通年	授業方法	演習	
ナンバリング番号	230REG201							

授業計画

回数	テーマ	概要	予習 / 復習
第1回	ガイダンス (前期)	前期の各担当教員より、各回の内容、スケジュールについて説明する。	2
第2回	地域文化演習 前期その1		2 各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第3回	地域文化演習 前期その2		2 各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第4回	地域文化演習 前期その3		2 各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第5回	地域文化演習 前期その4		2 各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第6回	地域文化演習 その5		2 各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第7回	地域文化演習 前期その6		2 各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第8回	地域文化演習 前期その7		2 各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第9回	地域文化演習 前期その8		2 各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第10回	地域文化演習 前期その9		2 各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第11回	地域文化演習 前期その10		2 各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第12回	地域文化演習 前期その11		2 各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第13回	地域文化演習 前期その12		2 各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第14回	地域文化演習 前期その13		2 各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第15回	地域文化演習 前期その14		2 各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第16回	ガイダンス (後期)	後期の各担当教員より、各回の内容、スケジュールについて説明する。	2
第17回	地域文化演習 後期その1		2 各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第18回	地域文化演習 後期その2		2 各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第19回	地域文化演習 後期その3		2 各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第20回	地域文化演習 後期その4		2 各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第21回	地域文化演習 後期その5		2 各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第22回	地域文化演習 後期その6		2 各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第23回	地域文化演習 後期その7		2 各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第24回	地域文化演習 後期その8		2 各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第25回	地域文化演習 後期その9		2 各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第26回	地域文化演習 後期その10		2 各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第27回	地域文化演習 後期その11		2 各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第28回	地域文化演習 後期その12		2 各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第29回	地域文化演習 後期その13		2 各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第30回	地域文化演習 後期その14		2 各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。

担当者から

講義名	地域文化演習						担当教員	学科教員 / 京樂 真帆子 / 東 幸代 / 塚本 礼仁 / 石川 慎治 / 市川 秀之 / 亀井 若菜 / 横田 祥子 / 萩原 和 /
講義コード	1402000	単位数	2	開講期	通年	授業方法	演習	
ナンバリング番号	330REG301							

授業概要

4回生の卒業論文に関する指導を内容とする地域文化演習 に直接つながる授業と位置づける。個別にゼミを選択し、各自のテーマに従って研究を進める。

到達目標

(1) 指導教員やゼミ生、および地域との関わりの中で、リーダーシップと協調性をもって主体的に研究活動ができるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	(1)については、毎回のゼミでのディスカッション(50%)と報告内容(50%)で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

各担当教員の指示による。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

各担当教員の指示による。

前提学力等

履修資格

講義名	地域文化演習						担当教員	学科教員 / 京樂 真帆子 / 東 幸代 / 塚本 礼仁 / 石川 慎治 / 市川 秀之 / 亀井 若菜 / 横田 祥子 / 萩原 和 /
講義コード	1402000	単位数	2	開講期	通年	授業方法	演習	
ナンバリング番号	330REG301							

授業計画

回数	テーマ	概要		予習 / 復習
第1回	ガイダンス	各担当教員より、各回の内容やスケジュールについて説明する。	2	
第2回	地域文化演習 その1		2	各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第3回	地域文化演習 その2		2	各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第4回	地域文化演習 その3		2	各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第5回	地域文化演習 その4		2	各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第6回	地域文化演習 その5		2	各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第7回	地域文化演習 その6		2	各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第8回	地域文化演習 その7		2	各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第9回	地域文化演習 その8		2	各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第10回	地域文化演習 その9		2	各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第11回	地域文化演習 その10		2	各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第12回	地域文化演習 その11		2	各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第13回	地域文化演習 その12		2	各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第14回	地域文化演習 その13		2	各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第15回	地域文化演習 その14		2	各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第16回	地域文化演習 その15		2	各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第17回	地域文化演習 その16		2	各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第18回	地域文化演習 その17		2	各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第19回	地域文化演習 その18		2	各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第20回	地域文化演習 その19		2	各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第21回	地域文化演習 その20		2	各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第22回	地域文化演習 その21		2	各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第23回	地域文化演習 その22		2	各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第24回	地域文化演習 その23		2	各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第25回	地域文化演習 その24		2	各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第26回	地域文化演習 その25		2	各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第27回	地域文化演習 その26		2	各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第28回	地域文化演習 その27		2	各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第29回	地域文化演習 その28		2	各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。
第30回	卒業論文キックオフ大会	全ゼミ合同の研究発表会を複数会場に分かれて実施する。全学生が、それぞれ卒業論文で取り組む予定の研究内容について発表する（発表	2	事前に発表内容をA4一枚の要旨に会場での指摘・質問の内容を整理
担当者から				

講義名	地域文化基礎演習						担当教員	学科教員 / 京樂 真帆子 / 東 幸代 / 塚本 礼仁 / 石川 慎治 / 市川 秀之 / 亀井 若菜 / 横田 祥子 / 萩原 和 /
講義コード	1402011	単位数	1	開講期	後期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	130REG105							

授業概要

地域文化学科で学び研究することになる専門分野に関して、基礎的な知識や研究の手法を学ぶ。学生は二つのグループに分かれ、授業ごとに学科教員全員の指導を受けることになる。

到達目標

(1)専門分野に関する基礎的な知識や研究の手法を身につけることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	専門分野に関する基礎的な知識や研究の手法を身につけることができるについては、第2回～第15回の毎回の小レポートで評価する(100%)。100点満点で60点以上を合格とする。
上記以外		

シラバスに記載された第2回以降の授業順は暫定的な順番である。授業順は年度により異なる。実際の授業スケジュールは後期のはじめに連絡する。

授業外学習

第2回より、毎回各分野のテーマに沿った小レポートを提出してもらう。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

各担当教員の指示による。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

各担当教員の指示による。

前提学力等

履修資格

講義名	地域文化演習						担当教員	学科教員 / 京樂 真帆子 / 東 幸代 / 塚本 礼仁 / 石川 慎治 / 市川 秀之 / 亀井 若菜 / 横田 祥子 / 萩原 和 /
講義コード	1402012	単位数	1	開講期	前期	授業方法	演習	
ナンバリング番号								

授業概要

卒業論文に関する指導をする。個別にゼミを選択し、各自のテーマに従って研究を進める。

到達目標

(1) 卒業論文の研究課題にとりくむための研究計画を立案し、それに基づいて研究を実行できるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	(1)については、毎回のゼミでのディスカッション(50%)と報告内容(50%)で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

各担当教員の指示による。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

各担当教員の指示による。

前提学力等

履修資格

講義名	地域文化演習						担当教員	学科教員 / 京樂 真帆子 / 東 幸代 / 塚本 礼仁 / 石川 慎治 / 市川 秀之 / 亀井 若菜 / 横田 祥子 / 萩原 和 /
講義コード	1402015	単位数	1	開講期	後期	授業方法	演習	
ナンバリング番号								

授業概要

卒業論文に関する指導をする。個別にゼミを選択し、各自のテーマに従って研究を進める。

到達目標

(1) 卒業論文の研究課題に取り組むための研究計画を立案し、それに基づいて研究を実行できるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	(1)については、毎回のゼミでのディスカッション(50%)と報告内容(50%)で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

各担当教員の指示による。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

各担当教員の指示による。

前提学力等

履修資格

講義名	地域文化演習						担当教員	学科教員 / 京樂 真帆子 / 東 幸代 / 塚本 礼仁 / 石川 慎治 / 市川 秀之 / 亀井 若菜 / 横田 祥子 / 萩原 和 /
講義コード	1402015	単位数	1	開講期	後期	授業方法	演習	
ナンバリング番号								

授業計画							
回数	テーマ	概要				予習 / 復習	
第1回	ガイダンス	各担当教員より、各回の内容やスケジュールについて説明する。				2	
第2回	地域文化演習 その1				2	各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。	
第3回	地域文化演習 その2				2	各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。	
第4回	地域文化演習 その3				2	各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。	
第5回	地域文化演習 その4				2	各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。	
第6回	地域文化演習 その5				2	各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。	
第7回	地域文化演習 その6				2	各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。	
第8回	地域文化演習 その7				2	各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。	
第9回	地域文化演習 その8				2	各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。	
第10回	地域文化演習 その9				2	各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。	
第11回	地域文化演習 その10				2	各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。	
第12回	地域文化演習 その11				2	各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。	
第13回	地域文化演習 その12				2	各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。	
第14回	地域文化演習 その13				2	各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。	
第15回	地域文化演習 その14				2	各担当教員より説明する。 各担当教員より説明する。	
担当者から							

講義名	地域文化財論 A							担当教員	
講義コード	1402020	単位数	2	開講期	前期集中	授業方法	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

地域固有の歴史的環境を守り育てていくためには、様々な立場の人が、その成り立ちを正しく認識することが不可欠です。授業では、建築史学の立場から都市や集落を空間的側面から捉える視点や方法を解説しながら、「琵琶湖沿岸の都市・集落景観の変遷」など身近なテーマを取り上げ、また実践的な事例から多様化しつつある地域文化財の「保存」と「活用」の現代的課題について再検討したいと考えています。

到達目標

地域文化財の重要性について認識し、地域の歴史的環境を保存・継承していくための方法論の基礎を習得することができる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

集中講義のため、3分2以上授業に出席した受講者を評価の対象とする。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

初回授業時にプリントを配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考図書は、適宜、授業内で紹介する。

前提学力等

特にないが、身近な地域の文化財保存や歴史的環境の保全について、日頃から、歩く・見る・調べるという姿勢をもっていること。

履修資格

講義名	地域文化財論A						担当教員	
講義コード	1402020	単位数	2	開講期	前期集中	授業方法	講義	
ナンバリング番号								

授業計画

回数	テーマ	概要	予習／復習
第1回	居住環境の継承・何のために遺すのか	都市・社会の記憶と都市空間の歴史的積層性 アジア都市の保存・再生(シンガポール・ソウル)	
第2回	歴史的建築を遺すこと、活かすことを考え	日本に古い建築(国指定文化財建造物)は、どれくらい保存されているか/国宝となった建築たち	
第3回	景観を考える - 景観法と歴史的町並の現代的	景観法の概要と特徴、歴史的町並の現代的变化(歴史的街並の再現、彦根の町並保存と再生)	
第4回	水辺と都市	琵琶湖沿岸域の伝統都市景観の変遷 - 中世から近世へ	
第5回	世代を引き継ぐ家の姿：惣村の伝統	菅浦の集住環境と「家ガワリ」	
第6回	祭礼からみた都市空間の変容と地域コミュニ	江戸町人地の祭礼空間 - その重層性 明治期の転換 - 祭礼空間の一元化 近代東京の市街地形成と 祭礼空間 祭礼空間の変容からみた	
第7回	コモンスペースの成立と展開	町家の皮下空間 「私道」としての路地空間 都市祭礼と共有空間	
第8回	海を渡った日本の住宅	日本統治期に台湾に建てられた「日式住宅」の保存活用	
第9回	地域文化財の保存と活用<遺す・活かす・創る	(1)喜多方「葎の里」づくり1995年(福島県喜多方市):会津盆地の集落と歴史的環境蔵造り、建物の移築・復元と活用 - 総体としての歴	
第10回	地域文化財の保存と活用<遺す・活かす・創る	(2)同潤会代官山アパートの記録保存と住戸の移築保存1998年(東京都渋谷区) - 震災復興計画の遺産を継承すること -	
第11回	地域文化財の保存と活用<遺す・活かす・創る	(3)旧御師・外川家住宅2009年(山梨県富士吉田市)と兜造りの民家集落・上戸川2010年(同笛吹市) - 世界文化遺産・富士山周辺の歴史的	
第12回	地域文化財の保存と活用<遺す・活かす・創る	(4)旧中村研一郎にみる「はけ」の住環境の保存と活用 2017年(東京都小金井市) - 東京郊外・国分寺崖線の住環境を継承する -	
第13回	地域文化財の保存と活用<遺す・活かす・創る	(5)武田氏館跡歴史館(信玄ミュージアム)の基本計画 2019年(山梨県甲府市) - 戦国期の遺跡と近代和風建築の保存と活用<遺す・活かす	
第14回	地域文化財の保存と活用<遺す・活かす・創る	(6)春日大社旧祢宜・藤間家住宅の保存と活用 2017年～(奈良県奈良市) - AIR(アーティスト・イン・レジデンス)活用とレストラン	
第15回	まとめ	地域文化財の活かし方	

担当者から

講義名	地域文化財論 B						担当教員	石川 慎治
講義コード	1402030	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	130HER105-C							

授業概要

学術的な価値や美術的な価値は高くはないものの、人々の永きにわたる営みにより、地域の中ではぐくまれてきた地域文化財について講義する。歴史的環境を構成する地域文化財のうち、遺跡や建造物もしくは建造物群や文化的景観を中心に講義し、その保全について解説する。

到達目標

- (1)身近な生活空間の中に遺存している地域文化財について理解し、その多様性を説明できること。
- (2)地域文化財のはぐくまれてきた歴史的環境を理解し、説明できること。
- (3)地域文化財を再評価し、その保存・活用について考えられること。
- (4)地域や時代を問わず、地域文化財を取り上げ、人々を魅了する点について批評することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	55	第15回授業終了後に、レポート課題を課し、期限内に提出する。
上記以外	45	レスポンスペーパーを、毎回授業内で書いて提出する。

課題レポート(55%)とレスポンスペーパー(45%)で評価する。100点満点で採点し、60点以上を合格とする。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	都市史図集	都市史図集編纂委員会	彰国社	4-395-00489-X C3052
2	東洋建築史図集	日本建築学会	彰国社	4-395-00087-8 C3052
3	西洋建築史図集	日本建築学会	彰国社	4-395-00021-5 C3052

授業中にプリント配布する。

前提学力等

履修資格

講義名	地誌学						担当教員	塚本 礼仁
講義コード	1402050	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	330SOC305							

授業概要

地理学は系統地理学と地誌学とに大別される。系統地理学は「～の気候」（自然地理学）や「～の産業」（人文地理学）などのように、さまざまなテーマごとの分析をおこなう。一方、地誌学は、こうした系統地理学の知見を統合し、「地域」それ自体の特性を明らかにする分野である。本講義では、国内外のいろいろな「地域」を素材とし、その特徴を他地域との共通性やユニークさに留意しつつ解説していく。また、地図を使った作業などを通して、地域研究の経験も重ねていきたい。

到達目標

- (1) 日本・世界の地域問題を、人文地理学の観点から考察することができる。
- (2) 日本・世界の地域問題を、自然地理学の観点から考察することができる。
- (3) 日本・世界の地域問題を、統計データや地図から読み取ることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60	到達目標(1)(2)(3)それぞれ20%ずつ。出題方針、採点基準は授業にて通知する。
レポート課題		
上記以外	40	到達目標(1)(2)(3)のいずれか、または複数が関係する宿題を課す。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	地理学基礎シリーズ 地誌学概論	矢ヶ崎典隆ほか	朝倉書店	974-4-254-16818-1
2	日本の地誌8 近畿圏	金田章裕・石川義孝編	朝倉書店	974-4-254-16768-7
3				

適宜プリントを配布する。

前提学力等

人文地理学A、人文地理学Bを履修済みであること。

履修資格

講義名	地誌学						担当教員	塚本 礼仁
講義コード	1402050	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	330SOC305							

授業計画							
回数	テーマ	概要				予習/復習	
第1回	オリエンテーション	講義紹介(授業スタイル、成績評価、期末試験の出題方針などの説明)、受講生アンケート(教職科目としてのニーズ調査)など。				2	宿題(事前に通知)に解答する。 レスポンスシート(授業内課題の解
第2回	地誌学概論 1	地誌学の位置づけと目標、静態的地誌・動態的地誌・比較地誌について解説する。				2	宿題(前回講義で通知)に解答す レスポンスシート(授業内課題の解
第3回	地誌学概論 2	担当教員の故郷の地誌: 福岡県大牟田市・熊本県荒尾市。炭鉱から観光へ、観光から環境へ、そして...				2	宿題(前回講義で通知)に解答す レスポンスシート(授業内課題の解
第4回	地誌学概論 3	近畿地方の地誌: 「近畿」の成り立ちと滋賀県。特に現在の京阪神大都市圏と滋賀県の関わりに注目した動態的地誌。				2	宿題(前回講義で通知)に解答す レスポンスシート(授業内課題の解
第5回	滋賀県の地誌 1	滋賀県の地域性: 滋賀県の自然環境、産業構造、社会・文化的特性、地域構造・地域差を整理した静態的地誌。				2	宿題(前回講義で通知)に解答す レスポンスシート(授業内課題の解
第6回	滋賀県の地誌 2	滋賀県の地域性: 滋賀県における琵琶湖の位置づけに注目した動態的地誌。				2	宿題(前回講義で通知)に解答す レスポンスシート(授業内課題の解
第7回	滋賀県の地誌 3	湖南・甲賀地域: 交通網の整備と連動する都市化・工業化に注目した動態的地誌。				2	宿題(前回講義で通知)に解答す レスポンスシート(授業内課題の解
第8回	滋賀県の地誌 4	湖東地域: 湖東平野の産業(農業、在来工業、観光など)に注目した動態的地誌。				2	宿題(前回講義で通知)に解答す レスポンスシート(授業内課題の解
第9回	滋賀県の地誌 5	湖西・湖北地域: 近江盆地の風土と暮らし(生活文化)に注目した動態的地誌。				2	宿題(前回講義で通知)に解答す レスポンスシート(授業内課題の解
第10回	日本の地誌 1	新潟県越後平野: 治水にみる地域と風土の関係。滋賀県との比較地誌。				2	宿題(前回講義で通知)に解答す レスポンスシート(授業内課題の解
第11回	日本の地誌 2	香川県小豆島: 特産物(しょう油・そうめん・オリーブ)にみる地域と産業の関係。滋賀県との比較地誌。				2	宿題(前回講義で通知)に解答す レスポンスシート(授業内課題の解
第12回	日本の地誌 3	山梨県: 地域の歴史的背景と合併地名との関係。滋賀県との比較地誌。				2	宿題(前回講義で通知)に解答す レスポンスシート(授業内課題の解
第13回	日本の地誌 4	富山県富山市: 地域の実情と都市問題・都市政策との関係(コンパクトシティ論)。滋賀県との比較地誌。				2	宿題(前回講義で通知)に解答す レスポンスシート(授業内課題の解
第14回	外国の地誌 1	イタリアの地域性と飲食文化。				2	宿題(前回講義で通知)に解答す レスポンスシート(授業内課題の解
第15回	外国の地誌 2	イタリアの地域性と産業文化。				2	宿題(前回講義で通知)に解答す レスポンスシート(授業内課題の解
担当者から							
地図帳と色鉛筆(セット)を持参すること。							

講義名	中国地域文化特論						担当教員	前田 尚美
講義コード	1402100	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号								

授業概要

近年、中国は発展目覚ましい一方で、外交が経済について日本からのみならず、世界中から注目されている。そうした動きのなかで、中国国内ではその歴史として特に明代(1368～1644)やその実質的2代目にあたる永楽帝の存在が、海外への中国の存在感を示した存在として注目されている。また日本の中国史関連書籍の中国語訳がすすむなど、中国人の自国の歴史への関心も高まってきている。中国との関係が重要度を増すなか、本講義では中国のみではなく東アジア(中国・日本・朝鮮半島・琉球など)の動きや影響・ヨーロッパとの関わりを、通史としてみていく。そのなかで日本史・中国史といった一国史ではなく、さらに大きな視点で物や人が連動していく一方で、それぞれの考え方・やり方の違いやその根拠があるという多角的な視点・考え方を身につけていく。

到達目標

- (1) 日本のみならず中国などの歴史的展開を理解すること
- (2) 一つの事件・出来事から東アジア・世界全体からみるという視点の習得
- (3) 歴史から現代を見る・考える手法の習得

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	到達目標について、論述式試験を行う
レポート課題		
上記以外	50	到達目標について、毎回の講義でレスポンスペーパーを提出

三分の一以上欠席した場合は評価対象としないが、就職活動など理由がある場合、事後でもいので申し出ること。考慮することもある。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

講義及びプリントで適宜紹介していく

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

プリントを配布。参考文献も適宜紹介していく。

前提学力等

高校世界史の中国史、アジア史や日本史の事項のついて知っておくことが望ましいが、高校で履修していない場合でも問題はない。

履修資格

講義名	中国地域文化特論						担当教員	前田 尚美
講義コード	1402100	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号								

授業計画									
回数	テーマ	概要				予習 / 復習			
第1回	ガイダンス	オリエンテーションを行い、授業方針などを説明。				2	基本は不要ですが、高校世界史の中	1	基本は不要ですが、高校世界史の中
第2回	中国と天下	中華など中国を示す言葉の起源を通じ、普段何気なく使用している中国や天下とは何なのかを見ていく。(内容のまとめ・質問のレスポンス)				2	基本は不要ですが、高校世界史の中	1	基本は不要ですが、高校世界史の中
第3回	中国を中心にした国際関係1	中国から見た日本や朝鮮半島との関係はどのようなものなのか。遣唐使などの存在はどのようなものなのか。(内容のまとめ・質問のレスポンス)				2	基本は不要ですが、高校世界史の中	1	次回以降、歴史なので話が関連す
第4回	中国を中心にした国際関係2	中国では唐以降、北方民族からの侵入を受ける。そこから生じた国際関係の変化をみる。(内容のまとめ・質問のレスポンス)				2	前回の内容と高校世界史の中国史	1	次回以降、歴史なので話が関連す
第5回	中国を中心にした国際関係3	宋以降活発になる民間貿易は元(モンゴル帝国)になって一層押し進められる。その中で起きる元寇はどのようなものなのか。(内容のまとめ・質問のレスポンス)				2	前回の内容と高校世界史の中国史	1	次回以降、歴史なので話が関連す
第6回	元末期の東アジアの連動	1300年代半ばは、中国・日本・朝鮮半島で政権交代が相次ぐ。こうした連動とそれぞれの関係性の変化をみる。(内容のまとめ・質問のレスポンス)				2	前回の内容と高校世界史の中国史	1	次回以降、歴史なので話が関連す
第7回	明の成立と海禁	明が成立すると、中国の人々の海外出航を禁じる命令(海禁)が出される。一種の鎖国とも見えるこの政策と国際関係をみる。(内容のまとめ・質問のレスポンス)				2	前回の内容と高校世界史の中国史	1	次回以降、歴史なので話が関連す
第8回	海禁 = 朝貢システム	明は海禁と貿易を両立させるため、新しい国際関係を構築する。どのように機能したのか。(内容のまとめ・質問のレスポンス)				2	前回の内容と高校世界史の中国史	1	次回以降、歴史なので話が関連す
第9回	日本と明の関係	明の対外関係や海禁、そして日本との関係。(内容のまとめ・質問のレスポンス)				2	前回の内容と高校世界史の中国史	1	次回以降、歴史なので話が関連す
第10回	日本と明の関係 2	足利義満を中心に、日明貿易(勘合貿易)を明側からみる。(内容のまとめ・質問のレスポンス)				2	前回の内容と高校世界史の中国史	1	次回以降、歴史なので話が関連す
第11回	朝鮮・琉球と明の関係	日本の関係もまじえて、大きく東アジアの動きをみていく。(内容のまとめ・質問のレスポンス)				2	前回の内容と高校世界史の中国史	1	次回以降、歴史なので話が関連す
第12回	鄭和の南海遠征(西洋下り)	明の実質 2 代目になる永楽帝の大々的な対外政策とそのなかで特徴的な鄭和による遠征をみる。(内容のまとめ・質問のレスポンス)				2	前回の内容と高校世界史の中国史	1	次回以降、歴史なので話が関連す
第13回	北虜南倭	明代の北(モンゴルなど騎馬民族)と南(日本などの商人、倭寇)との対応の相違。(内容のまとめ・質問のレスポンス)				2	前回の内容と高校世界史の中国史	1	次回以降、歴史なので話が関連す
第14回	日本と明の関係 3	豊臣秀吉の朝鮮出兵と明・朝鮮との関係。(内容のまとめ・質問のレスポンス)				2	前回の内容と高校世界史の中国史	1	次回以降、歴史なので話が関連す
第15回	まとめ	ヨーロッパ人から見た明・清という新しい国際関係と、これまでの流れのまとめ。(内容のまとめ・質問のレスポンス)				2	前回の内容と高校世界史の中国史	1	これまでの授業内容や自分のメモを
担当者から									

講義名	中国地域文化論						担当教員	横田 祥子
講義コード	1402110	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	230EXC202							

授業概要

近年、中国が目覚ましい経済発展を遂げ、国際社会においてプレゼンスを高めるにつれ、経済発展や、それに伴う経済格差の拡大、環境汚染の深刻化など中国社会が直面している問題に関して、詳しい情報が流れている。これに比して、中国に生きる人々がどのような暮らしを送り、どのような文化的実践を行っているのかについては、相対的に情報量が減っているように思われる。しかし、隣国中国を総合的に理解するためには、政治経済的側面、社会問題だけでなく、社会的文化的側面からもアプローチする必要がある。そこで本授業では、中国の文化・社会を構成する重要なエッセンス、トピックを取り上げ、文化人類学的観点から理解を深める。

到達目標

- (1) 中国の文化の重要な基本概念を理解する。
- (2) 中国の文化の地域的・民族的多様性と、それに対する漢族の影響を理解する。
- (3) 中国文化の魅力を楽しむ。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	70	(1) 中国の文化の重要な基本概念を理解し、説明できる。(20%) (2) 中国の文化の地域的・民族的多様性と、それに対する漢族の影響を理解し、説明できる。(20%) (3) 中国の文化・社会について、自ら関心がある事象についての情報を収集し、まとめることができる。(20%)
上記以外	30	授業内容を理解し、発展的な課題を発見できる。

授業外学習

大学図書館には、中国の世界遺産や少数民族の文化、周辺国への文化的影響力を描いた映像資料や、少数民族が置かれている状況を伝える映画が多数ありますので、ぜひ鑑賞してください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ハンドブック現代中国	愛知大学現代中国学部	あるむ	9784863330634
2	現代中国を知るための60章	高井潔司, 遊川和郎	明石書店	4750317721
3	漢民族と中国社会	橋本萬太郎	山川出版社	4634440504

前提学力等

履修資格

講義名	朝鮮地域文化特論						担当教員	安田 純也
講義コード	1402170	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	330EXC302							

授業概要

この授業では、朝鮮文化の形成、展開を歴史的に振り返るが、今年度は朝鮮半島の世界文化遺産を取り上げる。韓国、北朝鮮には2021年現在15の世界文化遺産が登録されているが、この授業では文献史学の視点からそれぞれの世界遺産の歴史を学ぶことを通じ、朝鮮半島の文化の特色について考えていく。

到達目標

- (1)朝鮮文化史の概要を把握できるようにする。
- (2)朝鮮半島の文化を多面的に把握できるようにする。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40	授業内容の理解度と説明能力を審査する
レポート課題	20	1回課す
上記以外	40	小テストを1回実施する。宿題は1-2回課す。

授業外学習

予習：参考文献を読み、予備知識をつける。
復習：ノートの整理を行う。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

配布プリントを中心とする。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	朝鮮の歴史	田中俊明	昭和堂	
2	韓国の世界遺産宗廟	矢木毅	臨川書店	
3				

授業中に適宜紹介する。

前提学力等

朝鮮半島の歴史に興味を持つ学生を対象とする。

履修資格

講義名	朝鮮地域文化論						担当教員	木村 可奈子
講義コード	1402171	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講	
ナンバリング番号								

授業概要

テーマ：朝鮮半島の歴史と現在
日本の隣にある朝鮮半島に関する基本的な知識を身につけることがこの授業の目的である。
まず、高校までの歴史教育ではほとんど勉強しない朝鮮半島の歴史に関する基本的な知識を身につけるために、朝鮮半島の通史を説明する。さらに日々我々が接する現代の朝鮮半島の様々な事象を理解できるようになるために、現代韓国の政治や社会、文化について説明する。

到達目標

- (1) 朝鮮半島の歴史について基礎的知識を身につける。
- (2) 東アジアの歴史について広い視野から考えられるようになる。
- (3) 朝鮮半島の政治、社会、文化について基礎的知識を身につける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	70	提示した課題に対するレポートから評価する。
上記以外	30	授業への参加度やコメントを総合的に評価する。

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用しない。授業中にプリントを配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	『朝鮮の歴史 先史から現代』	田中正俊編	昭和堂	
2	『世界歴史大系 朝鮮史 1 先史～朝鮮王朝』	李成市・宮嶋博史・糟谷憲一編	山川出版社	
3	『知りたくなる韓国』	新城道彦等編	有斐閣	

前提学力等

特になし。

履修資格

講義名	朝鮮地域文化論						担当教員	木村 可奈子		
講義コード	1402171	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講			
ナンバリング番号										

授業計画											
回数	テーマ	概要				予習／復習					
第1回	はじめに	本講義の対象とする地域について受講者の持っている知識を確認する。				2	朝鮮半島について自分が持っている 今回の授業で学んだことを復習す				2
第2回	朝鮮半島の歴史のはじまり～朝鮮三国の成立	朝鮮半島の歴史のはじまりから三国の成立の展開を概観する。				2	高校までで勉強した内容を復習す 今回の授業で学んだことを復習す				2
第3回	朝鮮の三国時代(1) 三国統一戦争	三国の統一に向かう展開を、中国・日本との関係を交えながら概観する。				2	高校までで勉強した内容を復習す 今回の授業で学んだことを復習す				2
第4回	朝鮮の三国時代(2) 白村江の戦いと新羅の統	白村江の戦いから新羅の統一までの流れを概観する。				2	高校までで勉強した内容を復習す 今回の授業で学んだことを復習す				2
第5回	渤海	渤海の歴史を解説する。				2	高校までで勉強した内容を復習す 今回の授業で学んだことを復習す				2
第6回	高麗(1) 成立～元との対立	高麗の成立から元との戦争までを解説する。				2	高校までで勉強した内容を復習す 今回の授業で学んだことを復習す				2
第7回	高麗(2) 事元と元寇	事元期の高麗の歴史を解説する。				2	高校までで勉強した内容を復習す 今回の授業で学んだことを復習す				2
第8回	朝鮮(1) 朝鮮の成立と前期朝鮮の歴史	朝鮮の成立と前期朝鮮の歴史を解説する。				2	高校までで勉強した内容を復習す 今回の授業で学んだことを復習す				2
第9回	朝鮮(2) 壬辰戦争、丁卯・丙子胡乱	壬辰戦争・丁卯・丙子胡乱について解説する。				2	高校までで勉強した内容を復習す 今回の授業で学んだことを復習す				2
第10回	朝鮮(3) 後期朝鮮の歴史	後期朝鮮の歴史を解説する。				2	高校までで勉強した内容を復習す 今回の授業で学んだことを復習す				2
第11回	朝鮮(4) 朝鮮末期から大韓帝国へ	朝鮮末期から大韓帝国の成立について解説する。				2	高校までで勉強した内容を復習す 今回の授業で学んだことを復習す				2
第12回	近・現代	大韓帝国から日本統治時代、現代までの歴史を概観する。				2	高校までで勉強した内容を復習す 今回の授業で学んだことを復習す				2
第13回	韓国の政治	現代韓国の政治について説明する。				2	韓国に関するニュースを読んでく 今回の授業で学んだことを復習す				2
第14回	韓国の社会	現代韓国の社会について説明する。				2	韓国に関するニュースを読んでく 今回の授業で学んだことを復習す				2
第15回	韓国の文化	韓国の文化について説明する。				2	韓国文化に関する本を探し、どのよ 今回の授業で学んだことを復習す				2
担当者から											

講義名	地理学実習						担当教員	塚本 礼仁
講義コード	1402201	単位数	1	開講期	前期	授業方法	実習	
ナンバリング番号	230SOC212							

授業概要

地理学による地域分析では、収集したデータを統計的に処理し、さらに可視化して、現象を解釈・考察する。本授業は、多変量解析とGISを融合した実習をおこない、「数値データを可視化（地図化）する」ための基礎的技能を身につけるものである。また、終盤3回を使って、独自のデータを用いた地域分析プレゼンテーションをまとめる。なお、地理学実習 は、アンケート調査などから得られる質的データに関する内容である。

到達目標

- (1) 数値データを統計的手法によって解析することができる。
- (2) GISソフトウェアを操作し、多変量解析の結果を地図化することができる。
- (3) 論理的なプレゼンテーションをおこなうことができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	最終報告による。到達目標(1)20%、到達目標(2)20%、到達目標(3)10%とする。
上記以外	50	実習成果物(授業内課題)による。

授業外学習

授業内課題を授業内に提出できない場合は宿題となる。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用しない。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	新版 地域分析： データ入手・解析・評価	村山祐司・駒木伸比古	古今書院	978-7722-5272-0
2	地域分析ハンドブック	半澤誠司ほか	ナカニシヤ出版	978-4-7795-0917-9
3	フリーGISソフト MANDARA10入門 増補版	谷 謙二	古今書院	978-4-7722-8123-2

適宜プリントを配布する。

前提学力等

人文地理学Bおよび地理学実習 を合わせて履修することが望ましい。

履修資格

講義名	地理学実習							担当教員	塚本 礼仁
講義コード	1402201	単位数	1	開講期	前期	授業方法	実習		
ナンバリング番号	230SOC212								

授業計画										
回数	テーマ	概要				予習 / 復習				
第1回	オリエンテーション	実習スタイル（レクチャーと課題実習）の説明。ソフトウェアのインストール。				2		配布教材（地域統計学の文献）の読		
第2回	多変量解析の準備	統計学の基礎知識の確認。				2		課題実習を完成させる。		
第3回	回帰分析 1	重回帰分析の理論と実際、ソフトウェアの操作法を解説し、課題実習に取り組む。				2		課題実習を完成させる。		
第4回	回帰分析 2	重回帰分析の結果の地図化				2		課題実習を完成させる。		
第5回	判別分析 1	判別分析の理論と実際、ソフトウェアの操作法を解説し、課題実習に取り組む。				2		課題実習を完成させる。		
第6回	判別分析 2	判別分析の結果の地図化				2		課題実習を完成させる。		
第7回	主成分分析 1	主成分分析の理論と実際、ソフトウェアの操作法を解説し、課題実習に取り組む。				2		課題実習を完成させる。		
第8回	主成分分析 2	主成分分析の結果の地図化				2		課題実習を完成させる。		
第9回	因子分析 1	因子分析の理論と実際、ソフトウェアの操作法を解説し、課題実習に取り組む。				2		課題実習を完成させる。		
第10回	因子分析 2	因子分析の結果の地図化				2		課題実習を完成させる。		
第11回	クラスター分析 1	クラスター分析の理論と実際、ソフトウェアの操作法を解説し、課題実習に取り組む。				2		課題実習を完成させる。		
第12回	クラスター分析 2	クラスター分析の結果の地図化				2		課題実習を完成させる。		
第13回	地域分析プレゼンテーション 1	グループワーク（企画、データ収集）				2		最終課題（地域分析プレゼンテ		
第14回	地域分析プレゼンテーション 2	グループワーク（分析・解釈、プレゼンテーション作成）				2		最終課題（地域分析プレゼンテ		
第15回	地域分析プレゼンテーション 3	報告会				2		最終課題（地域分析プレゼンテ		

担当者から

私用のノートパソコン（ある場合）を持参すること。

講義名	地理学実習						担当教員	塚本 礼仁
講義コード	1402202	単位数	1	開講期	後期	授業方法	実習	
ナンバリング番号	230S0C213							

授業概要

地理学による地域分析では、収集したデータを統計的に処理し、さらに可視化して、現象を解釈・考察する。本授業は、多変量解析とGISを融合した実習をおこない、「質的データを可視化（地図化）する」ための基礎的技能を身につけるものである。また、終盤5回を使って、独自のデータを用いた地域分析プレゼンテーションをまとめる。なお、地理学実習 は、官公庁統計などの数値データに関する内容である。

到達目標

- (1) 質的データの収集・集計をすることができる。
- (2) 質的データを統計的手法によって解析し、GISソフトウェアで地図化することができる。
- (3) 論理的なプレゼンテーションをおこなうことができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	最終報告による。到達目標(1)20%、到達目標(2)20%、到達目標(3)10%とする。
上記以外	50	実習成果物(授業内課題)による。

授業外学習

授業内課題を授業内に提出できない場合は宿題となる。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用しない。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	新版 地域分析： データ入手・解析・評価	村山祐司・駒木伸比古	古今書院	978-7722-5272-0
2	地域分析ハンドブック	半澤誠司ほか	ナカニシヤ出版	978-4-7795-0917-9
3	フリーGISソフト MANDARA10入門 増補版	谷 謙二	古今書院	978-4-7722-8123-2

適宜プリントを配布する。

前提学力等

人文地理学Bおよび地理学実習 を合わせて履修することが望ましい。

履修資格

講義名	哲学概論 A						担当教員	鞍田 崇
講義コード	1402240	単位数	2	開講期	前期集中	授業方法	講義	
ナンバリング番号	2300TH202, 235LAH301							

授業概要

これからのあるべき社会の姿をデザインするにはどうすればよいか。

この授業ではその道筋を、「哲学的に」考えていきます。でも、この課題は、じつは、従来通りの哲学だけでは担いきれません。デザインや建築、工芸や農業、コミュニティ再生など、さまざまな分野の連携があってはじめて可能となるものです。この授業ではそうした関連ジャンルの現在進行形の動きを適宜参照しつつ、来るべき社会に向けての構想力・判断力を培うことをめざします。

ところで、ここでいう「社会」とは、自分たちが生活をいとなむ社会です。「これからのあるべき社会の姿をデザインすること」を考える上で、何よりも大事なのは、「ひとごとじゃない」という実感をもつこと。この講義では、何よりもまず、そうした実感を皆さんと共有していきたいと考えています。

いまではコロナ禍を受けた現状もふまえないわけにはいかないでしょう。というか、それによりますます社会は変わらなければいけない状況にいたったというべきでしょう。決して悲観的にならず、可能性に満ちた未来を開くすべを一緒に探っていくにはどうすればよいか それを考え形にしていく能力としての「哲学すること」=「デザインすること」を培うこと、本講義の最終的な目標はそこにあります。

到達目標

1. 自分の頭で考えるとはどういうことか、その実際を実感すること。
2. 社会と暮らしが「ひとごとじゃない」という実感をもつこと。
3. 身近な日常生活の中に本当の創造性のきっかけをつかむこと。
4. 現代社会で問われていることの思想的意味と歴史的背景を理解すること。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	最終レポート 40% 授業内小レポート(3回) 60%
上記以外		

授業外学習

参考事例として掲げたものは、適宜自分でも調べるように。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	民藝の「インティマシー」	鞍田崇	明治大学出版会	978-4-906811-13-7
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	民藝のレッスン	鞍田崇(編)	フィルムアート社	4845911833
2	「生活工芸」の時代	三谷龍二(編)	新潮社	4103365315
3	哲学入門以前	川原栄峰	南窓社	4816500545

前提学力等

哲学概論ですが、狭義の哲学・思想だけが対象ではありません。デザインやアート、建築や工芸、農業や民俗などなど、ひろく柔軟な興味関心をもっていることがのぞましいです。そうじゃない人は、この機会に

履修資格

講義名	哲学概論A							担当教員	鞍田 崇	
講義コード	1402240	単位数	2	開講期	前期集中	授業方法	講義			
ナンバリング番号	2300TH202, 235LAH301									

授業計画

回数	テーマ	概要	2	予習 / 復習
第1回	プロローグ	座布団とイスは、どう違いますか？これが、実は哲学の基本です。	2	
第2回	いま「哲学」とは？	哲学とデザイン、デザインと哲学、両者はいまとても近い位置にあります。でも、どのあたりでしょうか。	2	
第3回	あらためて「いま」とは？	COUNTER + TREND = ? エコロジーと社会の20年周期説。過去半世紀にわたるエコの取り組み	2	
第4回	エコロジー第3世代の幕開け	2010年代は、大きな変化のはじまりの時代。まず、ソーシャル（社会意識）の高まりについて。	2	
第5回	エコロジー第3世代の幕開け	ライススタイル（生活意識）のブーム化が二つ目。	2	
第6回	エコロジー第3世代の幕開け	「私たち」からの撤退と、「無数の小さな矢印」の時代について。	2	
第7回	エコロジー第3世代の幕開け	20世紀と21世紀のちがい、ゼロ年代と10年代のちがい。	2	
第8回	日常	10年代以降、重要になる問題を、「日常」「感性」「風土」「平凡」の四つのキーワードのもとに考えていきます。まずはその一つ目。20	2	
第9回	日常	「つくること」からの撤退、あるいは「ポスト工業化社会」の次について。手仕事のこれからも考えつつ。	2	
第10回	感性	これも自分と認めざるをえない「自分」とは？	2	
第11回	感性	彼は私にキスをした。これを英訳できますか。そこから見えてくる「私」と身体の関係。フランスの思想家たちの議論も参考に。	2	
第12回	風土	シュリンク・ソサイエティという言葉があります。人口減少期を表す用語です。その意味を、「縮退」から「濃縮」へという視点か	2	
第13回	風土	ひきつづき、人口減少期の可能性と成長の在り方について。自然をどう考えるかがカギになります。	2	
第14回	平凡	平凡といわれて喜ぶ人はいません。でもじつは大事なそこ。ひろがりから深まりへ、「価値観の転倒」の試み。	2	
第15回	平凡：まとめ	「肯定のみされる平凡」、かつてそう言った日本の思想家がいます。その議論を参考に、講義全体をまとめます。	2	
担当者から				

講義名	哲学概論 B							担当教員	
講義コード	1402250	単位数	2	開講期	前期集中	授業方法	講義		
ナンバリング番号	2300TH203, 235LAH302								

授業概要

哲学の意義と面白さをわかるには、その古典に触れてみるのが有用です。この授業では、哲学の古典の可能な限り易しい紹介と批評を読んで議論することを通じて、哲学の様々なトピックと議論について考える基礎を作ります。

到達目標

講義で扱う哲学者たちの基本的動機、概念、主張、それを支える方法と証拠、彼らに対する批判を理解し、彼らが扱う哲学的問題について考えるための基礎力をつける。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

授業外学習

授業計画で提示された古典を邦訳でよいので読んでみることをお勧めします。そちらが難しければ、参考書の方を先にひも解いてみてください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	入門 哲学の名著	ナイジェル・ウォーパートン	ナカニシヤ出版	4888489033
2	西洋哲学史 1・2・3	パートランド・ラッセル	みすず書房	
3	道徳の哲学者たち	リチャード・ノーマン	ナカニシヤ出版	4888486352

前提学力等

--

履修資格

--

講義名	統計学基礎						担当教員	高梨 克也
講義コード	1402360	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	133LVD106, 134NUT107, 135PSY203							

授業概要

最近ではパソコンやソフトウェアのおかげで、実用的な統計は数式を意識しなくても気軽に扱えるようになってきた。にもかかわらず、いざデータを手にとると、どこから分析を始めればいいのかとまどう人が多い。あるいは、データをとってしまってから、データのとり方について後悔することもある。実はこうした問題はたとえ数式を暗記していても解決しない。では、そもそもなぜそのデータに対して統計的分析を行なう必要があるのか。そのデータにはどんな性質があり、どのような手法を用いるべきか。どんな手法を使うとどんな結果を得ることができるのか。本講義では、これらの疑問点を意識しながら、統計学の基本的な考え方や概念から出発して、推定や検定といった、多く用いられる統計学の手法の考え方の基礎を理解するところまで到達することを目指す。

注意

定員は原則150名までとする。定員を超える受講希望者があった場合には、抽選により受講者の選考を行う（前年度の受講登録者数は143名だったので、必ず抽選になるとは限らない）
 抽選の場合、科目の性質上、学年の若い学生（特に1年生）と社会調査士資格取得希望者を優先する。
 一部の登録者には新入生の受講登録締切後すぐの時期にメールで連絡する可能性があるため、メールに注意しておくこと。
 抽選が行われた場合、選考結果は4/22(金)までに掲示、並びに、USPに掲載するとともに、抽選に外れた学生にはメールでも個別に連絡する。

到達目標

- (1) 記述統計の基本的な使い方を習得する。
- (2) 母集団と標本の概念を理解する。
- (3) 推定と検定の基本的な考え方や手順を身に付ける。
- (4) 日常生活で用いられる統計学的な考え方に興味を持ち、検証する態度を身につける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0	
レポート課題	0	
上記以外	100%	小テストまたはレポート（随時）：各回で扱った統計学的知識を理解できているかを問う。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	統計学わかりません!!	五十嵐中・佐條麻里	東京図書	978-4489023392
2	統計嫌いのための心理統計の本：統計のキホンと統計手法の選び方	白井祐浩	創元社	978-4422116259
3	よくわかる心理統計	山田剛史・村井潤一郎	ミネルヴァ書房	978-4623039999

前提学力等

履修資格

講義名	統計学基礎						担当教員	高梨 克也
講義コード	1402360	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	133LVD106, 134NUT107, 135PSY203							

授業計画

回数	テーマ	概要		予習 / 復習
第1回	イントロダクション	この授業の狙いと進め方の特徴	2	統計について各自が知っていること 次回授業までに、講義資料の内容を
第2回	尺度	データの性質の違いによって用いる手法が異なることを知る	2	世の中にあるさまざまな数値の例を 次回授業までに、講義資料の内容を
第3回	要約統計量：代表値と散布度	データの傾向を1つの値で表現する	2	平均値や中央値などの代表値につい 次回授業までに、講義資料の内容を
第4回	適切なグラフの選択	データの性質と伝達目的を考慮する	2	高校までに習ったグラフやテレビや 次回授業までに、講義資料の内容を
第5回	さまざまなグラフを読み解く	さまざまなタイプのグラフから情報を的確に読み取る	2	前回の授業で紹介したのと同じ種類 次回授業までに、講義資料の内容を
第6回	確率論の基礎	推定や検定に必要な基礎知識を確認する	2	確率について、高校までに習った内 次回授業までに、講義資料の内容を
第7回	推測統計と標本抽出	推定や検定に必要な基礎知識を導入する	2	標本抽出について、各自がこれまで 次回授業までに、講義資料の内容を
第8回	ヒストグラムと正規分布	ヒストグラムと正規分布の性質を理解する	2	TVや新聞などでヒストグラムの事例 次回授業までに、講義資料の内容を
第9回	標本抽出と正規分布	「標本データから推理する」という考え方を理解する	2	第7回の標本抽出と第8回の正規分布 次回授業までに、講義資料の内容を
第10回	仮説検定と帰無仮説	統計的仮説検定の基本的な考え方と手順を理解する	2	各自が生活の中で実際に経験したこ 次回授業までに、講義資料の内容を
第11回	クロス集計とカイ二乗検定	質的変数の差と関連性を知る方法	2	0 次回授業までに、講義資料の内容を
第12回	平均の差の検定	質的変数と量的変数の間の関連性を確かめる方法	2	0 次回授業までに、講義資料の内容を
第13回	相関係数と偏相関係数	量的変数同士の関連性を調べる方法	2	0 次回授業までに、講義資料の内容を
第14回	回帰分析の基礎	収集したデータに基づく予測や説明を試みる	2	0 次回授業までに、講義資料の内容を
第15回	変数のコントロール	変数の関連性に影響する他の変数を考慮する	2	0 1週間以内に、講義資料の内容を再

担当者から

この授業では、多くの人を持っているであろう「統計学 = 数学」というイメージを覆すことを目指しています。ですので、数式を暗記したり、たくさんの計算をしたりということはしません。統計学の中の基本的な手法を取り上げて、「何のためにその方法があるのか」と「その方法はどのよう

講義名	東洋史概説						担当教員	木村 可奈子
講義コード	1402370	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講	
ナンバリング番号	130EXC101							

授業概要

テーマ：前近代東アジアの歴史
本講義では、明清中国の歴史を中心に据え、同時期の朝鮮、琉球、日本の歴史とともに横断的に見ていくことで、東アジア全体の歴史の展開を学ぶ。

到達目標

(1) 前近代東アジアの歴史について、基本的な知識を身に着ける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	70	課題に応じたレポートを作成する。
上記以外	30	出席やコメントから判断する。

3分の1以上欠席した場合、評価の対象としない。

授業外学習

毎回の授業レジュメを読み返し、知識を定着させること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	中国の歴史 陸海の交錯 明朝の興亡	檀上寛	岩波書店	
2	中国の歴史 「中国」の形成 現代への展望	岡本隆司	岩波書店	
3				

必用に応じて授業中に紹介する。

前提学力等

高校世界史の知識を持っていることを前提に講義する。

履修資格

講義名	東洋史概説							担当教員	木村 可奈子
講義コード	1402370	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講		
ナンバリング番号	130EXC101								

授業計画										
回数	テーマ	概要				2	予習 / 復習			
第1回	はじめに	「東洋史」とはどのような学問なのかについて概要を述べる。				2	高校教科書を復習する。	2	今回の授業内容を復習する。	2
第2回	明の建国	元末の動乱から明の成立の過程を解説する。				2	参考書に目を通す。	2	今回の授業内容を復習する。	2
第3回	明初の国際関係	明初の国際関係を解説する。				2	参考書に目を通す。	2	今回の授業内容を復習する。	2
第4回	永楽帝の時代	靖南の役から永楽帝の治世を解説する。				2	参考書に目を通す。	2	今回の授業内容を復習する。	2
第5回	明の政治制度	明の政治制度について解説する。				2	参考書に目を通す。	2	今回の授業内容を復習する。	2
第6回	明中期の政治	明中期の政治を解説する。				2	参考書に目を通す。	2	今回の授業内容を復習する。	2
第7回	朝鮮の建国	朝鮮の建国と国際関係を解説する。				2	参考書に目を通す。	2	今回の授業内容を復習する。	2
第8回	日本・琉球の国際関係	室町時代日本、及び古琉球時代の琉球の国際関係を解説する。				2	参考書に目を通す。	2	今回の授業内容を復習する。	2
第9回	北虜南倭の時代	北虜・南倭への明の対応について解説する。				2	参考書に目を通す。	2	今回の授業内容を復習する。	2
第10回	万曆初期の政治	万曆初期の政治について解説する。				2	参考書に目を通す。	2	今回の授業内容を復習する。	2
第11回	壬辰戦争	壬辰戦争の展開を解説する。				2	参考書に目を通す。	2	今回の授業内容を復習する。	2
第12回	明末の政治	明末の政治展開を解説する。				2	参考書に目を通す。	2	今回の授業内容を復習する。	2
第13回	清の勃興と明清交替	清の勃興から明清交替への展開を解説する。				2	参考書に目を通す。	2	今回の授業内容を復習する。	2
第14回	壬辰戦争以後の東アジアの国際関係	壬辰戦争以後の東アジアの国際関係について解説する。				2	参考書に目を通す。	2	今回の授業内容を復習する。	2
第15回	清の盛世	清中期の政治展開を解説する。				2	参考書に目を通す。	2	今回の授業内容を復習する。	2
担当者から										
高校までではほとんど勉強することがない東アジアの歴史を、一歩踏み出して勉強してみましょう。きっと人生のどこかで役に立つはずですよ。										

講義名	日本・地域交流特論					担当教員	京樂 真帆子
講義コード	1402380	単位数	2	開講期	後期	授業方法	(1)
ナンバリング番号	330HIS301						

授業概要

日本古代史の史料を輪読しながら、当時の政治・文化・社会への理解を深める。特に、『小右記』長徳2年10月に記録される著名な政治的事件をとりあげる。平安貴族の日記史料(漢文)を書き下し、解釈しながら、新たな知見を探っていく。

到達目標

- (1)日本の歴史に関する基礎知識を理解し、史料の書き下しを正確に行うことができる。
- (2)日本の歴史に関する基礎知識を理解し、史料の解釈を正確に行うことができる。
- (3)日本の歴史に関する基礎知識を理解し、地域交流などの論点についての議論を行うことができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	2回実施する到達確認テスト(20点×2回=40点)と、最後のまとめの到達確認テスト(60点)の点数の合計(40点+60点=100点)で行う。

授業外学習

漢文の書き下し能力を身につけるため、特に復習に力を入れられたい。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

漢文の書き下しを作成するために、漢和辞典、国語事典などを持参すること。電子辞書でも可。スマホなどで辞書サイトにアクセスすることは、

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

講義で使用する史料(『小右記』、『栄華物語』、『枕草子』など)は、授業中にプリント配布する。

前提学力等

高等学校で学習した国語・古典および漢文の基礎を理解していること。
高等学校での日本史Bの知識を前提として講義を進める。

履修資格

講義名	日本史概説						担当教員	高木 純一
講義コード	1402390	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	130HIS102							

授業概要

本講義では、日本の歴史を概観しつつ、とくに現代の私たちが“日本の伝統”だと観念しているような日本の諸要素について、その形成過程や歴史的事実を提示する。私たちがそれらに対して抱いているイメージとのギャップに注意し、漠然と“日本の伝統”だと思われている諸要素が、その歴史的事実において、じつは私たちの認識とは相当程度かけ離れたものであったことを明らかにする。ただし、半期という限られた期間であるため、ある程度日本通史を兼ねることが可能で、かつ最も重要な要素として、【天皇・宗教・武士・村社会・景観】という五つのテーマに限定する。基本的にはテーマごとに時系列に沿って講義を進めるが、各時代の比重は必ずしも同等ではなく、テーマに応じて異なってくるはずである。

到達目標

日本史の大まかな流れを理解し、最低限の認識・知識を身につける。
現代とは相当異なる社会がかつて存在したことを知ること、現代社会を相対化する。
“日本の伝統”だと思われていた諸要素が、その歴史的事実において、私たちの認識とは相当程度異なるものであったことを理解し、そうした無理解はときに大きな危険性をもたらすことを学ぶ。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70	到達目標 について、選択式試験を行う。
レポート課題		
上記以外	30	毎回プリントを提出。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	使用しない。			
2				
3				

毎回レジメを配付する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	日本社会論						担当教員	櫻井 悟史
講義コード	1402400	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	130SOC101-C, 235SOC303-C							

授業概要

インターネットやテレビで、人々が何らかの問題について議論をたたかかせている様子を見たことはないだろうか。たとえば、死刑は存置すべきか廃止すべきか、体罰はどこからどこまでが体罰なのか、いじめといじりの違いは何かといったことについて、人々はときに意見や感情をぶつけあう。ときには、そうした問題について、自分がどう考えているのかわかることもある。そのとき、「人それぞれだよ」といって話を終わらせることがあるかもしれない。しかし、はたしてそれでよいのだろうか。

本講義は、日本社会とは何かについて、日本社会が直面している様々な問題の検討を通じて考察することを目的とする。具体的には、教育現場、治安、刑罰、差別、労働などを社会学の視点から検討する。その際に重視するのが、歴史的な文脈と社会的な文脈である。現在の問題を理解するためには、過去を知る必要がある。つまり、本講義には日本近現代史としての側面もある。

本講義を通じて学んだことをふまえ、日本社会が直面している様々な問題について、自分とは異なる意見についても検討したうえで、自分の考えを根拠とともに述べるができるようになることを目指す。

到達目標

- (1) 日本社会が直面している様々な問題について、歴史的な文脈や社会的な文脈をふまえて分析するための視点を身につけることができるようになる。
- (2) 本授業で取り上げたトピックを通じて、日本社会の特徴を社会的に説明することができるようになる。
- (3) 日本社会が直面している様々な問題について、自分とは異なる意見についても検討したうえで、自分の意見をデータに基づいて述べるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	70	各到達目標に基づいて、期末レポートで評価する。 (1) 日本社会が直面している様々な問題について、歴史的な文脈や社会的な文脈をふまえて分析するための視点を身につけることができるようになる。(20%)
上記以外	30	毎回のレスポンスペーパーで、次回扱うトピックや、その回の授業で学んだトピックについて記述してもらう。そのペーパーを0~2点で評価する。

10回以上の授業に出席して、各回のレスポンスペーパーを提出した者のみを成績評価の対象とする。

授業外学習

- (1) 授業内容の予習
・ 次の回で扱うトピックについて調べる。具体的には、関連する文献を読む、インターネットで調べるなどを行なうこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

特に指定しない。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業内で適宜指示する。

前提学力等

近現代の日本史について、高校教科書程度の知識があることが望ましい(必須ではない)。

履修資格

講義名	日本史料講読						担当教員	市川 秀之 / 京樂 真帆子 / 東 幸代 / 高木 純一
講義コード	1402420	単位数	2	開講期	通年	授業方法	実習	
ナンバリング番号	130REG104							

授業概要

日本の前近代・近代の社会や文化を理解する上で必要な各種史料の読解力を養う。各時代を代表する史料を選んで輪読し、史料の具体的な内容を検討するとともに、史料の作成された時代や社会の特質などについて考察して、歴史研究の基礎を身につける。
履修者は、「Aグループ」と「Bグループ」に別れて学習する。

(Aグループ) 前期は平安時代の基本史料、後期は中世の基本史料をとりあげる。第1回(前期)・第16回(後期)はテキストとする史料の性格と時代背景などを解説するが、第2回(前期)・第17回(後期)以降は順番に報告者を決め、史料の解釈などをしてもらうとともに、その歴史的な意味などを考える。

(Bグループ) 前期は彦根周辺の近代史料、後期は彦根藩関係の近世史料をとりあげる。第1回(前期)・第16回(後期)はテキストとする史料の性格と時代背景などを解説するが、第2回(前期)・第17回(後期)以降は順番に報告者を決め、史料の解釈などをしてもらうとともに、その歴史的な意味などを考える。適宜、小テストをおこなうことがある。

到達目標

- (1) 古代・中世の漢文史料の解釈・理解ができる。
(2) 近代・近世の基本史料の解釈・理解ができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	80	(1) 古代・中世の漢文史料の解釈・理解ができる。40% (2) 近代・近世の基本史料の解釈・理解ができる。40% 期末の定期試験の成績によって判断する。
レポート課題		
上記以外	60	(1) 古代・中世の漢文史料の解釈・理解ができる。60% (2) 近代・近世の基本史料の解釈・理解ができる。60% 毎回出席することは当然であるが、担当した部分の読解がちゃんとできているか、宿題がある場合にはその内容、授

授業外学習

史料講読は予習が非常に大事である。自分が担当していない部分についても毎回ちゃんと事前に予習をしてくること。配布された資料を見直し、疑問点がない状態にしておくこと。また適宜紹介する日本史の基本文献を各自で読み込むこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

テキストは授業時にプリントを配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	日本文化史論A						担当教員	
講義コード	1402441	単位数	2	開講期	前期	授業方法	(1)	
ナンバリング番号								

授業概要

日本古代史の史料などに基づき、当時の文化・情報について考える。『小右記』などの古記録や文学作品などを題材に、平安京の都市文化について様々な観点から分析していく。特に、平安京の時空間に関わる情報について考えていきたい。

到達目標

- (1) 日本文化の歴史に関する基礎知識を理解し、それを現代文化との比較を通して論じることが出来る。
- (2) 日本文化史に関する基礎知識を理解し、それを諸外国との比較を通して論じることが出来る。
- (3) 日本文化史の基礎知識に基づき、文化の保存と活用について具体的な提言が出来る。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	毎回レスポンスカードを取り、2点満点で採点する。その合計点(2点×14回=28点)と、到達確認テスト(72点)の点数の合計(28点+72点=100点)で行う。

授業外学習

配付資料には、古典文学作品(古文)や、漢文史料が頻出する。音読するなどして、読みこなせるようにすること。また、予習・復習には、辞書類が必要となるので、漢和辞典・国語事典・日本史事典などが入った電子辞書を用意することが望ましい。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

講義で使用する史料(『御堂関白記』、『小右記』など)は、授業中にプリント配布する。参考となるデータ、図などもプリント配布するので、

前提学力等

高等学校で学習した国語・古典および漢文の基礎を理解していること。
高等学校での日本史Bの知識を前提として講義を進める。

履修資格

講義名	日本文化史論B						担当教員	京樂 真帆子
講義コード	1402442	単位数	2	開講期	前期	授業方法	(1)	
ナンバリング番号								

授業概要

ジェンダーでみる日本史を考える。日本における女性史研究は戦前からの長い歴史を持っている。近年、ジェンダーの概念を取り入れることによって、新しい日本女性史が描かれるようになってきた。女性であることが歴史の中でどういう意味を持ち、どう評価されてきたのかを考えていく。

到達目標

- (1) 日本文化の歴史に関する基礎知識を理解し、それを現代文化との比較を通して論じることが出来る。
- (2) 日本文化史に関する基礎知識を理解し、それを諸外国との比較を通して論じることが出来る。
- (3) 日本文化史の基礎知識に基づき、文化の保存と活用について具体的な提言が出来る。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	70	課題に応じたレポートの提出を行う。72点分が配点される。レポートには、参考文献リストの添付などの条件がある。これら条件を満たしているかどうか、採点に影響する。
上記以外	30	毎回レスポンスカードを取り、2点満点で採点する。その合計点(2点×14回=28点)と、上記レポート課題の点数(72点)の合計(28点+72点=100点)で成績評価を行う。

授業外学習

配付資料には、英語データ、古典文学作品(古文)や漢文史料が頻出する。音読するなどして、読みこなせるようにすること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

講義で使用する史料・データは、授業中にプリント配布する。参考なるデータ、図などもプリント配布するので、各自でファイリングされたい。

前提学力等

高等学校で学習した、国語・古典および漢文の基礎を理解していること。
高等学校での日本史Bの知識を前提として講義を進める。

履修資格

講義名	日本文化史論B						担当教員	京樂 真帆子
講義コード	1402442	単位数	2	開講期	前期	授業方法	(1)	
ナンバリング番号								

授業計画							
回数	テーマ	概要			予習/復習		
第1回	性差をめぐる学問を始めよう!	ガイダンスを行う。 さらに、女性史研究からジェンダー史研究への転換について解説する。			2	シラバスを熟読し、内容を理解す 当日配付資料をファイリングした上	1 3
第2回	ジェンダーをめぐる日本の状況	ジェンダーギャップ指数などを分析し、ジェンダーを巡る日本の歩みを確認する。			2	前回配布資料を改めて読み直し、 当日配付資料をファイリングした上	1 3
第3回	悪女はどこが「悪い」のか?	言葉のジェンダーバイアスについて、その歴史を考える。			2	前回配布資料を改めて読み直し、 当日配付資料をファイリングした上	1 3
第4回	悪女の時代とは?	映像資料を見ながら、言葉のジェンダーバイアスについて検討する。			2	前回配布資料を改めて読み直し、 当日配付資料をファイリングした上	1 3
第5回	女も漢字を書く?	文字使用に関するジェンダーバイアスとその歴史について検討する。			2	前回配布資料を改めて読み直し、 当日配付資料をファイリングした上	1 3
第6回	正妻への道は厳しい?	婚姻の歴史について検討する。			2	前回配布資料を改めて読み直し、 当日配付資料をファイリングした上	1 3
第7回	不倫の「倫」とは何か?	婚姻の歴史について、さらに議論を展開させる。			2	前回配布資料を改めて読み直し、 当日配付資料をファイリングした上	1 3
第8回	誰にとつての強姦か?	戦争と強姦の関係について分析する。			2	前回配布資料を改めて読み直し、 当日配付資料をファイリングした上	1 3
第9回	出産の歴史(1)	絵画資料を用いて、出産の歴史的風景を検討する。			2	前回配布資料を改めて読み直し、 当日配付資料をファイリングした上	1 3
第10回	出産の歴史(2)	映像資料を見ながら、出産の風景の変化を検討する。			2	前回配布資料を改めて読み直し、 当日配付資料をファイリングした上	1 3
第11回	戦争と女性(1)	女性と戦争について図像資料などから検討する。			2	前回配布資料を改めて読み直し、 当日配付資料をファイリングした上	1 3
第12回	戦争と女性(2)	映像資料を見ながら、国防婦人会について検討する。			2	前回配布資料を改めて読み直し、 当日配付資料をファイリングした上	1 3
第13回	母たちの学び	映像資料を見ながら、婦人学級について検討する。			2	前回配布資料を改めて読み直し、 当日配付資料をファイリングした上	1 3
第14回	女性労働と人権	映像資料を見ながら、近江絹糸人権闘争について検討する。			2	前回配布資料を改めて読み直し、 当日配付資料をファイリングした上	1 3
第15回	まとめ	まとめを行う。			2	今まで配付資料を読み直し、理解を 当日配付資料をファイリングした上	1 1
担当者から							

講義名	日本文化論						担当教員	京樂 真帆子
講義コード	1402450	単位数	2	開講期	前期	授業方法	(1)講	
ナンバリング番号	130HIS101							

授業概要

日本文化の諸相を歴史的に分析する。特に、日本映画に描かれる日本文化の問題点を歴史学的見地から評価していく。

到達目標

- (1)日本前近代の歴史に関する基礎知識を理解し、それを現代社会との比較を通して論じることが出来る。
- (2)日本の近代史に関する基礎知識を理解し、それを現代社会との比較を通して論じることが出来る。
- (3)日本文化の基礎知識に基づき、その保存と活用について具体的な提言が出来る。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	70	課題に応じたレポートの提出を行う。72点分が配点される。レポートには、参考文献リストの添付などの条件がある。これらの条件を満たしているかどうか、採点に提供する。
上記以外	30	毎回レスポンスカードを取り、2点満点で採点する。その合計点(2点×14回=28点満点)と、上記レポート課題の点数(72点満点)の合計(28点+72点=100点満点)で成績評価を行う。

授業外学習

配付資料には、古典文学作品(古文)や漢文史料が頻出する。音読するなどして、読みこなせるようにすること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

講義で使用する史料・データは、授業中にプリント配布する。参考になるデータ、図などもプリントするので、各自でファイリングされたい。

前提学力等

高等学校で学習した、国語・古典および漢文の基礎を理解していること。
高等学校での日本史Bの知識を前提として講義を進める。

履修資格

講義名	日本文化論					担当教員	京樂 真帆子	
講義コード	1402450	単位数	2	開講期	前期	授業方法	(1)講	
ナンバリング番号	130HIS101							

授業計画									
回数	テーマ	概要				予習 / 復習			
第1回	ガイダンス	授業の進め方を確認し、さらに、歴史学研究と時代劇との関係について概説する。				2 時	シラバスを熟読しておく。わからな 当日配付資料をファイリングした上		1 3
第2回	日本の映像文化	日本の映像文化について、時代劇映像の一部を視聴し、歴史史料との関連を確認する。				2	前回配付資料を読み直し、調べ忘れ 当日配付資料をファイリングした上		1 3
第3回	映画監督・溝口健二の世界	1950年代の映像文化の状況を分析し、映画監督・溝口健二の作品についての理解を深める。				2	前回配付資料を読み直し、調べ忘れ 当日配付資料をファイリングした上		1 3
第4回	映画『山椒大夫』について その1	映画『山椒大夫』について説明し、映像の一部を確認する。				2	前回配付資料を読み直し、調べ忘れ 当日配付資料をファイリングした上		1 3
第5回	映画『山椒大夫』について その2	引き続き、映画『山椒大夫』について説明し、映像の一部を確認する。				2	前回配付資料を読み直し、調べ忘れ 当日配付資料をファイリングした上		1 3
第6回	『山椒大夫』の世界 (1)	関連史料を分析し、映画『山椒大夫』の理解を深める。				2	前回配付資料を読み直し、調べ忘れ 当日配付資料をファイリングした上		1 3
第7回	『山椒大夫』の世界 (2)	引き続き、関連史料を分析し、映画『山椒大夫』の理解をさらに深める。				2	前回配付資料を読み直し、調べ忘れ 当日配付資料をファイリングした上		1 3
第8回	『もののけ姫』の世界	『山椒大夫』と『もののけ姫』を比較検討し、映像文化の転回を理解する。				2	前回配付資料を読み直し、調べ忘れ 当日配付資料をファイリングした上		1 3
第9回	映画を支える人たち (1)	映画を支えた人たちについて説明する。				2	前回配付資料を読み直し、調べ忘れ 当日配付資料をファイリングした上		1 3
第10回	映画を支える人たち (2)	引き続き、映画を支えた人たちについて、資料映像をまじえて説明する。				2	前回配付資料を読み直し、調べ忘れ 当日配付資料をファイリングした上		1 3
第11回	映像への視点	映画に表れる文化について、資料映像をまじえて説明する。				2	前回配付資料を読み直し、調べ忘れ 当日配付資料をファイリングした上		1 3
第12回	課題映画に向けて	レポート課題となる映画について、基礎的な知識を確認する。				2	前回配付資料を読み直し、調べ忘れ 当日配付資料をファイリングした上		1 3
第13回	課題映画の確認 (1)	課題映画の映像を確認する。				2	前回配付資料を読み直し、調べ忘れ 当日配付資料をファイリングした上		1 3
第14回	課題映画の確認 (2)	引き続き、課題映画の映像を確認する。				2	前回配付資料を読み直し、調べ忘れ 当日配付資料をファイリングした上		1 3
第15回	まとめ	全体をまとめる。				2	前回までの配付資料を読み直し、レ レポート課題について改めて確認		1 1
担当者から									

講義名	人間文化論 A						担当教員	中井 直也 / 印南 比呂志 / 森下 あおい / 京樂 真帆子 / 福渡 努 / 松嶋 秀明 / 佐々木 一泰 / 上野 有理 / 中村 好孝 /
講義コード	1402540	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講	
ナンバリング番号	133LVD102, 134NUT102, 135LAH2011, 37BAC102							

授業概要

2015年9月に開催された「国連持続可能な開発サミット」において、「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択された。そこで掲げられたのが「持続可能な開発目標（SDGs）」である。「誰一人取り残さない」社会の実現のため、17の目標を設定し2030年に向けて実行することが宣言された。

本講義では、このSDGsをキーワードとし、人間文化学部を構成する5学科（地域文化学科、生活デザイン学科、生活栄養学科、人間関係学科、国際コミュニケーション学科）に所属する専門領域の異なる教員同士の対談や、学科を超えた学生同士の議論等を行う。これらの取り組みを通して、自身の専門とする学問領域と他の学問領域との関連性や相違点を確認しながら、自身の専門とする学問領域の独自性や可能性を探りつつ、総合的かつ多角的な視野から「誰一人取り残さない」社会の実現に向けて考察を深める機会を提供する。

到達目標

- (1) 自身の専門とする学問領域と他の学問領域との関連性と相違点を検討することができる。
- (2) 自身の専門とする学問領域の独自性や可能性を探ることができる。
- (3) 総合的かつ多角的な視野から「誰一人取り残さない」社会の実現に向けて考察することができる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	35	ワークショップ課題（詳細については講義中に説明する）
上記以外	65	講義中に提出するレスポンスペーパー（詳細については各回の担当教員より説明する）

追加の情報等がある場合には講義中に説明するので、必ず確認すること。

授業外学習

特にワークショップ関連の予習・復習にしっかり取り組むこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN / ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用せず、適宜、必要な資料を授業中に配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN / ISSN
1				
2				
3				

適宜、授業中に紹介する。

前提学力等

履修資格

講義名	人間文化論B						担当教員	櫻井 悟史 / John Rippey / 木村 可奈子 / 高木 純一 / 未定*
講義コード	1402550	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	133LVD103, 134NUT103, 135LAH2021, 37BAC103							

授業概要

テーマ：「交流する文化、交差するまなざし」
 文化は、さまざまな歴史的な要因によって他の文化と交流し、受容や反発の複雑なプロセスを経ながらそのオリジナルな形を変容させてゆく。本講義では、5人の教員がオムニバス形式で、それぞれ具体的な文化現象をとりあげて、その交流や変容の問題について論じる。
 本年度の担当教員とその講義内容は以下の通りである。

到達目標

文化の交流や変容の諸相について理解すること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100%	ミニレポートもしくは小テストに対する採点
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

特になし

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

その都度、紹介する

前提学力等

履修資格

講義名	人間文化論 B						担当教員	櫻井 悟史 / John Rippey / 木村 可奈子 / 高木 純一 / 未定 *	
講義コード	1402550	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義		
ナンバリング番号	133LVD103, 134NUT103, 135LAH2021, 37BAC103								

授業計画

回数	テーマ	概要		予習 / 復習
第1回	漢字と東アジア世界	日本人にとっては日々当たり前使う漢字。中国で生まれたこの表意文字は長く東アジア世界の共通の書き言葉であり、異なる言葉を母語	2	漢字が使われたことがある国を調べ 今回の授業内容を復習する。 2
第2回	朝鮮通信使	江戸時代の朝鮮通信使と日本人の交流や、通信使来日によって起きた朝鮮ブームで生み出されたモノや影響について見ていく。(木村可奈	2	朝鮮通信使について概要を調べる。 今回の授業内容を復習する。 2
第3回	交流と「情」	今より国外への旅が容易ではない時代、異国の人々との別れに際し人々は「どのように」感情を現したのだろうか。感情の表し方から見	2	自分が旅先で出会った人との別れに 今回の授業内容を復習する。 2
第4回	コミュニケーションの社会学(1)友人関係	現代日本社会における友人関係について、社会学の視点から取り上げる。(櫻井悟史)	2	・自身の友人関係について考察して ・講義内容を自分の言葉でまとめな 3
第5回	コミュニケーションの社会学(2)恋愛	現代日本社会における恋愛について、社会学の視点から取り上げる。(櫻井悟史)	2	・講義の終わりに次の回で扱うト ・講義内容を自分の言葉でまとめな 3
第6回	コミュニケーションの社会学(3)メディア・	現代日本社会におけるメディア・コミュニケーションについて、社会学の視点から取り上げる。特にSNSやネット炎上を扱う。(櫻井悟	2	・講義の終わりに次の回で扱うト ・講義内容を自分の言葉でまとめな 3
第7回	「異文化交流」としての日本中世史	数百年前の「日本人」は、私たち現代の「日本人」とはまったく異なる価値観・世界観を持ち、まったく異なる社会を作り上げていた。彼	2	事前に指定する文献を熟読する。 講義内容をノート等にまとめる。 2
第8回	宣教師の見た戦国日本	時は大航海時代。日本には多くの宣教師たちが渡来し新たな文物をもたらした。宣教師と日本人との「文化交流」や、宣教師たちが戦国日	2	事前に配布する文献を熟読する。 講義内容をノート等にまとめる。 2
第9回	流浪の公家が見た戦国社会	戦国時代になると、貴族たちは荒廃した都を離れて列島を流浪した。各地の戦国大名や民衆との「文化交流」や、貴族たちが彼らに対して	2	事前に配布する文献を熟読する。 講義内容をノート等にまとめる。 2
第10回	日米詩比較(1)	Let's read and share our impressions of traditional Japanese winter haiku, and translate them into English. (John Rippey)	2	Consider haiku which you are Review the learning materials 3
第11回	日米詩比較(2)	Let's read and share our impressions of well-known English poems of winter, and translate them into Japanese. (John	2	Consider English poems which you Review the learning materials 3
第12回	日米詩比較(3)	Let's write and share our own original poetry of winter! (John Rippey)	2	Consider and begin writing two Review the learning materials 3
第13回	言語と言語学(1)	人間のコミュニケーションについて学んで考えます。(吉田悦子)	2	1 3
第14回	言語と言語学(2)	人間のコミュニケーションについて学んで考えます。(吉田悦子)	2	1 3
第15回	言語と言語学(3)	人間のコミュニケーションについて学んで考えます。(吉田悦子)	2	1 3

担当者から

講義名	人間文化論 C						担当教員	宮本 雅子 / 松嶋 秀明 / 中村 好孝 / 遠藤 弘史 / 横田 尚美 / 未定 *
講義コード	1402560	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講	
ナンバリング番号	133LVD104, 134NUT104, 135LAH203							

授業概要

人間文化論Cでは「人間を取り巻く生活環境」に焦点をあて、生活環境に関わる諸問題について考える機会とする。生活環境は、人間の生活と生存にかかわる人的・社会的・自然的諸条件等からとらえることができる。そこで生活文化系3学科(生活デザイン・生活栄養・人間関係)教員のそれぞれの視点から、人間が心身ともに健康で快適に生活していくための諸条件について論じる。
この授業では、まず、住生活・衣生活における快適な環境条件について5回講義する(宮本・横田)。次に、現代の「食と栄養」を取り巻く様々な問題点を取りあげながら、健康を維持・増進するための食生活について5回講義する(生活栄養学科教員)。さらに、人間にとっての最小の共同体である家族がどのようになるとしているかという現代家族論を5回講義する(松嶋・中村)。

到達目標

(宮本・横田)(1)住宅の中の暮らしとその変化について理解すること。(2)自分が身に着ける衣服とからだの関係や、ファッション産業がもたらす人体を含む環境への影響に関心を持つことができる。
(生活栄養学科教員) 現代の「食と栄養」を取り巻く様々な問題点を踏まえ、健康を維持・増進するための食生活について理解することができる。
(松嶋・中村)(1)家族をみるための視点を身につけることができる。(2)現代的社会問題を家族との関連で理解することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

各教員がそれぞれ授業中に課題を出すことがある。
授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	人間文化論C						担当教員	宮本 遠藤 雅子 / 松嶋 秀明 / 中村 好孝 / 弘史 / 横田 尚美 / 未定 *
講義コード	1402560	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講	
ナンバリング番号	133LVD104, 134NUT104, 135LAH203							

授業計画								
回数	テーマ	概要					予習 / 復習	
第1回	日本の住まい	日本の住宅について概観する。					2	授業の内容について事前に調べる。 1 授業を振り返り、疑問に思った点や 2
第2回	超高齢社会における住環境	超高齢社会における日本の住宅問題について考えるきっかけとする。					2	授業の内容について事前に調べる。 1 授業を振り返り、疑問に思った点や 2
第3回	日本のあかり	日本のあかりの歴史について概観し、現代の照明環境について考える。					2	授業の内容について事前に調べる。 1 授業を振り返り、疑問に思った点や 5
第4回	ファッション産業をとりまく環境	毎日からだに身につける服がどのような環境で作られているのか、より広い視野で衣服と環境について考える。					2	自分や家族のワードローブの素材を 2 授業で取り上げた企業について、 2
第5回	ファッション消費環境	衣服は最もからだに近い環境である。その視点から、服と人間とのかわりについての問題点を考える。					2	自分が履いている靴の大きさを比べ 2 衿付きのシャツとアイロンを用意し 2
第6回	「食と健康」の歴史を追う	昔から現在への食事の移り変わり、それに伴う健康との関連について栄養調査や疫学研究の結果を用いて解説する。					2	講義内容について疑問に思ったこと 4
第7回	食べ物と薬	食べ物と薬は、私たちの健康の維持、病気の予防や治療に重要な役割を果たしているが、食事が薬の効果や安全性にどのような影響を与えるかについて、身近な話題を取り上げながら概説する。					2	講義内容について疑問に思ったこと 4
第8回	食と栄養とサイエンス	毎日の「食べる」と学問としての「栄養学」そして「サイエンス」について、身近な話題を取り上げながら概説する。					2	講義内容について疑問に思ったこと 4
第9回	健康を維持増進するための時間栄養学	生活習慣病予防のために、体内時計を考慮して『いつ』何をどのように食べるかについて解説する。					2	講義内容について疑問に思ったこと 4
第10回	腸内細菌と健康の関わりについて	私たちの腸内に共生しているさまざまな微生物と健康との関連について、最新の研究結果を含めて解説する。					2	講義内容について疑問に思ったこと 4
第11回	家族のなりたちと人間の心理	進化心理学、あるいは文化心理学の観点から、人間の家族のもつ特殊性、家族の成立する要件などについて外観する。また、そのことが食					2	家族のイメージについて考える 1 授業内容をふりかえり、具体的な問 3
第12回	家族を形成する心理	恋愛から結婚、出産というライフイベントを人はどのように経験し、のりこえていくのか。そこに心理学的にどのような問題が生じていく					2	恋愛から結婚にいたる過程に関し 1 授業内容をふまえて、具体的な問題 3
第13回	家族を維持する心理	出産、育児と、仕事との両立、あるいは父親の育児参加といった問題について、家族心理学的観点から述べる。					2	仕事と家庭生活の両立過程に関し 1 授業内容をふまえて、具体的な問題 3
第14回	家族関係の歪みをもたらすもの	家族をいとなんでいくうえで遭遇する障害や病理、具体的には愛着の問題、産後うつ、思春期の不適応などについて述べる					2	いわゆる家族病理ともいべき問 1 授業内容をふまえて、具体的な問題 3
第15回	家族関係の社会学	家族関係が社会関係により、いかに相互に影響されあっているのかについて、社会学的観点から述べる。					2	家族の中にも力の強い人や弱い人が 1 授業で学んだ視点を整理して、身の 2
担当者から								

講義名	博物館経営論						担当教員	佐藤 亜聖
講義コード	1402601	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	304CUR201,3300TH302							

授業概要

博物館をとりまく環境の変化を踏まえたうえで、博物館経営の考え方と、これからの博物館のありかたを考えてゆく。自らが博物館を経営してゆくことを意識した講義とする。

到達目標

- (1) 博物館を成り立たせている要素を理解する
- (2) 博物館経営に必要な基礎知識を習得する
- (3) 自らが博物館を経営するイメージを描く

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60	博物館経営に関する基礎事項が理解できているかどうかを確認する。
レポート課題	40	自ら博物館を見学し、それについてのレポートを作成することで理解度を確認する。
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	博物館経営論	稲村哲也・佐々木亨	放送大学教育振興会	9784595319334
2				
3				

授業中にプリントを配布する。

前提学力等

博物館学概論受講済みであることが望ましい。

履修資格

講義名	博物館経営論						担当教員	佐藤 亜聖
講義コード	1402601	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	304CUR201, 3300TH302							

授業計画							
回数	テーマ	概要		予習 / 復習			
第1回	博物館をマネジメントする	授業の進め方を説明し、博物館経営論の骨格を「使命」と「資源」をキーワードとして講義する。	2	参考図書について一読しておく 授業中に提示する参考文献について	2		
第2回	行政と博物館	都道府県、地方自治体と博物館の関係について、博物館の役割を念頭に解説する。	2	前回授業で提示した参考文献について 授業中に提示する参考文献について	2		
第3回	博物館の組織と人材、財政	博物館の社会的役割を説明し、それを健全に運営するための組織と人材の配置、財政マネジメントについて解説する。	2	前回授業で提示した参考文献について 授業中に提示する参考文献について	2		
第4回	様々な博物館	公立博物館、私立博物館、企業博物館など様々な博物館の経営事例について、それぞれが持つ役割と課題を講義する。	2	前回授業で提示した参考文献について 授業中に提示する参考文献について	2		
第5回	博物館の評価	博物館の評価方法とその考え方について講義する。	2	前回授業で提示した参考文献について 授業中に提示する参考文献について	2		
第6回	博物館をつくる	博物館の設置に必要な設備と施設について、個別事例を通して講義する。	2	前回授業で提示した参考文献について 授業中に提示する参考文献について	2		
第7回	広報の方法と役割	広報活動の重要性とその方法、より効果的な広報を行うための工夫について講義する。	2	前回授業で提示した参考文献について 授業中に提示する参考文献について	2		
第8回	博物館の危機管理	博物館をとりまく様々なリスクについて説明し、それを回避・軽減するためのリスクマネジメントについて講義する。	2	前回授業で提示した参考文献について 授業中に提示する参考文献について	2		
第9回	大学博物館の運営	大学が設置する博物館の特色、意義、役割について講義する。	2	前回授業で提示した参考文献について 授業中に提示する参考文献について	2		90
第10回	博物館の行動規範	博物館の原則、ICOMの倫理規範を解説し、これらを踏まえたうえで、現在の博物館が社会に対してとるべき行動規範を講義する。	2	前回授業で提示した参考文献について 授業中に提示する参考文献について	2		
第11回	博物館とボランティア活動	博物館におけるボランティア活動について、博物館になぜボランティアが必要なのか、ボランティア制度導入の留意点等について講義する。	2	前回授業で提示した参考文献について 授業中に提示する参考文献について	2		
第12回	博物館のネットワーク	近年推進されている分野を超えた博物館ネットワークのあり方について講義し、その目的と実例を講義する。また、博物館以外の組織との	2	前回授業で提示した参考文献について 授業中に提示する参考文献について	2		
第13回	地域社会と博物館	地域社会における博物館の役割、地域資源活用について講義する。	2	前回授業で提示した参考文献について 授業中に提示する参考文献について	2		
第14回	ミュージアムサービスとミュージアムショップ	博物館におけるミュージアムサービスとは何か、その中におけるミュージアムショップの意味と位置づけを講義する。	2	前回授業で提示した参考文献について 授業中に提示する参考文献について	2		
第15回	講義のまとめ、レポートの講評	講義のまとめを行い要点を整理する。提出されたレポートの内容について講評を行う。	2	前回授業で提示した参考文献について 授業の内容について整理を行い、重	2		
担当者から							

講義名	博物館展示論						担当教員	亀井 若菜 / 早川 駿治 / 茨木 恵美
講義コード	1402602	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	304CUR203, 3300TH301							

授業概要

授業は、地域文化学科教員の亀井（第1～9回）と、彦根城博物館の学芸員（第10～15回）が担当する。
 2～9回目の授業では、いくつかの博物館・美術館における展示の例を具体的に挙げながら、その特質や問題点を考察する。また展示が中止に追い込まれたり、展示に制限がかかる検閲についても、状況を把握し問題点を考えたい。
 10～15回目の授業では、彦根城博物館の特質、彦根城博物館における展示活動や調査・研究、収集保管、教育普及について学ぶことと併せ、実際に彦根城博物館を訪れ、博物館活動の実践を学ぶ。

到達目標

- (1) 博物館展示のいくつかの例を見ることにより、自分で展示の方法や問題について考えられるようになる。
- (2) 博物館における実際の展示の方法や調査・研究、収集保管、教育普及等の内容について理解できるようになる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

到達目標(1)については、授業毎のレスポンスカード(40%)と、レポートで評価する(60%)。
 到達目標(2)については、授業毎のレスポンスカード(60%)と、レポートで評価する(40%)。
 到達目標(1)を60%、到達目標(2)を40%の割合で成績をつける。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	地域と行政						担当教員	萩原 和
講義コード	1402665	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	230SOC210							

授業概要

当科目は、日本における地方自治制度の基本的な枠組みを理解しつつ、地域と行政との関係に焦点をあてるとともに、今後の地域自治、地域づくりに求められる事項について学ぶ。特に、地方自治体における行政職員が直面している課題、業務内容の中身にも触れることで、地域政策の実際に触れながら、新たな自治体行政の潮流について理解を深める。

到達目標

日本の地方自治の変遷について、きっかけとなった歴史的な出来事を示しながら概説することができる。
地方自治制度における今日的な課題を3つ以上挙げ、その主たる要因を説明できる。
地域と行政の協働に必要な要件を3つ以上挙げ、先進的な事例を複数提示できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	60	到達目標の内容に関して、レポート課題を実施し、評価する。
上記以外	40	レスポンスペーパーの内容を評価する。

5回以上の欠席で採点対象としない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	現代地方自治	佐々木信夫	学陽書房	9784313161405
2	一番やさしい地方自治の本 第2次改訂版	平谷英明	学陽書房	978-4313165922
3				

前提学力等

履修資格

講義名	地域と経済						担当教員	秋山 道雄
講義コード	1402705	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	230S0C209							

授業概要

人間が生活する場である地域は、空間のスケールによって性格の異なる種類がある。我々が日常生活を送るもっとも身近な近隣や集落から、市町村、都道府県、近畿圏のような広域圏に至るまで多様な地域が存在している。こうした場で展開される経済活動の内容は、空間的なスケールによって異なっている。この授業では、こうした経済活動をとらえる基礎的な視点と方法を説明していく。さらに、経済の姿を定量的に把握するため、統計資料を用いた実態分析の方法を示す。

地域の経済は、今日の姿をとるまでにその地域がたどってきた経路の影響を受けている。そこで、地域経済の性格を把握するために、その歴史的な展開過程に注目していく。また、現在では経済のグローバル化が地域経済の在り方に影響をあたえるようになっている。そのため、グローバル化のなかでの地域経済という視点からも対象をとらえていく方を説明する。

地域経済の主軸をなすのは産業活動であるが、授業ではこれに加えて住民の生活や地域づくりの領域まで対象を拡張する。これを通じて、産業空間と生活空間を統合的に把握する方法を説明していく。

到達目標

- (1) 統計資料を用いて、地域経済の特性を説明することができる。
- (2) 現在の日本において生じている地域問題を示し、それが生じた背景を説明できる。
- (3) 第二次世界大戦後に展開した日本の地域政策の概要を示すことができる。
- (4) 自分の住んでいる地域もしくは関心のある地域について、その経済実態と問題点を説明し、それを克服する方途について自分の考えを述べることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	70	到達目標(1)～(4)について、夏期休暇中にレポートを課す。
上記以外	30	到達目標(1)、(2)、(3)について、授業中のミニレポートおよび宿題のレポートを課す。

授業中のミニレポートおよび宿題のレポートは、授業当日(ないし締切日)に提出のこと。提出しない場合、遅れた場合は、減点の対象とする。

授業外学習

テキストの読解とまとめが重要なので、宿題のレポートを時間の配分を考えつつこなしていくこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	国際化時代の地域経済学 第4版	岡田知弘ほか	有斐閣	978-4-641-22075-1
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	日本経済図説 第5版	宮崎 勇ほか	岩波新書	978-4-00-431878-1
2				
3				

必要な参考文献は、授業中に説明する。

前提学力等

履修資格

講義名	地域と経済						担当教員	秋山 道雄
講義コード	1402705	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	230S0C209							

授業計画									
回数	テーマ	概要				予習 / 復習			
第1回	地域の経済とは	地域と経済をとらえるためのガイダンス				2	テキストのはしがきと目次を読む。	1	1
第2回	地域経済を見る視点	地域経済を把握するための主要な手段の種類とその内容について説明する。				2	テキスト第1章第1節の1を事前に	1	1
第3回	地域経済の性格	地域のスケールによって、そこで展開する経済の性格が異なることを示す。				2	テキスト第1章第1節2を事前に読	1	1
第4回	地域経済の発展と格差	経済活動の展開は、人間や社会にプラスの影響をもたらすとともに、展開のメカニズムがマイナスの影響をもたらすこともあった。そ				2	テキスト第1章第2節を事前に読ん	1	1
第5回	産業の立地条件と地域	地域経済を構成する産業の主要な立地条件とそれが地域に与えるインパクトについて説明する。				2	テキスト第1章第3節を事前に読ん	1	1
第6回	産業空間と生活空間	企業の事業活動によって編成される産業空間と生活の単位である家族によって編成される生活空間の双方から現代における地域経済の特				2	テキスト第1章第4節を事前に読ん	1	1
第7回	地域経済の形成過程	近現代（明治期から1980年代までの期間）における地域経済の展開過程を概観する。				2	テキスト第2章第1節を事前に読ん	1	1
第8回	経済のグローバル化と地域へのインパクト	経済のグローバル化が地域に及ぼす影響をもたらし、時代背景をもとに述べる。				2	テキスト第2章第2節を事前に読ん	1	1
第9回	産業構造の転換と地域経済	第一次産業から第二次産業、第三次産業へと産業構造が転換するにつれて、それが地域経済に作用する仕方とその結果について説明				2	テキスト第2章第3節を事前に読ん	1	1
第10回	都市圏の拡大と地域経済	現代の経済は、人や産業が都市に集中する性格をもつことを説明し、その結果成立した都市圏と地域経済の特性について述べる。				2	テキスト第2章第4節を事前に読ん	1	1
第11回	農山村の変貌と地域経済	農業を主産業とする農山村は、都市や都市圏の地域経済とは異なった状況にある。その背景と現状を概観し、今後の方向について説明す				2	テキスト第2章第5節を事前に読ん	1	1
第12回	20世紀後半における日本の地域政策	地域格差の発生という地域問題の登場とそれへの政策的対応の特徴について述べる。				2	テキスト第3章第1節から第5節を	1	1
第13回	21世紀における日本の地域政策	国土総合開発法から国土形成計画法への転換（2005）が生じた背景と新たな制度について説明する。				2	テキスト第3章第6節を事前に読ん	1	1
第14回	滋賀県経済の特性と課題	滋賀県における産業構造の転換とそれが地域経済特性におよぼした影響について述べる。				2	テキスト第4章第1節から第3節を	1	1
第15回	滋賀県経済の特性と課題	21世紀において滋賀県経済が直面している課題を概観し、今後取り得る可能性を説明する。				2	テキスト第4章第4節から第5節を	1	1
担当者から									

講義名	比較文化論(地域)						担当教員	横田 祥子 / 市川 秀之
講義コード	1402710	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	230SOC208							

授業概要

日本列島は四方を海に囲まれているが故に、東アジアの周辺諸民族と古くから交流を続けてきた。これら周辺諸民族の文化を含んで、日本の基層文化は形成されてきたといえる。本科目は、日本・朝鮮・中国を中心に、東アジアの民俗を比較するものである。

到達目標

東アジアの民俗の共通性、連続性に対する理解を進め、比較する能力を身につける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	70%	東アジアの民俗の連続性と、相互の影響を理解し、説明できる。(20%) 東アジアに広がる民俗について、自ら関心がある事象についての情報を収集し、その特徴を取り上げ比較できる。(40%)
上記以外	30%	授業の内容に対して、発展的な質問ができる。

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	はじめて学ぶ民俗学	市川秀之他	ミネルヴァ書房	9784623071258
2	暮らしがわかるアジア読本 中国	曾士才他	河出書房	4309724450
3				

前提学力等

履修資格

講義名	世界遺産学概論[東アジア考古学概論]						担当教員	金 宇大
講義コード	1402711	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	130EXC103							

授業概要

本授業では、世界遺産に関する基本的な知識を身につけ、さまざまな世界遺産を通して、人類の文化的多様性について学ぶ。その存在がもたらす社会的影響、保存・管理の必要性、活用のための具体的な取り組みを紹介していく中で、「世界遺産学」という枠組みで「遺産」を学術的に捉える視座を形成する。
一般に、観光名所の付加価値としてのイメージが強い「世界遺産」だが、その本質的な価値とは何かということを明確に認識することが本授業の目標である。

到達目標

- (1) . 世界遺産の理念や成り立ちに関する基本的な知識を身につける。
- (2) . 世界遺産をめぐるさまざまな社会問題について知り、単なる観光資源を越えた世界遺産の存在意義について理解する。
- (3) . 世界遺産の価値に関する考え方を洗練させつつ、さまざまな遺産の研究・活用のための前提的知識を得る。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	到達目標(1)・(2)について、それぞれ穴埋め式試験を実施する(各15%) 到達目標(3)について、論述式試験を実施する(20%)
レポート課題	0	
上記以外	50	到達目標の各項目について、毎回の授業後に、授業内容に関する簡単な小テストを実施し、その結果を平常点とする。

原則として、3分の1以上欠席した場合は評価の対象としない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業開始時にレジメを配布し、パワーポイントを用いて授業を進める。適宜、動画を使用する。

前提学力等

履修資格

講義名	世界遺産学概論[東アジア考古学概論]						担当教員	金 宇大
講義コード	1402711	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	130EXC103							

授業計画

回数	テーマ	概要		予習/復習
第1回	オリエンテーション 世界遺産学とは何か	授業の注意と進め方に加え、本授業のテーマである「世界遺産学」という分野の考え方について略説する。	2	「世界遺産」の概要についてざっくり 「世界遺産学」という分野がどう
第2回	世界遺産の誕生とその 理念	世界遺産というものが誕生した経緯を通して、その本来の理念がどう いったものであるのかを理解する。	2	世界遺産がどのような経緯で生まれ 世界遺産条約が生まれた際の本来の
第3回	世界遺産登録のプロセ ス	世界遺産がどのようなプロセスを経て登録されるのかについて説明す る。	2	世界遺産登録のおおまかな流れにつ 世界遺産が登録されるまでのプロセ
第4回	さまざまな自然遺産	自然遺産を認定する「普遍的価値」の内容・基準を、さまざまな自然 遺産の事例を通じて確認し、自然遺産の価値の多様性について考え	2	「自然遺産」の概要について調べて 自然遺産の認定基準となる四つの普
第5回	さまざまな文化遺産	文化遺産を認定する「普遍的価値」の内容・基準を、さまざまな文化 遺産の事例を通じて確認し、文化遺産の価値の多様性について考え	2	「文化遺産」の概要について調べて 文化遺産の認定基準となる六つの普
第6回	複合遺産と「文化的景 観」	各種の複合遺産と、文化遺産の一種に分類される「文化的景観」の在 り方を比較し、世界遺産における自然と文化の関係について考える。	2	「複合遺産」の概要について調べて 複合遺産の定義を再確認しつつ、文
第7回	世界遺産の「新しい価 値」	グローバルストラテジーやシリアル・ノミネーションといったキーワ ードの解説を通じて、世界遺産に対する価値観の変化を追う。	2	特に、世界遺産の「シリアルノミ 2000年代以降に顕著となった新しい
第8回	「危機遺産」と思想・ 信仰（前半）	ユネスコが指定する「危機遺産」の概要について説明した上で、様々 な危機遺産を類型ごとに概観する。その上で、宗教的信仰に関わる文	2	「危機遺産」の概要について調べて 授業で扱ったタリバンによる遺跡破
第9回	「危機遺産」と思想・ 信仰（後半）	前半に引き続き、政治的・宗教的思想との葛藤の中で破壊の危機に瀕 する文化財の諸事例をさらに紹介し、遺産の普遍的価値について改め	2	先週の内容を復習しつつ、IS（いわ 遺跡破壊を通じたプロパガンダの問
第10回	文化遺産の保存と管理	文化遺産を適切に保存・管理していくために、どのような取り組みが なされているのか、具体的な事例を紹介していく。	2	姫路城の平成の大改修と、高松塚古 遺産の適切な保存・管理がいかに困
第11回	世界遺産と観光をめぐ る諸問題	世界遺産を観光資産として活用していく上で生じる様々な問題、特に 遺産保護との葛藤について考察する。	2	中国の世界遺産「麗江旧市街」の観 授業の内容を踏まえ、世界遺産がも
第12回	明治日本の産業革命遺 産の登録をめぐる軋轢	三池炭鉱や軍艦島を含む産業遺産の登録をめぐる国際的な摩擦につい て整理し、世界遺産登録のプロセスが孕む問題点を認識する。	2	世界遺産登録をめぐる近年の日韓 日韓の摩擦の根本的原因がどこにあ
第13回	文化遺産保護の拡がり	世界遺産の範疇に含まれない有形文化遺産や無形文化遺産について概 説し、その保護の在り方を考える。	2	「無形文化遺産」、「世界の記憶」 授業の内容を踏まえて、保護対象と
第14回	世界遺産と日本の文化 財行政	「国宝」や「国指定史跡」といった日本における文化財保護の制度と 世界遺産の概念的な共通点および相違点を比較する。	2	日本の文化財保護法について、概要 「世界遺産条約」と「文化財保護
第15回	彦根城を世界遺産にす るには	15回の授業全体の内容を改めて整理する。その後、最後の結びとして 、彦根城を世界遺産にするためにどういったことが必要かを考え	2	「彦根城」の世界遺産登録をめぐる 彦根城の世界遺産的価値がどのよう

担当者から

基本的に上記のプランに沿って授業を進めるが、授業の進み具合や受講者の関心内容などに応じて、各テーマの内容や順序、時間配分を変更することがある。

講義名	東アジア世界論						担当教員	木村 可奈子
講義コード	1402712	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講	
ナンバリング番号								

授業概要

テーマ：東アジアの多国間関係
16 - 18世紀の東アジアの国際関係について、二国間の関係だけではなく、多国間の関係に着目しながらその実態を考えていく。中国・朝鮮・日本・琉球・シヤムの国際関係の実例を通し、既存の東アジア国際関係論では見えてこない東アジアの多国間の関係について考えを深めていく。

到達目標

東アジアの国際関係について知識を得、広い視野で歴史を考えられるようになる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	70	レポートの完成度から評価する。
上記以外	30	出席やコメントなどから評価する。

3分の1以上欠席した場合評価しない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

毎回資料を配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

適宜紹介する。

前提学力等

東洋史概説履修済みであることが望ましい。

履修資格

講義名	東アジア世界論						担当教員	木村 可奈子	
講義コード	1402712	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講		
ナンバリング番号									

授業計画										
回数	テーマ	概要				予習/復習				
第1回	はじめに	対象の範囲について概説し、受講者の前提知識を確認する。				2	東アジアの国際関係史について自分 今回の授業内容を復習する。			2
第2回	16 - 18世紀の東アジア	16 - 18世紀の東アジアの歴史を概説する。				2	高校世界史を復習する。 今回の授業内容を復習する。			2
第3回	冊封 朝貢関係	中国とその周辺国が結んだ冊封 朝貢関係について概観する。				2	冊封、朝貢について調べる。 今回の授業内容を復習する。			2
第4回	冊封 朝貢関係	冊封 朝貢関係を結んだ明とシャムの関係について概観する。				2	シャム(タイ)の歴史について調べ 今回の授業内容を復習する。			2
第5回	冊封 朝貢関係	明の勘合制度について解説する。				2	勘合について高校まででどのように 今回の授業内容を復習する。			2
第6回	壬辰戦争と琉球侵攻	日本の対外戦争が東アジア世界に及ぼした影響について解説する。				2	壬辰戦争と琉球侵攻について調べ 今回の授業内容を復習する。			2
第7回	事大と交隣	明清交代時期の朝鮮の明清中国・日本への対応について解説する。				2	朝鮮半島の歴史について調べる。 今回の授業内容を復習する。			2
第8回	事大と交隣	朝鮮を結節点とした情報の流れを解説する。				2	これまでの授業内容を復習する。 今回の授業内容を復習する。			2
第9回	冊封 朝貢関係	清の国際関係について解説する。				2	清の歴史について調べる。 今回の授業内容を復習する。			2
第10回	琉球をめぐる諸相	近世琉球をめぐる東アジアの国際関係について解説する。				2	琉球の歴史について調べる。 今回の授業内容を復習する。			2
第11回	「国書」の世界	東アジアの「国書」について解説する。				2	国書について調べる。 今回の授業内容を復習する。			2
第12回	使節の世界	東アジアを歩き来した使節について解説する。				2	東アジアではどこの間で使節が送ら 今回の授業内容を復習する。			2
第13回	使節の世界	燕行使と通信使について解説する。				2	燕行使、通信使について調べる。 今回の授業内容を復習する。			2
第14回	貿易の世界	東アジアで行われた貿易について解説する。				2	東アジアではどこで貿易が行われて 今回の授業内容を復習する。			2
第15回	おわりに	これまでの講義をまとめる。				2	今までの授業内容を復習する。 今回の授業内容を復習する。			2
担当者から										

講義名	美術史 A						担当教員	亀井 若菜
講義コード	1402731	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号								

授業概要

この授業では主に中世の絵巻を取り上げ、女性像に注目し、その表現について考えていく。絵の中に女性が多く描かれる。女性像は、物語の主人公として、また歴史上名のある人物として、あるいはそれらを支える脇役として描かれる。しかし女性像は、女性そのものを表そうとする場合だけでなく、男性同士の力関係の中で、自分の側に置きたいもの、敵対するもの、劣位に置きたいものなどのメタファーとしても表される。それは女性が、男性主導の社会の中で劣位に位置付けられながらも、男性にとって欠くべからざる存在であるからだ。女性像は男性像よりも、美 醜、若 老、健康 病などの両極の振れ幅の中で造形されることが多い。それは、男性が社会の関係性の中で都合よく女性を表象しようとするためであろう。そのため、絵の中の女性像の表現や役割を丁寧に分析するならば、その背後にある社会の状況や、絵の制作者の価値観をも推測することが可能となる。では、それらとは異なる形で表現される女性像はないのだろうか。中世の絵巻の中には、男性側の価値観に抗いそれをずらそうとする表現を見せるものもある。それらについても考察していきたい。

授業では、女性像を含め、ある図像がどのような意味を発信しているのか、語彙としての図像の意味も考えていく。毎回プロジェクターで作品の全体および細部を丁寧にしながら、授業を進めていく。

到達目標

- (1) 造形表現の特徴や意味を理解できるようになる。
- (2) 美術作品に関心を持ち、美術に表現されたものの意味を自分自身で考えられるようになる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	60	到達目標 2 については、レポートを提出する。
上記以外	40	到達目標 1 については、レスポンスカードを書き提出する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	語りだす絵巻	亀井若菜	ブリュッケ	4434207512
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	美術史 A						担当教員	亀井 若菜
講義コード	1402731	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号								

授業計画

回数	テーマ	概要		予習 / 復習
第1回	イントロダクション	この授業の概要・目的を説明する。	2	
第2回	「男衾三郎絵巻」の醜い女性の表象 1	この絵巻には美人の典型に反する形で「醜く」表現された女性が登場する。鎌倉時代の武士の様子を見せる絵巻として教科書にもよく取り	2	教員の指示により予習する。 授業の内容を整理し考えてみる。
第3回	「男衾三郎絵巻」の醜い女性の表象 2		2	教員の指示により予習する。 授業の内容を整理し考えてみる。
第4回	「男衾三郎絵巻」の醜い女性の表象 3		2	教員の指示により予習する。 授業の内容を整理し考えてみる。
第5回	「泣く姿」の意味を考える 1	絵巻の中には、しばしば泣いている人が表現される。泣く人が表される様々な場面を見ていくと、ただ「泣く」ことを示しているだけでな	2	教員の指示により予習する。 授業の内容を整理し考えてみる。
第6回	「泣く姿」の意味を考える 2		2	教員の指示により予習する。 授業の内容を整理し考えてみる。
第7回	「泣く姿」の意味を考える 3		2	教員の指示により予習する。 授業の内容を整理し考えてみる。
第8回	「九相詩絵巻」における臨終の女性の表現 1	死体が腐り鳥獣に食べられ骨になるまでの様子を描く九相図は、中世に多く制作された。その姿は女性像で表される。その諸相の意味を、	2	教員の指示により予習する。 授業の内容を整理し考えてみる。
第9回	「九相詩絵巻」における臨終の女性の表現 2		2	教員の指示により予習する。 授業の内容を整理し考えてみる。
第10回	「九相詩絵巻」における臨終の女性の表現 3		2	教員の指示により予習する。 授業の内容を整理し考えてみる。
第11回	「掃墨物語絵巻」という女性の物語 1	「掃墨物語絵巻」は、化粧を間違えて黒い顔で男と対面してしまう女性の物語を描いている。一見滑稽な話だが、そこに男性の価値観に抗	2	教員の指示により予習する。 授業の内容を整理し考えてみる。
第12回	「掃墨物語絵巻」という女性の物語 2		2	教員の指示により予習する。 授業の内容を整理し考えてみる。
第13回	「信貴山縁起絵巻」を読み解く 1	この絵巻では、老齢の尼が一人で聖なる山＝信貴山に登る。しかし聖なる山は男性の領域であった。女性に対する禁忌を克服する物語を支	2	教員の指示により予習する。 授業の内容を整理し考えてみる。
第14回	「信貴山縁起絵巻」を読み解く 2		2	教員の指示により予習する。 授業の内容を整理し考えてみる。
第15回	「信貴山縁起絵巻」を読み解く 3		2	教員の指示により予習する。 授業の内容を整理し考えてみる。
担当者から				

講義名	美術史 B						担当教員	
講義コード	1402732	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号								

授業概要

この授業では、中世の絵巻や近世、近代の絵画、現代の広告などを取り上げ、女性像に注目し、その表現について考えていく。絵の中に女性は多く描かれる。女性像は、物語の主人公として、また歴史上名のある人物として、あるいはそれらを支える脇役として描かれる。しかし女性像は、女性そのものを表そうとする場合だけでなく、男性同士の力関係の中で、自分の側に置きたいもの、敵対するもの、劣位に置きたいものなどのメタファーとしても表される。それは女性が、男性主導の社会の中で劣位に位置付けられながらも、男性にとって欠くべからざる存在であるからだ。女性像は男性像よりも、美 醜、若 老、健康 病などの両極の振れ幅の中で造形されることが多い。それは、男性が社会の関係性の中で都合よく女性を表象しようとするためであろう。そのため、絵の中の女性像の表現や役割を丁寧に分析するならば、その背後にある社会の状況や、絵の制作者の価値観をも推測することが可能となる。ではそれらとは異なる形で表現される女性像はないのだろうか。その可能性も探ってみよう。

授業では、毎回プロジェクターで作品の全体および細部を丁寧にしながら、女性像を配する絵やイメージの意味、それらが作られた社会的文脈を考えていく。

到達目標

- (1) 中世絵巻の中の女性表象の特徴や意味を理解できるようになる。
- (2) 近現代の表象も含め、女性表象の特徴や意味を考えられるようになる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	60	到達目標 2 についてはレポートを提出する。
上記以外	40	到達目標 1 については、レスポンスカードを書き提出する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN / ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN / ISSN
1	語りだす絵巻	亀井若菜	ブリュッケ	978-4-434-20751-8
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	美術史実習						担当教員	亀井 若菜
講義コード	1402741	単位数	1	開講期	前期	授業方法	実習	
ナンバリング番号	230HIS202							

授業概要

美術史実習の授業の目的・ポイントは、
 1 美術館・博物館などを訪れ、オリジナルの作品に触れること、
 2 個々の作品を自分の目でよく見て、その特徴を捉えること、
 3 作品に何がどのように表現されているのか、その作品の特徴は何なのかを、自分の言葉で表現すること、
 の3点である。
 この3つの目的・ポイントのために、美術館・博物館や寺社を訪れ、作品を自分の目でよく見て、その作品について発表すること、また亀井が提示する作品についてその表現の特徴を自分の言葉で記述すること、を行う。
 見学は2回ほどを予定している（土日祝日に実施する予定）。見学に行く場所は、京都の博物館・美術館、彦根城博物館、寺院等から、展示の予定により決める。また、授業スケジュールは、見学に行った分の時間を換算して立てる。授業スケジュールについては初回の授業で説明する。
 履修学生がともに作品を見て意見を交換し合うことにより、美術に対する興味が高まることを期待する。

なお、コロナの感染状況によっては実習ができないこともありうるが、その場合には代替できる内容で授業を行うこととなる。

到達目標

- (1)美術作品に対して興味を持ち、自分の目で作品の特質を捉えることができるようになる。
 (2)美術作品の特質を自分の言葉で語ることができるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	90	到達目標(2) 作品の表現の特質についてレポートとしてまとめ、発表する。レポートの提出は3回程度。
上記以外	10	到達目標(1) 授業や見学に積極的に参加し、自分の言葉で作品の特質を語ることができるようになる。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

交通費や入館料などは自己負担となる。

履修資格

講義名	美術史実習						担当教員	亀井 若菜
講義コード	1402741	単位数	1	開講期	前期	授業方法	実習	
ナンバリング番号	230HIS202							

授業計画							
回数	テーマ	概要		予習 / 復習			
第1回	ガイダンス	授業の進め方について説明する。見学の日程や授業スケジュールについて知らせるので、必ず出席すること。	2				
第2回	作品を見て、語るることについて	視覚的に表現されたものの、どこに注目し、どのように言葉で語るのかを学ぶ。	2	指示に従って予習する。 授業で学んだことを復習する。			
第3回	作品を見て、語るることについて		2	指示に従って予習する。 授業で学んだことを復習する。			
第4回	発表・レポート提出	ある作品について、言葉で記述し、レポートにまとめ、発表する。	2	レポートを作成する。 授業で学んだことを復習する。			
第5回	見学のための事前勉強		2	指示に従って予習する。 授業で学んだことを復習する。			
第6回	博物館・美術館での見学	第 6 回、第 7 回 博物館・美術館等での見学を行う。	4	指示に従って予習する。 見学したことについて整理し考え			
第8回	見学後の発表の準備		2	準備を進める。 準備を進める。			
第9回	発表・レポート提出	ある作品について、言葉で記述し、レポートにまとめ、発表する。	2	レポートを作成する。 授業で学んだことを復習する。			
第10回	見学のための事前勉強		2	指示に従って予習する。 授業で学んだことを復習する。			
第11回	博物館・美術館での見学	第 1 1 回・第 1 2 回 博物館・美術館等での見学を行う。	4	指示に従って予習する。 見学したことについて整理し考え			
第13回	見学後の発表の準備		4	準備を進める。 準備を進める。			
第14回	発表・レポート提出	ある作品について、言葉で記述し、レポートにまとめ、発表する。	2	レポートを作成する。 授業で学んだことを整理し考える。			
第15回	意見交換・まとめ		2	指示に従って予習する。 授業で学んだことを整理し考える。			
担当者から							

講義名	文化財・保存修景論A						担当教員	石川 慎治 / 井口 貢
講義コード	1402920	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号								

授業概要

歴史的環境を構成する地域文化財の保存・修景・活用について論ずる。
 前半では石川が、歴史的環境を構成する地域文化財、町なみや集落、遺構、遺跡などを調査し、その現代的意義を再評価し、現在の生活空間に再生させ活用するために、その保存や修景の方法と、保存・修景することの意義について、海外や国内の具体的な例をあげながら論ずる。
 後半では井口が、文化財や街並み、生活遺構、産業遺産などを活用した地域振興（まちづくりや観光振興を中心に）の実態や望ましい在り方について考察していく。

到達目標

- (1)地域文化財の調査、再評価、保存・活用について理解し、説明できること。
- (2)地域文化財の活用したまちづくりのあり方について自らの考えを述べるができる。
- (3)文化財や街並み、生活遺構、産業遺産などを活用した地域振興の望ましい在り方について自らの考えを述べるができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	80	前半部分・後半部分ごとに、レポート課題を課し、期限内に提出する。
上記以外	20	レスポンスペーパーを、毎回授業内で書いて提出する。

レポート課題(80%)とレスポンスペーパー(20%)で評価する。100点満点で採点し、60点以上を合格とする。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中にプリント配布する。

前提学力等

履修資格

講義名	文化財・保存修景論 A							担当教員	石川 慎治 / 井口 貢	
講義コード	1402920	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義			
ナンバリング番号										

授業計画											
回数	テーマ	概要						予習/復習			
第1回	はじめに	授業のねらいなどについて説明する。						2	シラパスを読み込む。		1
第2回	空き家問題とまちづくり	空き家の増加は集落の防犯や防災、景観などに悪影響を及ぼすだけでなく、集落機能の衰退をも引き起こす。空き家問題の解決とまちづく						2	空き家問題とまちづくりについて、レスポンスペーパーで書いた質問		2
第3回	古民家の保存と活用	古民家の保存と活用について事例をあげて解説する。						2	古民家の保存と活用について、調べ		1
第4回	地域文化財の保存と活用	地域文化財の保存と活用について事例をあげて解説する。						2	地域文化財の保存と活用について、レスポンスペーパーで書いた質問		2
第5回	伝統的建造物群保存地区とまちづくり	重要伝統的建造物群保存地区に選定された彦根市河原町芹町地区、近江八幡市八幡、東近江市五個荘金堂、大津市坂本を事例として解説す						2	伝統的建造物群とまちづくりについて、レスポンスペーパーで書いた質問		2
第6回	遺跡の保存と活用	遺跡の復原とそのあり方について国内外の遺跡を事例として解説する。						2	遺跡の保存と活用について、調べ		1
第7回	文化的景観の保存と活用	重要文化的景観に選定された近江八幡円山・白王や高島市針江を事例として取り上げ、保存と活用を進める上での諸問題について解説す						2	文化的景観の保存と活用について、レスポンスペーパーで書いた質問		2
第8回	文化財のオーセンティシティ	文化財の保存と活用の際、忘れてはならない文化財のオーセンティシティについて解説する。						2	文化財のオーセンティシティについて、レスポンスペーパーで書いた質問		2
第9回	まちづくりと観光振興	まちづくりと観光の関係性・・・結果か目的か						2	まちづくりと観光振興について、調べ		1
第10回	文化財と観光	観光振興と静態保存、動態保存						2	文化財と観光について、調べてみ		1
第11回	町なみ保存と観光まちづくり	金沢、岐阜、名古屋などの都市観光の事例を中心に						2	町なみ保存と観光まちづくりについて、レスポンスペーパーで書いた質問		2
第12回	町なみ保存と観光まちづくり	足助、郡上八幡などの事例を中心に						2	町なみ保存と観光まちづくりについて、レスポンスペーパーで書いた質問		2
第13回	生活遺構をまちづくりに活かす	近江八幡の事例を中心に						2	生活遺構を活かすまちづくりについて、レスポンスペーパーで書いた質問		2
第14回	産業遺産と産業観光	名古屋圏と観光振興						2	産業遺産と産業観光について、調べて		1
第15回	まとめ	まとめとレポート						2	これまでの授業についてふりかえ		1
									課題レポートに取り組む。		16
担当者から											

講義名	文化財・保存修景論B						担当教員	
講義コード	1402930	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号								

授業概要

文化財保護の理念とその仕組み、実務について解説し、あわせて世界各国の文化財保護を学ぶ。

到達目標

文化財を保護するとはどういうことなのかを理解する。また、そのための仕組みと実務を理解する。世界で行われている文化財保護の仕組みを学び、我が国の文化財保護の特徴を把握する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	文化財情報論						担当教員	石川 慎治
講義コード	1402940	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	230HER202							

授業概要

文化財に関する視覚的な情報をどのように取り扱うかについて講義する。3次元モデルの構築、レンダリングやアニメーションの作成、2次元画像情報の処理などを、AutoCAD、3ds Maxなどを用いて実際にデータを入力しながら説明する。

到達目標

- (1) 3次元で図形を描くことの基礎を理解する。
- (2) 3次元で古建築を描くことの基礎を理解し、3次元モデルを作成することができる。
- (3) 作成した古建築の3次元モデルを用いてアニメーションを作成し、視覚的に表現することができる。
- (4) 写実的なアニメーションを作成するため、3次元モデルに貼り付ける2次元データを処理することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	毎回、授業内で出す課題で評価を行う。

100点満点で採点し、60点以上を合格とする。

授業外学習

各自が学部情報室において復習をおこない、疑問点があれば質問に来ること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

プリント配付

前提学力等

履修資格

講義名	文化社会学						担当教員	櫻井 悟史
講義コード	1402950	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	230S0C201, 235S0C304							

授業概要

われわれは日常を生きる中で、何気なく音楽を聴いたり、服を選んだり、観光に出かけたり、マンガやアニメを楽しんだりしている。そうした現在では「当たり前」にあると思えるような文化は、ある日突然生まれたわけではなく、長い歴史の中で育まれてきたものであり、かつ、同時代の他の文化との影響関係の中で形成されてきたものでもある。本講義では文化社会学の観点から、こうした身近にある様々な文化を言語化し、そこから社会の変容をとらえることを目的とする。

到達目標

- (1) 身近にある様々な文化を文化社会学の理論を用いて言語化できるようになる。
- (2) 身近にある様々な文化について、歴史的な文脈と社会的な文脈をふまえて説明できるようになる。
- (3) 身近にある様々な文化について、自身の関心に沿って調査し、考察することができるようになる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	70	各到達目標に基づいて、期末レポートで評価する。 (1) 身近にある様々な文化を文化社会学の理論を用いて言語化できるようになる。(20%) (2) 身近にある様々な文化について、歴史的な文脈と社会的な文脈をふまえて説明できるようになる。(20%)
上記以外	30	毎回のレスポンスペーパーで、次回扱うトピックや、その回の授業で学んだトピックについて記述してもらう。そのペーパーを0~2点で評価する。

10回以上の授業に出席して、各回のレスポンスペーパーを提出した者のみを成績評価の対象とする。

授業外学習

- (1) 授業内容の予習
・ 次の回で扱うトピックについて調べる。具体的には、関連する文献を読む、インターネットで調べるなどを行なうこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

特に指定しない。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

毎回レジメを配布する。適宜、映像資料等の視聴覚教材も用いる。

前提学力等

2年次以降の履修が望ましい。

履修資格

講義名	文化人類学概論[文化人類学概論A]						担当教員	棚瀬 慈郎
講義コード	1402960	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	1371CC102							

授業概要

文化人類学は、異文化理解のための学問であると同時に、自文化理解のための学問でもある。国境を越えて様々な人々が行き交う現代、文化人類学が生み出してきた異文化理解の方法論は、ますます重要性を持つものだと考えられる。
俗に日本の常識は世界の非常識という。「世界の常識」というものが存在するかどうかは不明であるが、皆さんの身の回りの「常識」は、果たして「常識」なのだろうか。
本講義ではこうした「常識」の自明性について再考し、「あたりまえ」的思考からの脱却をめざす。進度に応じて多少の内容の変更の可能性が
ある。

到達目標

- 1) 文化人類学の鍛えてきた基礎理論を学ぶことで、異文化理解の基礎的な方法を身に付ける。
- 2) まずは偏見を持たずに外国の文化と接するための基礎的なものの考え方を身に付ける。
- 3) 一見すると我々の文化とはかけ離れている遠い国や地域の文化の中に我々の文化と同じ普遍性を見いだす。
- 4) 我々日本人が持つ「正しさ」や「当たり前」が、必ずしも普遍的な価値を持つものではないことを理解する（日本の文化を相対的に眺めるという視点を身に付ける）。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	100	文化人類学の基礎的な理論についての理解、また基本的な用語や研究についての知識を問う
レポート課題		
上記以外		

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない

授業外学習

各回の該当する教科書の部分は、事前に読んでおくこと

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	文化人類学カレッジ版	波平恵美子	医学書院	9784260013178
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

特になし。

履修資格

講義名	文化人類学特論						担当教員	棚瀬 慈郎
講義コード	1402980	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	3371LA301							

授業概要

人間は、その文化に固有の宇宙観、生命観に従って、人間の誕生、性、死を意味づけてきた。講義の中では、豊富な文化人類学的資料を提示し、そういった普遍的な人間事象が各文化においてもつ意味を考察する。
また現代的な医療システムの浸透は、人間の生と死のあり方を大きく変化させつつあるが、現代における誕生、性、死の問題についても検討する。

到達目標

性、誕生、死といった人間の普遍的な事象を考察することを通じて、文化の特殊性と、人間存在の普遍性についての考察を深める。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	100	授業中に紹介した文化人類学のタームや理論についての理解度を評価基準とする。
レポート課題		
上記以外		

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	文化人類学特論						担当教員	棚瀬 慈郎
講義コード	1402980	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	3371LA301							

授業計画

回数	テーマ	概要		予習/復習
第1回	動物としてのヒト	人類の進化のプロセス、また他の霊長類との比較を通じて、ヒトの特異性について考察する	2	自然人類学の成果に関する書籍、論議 講義内容の復習と自らの関心に基づ
第2回	女と男	男女の生理学的違い、狩猟採集社会における役割の違いについて等	2	社会生物学に関する書籍、論文を讀 講義内容の復習と自らの関心に基づ
第3回	ジェンダーとセクシュアリティについて	オートナーパラダイムとそれに対する批判、セクシュアリティ研究について、インドのヒジュラと呼ばれる人々について等	2	ジェンダーとセクシュアリティに関 講義内容の復習と自らの関心に基づ
第4回	セクシュアリティについて	西欧における同性愛の歴史、文化人類学におけるセクシュアリティ研究について	2	文化人類学におけるセクシュアリ 講義内容の復習と自らの関心に基づ
第5回	生殖について	インセスト・タブーの問題、民俗生殖理論について	2	インセスト・タブーに関する書籍、 講義内容の復習と自らの関心に基づ
第6回	生殖・出産の医療化	生殖医療について、出産の医療化	2	現代の生殖医療に関する書籍、論文 講義内容の復習と自らの関心に基づ
第7回	結婚について	結婚を巡る日本社会の現状	2	結婚を巡る文化人類学に関する書 講義内容の復習と自らの関心に基づ
第8回	家族、イエ、親族	核家族普遍説とその批判、日本のイエについて	2	家族、親族を巡る文化人類学に関す 講義内容の復習と自らの関心に基づ
第9回	ラホールの社会(1)	インドヒマラヤのチベット系社会の事例	2	「インドヒマラヤのチベット世界」 講義内容の復習と自らの関心に基づ
第10回	ラホールの社会(2)	インドヒマラヤのチベット系社会の事例	2	インドヒマラヤのチベット世界」 講義内容の復習と自らの関心に基づ
第11回	ラホールの社会(3)		2	インドヒマラヤのチベット世界」 講義内容の復習と自らの関心に基づ
第12回	墓制と葬送儀礼	両墓制について、ロベルト・エルツ、モーリス・ブロック、メアリ・ダグラスらの研究について	2	死の集合表象を巡る文化人類学に関 講義内容の復習と自らの関心に基づ
第13回	チベット仏教と死		2	「チベット死者の書」を読んでおく 講義内容の復習と自らの関心に基づ
第14回	現代医療と死	安楽死を巡る議論、心臓死と脳死について	2	現代医療と死に関する書籍、論文を 講義内容の復習と自らの関心に基づ
第15回	まとめ	人間のライフサイクルと文化表象	2	これまでの講義内容を振り返り、自 講義内容の復習と自らの関心に基づ

担当者から

講義名	民俗学						担当教員	市川 秀之
講義コード	1403020	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	130HER103							

授業概要

民俗学はわれわれが過ごしている日常生活の意味を問い直す学問である。滋賀県の民俗は、古くから多くの民俗学者の研究対象となり、そこからさまざまな民俗学的知見が生成されてきた。宮座論・環境民俗学など滋賀県を母胎として誕生した研究領域も多い。この授業では、過去の研究や調査成果を紹介し、近江の民俗を具体的な事例としながら、民俗学全体を概括的に解説する。
この授業は民俗学特論や民俗学実習の基礎科目としての位置づけを持つ。

到達目標

- (1) 民俗学の基本的な用語を理解すること
- (2) 民俗の基本的な概念を理解し、それを文章の形で表現すること
- (3) フィールドワークの基礎を身につけること

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40	・民俗学の基本的な用語を理解すること(語句説明) ・民俗の基本的な概念を理解し、それを文章の形で表現すること(記述式)
レポート課題	20	・フィールドワークの基礎を身につけること(年中行事の観察や聞き取りをおこない、その成果を文章で表現する)
上記以外	40	毎回提出するレスポンスカードを通じて、各授業の内容を理解しているか否かを評価

レポートを提出しないと評価対象にしない

授業外学習

宿題は特に課さないが、毎回授業のあとで提出するレスポンスカードの内容については評価対象とする。次回に配布するレスポンスカードへの回答および次回分のレジュメについては熟読しておくこと。その理解をもとに次回の授業をすすめる。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	はじめて学ぶ民俗学	市川秀之ほか	ミネルヴァ書房	
2				
3				

毎回レジュメを配布する。

前提学力等

特になし

履修資格

講義名	民俗学							担当教員	市川 秀之	
講義コード	1403020	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義			
ナンバリング番号	130HER103									

授業計画

回数	テーマ	概要		予習 / 復習	
第1回	民俗学とは	授業の進め方について説明・柳田國男・二つのミンゾクガク・伝承・民俗学とは？について講義	2	配布したレジュメによる復習	0
第2回	年中行事	ハレ、ケ、ケガレ・新暦と旧暦・正月と盆・農耕儀礼について講義	2	前回配布したレジュメによる予習。 前回のレスポンスに対する回答およ	1 2
第3回	山の信仰	山岳信仰・修験道の山・木地師について講義	2	前回配布したレジュメによる予習。 前回のレスポンスに対する回答およ	1 2
第4回	民間信仰	民間信仰とは・山の神・野神・大將軍について講義	2	前回配布したレジュメによる予習。 前回のレスポンスに対する回答およ	1 2
第5回	境界	モンゴルのオボー・ムラの境・境界の多様性・境界祭祀の種類・村落空間の中での境界・境界の性格、について講義	2	前回配布したレジュメによる予習。 前回のレスポンスに対する回答およ	1 2
第6回	宮座	宮座とは・宮座の種類・宮座の組織、について講義	2	前回配布したレジュメによる予習。 前回のレスポンスに対する回答およ	1 2
第7回	宮座の歴史	宮座の成立・近世における身やあの変質・近代での変化、について講義	2	前回配布したレジュメによる予習。 前回のレスポンスに対する回答およ	1 2
第8回	墓制	滋賀県下の墓制・墓制の種類・墓標、について講義	2	前回配布したレジュメによる予習。 前回のレスポンスに対する回答およ	1 2
第9回	オコナイ	オコナイの源流・湖北のオコナイ・湖南のオコナイ、修正会からオコナイへ、について講義	2	前回配布したレジュメによる予習。 前回のレスポンスに対する回答およ	1 2
第10回	イエと家族	イエと家族・相続の種類・インキョ・滋賀県におけるイエ、について講義	2	前回配布したレジュメによる予習。 前回のレスポンスに対する回答およ	1 2
第11回	婚姻	婚姻の歴史・配偶者の選択・民俗事例からみた日本の社会と婚姻、について講義	2	前回配布したレジュメによる予習。 前回のレスポンスに対する回答およ	3 2
第12回	村落組織	ムラ、村、集落・ムラの成員・ムラの下部組織・情報の伝達・寄り合い、について講義	2	前回配布したレジュメによる予習。 前回のレスポンスに対する回答およ	5 2
第13回	ふなずしの系譜	近江のふなずし・日本におけるすしの類型と変化・ふなずしのふるさと、について講義	2	前回配布したレジュメによる予習。 前回のレスポンスに対する回答およ	5 2
第14回	都市・現代の民俗学	都市民俗学・都市民の信仰・都市祭礼・新たな年中行事、について講義	2	前回配布したレジュメによる予習。 前回のレスポンスに対する回答およ	1 5
第15回	環境民俗学	環境民俗学とは・環境民俗学の視点、について講義	2	前回配布したレジュメによる予習。 前回のレスポンスに対する回答およ	1 5
担当者から					

講義名	民俗学実習						担当教員	市川 秀之
講義コード	1403030	単位数	1	開講期	後期	授業方法	実習	
ナンバリング番号	230HER205							

授業概要

民俗学の基本的な実務の習得をめざす。具体的には民具の観察・実測、石造物の調査、聞き取り調査、祭礼観察調査などの実習を行う。

到達目標

- (1) 民俗学研究に必要な実測技術、写真撮影技術などを習得すること。
(2) 聞き取り調査、祭礼などの観察調査を計画的に実施し、その成果をまとめ、発表する能力を身につけること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40	正月休みに実施する民俗調査の結果をレポートにして提出しその内容について口頭報告もおこなう。テーマは各自で設定するが、フィールドの概要や調査内容については事前の授業で報告する。
上記以外	60	授業における態度や、成果物(実測図・トレース・写真など)・発表内容などをもとに評価する

授業外学習

授業時間外で、聞き取り調査や祭礼観察調査をまとめ、そのデータを提出する。2回

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

民俗学を履修していること。

履修資格

講義名	民俗学特論						担当教員	市川 秀之
講義コード	1403031	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	330HER304							

授業概要

民俗の歴史的な変化を検討するのが歴史民俗学である。そのためにどのような資料をどのように用いるのかをこの授業では具体的に講義していきたい。古文書・日記から石造物にいたる具体的な資料を紹介しながら、その分析方法についても講義することとした。

到達目標

- (1) 歴史民俗学における資料の利用方法について理解する。
- (2) 歴史民俗学における用語や概念について理解する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	60	ある特定地域における民俗の変化を具体的な史料・資料の分析を通じて叙述せよ
上記以外	40	毎回提出するレスポンスカードの内容から、歴史民俗学用語や概念など授業の理解度について評価する

授業外学習

授業はレジュメをもとに行うが事前に配布したもの(ことに史料)については熟読しておくこと。また前回のレスポンスに対する回答を次回に配布するがそれについても熟読しておくこと。これらの理解に基づいて授業をすすめる。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

毎回レジュメを配布する

前提学力等

民俗学を受講していること。2年次・3年次での履修が望ましい。

履修資格

講義名	量的データ解析論						担当教員	丸山 真央
講義コード	1403100	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講	
ナンバリング番号	230S0C206, 235S0C204							

授業概要

この授業では、統計データの整理・分析に最低限必要な基礎知識を学ぶ。あわせて表計算ソフトExcelや統計パッケージソフトSPSSの基本操作を習得し、実際のデータによる簡単な分析によって社会統計学に関する理解を深めるとともに、実践的な分析の技能の習得をめざす。

到達目標

- (1) 社会統計のデータを整理・分析する基礎知識（記述統計と推測統計の基礎）の習得。
- (2) 表計算ソフトExcelや統計パッケージソフトSPSSの基本的な使い方を身につけ、実際に基礎的なデータ解析ができるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	30	最終レポート（30点：到達目標(1)15点、(2)15点）
上記以外	70	授業中に指示する小課題（70点：到達目標(1)35点、(2)35点）

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用せず、レジュメを配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	社会統計学	ポーンシュテット・ノーキ	ハーベスト社	
2	社会統計学ベーシック	片瀬一男ほか	ミネルヴァ書房	
3	SPSSによる多変量解析	村瀬洋一ほか編	オーム社	

参考書は授業の中で指示する。

前提学力等

「統計学基礎」が既習であることが望ましい。この条件を満たさず受講を希望する場合は事前に相談すること。

履修資格

講義名	量的データ解析論						担当教員	岡本 裕介
講義コード	1403110	単位数	2	開講期	後期集中	授業方法	授	
ナンバリング番号	230S0C207, 335S0C311							

授業概要

人文学系・社会科学系の研究においても、多変量解析を用いてデータ分析することが多い。この講義では、その中から主として重回帰分析、因子分析、数量化理論I・III類を取り上げ、各手法の基本的な考え方、計算の概要、統計処理ソフトの出力の見方、誤用を避けるための注意点、研究事例、歴史について述べる。

到達目標

- (1)各手法の基本的な考え方を身に着けること（これが主たる目的）。
- (2)計算の概要、統計パッケージの出力の見方を理解し、各手法の誤用を避けられるようになること。
- (3)研究事例や歴史を紐解いて、具体的な問題意識との関連を考えられるようになること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	練習問題を解いて提出する。多変量解析の場合、分析者の裁量の余地があるので、正解は1つではないが、基本的な注意事項をふまえて解答しているかどうかを評価基準とする。
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中にプリントを配付する。講義中に随時推薦する。

前提学力等

統計学基礎、量的データ解析論 が既習であることが望ましい。この条件を満たさず受講を希望する場合は必ず事前に相談すること。

履修資格

講義名	歴史的地域論						担当教員	高木 純一
講義コード	1403210	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	230HIS210							

授業概要

日本の地域社会を歴史学の観点から捉えようとするとき、そこにおける最重要の主体として「村」の存在が浮かび上がってくる。「村社会」「村八分」といった言葉がすぐさま思い浮かぶように、日本の「村」にはネガティブなイメージがつきまとう。他方、今でも日本の各所に残る伝統的農村景観は、古き良き「日本の原風景」などとして尊ばれ、そこで営まれていた農民生活は、自然と共生する「エコ社会」のモデルともされる。このように日本の村は相反するイメージを伴うが、過去・現在あるいは未来の（あるべき）日本社会を語るうえで必ず引き合いに出される存在であり、現代に生きる私たち日本人を有形無形に規定している。本講義では、そうした「村」の歴史的な原点である中世（とりわけ後期）における「惣村」の形成と、それをとりまく政治的・社会的環境、さらには景観について概観する。

到達目標

中世日本の村とその景観について具体的なイメージを持ち、それが現代日本社会を規定している側面について、具体的に説明できる。日本史上における地域社会のターニング・ポイントとしての「惣村」の形成の位置を理解する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	70	授業の内容を踏まえたうえで、村落・百姓に関する書評レポートを課す。対象文献や講義の内容を正確に理解できているかどうか、それをもとに適切な意見や疑問・批判をすることができているかどうかを基準に採点する。
上記以外	30	毎回プリントを提出。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	使用しない。			
2				
3				

毎回レジュメを配付する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	地域計画概論						担当教員	萩原 和
講義コード	1403270	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号								

授業概要

当科目は、日本における地域計画の基本的な枠組みを理解しつつ、PDCAサイクルの意味を理解し、各関係主体がどのように地域づくりに関与しているのかを理解する。その際、図表やグラフ、設計資料等の読み込み方についても習得する。また滋賀県において展開している様々な計画事業に触れる中で、具体的な地域課題にどのような施策が対応しているのかを把握する。加えて県外の先進事例にも触れる中で、未来志向な地域計画の実際を学ぶ。

到達目標

PDCAサイクルの意味を概説することができ、各プロセスで関与する主体（市民、行政、企業、大学など）の今日的な役割について簡潔に説明することができる。
 自分自身が取り巻く地域（滋賀県）において、制定されている計画や条例などについて、複数提示し、説明することができる。
 地域計画づくりに必要な要件を3つ以上挙げるとともに、なぜ先進的なのかについて、客観的な数値（図表グラフ等）を用いて説明することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60	
レポート課題		
上記以外	40	レスポンスペーパー

5回以上の欠席で採点対象としない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

必要に応じて資料を配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	シリーズ 地域環境工学 農村地域計画学	渡邊 紹裕(編集)星野 敏(編集)清水 夏樹(編集)	朝倉書店	
2	景観法を活かす：どこでもできる景観まちづくり	景観まちづくり研究会(著)	学芸出版社	
3				

滋賀県景観計画（平成21年3月27日施行）

前提学力等

履修資格

講義名	地域計画実習						担当教員	萩原 和
講義コード	1403280	単位数	1	開講期	後期	授業方法	実習	
ナンバリング番号								

授業概要

当科目は、日本における地域計画の基本的な枠組みを理解しつつ、自治体が策定した総合計画、地区計画、まちづくり条例を読み込みながら、実際の地域計画がどのような内容で策定され、実行されているのかを知り、個人成果として要約整理したものをプレゼンボードとして提示するまでを行う。特に、法律的な用語をできるだけ自身が理解しやすい言葉に置き換えながら、第三者にプレゼンテーションができるような技法を身に付けることを目標とする。

到達目標

地域計画づくりに必要な要件を3つ以上挙げ、典型的な事例を複数提示できる。
 大学が所在する彦根市の地域計画の特徴を3つ以上挙げ、簡潔に説明することができる。
 キャンパス内および大学周辺をフィールドとして個人ワークを通じて地域課題を抽出し、改善提案としての成果を取りまとめることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	30	レスポンスペーパー
上記以外	70	プレゼンボードの提出

(1) 遅刻、欠席は2回まで
 (遅刻、欠席ごとに「警告通知」を渡す。3回目の欠席で成績対象外となる。)

授業外学習

授業内での作業の他、授業外学習も必要となる場合がある。第14回の成果発表に間に合うように、プレゼンボードを完成させること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

実習科目であるため、履修者には作業時間の十分な確保を求める。
 (他科目の履修等のバランスによっては、3年次以降の受講が望ましい場合あり)

履修資格

